平成２７年度

結婚に係る調査研究事業
報告書

公益財団法人　いきいき岩手支援財団

「結婚に係る調査研究事業 報告書・目次」

［Ⅰ］ 調査の概要

（1）事業実施体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
　(1-1) 目的
　（1-2）調査実施機関
　（1-3）調査体制
（2）アンケート調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
　（2-1）対象者・選定方法
　（2-2）実施時期・方法
　（2-3）調査内容
　（2-4）回収数・回収率
　（2-5）集計・分析方法
（3）インタビュー調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
　（3-1）対象者
　（3-2）実施時期・実施方法
　（3-3）調査内容

［Ⅱ］ 調査の結果

１　調査回答者のプロフィールにみる基本属性

（1）年齢、地域別分布、結婚歴と家族構成・・・・・・・・・・・・13
（2）地域移動歴からみる特徴・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
（3）親との同居歴からみる特徴・・・・・・・・・・・・・・・・・21
（4）学歴・職業・年収からみる特徴・・・・・・・・・・・・・・・23
　（4-1）学歴・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
　（4-2）最終学歴の学校の所在地・・・・・・・・・・・・・・・・24
（5）現在の仕事・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
　（5-1）初めての勤務地・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
　（5-2）正規・非正規別にみたキャリア上の特徴・・・・・・・・・30
　（5-3）年収と世帯での位置づけ・・・・・・・・・・・・・・・・34
（6）インタビュー事例からみた実像・・・・・・・・・・・・・・・ 36

２　結婚に関する意識

（1）結婚に関する意識にみる特徴・・・・・・・・・・・・・・・・41

（1-1）結婚意思、結婚失敗のリスクについての考え・・・・・・・・・・41
（1-2）相手の選択に際し気になること・・・・・・・・・・・・・・・・45
（1-3）シングルであることについて・・・・・・・・・・・・・・・・・52
（2）望ましい結婚後の女性の生き方・・・・・・・・・・・・・・・59
（3）経済・仕事・恋愛・結婚に関する悩みの相談相手・・・・・65
（3-1）経済的に困った時や仕事上の悩みの相談相手・・・・・・・・・65
（3-2）恋愛や結婚についての悩みの相談相手・・・・・・・・・・・・68

3　婚活の経験と結婚支援の要望
（1）婚活経験について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・73
（1-1）婚活経験の有無・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・73
（1-2）経験したことのある婚活・・・・・・・・・・・・・・・・75
（1-3）婚活への感想・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・78
（2）婚活をしない理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・81
（3）自分にとって結婚が難しい理由・・・・・・・・・・・・・・・83
（4）東日本大震災後の結婚に向けての意識や行動の変化・・・・86
（5）結婚支援のあり方についての要望・・・・・・・・・・・・・・89
（5-1）今後実施してほしい行政による婚活支援事業・・・・89
（5-2）行政や企業に期待する改善策や支援策・・・・・・・・92

［Ⅲ］　まとめと提言
（1）まとめにかえて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・97
（2）提言・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・98
（3）今後に向けて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 100

資料
・「結婚に関する意識調査」調査票・・・・・・・・・・・・・・ 103
・男女別年齢別集計結果と「その他」自由記述・・・・・・・・ 115
・インタビュー対象者一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 165

［Ⅰ］　調査の概要

［Ⅰ］調査の概要

（1）事業実施体制

(1-1) 目的

本調査は公益財団法人いきいき岩手支援財団が、岩手県が進めている結婚支援への取組みと連携しながら、今後の岩手県少子化対策、結婚支援事業の充実をはかるための基礎資料を作成することを目的として、岩手県内に居住するシングル（独身）男女を対象に、結婚に関する現状や意識を把握するために実施されたものである。

(1-2) 調査実施機関

本事業は、公益財団法人いきいき岩手支援財団から調査の企画・実施および結果調査データの分析・報告書の作成について、結婚支援の専門機関である特定非営利活動法人全国地域結婚支援センターが受託し、担当した。

(1-3) 調査体制

調査実施機関である特定非営利活動法人全国地域結婚支援センターは、「結婚支援に係る調査研究事業」の目的を達成するために、センター内に「結婚に関する調査研究会」（以下、「研究会」）を設置した。「研究会」の委員は、木本喜美子一橋大学名誉教授（主査）、小澤千穂子大妻女子大学教授、吉野英岐岩手県立大学教授、板本洋子特定非営利活動法人全国地域結婚支援センター代表理事の 4 名である。

「研究会」は、2014 年 12 月 8 日から 2016 年 3 月 23 日まで合計 14 回の研究会議を特定非営利法人全国地域結婚支援センターで開催した。ただし第３回研究会議だけは岩手県盛岡市の岩手県立大学アイーナキャンパス学習室で開催した。研究会議は、１回あたり２時間から３時間で、ほとんどの研究会議は４名全員が出席して開催された。「研究会」の開催状況は以下に示すとおりである。

研究会議では調査全体の枠組みの構築、アンケートの調査票の設計、インタビュー調査（現地調査）の設計、実施方法の検討を行い、質問紙によるアンケート（「結婚に関する意識調査」）を実施した。そして、アンケート結果の入力、集計、分析を行い、その結果をもとに個別面接調査法に基づくインタビュー調査の設計および実施を行った。そして、それぞれの調査の結果をもとに、研究会議で協議したうえで、委員が報告書の作成を行った。

「結婚に関する調査研究会」の研究会議の開催状況

第 1 回　2014 年 12 月　8 日(月)

第 2 回　2015 年　1 月　7 日(水)

第 3 回　2015 年　1 月 30 日(金)＊

第 4 回　2015 年　2 月 18 日(水)
第 5 回　2015 年　3 月 13 日(金)
第 6 回　2015 年　3 月 26 日(木)
第 7 回　2015 年　4 月 25 日(土)
第 8 回　2015 年　8 月　7 日(木)
第 9 回　2015 年 10 月 14 日(木)
第 10 回 2015 年 11 月 11 日(火)
第 11 回 2015 年 12 月 28 日(月)
第 12 回 2016 年　2 月 8 日(月)
第 13 回 2016 年　2 月 26 日(木)
第 14 回 2016 年　3 月 23 日(水)
＊は岩手県立大学アイーナキャンパスで開催

（2）アンケート調査

(2-1) 対象者・選定方法

①対象者数

質問紙によるアンケートとして、「結婚に関する意識調査」を実施した。調査対象者は岩手県内に居住するおおむね 25 歳～49 歳までの独身男女 1050 人である。

②対象者の選定と配布方法

アンケート票の配布先である調査対象者の選定と、調査票の配布方法については、公益財団法人いきいき岩手支援財団の指示に従った。その結果、配布先の選定方法は無作為抽出方式ではなく、いきいき岩手支援財団が選定した下記の諸団体や公的機関等の関係者に調査票の配布が委ねられた。その際「結婚に関する調査研究会」は、調査対象者の性別、年齢、雇用形態等がなるべく偏らないよう、諸団体の関係者に注意を喚起するべくお願い状を付した。

調査票の配布に協力していただいた諸団体や公的機関は大きく 4 つのグループに分かれている。第 1 グループは県内の公的機関・企業組合等で、815 票の配布に協力していただいた。第 2 グループは国の機関、大学、病院、図書館等で、120 票の配布に協力していただいた。第 3 グループは、岩手県若者出会い応援推進会議の構成団体（ＪＡを除く 8 団体）で、99 票の配布に協力していただいた。第 4 グループは平成 26 年度子育てにやさしい職場環境作り助成事業助成企業 8 社で、16 票の配布に協力していただいた。その内訳は以下の表に示すとおりである。結果としてアンケート票の総配布数は 1050 票となった。

第 1 グループ　県内の公的機関・企業組合等

配布先	配布票数
岩手県保健福祉部	１０
県内各広域振興局（４広域局）	５０
市役所・町村役場（33 自治体）	１６５
関係機関等＊１（25 機関・内訳は別表１）	１３２
関係団体等＊２（７団体・内訳は別表２）	４１３
企業組合（9 箇所）	４５
合計	８１５

別表１　第１グループ　関係機関等

配布先	配布票数
岩手県銀行協会	３０
岩手県医師会	5
岩手県歯科医師会	5
岩手県薬剤師会	5
岩手県看護協会	5
岩手県介護支援専門員協会	5
岩手県商工会議所連合会	5
岩手県商工会連合会	5
岩手県漁業協同組合連合会	5
岩手県森林・林業会議	5
岩手県芸術文化協会	5
岩手県体育協会	5
岩手県農業公社	5
日本労働組合総連合会岩手県連合会	5
岩手県農村青年クラブ連絡協議会	5
ＮＰＯ活動交流センター	5
岩手県市長会	3
岩手県町村会	3
岩手県地域婦人団体協議会	3
岩手県社会福祉協議会	3
岩手県老人クラブ連合会	3
岩手県シルバー人材センター連合会	3
岩手県レクリエーション協会	3
日本青年会議所岩手ブロック協議会	3
岩手県高齢者社会貢献活動サポートセンター	3
合計（２５機関）	１３２

別表２　第１グループ　関係団体等

配布先	配布票数
県内各観光協会（45ヶ所）	１３５
岩手県農業協同組合中央会経由県内各ＪＡ	１００
県内各商工会（26ヶ所）	７８
県内各青年会議所（12ヶ所）	３６
県内各商工会議所（9ヶ所）	２７
県内各漁業協同組合（5ヶ所）	２５
県内青少年ホーム（４ヶ所）	１２
合計（７団体）	４１３

第２グループ　国の機関、大学、病院、図書館等

配布先	配布票数
厚生労働省岩手労働局	５０
岩手県立病院	３０
岩手県立大学	１０
岩手県図書館協会	１０
岩手県青少年育成県民会議	１０
岩手医科大学	5
岩手県交通安全協会	5
合計（7団体）	１２０

第３グループ　岩手県若者出会い応援推進会議の構成団体

配布先	配布票数
シュープリーム（結婚支援業）	３０
公益財団法人いきいき岩手支援財団	２５
盛岡繋温泉病院	１０
株式会社長島製作所	１０
一般社団法人岩手県助産師会	１０
ＮＰＯ法人いわて子育てネット	5
葛巻町農業委員会事務局	5
釜石市総合企画部総合政策課	4
合計（8団体）	９９

第４グループ　平成 26 年度子育てにやさしい職場環境作り助成事業助成企業

配布先	配布票数
テクノ	2
ほうざわ歯科	2
渡邊信行税理士事務所	2
(株)マルモ通信	2
(株)堀合新聞店	2
ケア・グランド(株)	2
合資会社どんぐり工房	2
(株)ニコリフーズ	2
合計（8 団体）	１６

(2-2) 実施時期・方法

アンケートの実施時期は 2015 年７～8 月で、配布回収方法は直接配布、郵送回収である。アンケートは岩手県保健福祉部子ども子育て支援課総括課長および公益財団法人いきいき岩手支援財団理事長名で実施し、調査票の企画、結果の集計・分析を特定非営利活動法人全国地域結婚支援センターに委託する方式とすることが調査票に記載されている。なお回答者のなかでその後のインタビュー調査に応じていただける方については、連絡先を記入していただいて、連絡をとれるようにした。

(2-3)調査内容

アンケートの主な設問は、以下の全 44 問である。

個人属性（年齢、性別、最終学歴、職業、収入、居住移動歴、親との同居歴、同居家族員の内訳、家計支持者、兄弟姉妹数、世帯全体の収入等）

結婚に関する実態と意識（結婚経験、結婚予定、結婚の決め手、結婚相手の望ましい生き方等）、

結婚活動（婚活経験、婚活の感想、婚活をしない理由、行政や企業による婚活関連・結婚環境の整備に関する望ましい支援事業等）

現在およびこれまでの職歴と教育歴

（現在と初職時の勤務地と勤務先および雇用形態､仕事の継続期間､転職回数、中学校時代の家計支持者およびその方の勤務地と勤務先および雇用形態)､相談相手（経済的な問題、恋愛や結婚に関する問題）

なお調査票の設問の順序は必ずしも上記の順に並んでいるわけではないので、詳細は

巻末に収録した調査票を参照していただきたい。

(2-4) 回収数・回収率

アンケート票は 1050 票を配布し、回収票は 407 票、うち有効回収票は 403 票で、有効回収率は 38.4%である。

有効回収票である 403 票の内訳は、性別では男性が 196 人、女性票が 205 人、性別不明が 2 人、年齢階層別では 20 代以下が 177 人、30 代が 142 人、40 代以上が 78 人、不明 6 人、居住地域別（性別不明の 2 人を除く 401 人）では「盛岡広域」が 162 人、「県北広域」が 57 人、「県南広域」が 98 人、「沿岸広域」が 78 人、不明が 6 人である。なお、居住地域の４つの区分については､岩手県の 4 つの広域振興局の管轄地域と同じ区域である。その内訳は以下の表に示す通りである。

岩手県内の 33 自治体の地域区分

盛岡広域(8 市町)	盛岡市	滝沢市	八幡平市	矢巾町	紫波町
	雫石町	岩手町	葛巻町		
県北広域(8 市町村)	久慈市	二戸市	一戸町	軽米町	洋野町
	野田村	普代村	九戸村		
県南広域(8 市町村)	奥州市	花巻市	北上市	一関市	遠野市
	西和賀町	金ヶ崎町	平泉町		
沿岸広域(9 市町村)	釜石市	宮古市	大船渡市	陸前高田市	田野畑村
	岩泉町	山田町	大槌町	住田町	

(2-5) 集計・分析方法

アンケート結果の集計・分析は統計解析ソフトウエアであるＳＰＳＳを用い、単純集計および、クロス集計（性別、年齢層別、居住地域別など）を行った。

（３）インタビュー調査

以上のアンケート調査からだけでは把握しきれない｢生の声｣を把握することを目的に、別途、インタビュー調査を企画・実施した。

(3-1) 対象者

アンケート回答者のなかから面接調査の対象になることを了解された方々を対象に、1 時間程度のインタビュー調査（個別面接法）を実施した。対象者については性別、年齢、居住地域、従事している職業、婚活への参加状況を勘案して選定し、合計 17 人（男性 10

人、女性 7 人）に対して実施した。対象者の内訳は、「盛岡広域」が 5 人（男性 2 人、女性 3 人）、「県北広域」が 3 人（男性 2 人、女性 1 人）、「県南広域」が 6 人（男性 3 人、女性 3 人）、「沿岸広域」が 3 人（男性 3 人、女性 0 人）である。

(3-2) 実施時期・実施方法

インタビュー調査は平成 27 年 11 月および 12 月に岩手県内で実施した。聞き手は「研究会」の 4 人の委員が務めた。インタビューの方法はアンケート票に記載された回答内容をもとに、あらかじめ調査票を作成し、それをもとに個別面接方式で実施した。インタビューの実施場所は、“いきいき岩手”結婚サポートセンターや岩手県立大学アイーナキャンパスの協力を得ながら、公的施設、あるいは対象者が指定する場所で実施した。

(3-3) 調査内容

調査内容はアンケートに記載された回答内容をもとに作成した以下の各項目である。

個人属性（年齢、性別、最終学歴、職業、収入、居住移動歴、親との同居歴、同居家族員の内訳、家計支持者、兄弟姉妹数、世帯全体の収入等）

仕事（現在の仕事の内容、学卒後の初職の就職以降、それぞれの職に就いた経緯、現在の仕事における収入と使途、今後の仕事についての展望）

家族・親との関係（同居家族、他出者、同居理由、親と同居の場合/同居していない場合の家計に関する事項、家業、親と老後とのかかわりでの結婚展望、結婚/仕事/現状についての親の言説

結婚について（最初のお付き合いの経験、結婚相手に期待すること、結婚していないことについて、結婚が難しい理由、大震災後の結婚、家族意識の変化）

婚活（婚活イベントへの参加動機・感想、婚活支援事業への希望・要望）

地域・友人との関係（社会関係）・現在のくらし・将来の見通し（悩みごと相談相手、休みの日の過ごし方、地域のサークルなど地域での人間関係、交流の多い友人、現状の評価と今後の見通し）

［Ⅱ］　調査の結果

［Ⅱ］調査の結果

１． 調査回答者のプロフィールにみる基本属性

（1）年齢、地域別分布、結婚歴と家族構成

今回の調査への回答者総数 403 名のうち不明を除くと、男性は 196 名、女性は 205 名となっている。年齢別にみると（**図 1-1**）、男性では、25～29 歳（30.6%）が最も多く、30～34 歳（22.4%）がこれに次いでいる。女性の場合も 20～29 歳（39.5%）が最多であり、30～34 歳、35～39 歳がこれに次いで 17.1%ずつとなっている。全体としてみると、男性の 40 歳代（23.5%）が、女性のそれ（15.6%）と比べてやや多く、女性の 20 歳代（48.3%）は男性のそれ（39.8%）よりもやや多いという傾向がみられる。女性の回答者の方がやや若い年齢層にシフトしている。

現在の居住地をみると（**図 1-2**）、「盛岡広域」が最も多く、男性で 35.2%、女性で 45.4%となり、全体のほぼ 4 割にのぼる。これに次ぐのが「県南広域」であって、男性（24.5%）、女性（24.4%）となる。「沿岸広域」は男性 23.0%、女性 16.1%となり、「県北広域」は最も少なく、男性 15.8%。女性 12.7%となっている。全体として盛岡広域に多く、特に女性の半数弱がこの地域の居住者であるが、総じて、各地域から調査回答が集まっているといえるだろう。

図1-1 男女別年齢

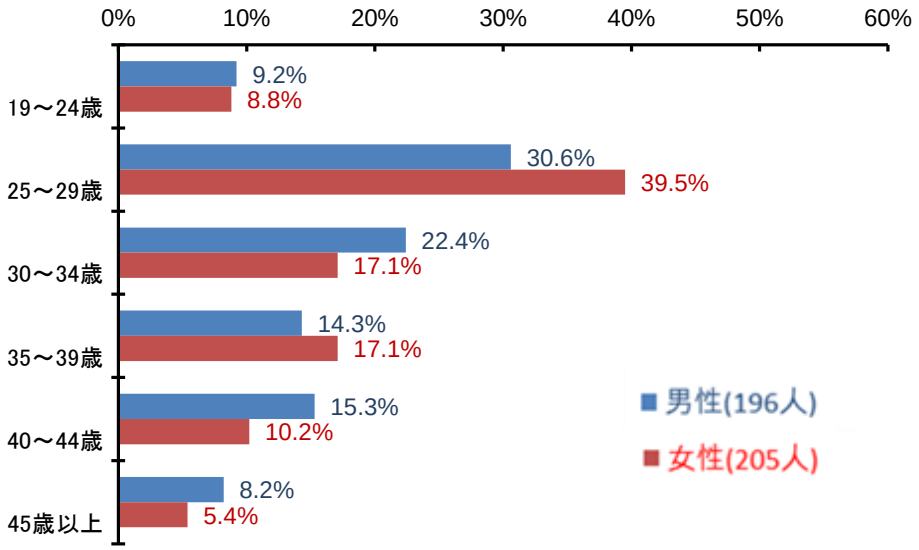


図 1-2 男女別年齢別居住地

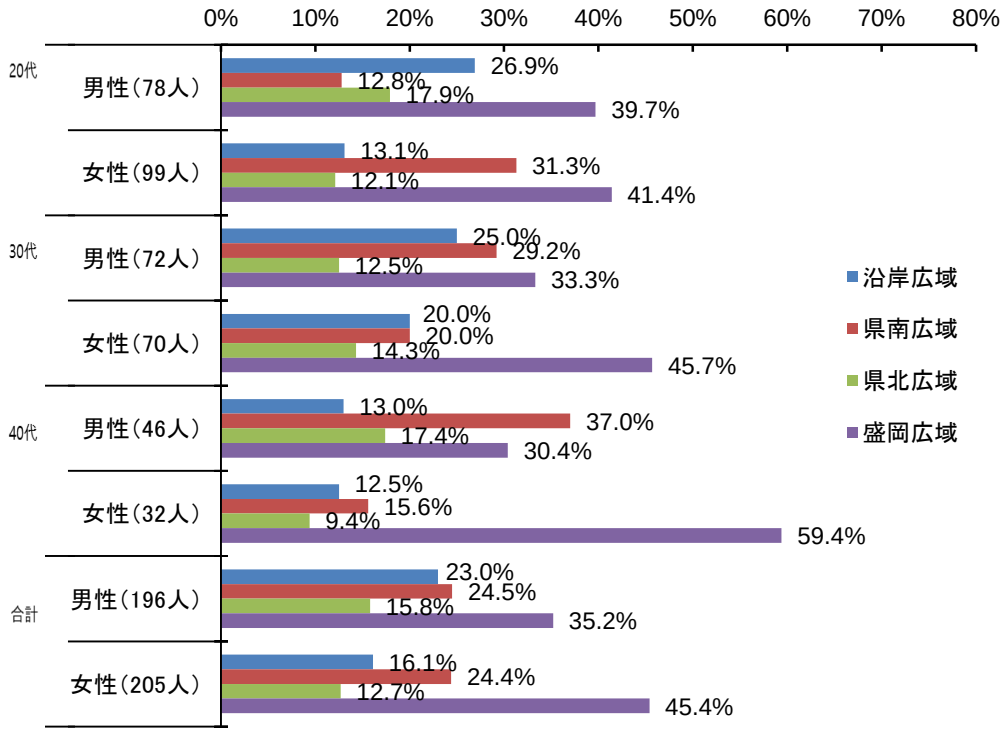
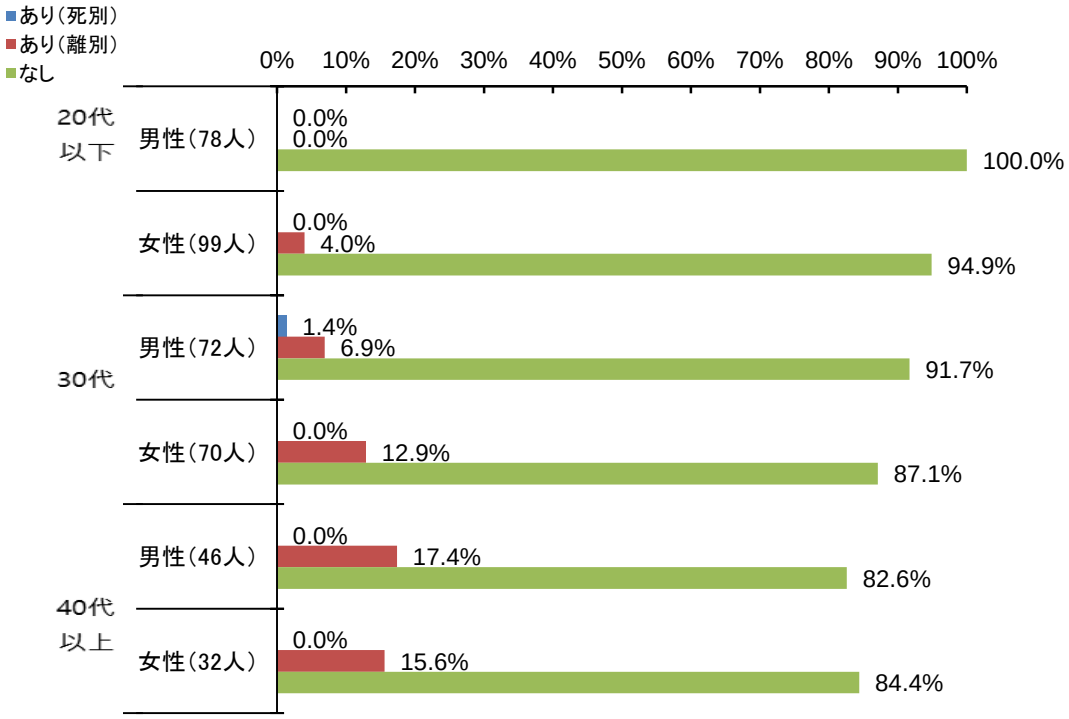


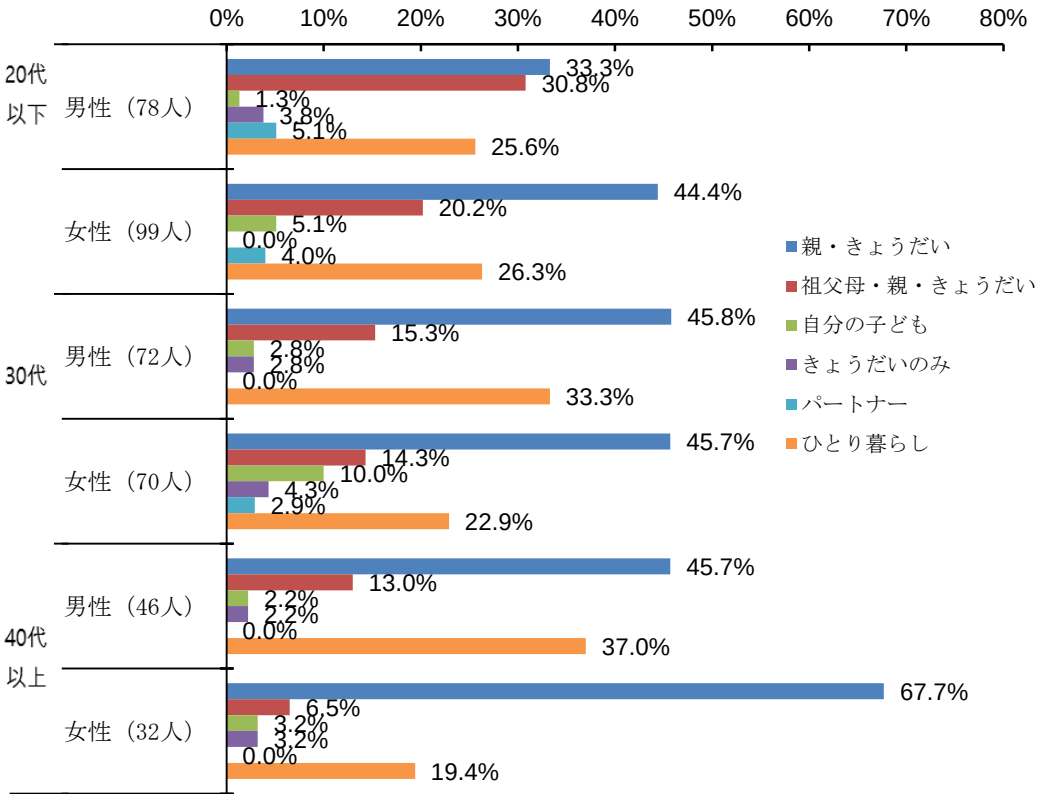
図 1-3 男女別年齢別結婚経験



またシングルを対象とする調査であったが、回答者のなかには離婚経験者および死別者が含まれている。全体でみると（**図 1-3**）、離別者は 7.7%、死別者は 0.2%であって、離別経験を経てシングルとなった人々が、男性で 13 名（6.6%）、女性では 18 名（8.8%）が含まれている。年齢別にみると、男性では 20 歳代はいないものの、30 歳代が 5 名、40 歳代が 8 名となる。女性の場合は 20 歳代で 4 名、30 歳代で 9 名、40 歳代で 5 名となり、若い世代でも離婚経験者がいることがわかる。こうした人々も、つぎなる結婚へのチャンスをうかがっている可能性がある。

次いで男女別年齢別に家族構成（現在同居している家族等）について示したのが**図 1-4** である。回答者 403 名のうち、113 名（28.0%）がひとり暮らしであると回答した。同図によれば、どの年代においても男女ともに、自分の親（父母・父のみ・母のみ）やきょうだいと暮らす核家族が最多である。次いで、ひとり暮らしの割合が高い傾向にあるが、20 代男性のみ、ひとり暮らしよりも、祖父母・親・きょうだいの 3 世代家族で暮らしている割合が 30.8%であり、ひとり暮らしの 25.6%を上回っている。親・きょうだいと同居する率は年齢が高くなるにつれて、高くなっている。特に 40 代女性では 67.7%にのぼる。男性では、年齢が高くなるにつれて、ひとり暮らしの割合もやや上昇する傾向がある。しかし、女性の場合は、40 代おいてもひとり暮らしは 19.2%（6 名）に過ぎない。このことから、女性は親元にとどまる傾向が男性よりも強いということができる。

図1-4　男女別年齢別家族構成

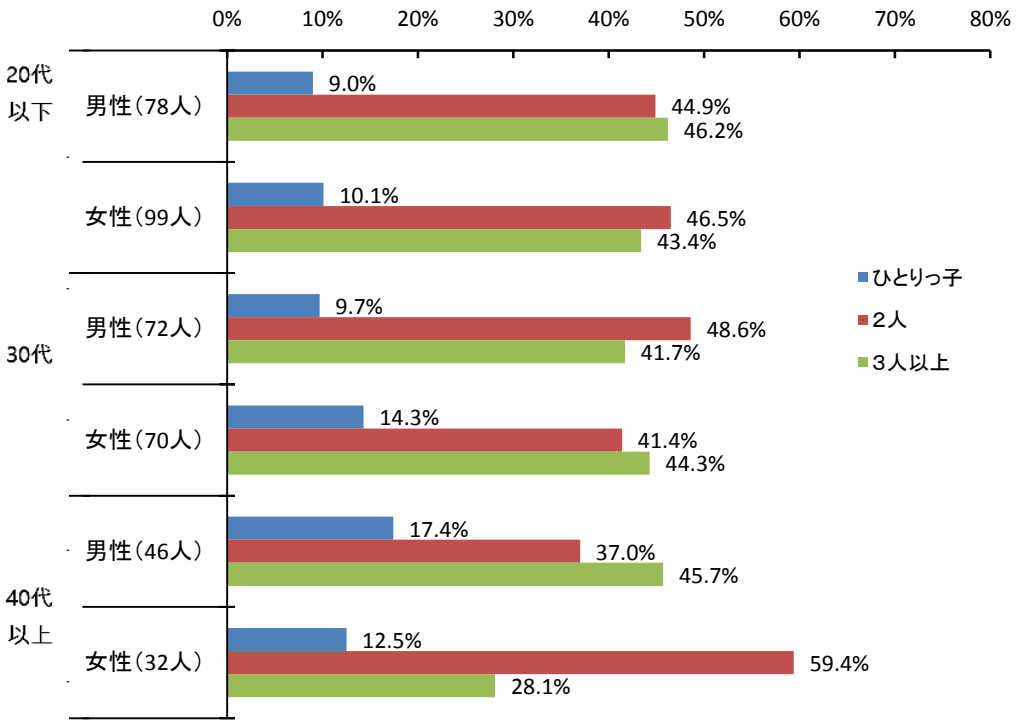


また、自分の子どもがいるとする回答者は 17 名（4.2%）である。このうち男性が 3 名、女性が 14 名であり、男女別にみるとシングルマザーの割合が高い。17 名のうち、子どもとのみ暮らしているのは女性 3 名であり、残る 14 名は自分の子どもの他に親族またはパートナーと一緒に暮らしている。

図 1-5は、男女別年齢別きょうだい数である。全体をみると、2 人きょうだいである場合が最多（49.3%）であり、3 人きょうだいがこれに続く（31.2%）。年代別の傾向をみると、40 代の男性では、20 代～30 代に比べひとりっ子の割合が若干高い（17.4%）。女性では、40 代の女性に 2 人きょうだいの割合が高くなっている（59.4%）。

岩手県に限らず日本社会においては、配偶者選択の過程で、きょうだい内における自分や相手の立場が考慮される傾向がある。具体的には男性の場合、長男であれば、いわゆる「跡継ぎ」息子と自認したり、そのように周囲からみなされる傾向があり、女性の場合は、男性のきょうだいがなく自分が長女であれば「跡継ぎ」娘と自認したり、そのように周囲からみなされる傾向がある。長男ひとり、長女ひとりの場合はもとより、兄弟姉妹がいても上から順番に他出していった場合に、残った本人がやはり「跡継ぎ」と周囲からみなされることもあり、本人の結婚意識と行動に影響を与えるものと推測される。

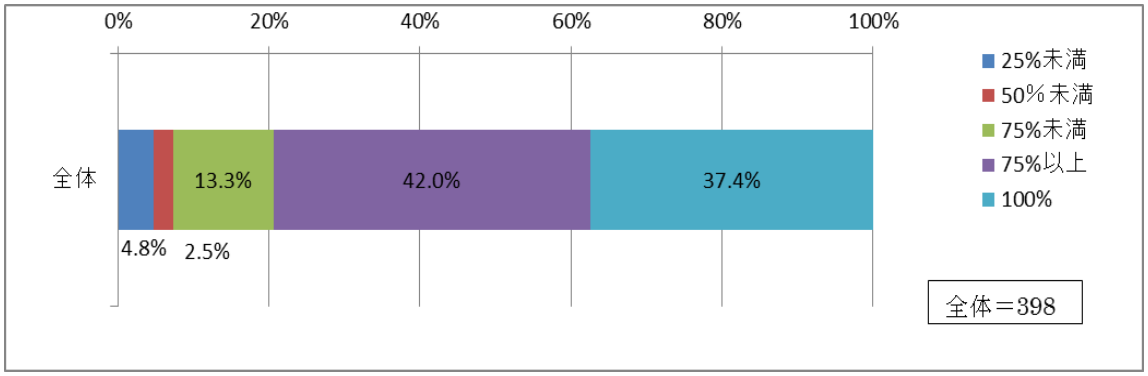
図1-5　男女別年齢別きょうだい数



（2）地域移動歴からみる特徴

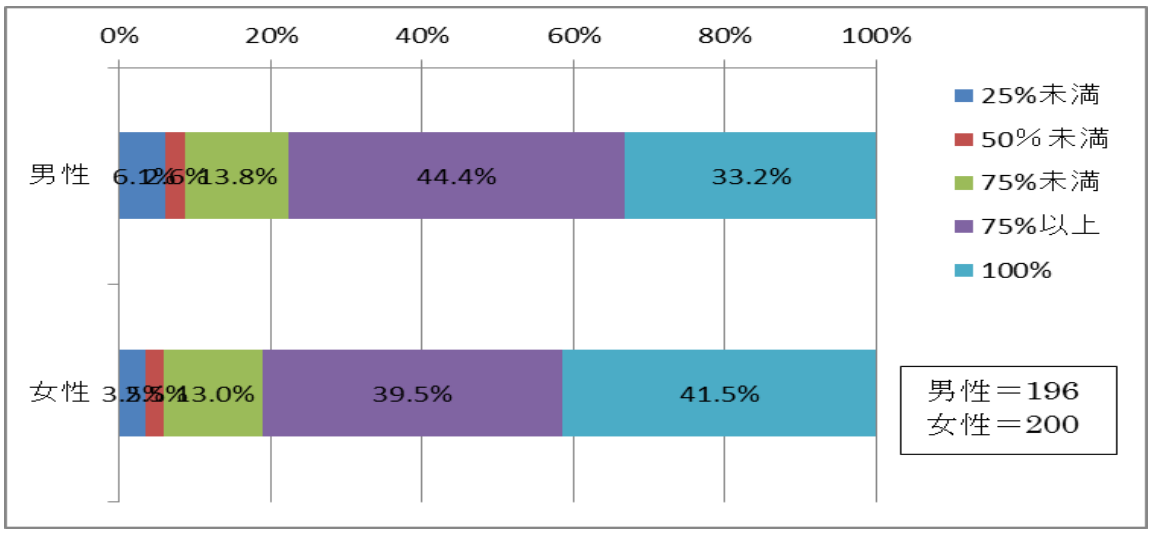
これまで生活のうち居住地が岩手県内である期間の割合（県内居住率）をみると、「25%未満」が 4.8%、「25～50%未満」が 2.5%、「50～75%未満」が 13.3%、「75%～100%未満」が 42.0%、生涯ずっと岩手県で居住していることを意味する「100%」が 37.4%であった（**図 1-6**）。つまり回答者の 4 割近くが一度も県外で生活したことがない人々である。

図 1-6 地域移動歴



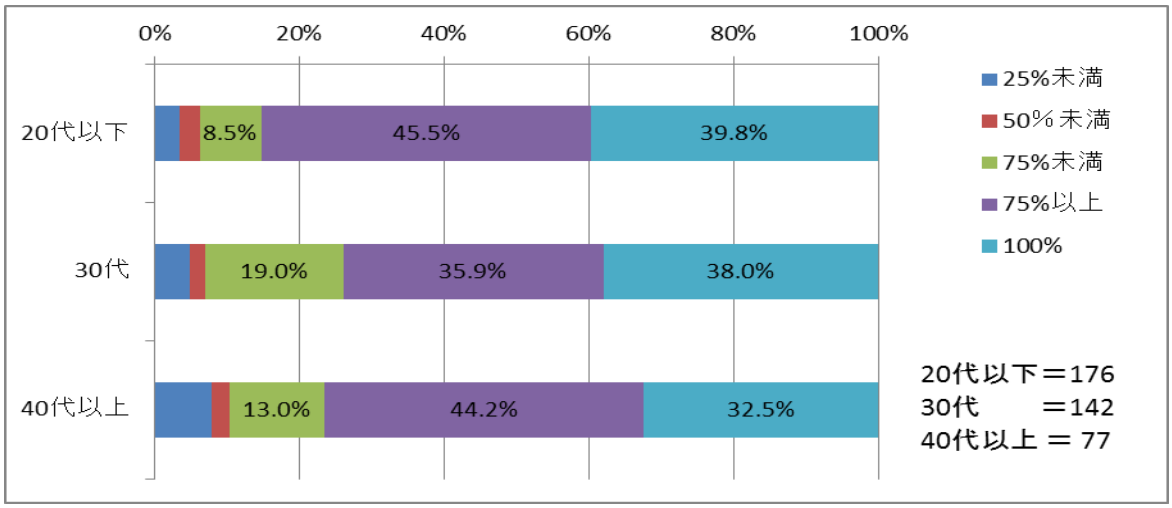
この結果を男女別にみると（**図 1-7**）、「100%」では男性が 33.2%であるのに対して、女性は 41.5%と 8 ポイントほど高い。

図 1-7 男女別地域移動歴



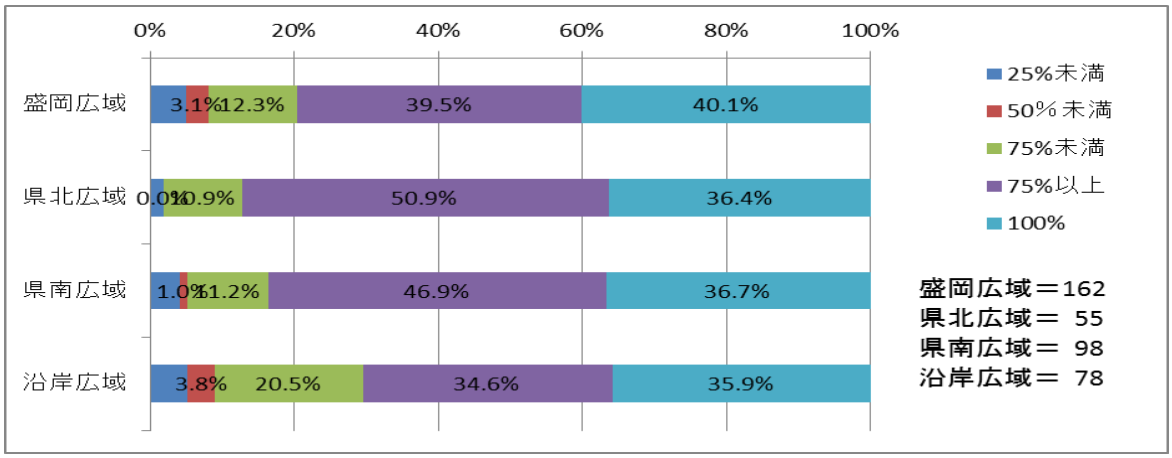
また年齢別にみると（**図 1-8**）、「100%」では 20 代以下では 39.8%、30 代では 38.0%、40 代以上が 32.5%とわずかではあるが、若年齢層の方が割合が高い。

図 1-8 年齢別地域移動歴



居住地別では、地域別に大きな差異はみられず、どの地域でも「100%」は 36～40%に達していた（**図 1-9**）。

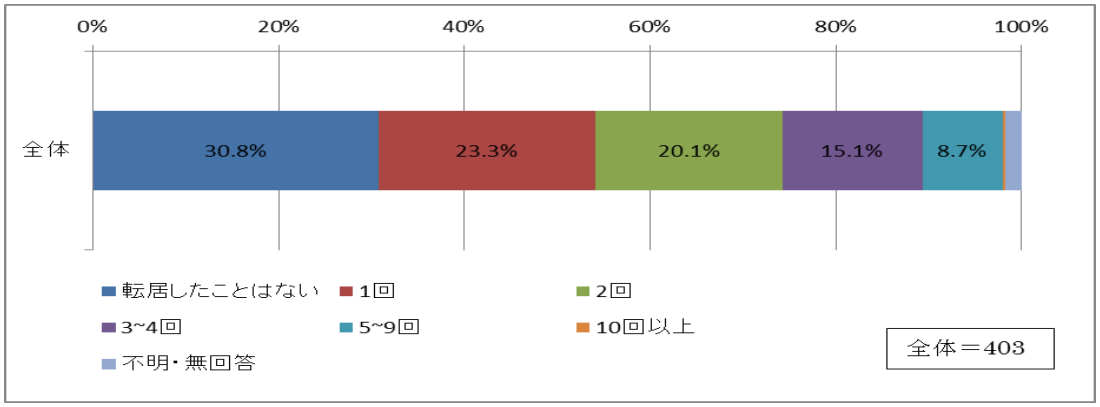
図 1-9 居住地別地域移動



これらのことから、今回の調査の回答者は、4 割前後が岩手県から一度も他県に出ていないことと、「75%以上」も加えると、ほぼ 8 割がずっと県内で暮らしていることがわかった。あとで詳しく述べるように今回の回答者は比較的教育年限の長い方の割合が高いが、居住地でみると岩手県内が圧倒的多数を占めているといえよう。

転居の回数については（**図 1-10**）、転居なしが 30.8%、1 回が 23.3%、2 回が 20.1%、3～4 回が 15.1%で、ここまでの合計で 89.3%を占めている。

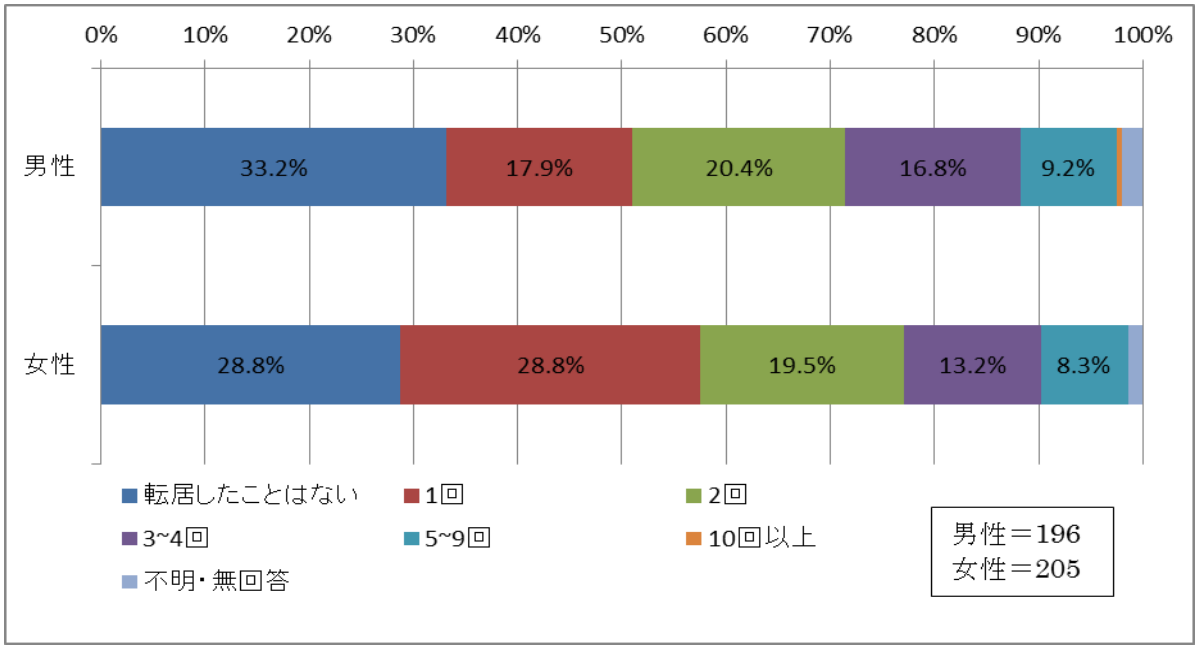
図 1-10 転居の回数



この結果を男女別にみると、転居なしは男性が 33.2%、女性が 28.8%と、男性の方が 4 ポイントほど高い。一方、転居 1 回は男性が 17.9%、女性が 28.8%と、女性の方が 11 ポイントほど高い。

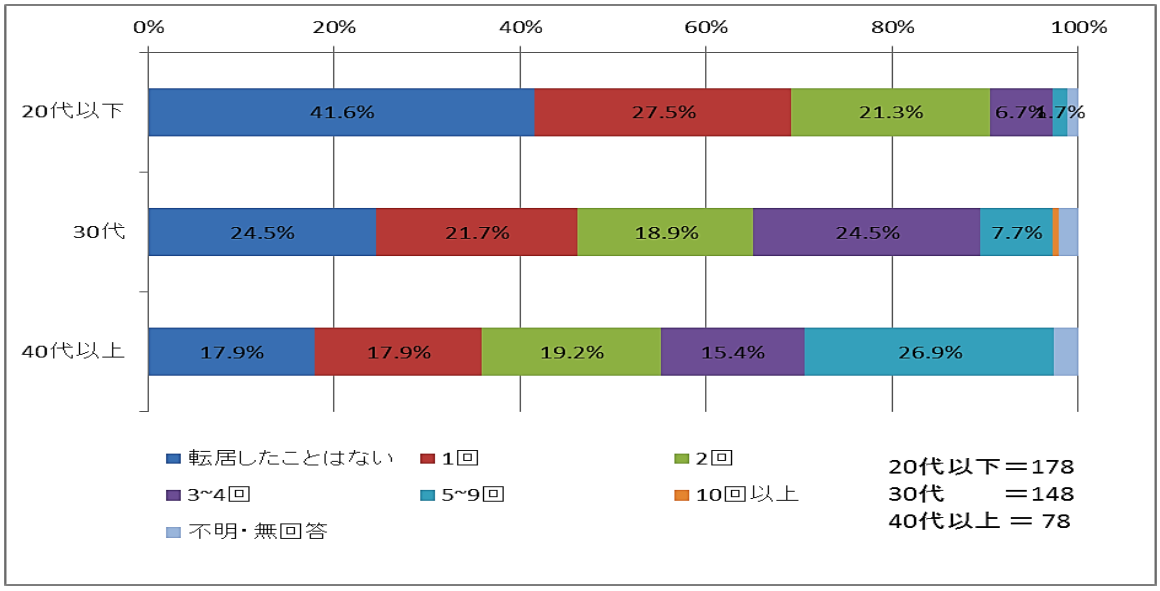
また転居 3 回以上の合計は男性が 28.5%、女性が 23%男性の方が高い（**図 1-11**）。男性は転居なしがほぼ 3 分の 1 に達するが、転居ありの場合、女性より回数が総体的に多い傾向がある。

図 1-11 男女別転居の回数



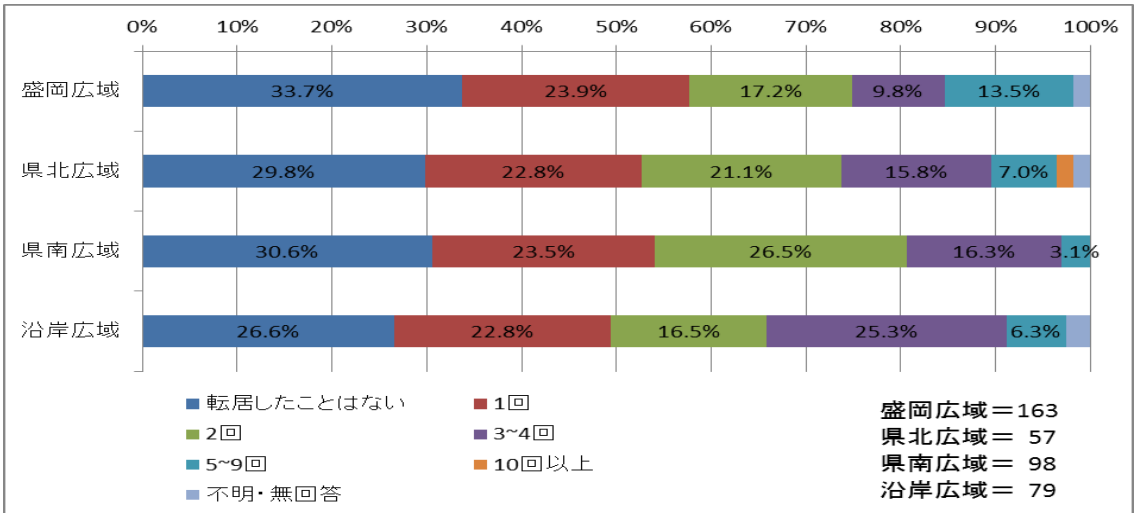
また年齢別では、転居なしが 20 代以下では 41.6%、30 代では 24.5%、40 代以上が 17.9%で、年齢が若い層ほど転居なしの割合が高い（**図 1-12**）。 逆に転居が 5 回以上のケースは 20 代以下では 2.8%、30 代では 10.5%、40 代以上が 29.5%で、高年齢層ほど多い。特に 40 代以上では 5～9 回が 26.9%に達している。

図 1-12 年齢別転居回数



居住地別にみると、転居なしが「盛岡広域」では 33.7%、「沿岸広域」では 26.6%と 7 ポイントの差がついた（**図 1-13**）。 転居 3～4 回は「盛岡広域」では 9.8%、「沿岸広域」では 25.3%と逆に 15 ポイントの差がついた一方で、5～9 回は「盛岡広域」では 13.5%、「沿岸広域」では 6.3%と 7 ポイントの差がついた。「盛岡広域」は転居なしというグループと、転居回数が多い（5 回以上）２つのグループに分かれているようである。

図 1-13 居住地別転居回数



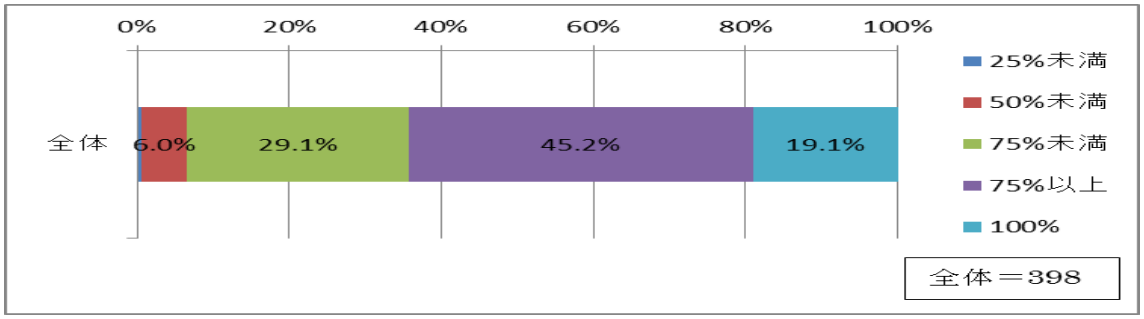
これらのことから、転居のない割合は 3 割ほどであるが、県内居住率や親との同居率ほど高くないことがわかった。親の仕事の都合などで一緒に転居したことも少なからずあるのではないかと思われる。

ただ今回の調査は、あとで述べるように、比較的学歴の高い層が回答者になっていることから、岩手県の一般的な実態を示すものではない点は注意すべきであろう。一般的な状況と比べた場合大学や専門学校への進学で、岩手県あるいは親と同居から離脱するケースが多くなると考えられる。それでも岩手県内でずっと生活してきた割合や親とずっと同居してきた割合が 4 割前後に達していることから、岩手県全体では地域移動はより少ないと考えるべきであろう。

（3）親との同居歴からみる特徴

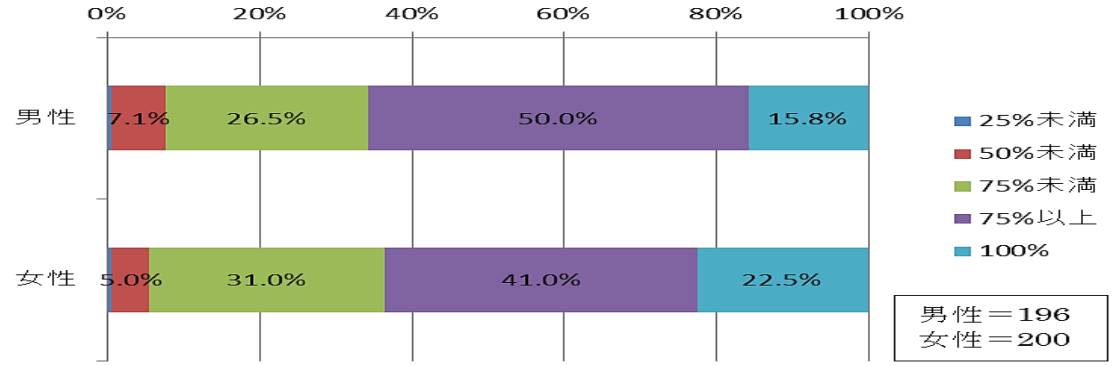
つぎに、これまで生活のうち親と同居して居住している期間の割合（親同居率）をみると（**図 1-14**）、「25%未満」が 0.5%、「25～50%未満」が 6.0%、「50～75%未満」が 29.1%、「75%～100%未満」が 45.2%、ずっと親と同居していることを意味する「100%」が 19.1%であった。

図 1-14 親との同居歴



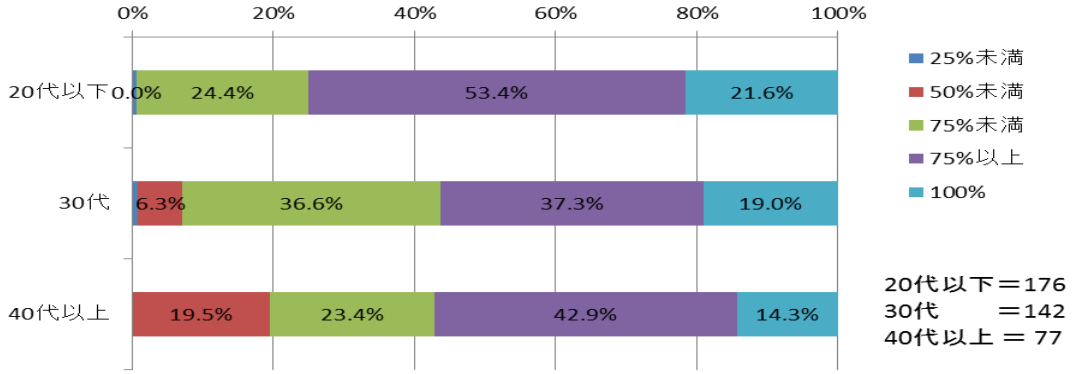
この結果を男女別にみると（**図 1-15**）、「100%」では男性が 15.8%であるのに対して、女性は 22.5%と 7 ポイントほど高い。

図 1-15 男女別親との同居歴



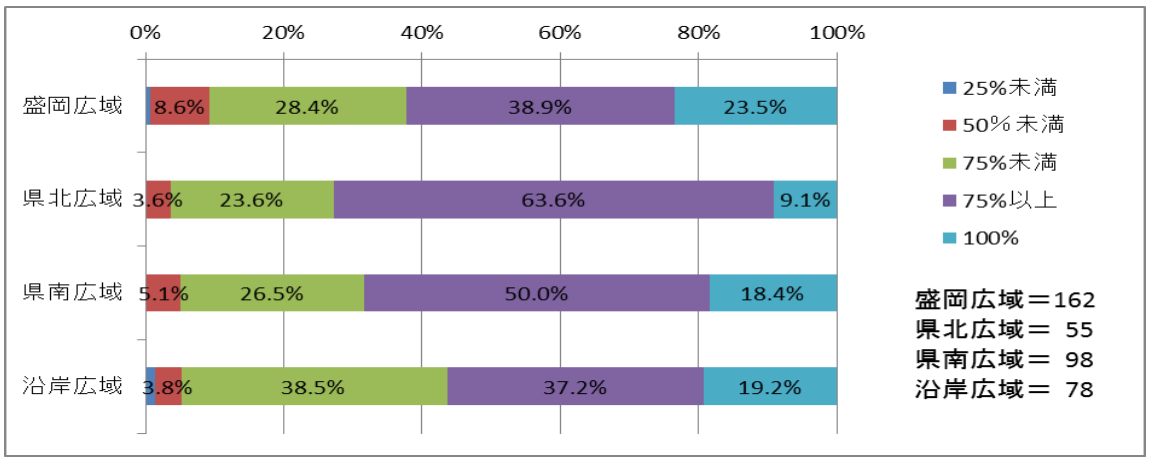
ずっと親と同居している割合（「100%」）を年齢階層別にみると、20 代以下では 21.6%、30 代では 19.0%、40 代以上が 14.3%で、若年齢層ほど高い（**図 1-16**）。

図 1-16 年齢階層別親との同居歴



居住地別にみると、「盛岡広域」では 23.5%、「県北広域」では 9.1%、「県南広域」では 18.4%、「沿岸広域」では 19.2%となっている（**図 1-17**）。ずっと親と同居している割合は「盛岡広域」で最も高く 20%を超えている。一方、「県北広域」では 1 割を下回っている。なお、県内居住率と親同居率は強い正の相関が確認されている。

図 1-17 居住地別親との同居歴



これらのことから、回答者の 2 割近くがずっと親と同居している人々である。「75%以上」では 64.3%に達し、およそ 3 人に 2 人はこれまでの人生の 4 分の 3 以上を親と同居して生活している。地域別にみると生活の利便性が高く、高等教育機関が集中している「盛岡広域」で親との同居の割合が高い。

（4）学歴・職業・年収からみる特徴

(4-1)　学歴

つぎに、調査回答者の学歴や職業および収入についてみよう。まず最終学歴についてみると（**図 1-18**）、全体の最多が大学卒業者であり（44.1%）、これに大学院修了を合算すると 47.8%となり、教育年限の長い高学歴層がほぼ半数を占める。これに対して短大・高専・専門卒は 25.3%、高卒が 25.3%となり、相対的に高学歴の人々が多数派となる。国勢調査（2010 年）に基づく岩手県データによれば、15 歳以上人口に占める短大・高専・専門および大学・大学院といった高等教育修了者の割合は 2010 年時点で 19.2%となっており、全国的にみると 35%強を占める神奈川県や東京都と比べて、相対的に低い方の県に属している。こうしたなかにあって、調査回答者のうち、短大・高専・専門および大学・大学院といった高等教育を修了した人々は実に 72.4%にも及んでおり、高学歴の人々がきわめて多いことが明らかである。男女別にみると（**図 1-19**）、高卒は男性が 27.0%、女性が 23.9%となる。これに対して短大・高専・専門卒の男性が 17.9%、女性が 32.2%となるが、大学・大学院については男性が 52.0%、女性が 43.9%となっており、男性の方が大学・院修了者が多いものの、短大・高専・専門卒の女性は男性のそれを大きく凌駕している。全体として、男女とも教育年限の長い層が圧倒的に多いことが確認できる。

図1-18　最終学歴

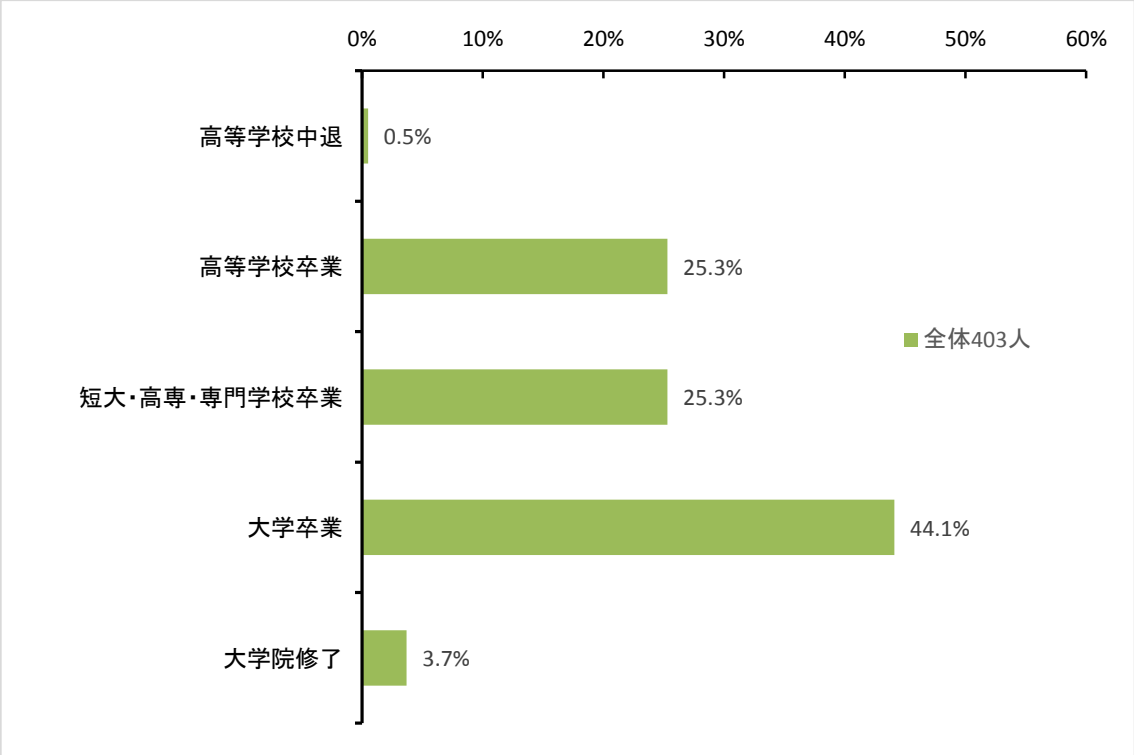
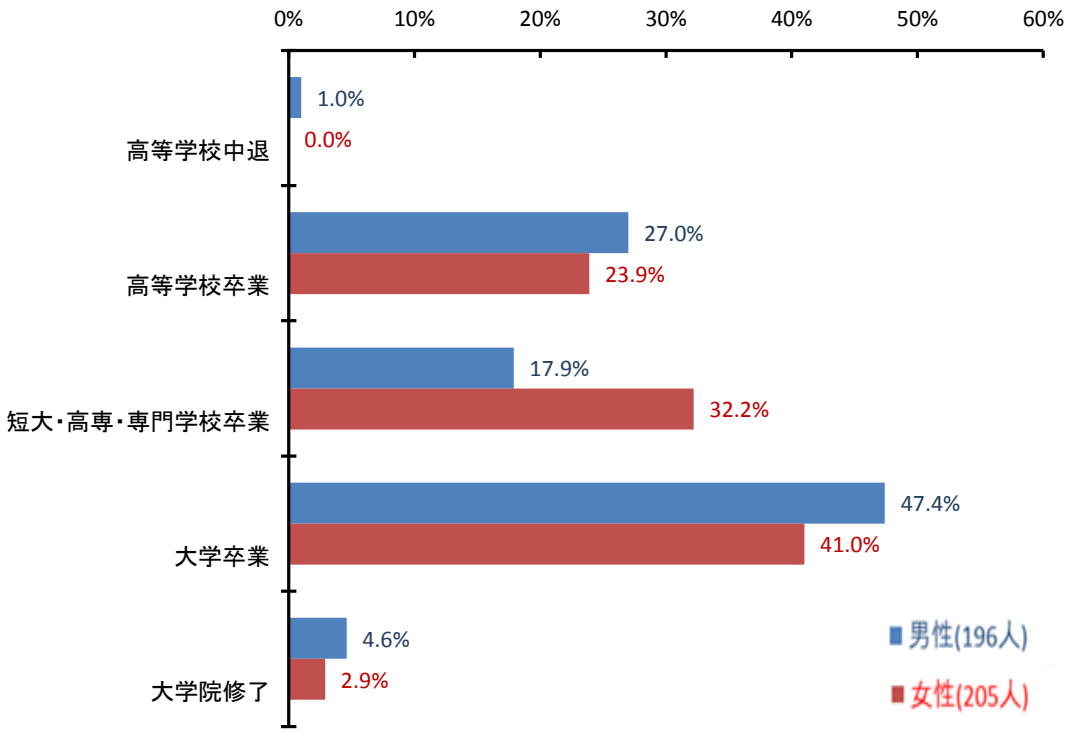


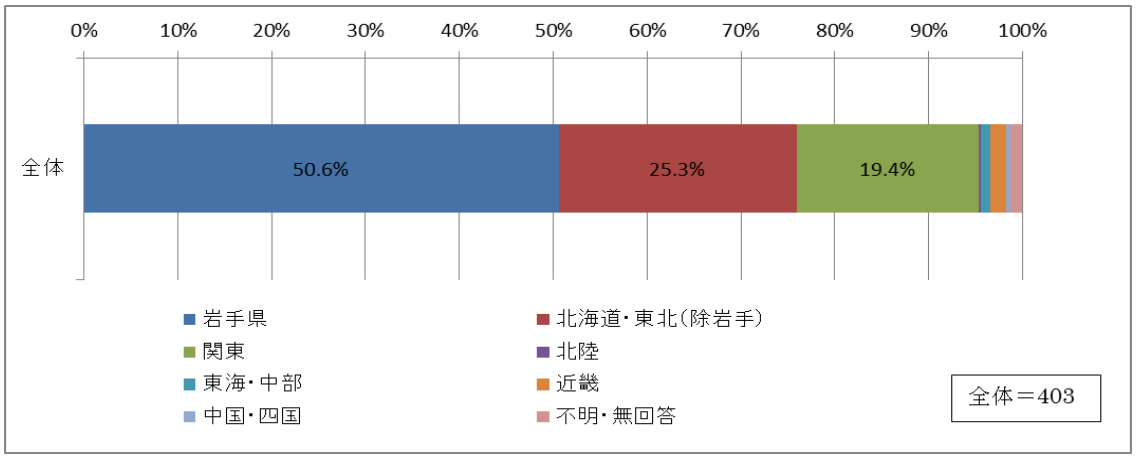
図1-19　男女別最終学歴



(4-2)　最終学歴の学校の所在地

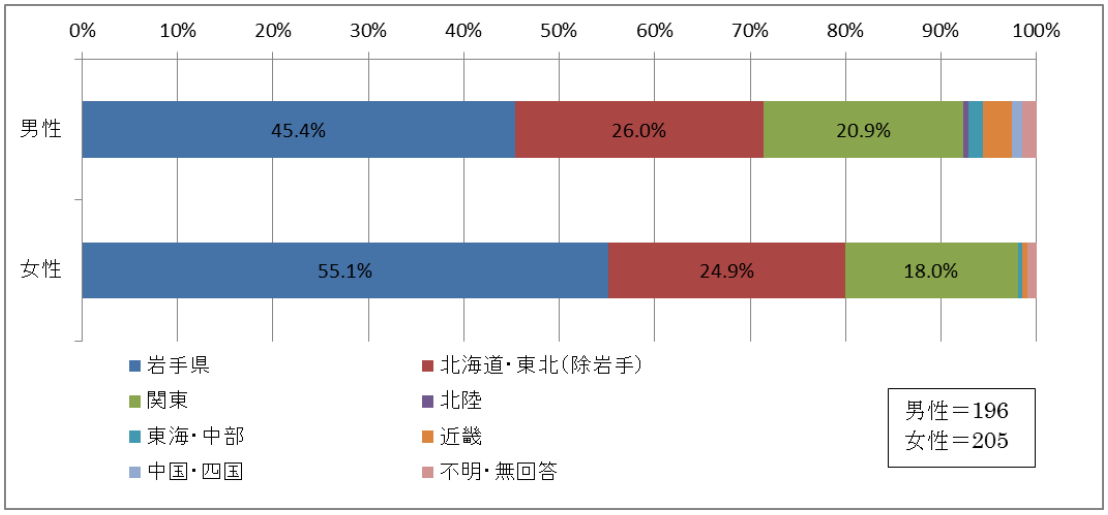
最終学歴学校の所在地は岩手県が 50.6%、北海道・東北（岩手県を除く）が 25.3%、関東が 19.4%である（**図 1-20**）。最終的に岩手県内の学校を卒業した割合はほぼ 5 割であり、また東日本地域全体では 95.3%を占めている。

図 1-20　最終学歴の所在地



この結果を男女別にみると（**図 1-21**）、所在地が岩手県であるケースは、男性が 45.4%、女性が 55.1%で、女性のほうが 10 ポイントほど高い。

図 1-21 男女別最終学歴の学校所在地



また年齢別と居住地別でみても（**図 1-22、図 1-23**）、大きな差異はみられなかった。

図 1-22 年齢階層別最終学歴の学校所在地

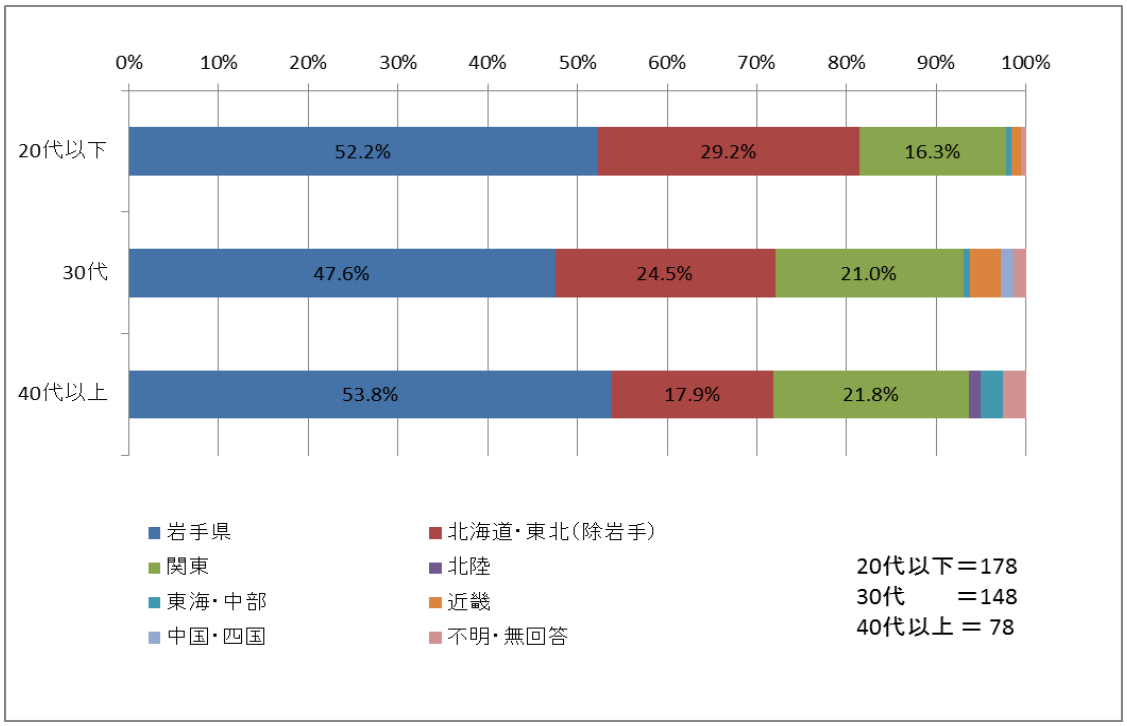
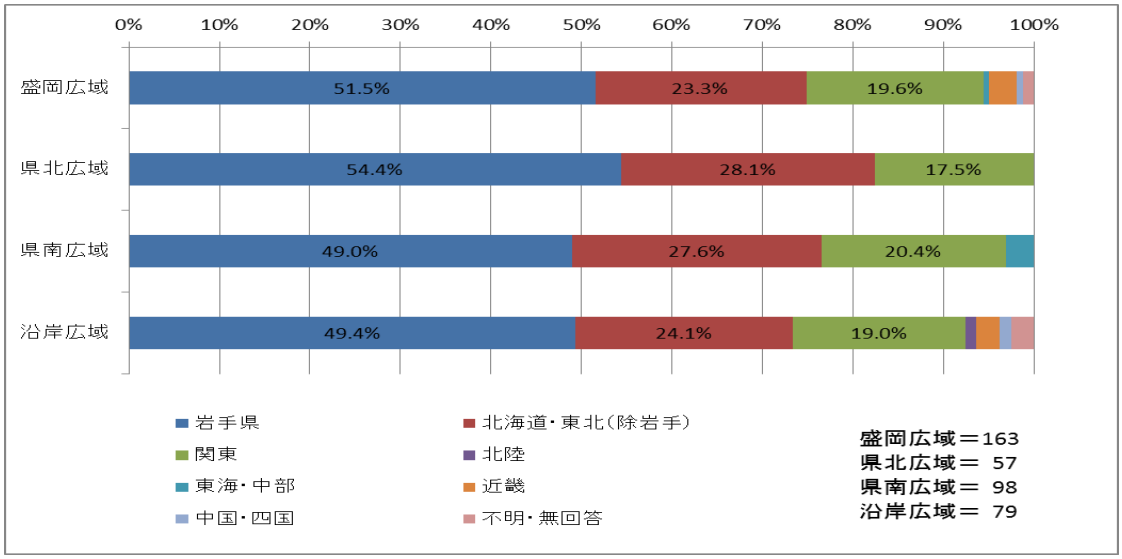


図 1-23 年齢階層別最終学歴の学校所在地



（5）現在の仕事

次いで現在の仕事についてみよう。勤め先については（**図 1-24**）、男女ともに官庁と団体職員がマジョリティとなっている。男性では両者合計が 67.8%、女性でも 68.8%となり、地域のなかで相対的に安定した勤め先を得ている人々がきわめて多いことが明らかである。これに対して民間企業は男性で 21.4%、女性 24.9%、農林業および商工業含む自営業は男性 8.2%、女性 3.0%となっている。雇用形態別にみると（**図 1-25**）、男女ともに正規雇用が圧倒的なマジョリティを占めている。すなわち正規雇用は全体では 71.7%と高率であり、男性の場合は 76.0%、女性の場合は 67.8%となる。これに対して非正規雇用については全体で 19.1%であるが、男性（11.7%）に対して女性（25.9%）の方が非正規雇用に傾く傾向が強いことが明らかである。勤め先についてすでに述べたように官公庁と団体職員の合計が男女ともほとんど遜色なく 7 割弱であるとはいっても、女性では正規職よりも非正規職に従事する人々がより多いことがうかがわれる。岩手県全体の国勢調査データ（2010 年）と照らし合わせてみると、自営業主と家族従業者の合計は 13.7%（男性 14.6%、女性 12.6%）となっており、今回のこの調査が 20 歳代から 40 歳代までという若い世代を中心的な対象にしているとはいえ、自営業者層の数が少なめに出ていることが明らかである。これに対して回答者のうち雇用者層がかなり多いという特徴がみられるが、このうち非正規層は県データでは 27.7%（男性 13.9%、女性 46.0%）となっており、調査回答者が男女ともに、非正規層においてもかなり少なめであるということができる。

図1-24　男女別現在の勤め先

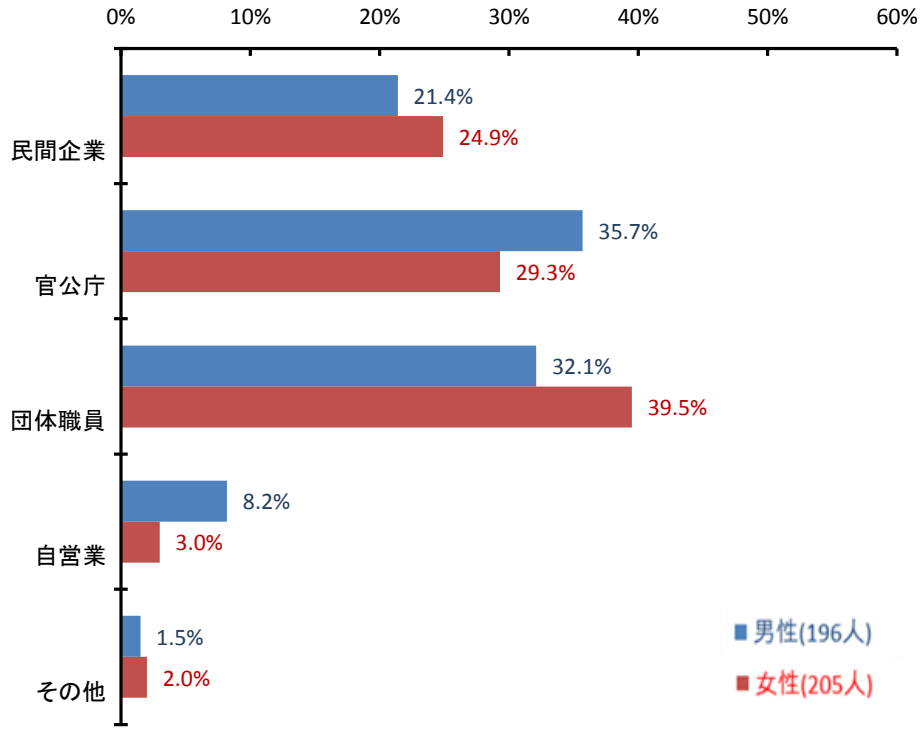
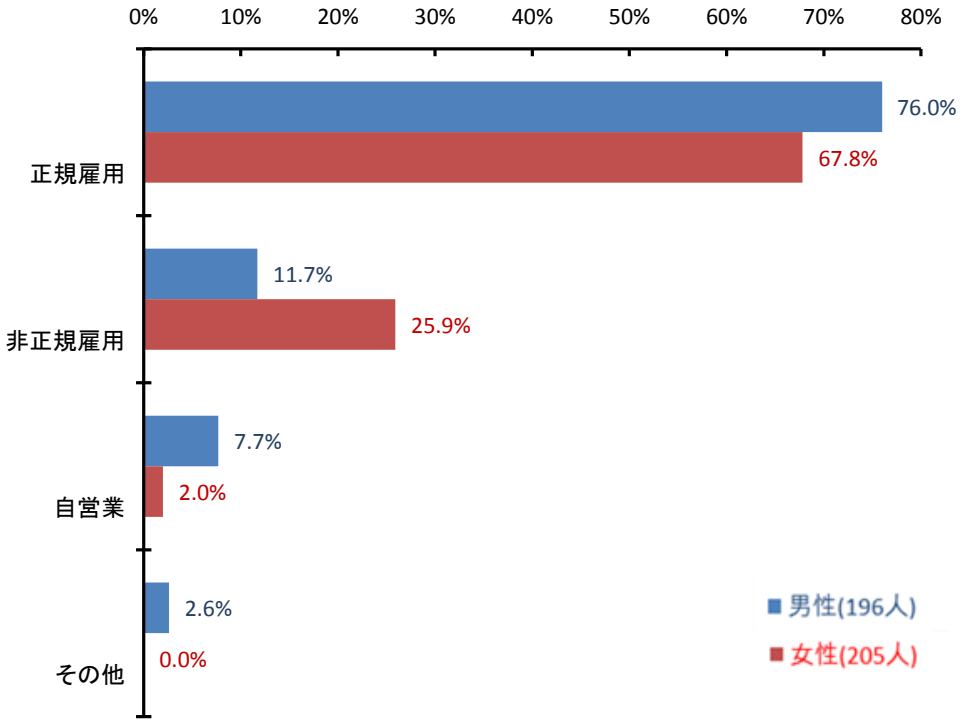


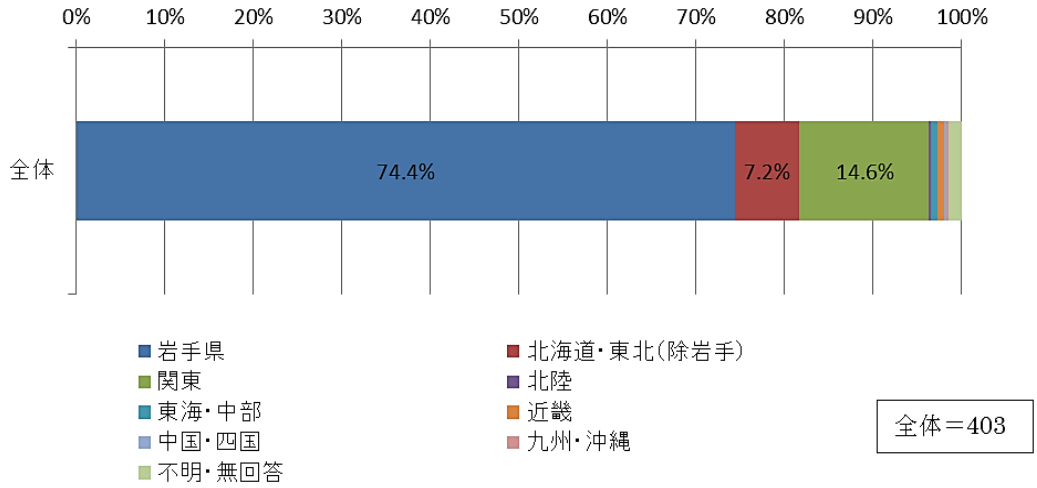
図1-25　男女別現在の雇用形態



(5-1) 初めての勤務地

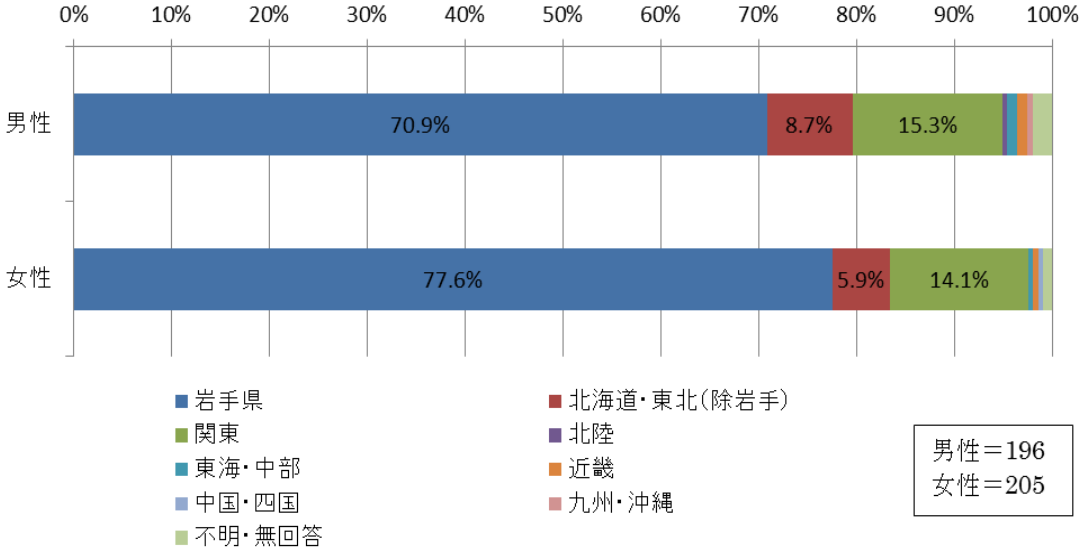
図 1-26 にみるように、初めての勤務地の所在地は岩手県が 74.4%、ついで関東が 14.6%、北海道・東北（岩手県を除く）が 7.2%で、東日本で 96.2%を占めている。

図 1-26 初めての勤務地



この結果を男女別にみると（**図 1-27**）、岩手県で男性が 70.9%であるのに対して、女性は 77.6%と 7 ポイントほど高い。

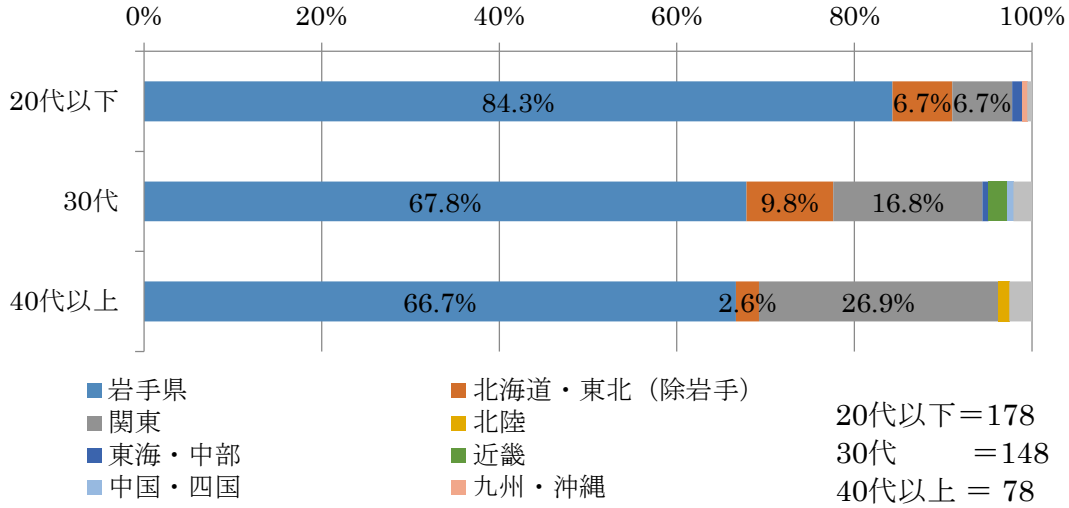
図 1-27 男女別初めての勤務地



また年齢別では（**図 1-28**）、岩手県が 20 代以下では 84.3%、30 代では 67.8%、40 代以上が 66.7%で、若年齢層ほど岩手県である割合が高い。逆に関東は 20 代以下では 6.7%、30 代では 16.8%、40 代以上が 26.9%で、高年齢層ほど高くなる。特に 40 代以上では初職

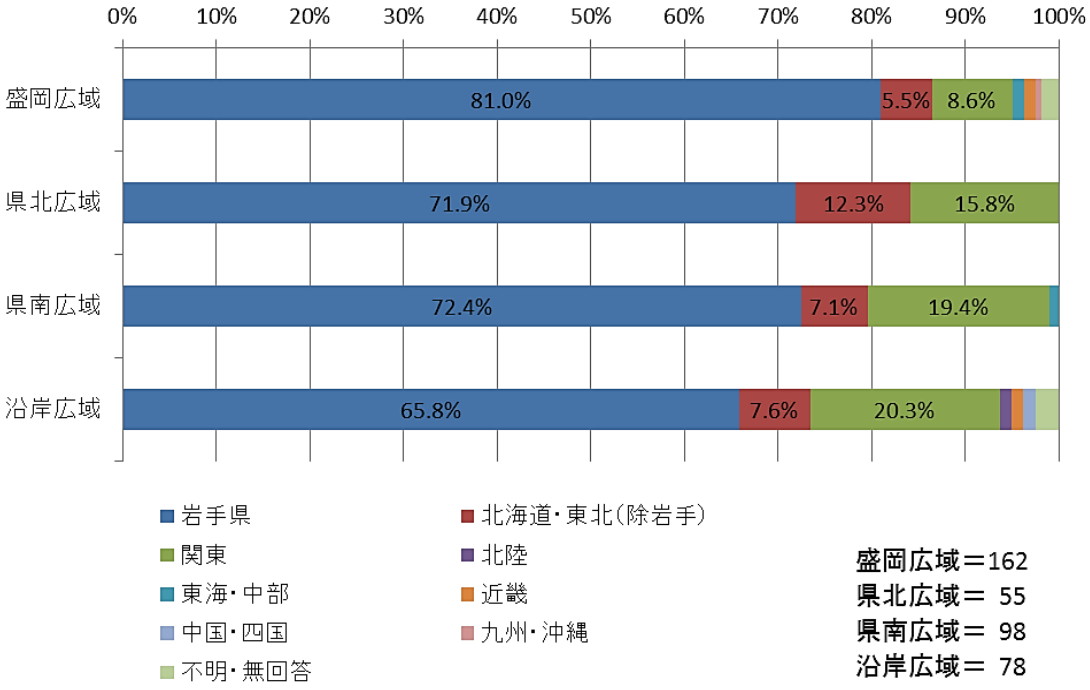
地が関東というケースが 4 分の 1 以上を占めている。

図 1-28 年齢別初めての勤務地



居住地別にみると（**図 1-29**）、「盛岡広域」では岩手県が 81.0%、関東が 8.6%であるのに対して、「沿岸広域」では岩手県が 65.8%、関東が 20.3%という結果になり、「沿岸広域」での関東の割合が高かった。

図 1-29 居住地別初めての勤務地



これらのことから、最終学歴学校が岩手県である割合よりも、初職地が岩手県である割合が 24 ポイント近く高いことから、他県の大学や専門学校に進学しても、最初の就職は岩手県内というケースが多いことがわかる。

(5-2) 正規・非正規別にみたキャリア上の特徴

現在の仕事については上でみたとおりであるが、つぎに学校卒業後の初職からのキャリアの動きをみよう。まず初職時の勤め先について**図 1-30** をみよう。(**前掲図 1-24**) でみた現在の勤め先と比べてみると、男女とも初職時には民間企業が多かったことが明らかである。調査時点では民間企業は男性で 21.9%、女性 24.9%にすぎないが、初職段階では男性 46.4%、女性 45.4%であった。また官庁、団体職員については初職時には男性 46.0%、女性 47.8%だったが、現時点ではそれぞれ 67.8%、68.8%となっており、相対的に教育年限の長い人々が多く安定的職業を得ている人々が多い回答者のうち、20%ほどが、民間企業から官庁・団体職員へと移動しえたものと推察できる。ただし先にも触れたように、女性の場合は勤め先が官庁・団体職員であったとしても、必ずしも正規の職員ではないことに留意する必要がある。

この点を確かめるために初職時の雇用形態を**図 1-31** からみてみると、学卒後に正規雇用で入職したのは男性 73.5%、女性 70.7%となっており、現時点の男性 76.0%、女性の 67.8%とほとんど数値上の変化はない。相対的に恵まれた立場にある人々が多い今回の調査の回答者は、ここ 10 数年近く、全国的に雇用情勢が揺れ動いてきたなかにあっても、正規から非正規へという大きな変動を体験することがほとんどなかったことが知られる。非正規についてみると、男性では初職時には 21.3%、現時点では 11.6%へと減少する傾向をみせてさえいる。女性では初職時には 23.9%、現時点では 25.9%であって、男性のようには減少傾向をみせない。つまり女性は高学歴層であっても全体の四分の一が初職時から非正規で入職せざるを得ず、また現時点でも非正規にとどまる傾向が強いことを示しているといえるだろう。

図1-30 男女別初職の勤め先

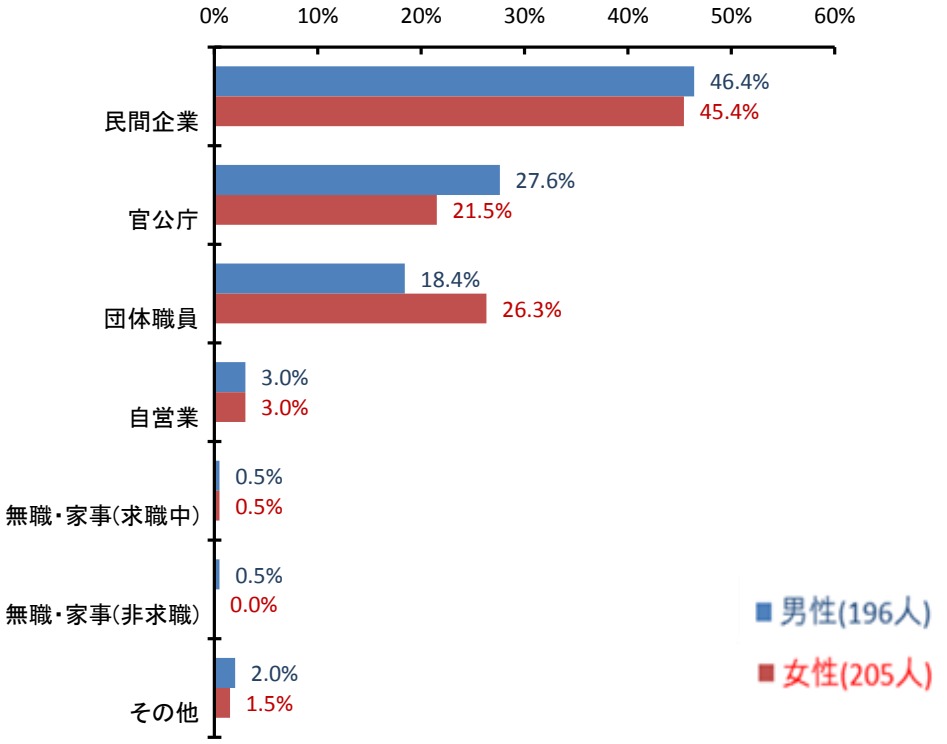
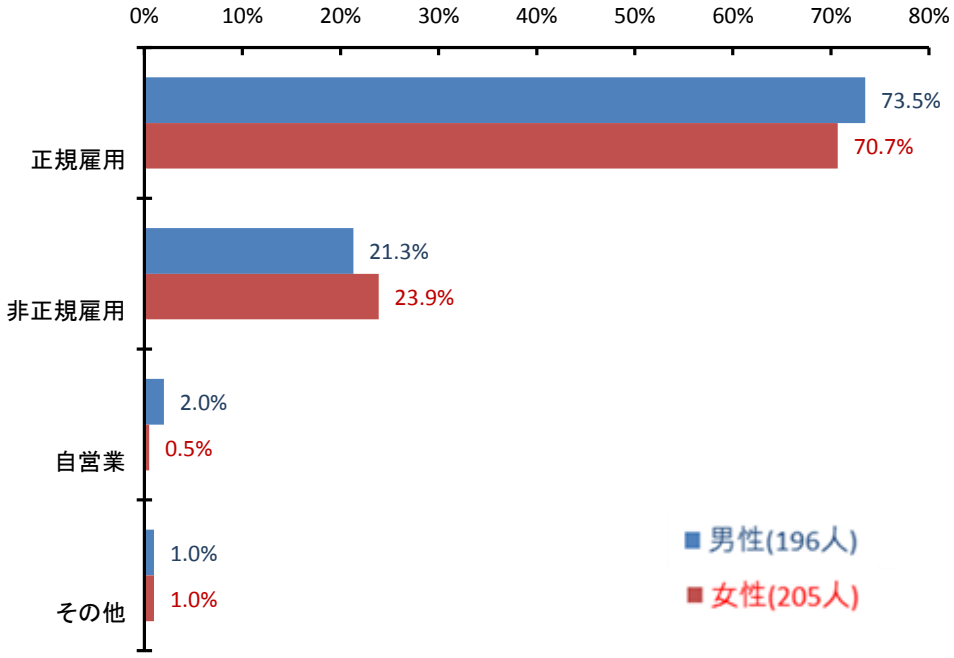


図 1-31 男女別初職の雇用形態



現在、正規雇用にあるのか非正規雇用にあるのかという雇用形態上の違いと、現職の継続期間をとらえたのが、**図 1-32** である。これによれば、調査回答者の多数派である正規職に就いている人々の場合は男女の別なく、長期的な安定雇用の波に乗ることができているとみなすことができる。つまり同図にみるように、10 年以上にわたって、さらには 15 年以上にわたって現職に従事してきた人々が、男性で 34.9%、女性でも 33.1%いる。男女ともに少なくとも三分の一が、安定した長期雇用下にあるのである。就業年限がいまだ短い 20 歳代層をみた場合にも、正規雇用に就いている人々が男性で 74.4%、女性で 76.8%であることを考慮に入れると、今回の調査回答者全体の過半数が長期雇用ルートに現に乗っているし、今後乗っていくことが可能であるとみなすことができるのではないだろうか。こうした過半数に及ぶ安定した雇用上の姿に対して、現在非正規である人々の現職の継続期間をみると、現職に 10 年以上とどまっているとするのは男性で 8.6%、女性で 15.1%となり、女性の方は、かなりの期間にわたって非正規にとどまりつづけざるをえない厳しい状況におかれていたことがわかる。

最後に現在の正規/非正規別に転職回数をみよう（**図 1-33**）。これまで一度も転職経験がないとするのは、男性 57.0%、女性 55.4%となっている。男女とも 6 割弱が、初職から正規雇用ではいり、そのままのポジションを持続しているのである。これに対して現在正規職にある人々のなかで 3 回以上転職したのは男性では 12.7%、女性ではこれをやや上回って 18.0%となる。

図1-32　男女別現在の雇用形態別仕事の継続期間

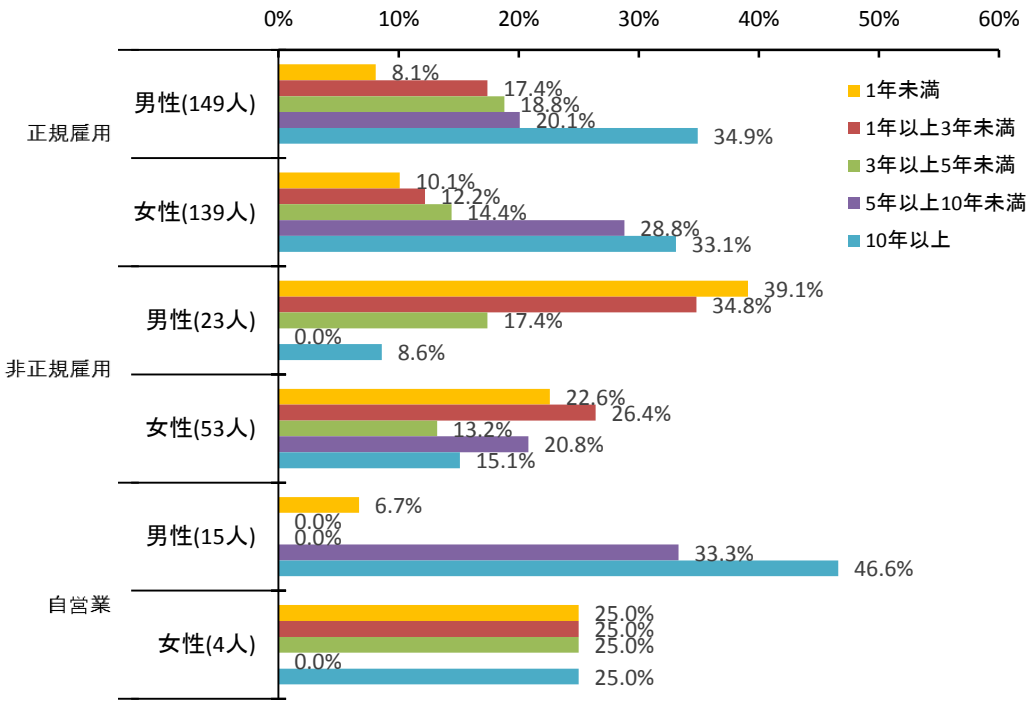
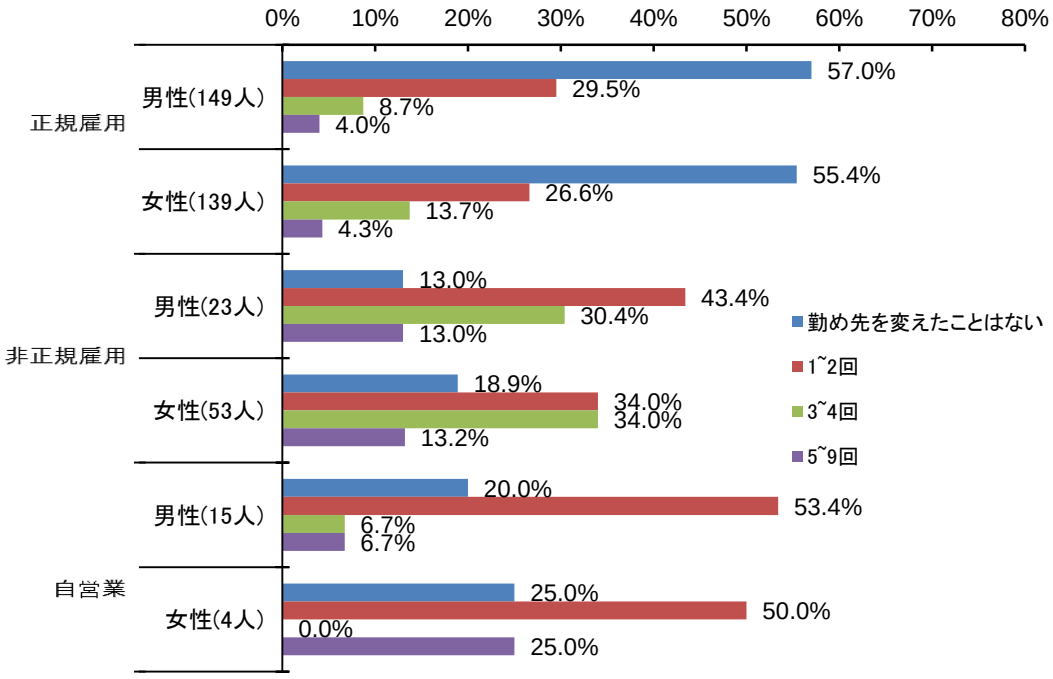


図1-33　男女別現在の雇用形態別転職回数



これだけの数の男女が、転職を経て現在の正規職にたどり着いていることがわかる。こうした点には、相対的高学歴でありかつ安定職従事者の特徴がよくあらわれているといえる。上でみた現職継続期間の結果と合わせてみると、現在正規職にあるかなりの人々が多くの転職経験を経ずして、長期的に安定性がみ込まれる職に就くことができているということができ、また一定の試行錯誤を経なければならなかった人々も、その経験ののちには正規職を獲得することができているのである。これに対して現在非正規職にある人々の場合は、大きく異なっている。彼らのうち転職経験がないとするのは男性で 13.0%、女性で 18.9%となる。男性のうち1回から2回の転職経験者は43.4%、3回～4回の経験者は30.4%となり、女性の場合は、いずれも 34.0%である。わけても注目すべきは、5 回から 9 回の転職経験を有するのが、男性で13.0%。女性で13.2%存在することである。何度もの転職経験をくぐり抜けつつもなお非正規にとどまっている人々が一定数いるという事実を、確認する必要がある。

以上から明らかなのは、調査の回答者のマジョリティはすでに述べてきたように安定的雇用下にある教育年限が長かった人々であるが、全体の四分の一前後の必ずしも安定していない人々が含まれているということである。かなり困難なキャリア経験をしている人々の結婚事情にも今後、注意を払う必要があるだろう。

(5-3) 年収と世帯での位置づけ

調査回答者の年収をみよう。男女別の年収分布をみた**図 1-34** によれば、女性の場合は150～200 万円層（23.4%）が最多であり、200～250 万円層（21.0%）、および 100～150 万円層（15.1%）がこれに次いでいる。これに対して男性では、200～250 万円層（19.9%）が最多を占め、300～400 万円層（18.9%）がこれに次いでおり、概して女性よりも男性の収入が高い方に分布していることが明らかである。しかし「収入なし」を含む 100 万円未満という低い収入層は、女性で 5.9%。男性で 5.6%となり、これに 100～150 万円未満層を加えると、男性で 9.7%、女性では 21.0%となる。こうした低収入層は、先にみたように、転職を繰り返しながらも非正規にとどまり続けざるをえなかった人々と重なるものと思われる。とりわけ女性の低収入層が 2 割に及ぶことに注意を向ける必要がある。

現在の世帯において家計の支え手として、回答者がどのような役割を果たしているかをみよう（**図 1-35**）。 家族と同居している人々の世帯において誰が主たる家計支持者かをたずねた回答結果のうち、「その他」には祖父（0.2%）、祖母（0.5%）、兄弟姉妹（1.0%）、パートナー（0.5%）等の多様な回答がはいり、これらを合計すると 9.3%を占める。同図はこれらを除いて回答数が多かった「父」「本人」「母」を取り出したものである。これによれば主たる家計支持者が「父」であるケースが最多であり、男性でも 35.2%、女性では 42.9%となる。本人自身が高学歴層でかつ安定職に従事しているケースが多い調査回答者にあっては、親自身が安定的な職業に従事しており、主たる家計支持者として安定した基盤を持っている可能性が高い。次いで「本人」が家計支持者であるのは、男性で 18.9%、

図1-34　男女別昨年1年間の手取り収入

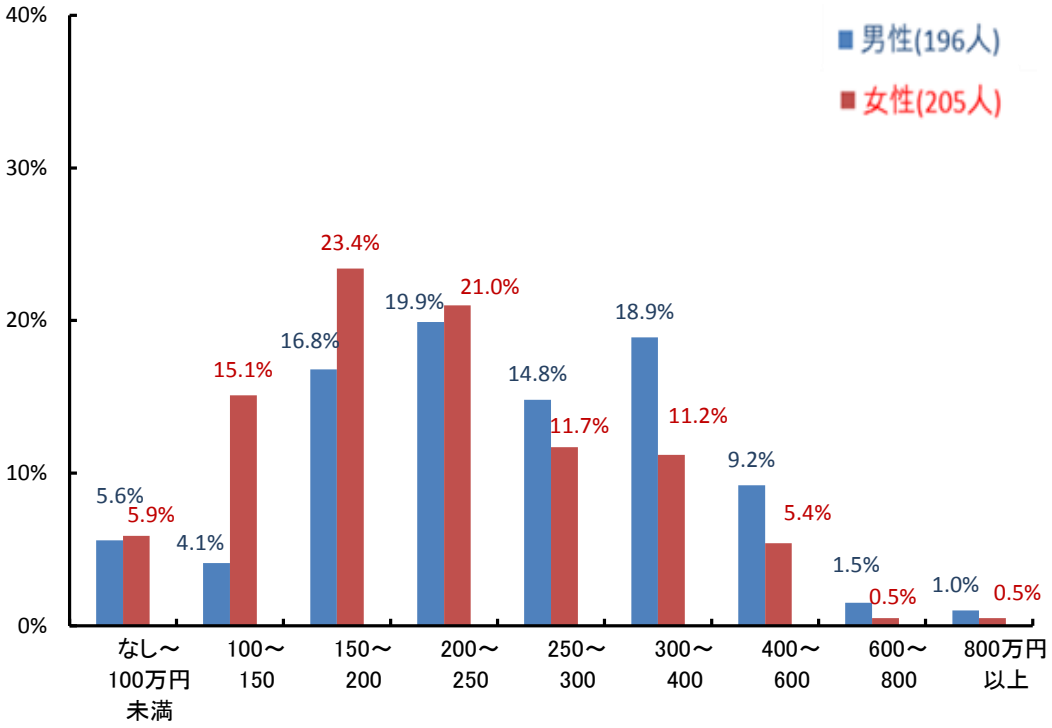
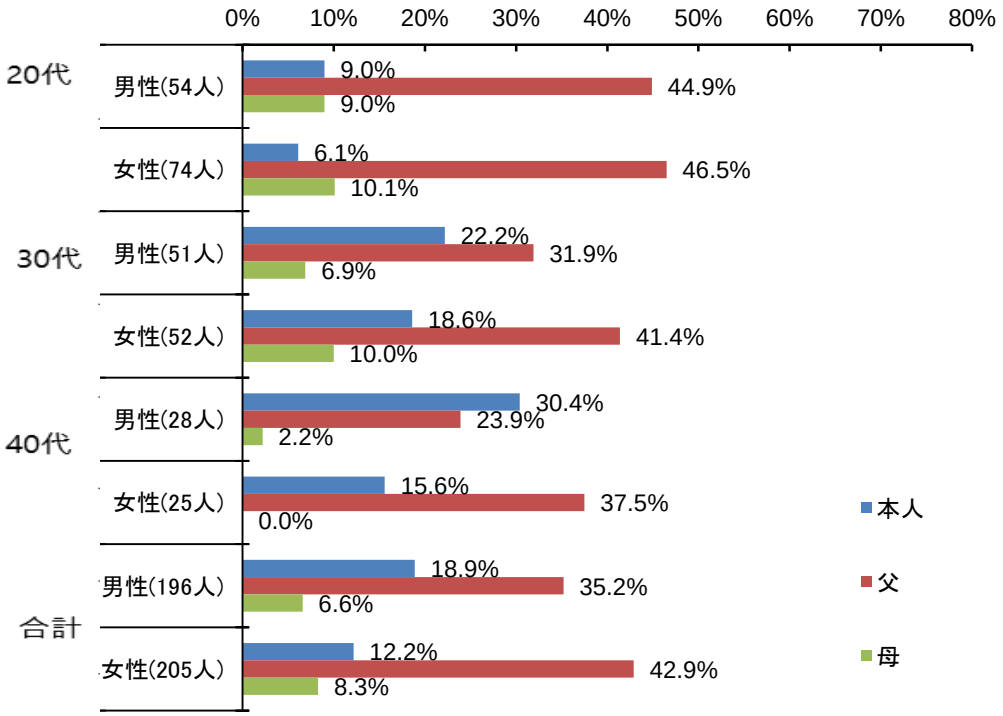


図1-35　男女別年齢別主たる家計支持者



女性で 12.2%、「母」は男性で 6.6%、女性で 8.3%となっている。男性において、本人自身が家計支持者としての責任を持つケースが多くなっている。年齢別にみると、女性も男性も年齢を増すごとに本人が家計支持者となる傾向が強まっているが、男性は女性よりもその傾向が強くあらわれている。すなわち女性の 20 代 6.1%、30 代 18.6%、40 代 15.6%に対して、男性はそれぞれ 9.0%、22.2%、30.4%となっている。40 歳代の男性の三分の一弱が、主たる家計支持者の役割を担っており、このことがこの世代の結婚を展望する際に何らかの影響があるものと推察される。

（6） インタビュー事例からみた実像

これまでのアンケート調査をもとに、今回の調査に回答してくださった方々のプロフィールをとらえてきた。これを補い、回答者の実像に迫るために、インタビュー調査からいくつかの事例をひろい出しておきたい。**男性7**は、高学歴でかつ安定職に従事している人々の代表格である。一貫して地元の金融業の正社員であって、転勤はあっても転職経験は一度もない。ただ現在は自治体に出向しており、出向の経験がいずれまた金融業での仕事に生かされるものと推測される。特徴的なのは何度も「仕事が面白くてたまらなかった」と語る彼は、仕事とプライベートが両立しにくいことを自覚している点である。とりわけ親元に同居している期間は 30 歳代半ばを越えていく 6 年間に及ぶ時期であったが、母親がさまざまな世話をしてくれるせいか、「結婚の先のばし」に対して本人自身が自覚を有している点である。順風満帆な安定職に従事しつつ、仕事中心の姿勢ゆえの結婚への距離感があらわれている事例だともいえるだろう。**男性5**の場合は転職経験をもっており、民間企業の社員から自治体職員への転身に成功している。「焦っていなかった」ので、現在シングルのままであることを自覚している。これに対して**男性8**はいくつもの転職を経験し、現在も非正規雇用のもとにある。高卒後は民間製造業の正社員としての職を得たが、工場縮小のあおりを受けてリストラに遭遇した。実にさまざまな非正規職を経て現在も日本郵便の契約社員であり、親の家を出るに出られないという。

＜男性7・大卒・民間正規・30 歳代後半＞

関東の大学卒業後、一貫して地元の金融業正社員。同社内で転勤を重ね、現在自治体に出向中。上司の考え方に共鳴し、仕事が面白くてたまらない。ともかく仕事が面白かった。仕事とプライベートは両立しない。結婚は 30 歳までかなあ、40 歳までにはなあと考える程度。実家にいた 6 年間（33 歳～38 歳）は（結婚）先のばしの 6 年間になった。

＜男性5・大卒・正規・30 歳代後半＞

東京の大学卒業後、不動産会社に正社員として入職し 4 年。その後同業他社に転職し 3 年。通算で東京に 11 年在住。資格としてマンション管理士、宅地建築物主任、土地家屋調査士を取得。29 歳で地元自治体の試験を受けて合格し、正規職員となる。地元に戻って親、妹

と同居し、家計に 3〜5 万円入れている。結婚がむずかしい理由は「あせっていなかったこと」。

＜**男性8・高卒・非正規・40 歳代前半**＞

高卒後民間製造業（県外）に正社員として入職。3 年働いた後、同企業の転勤で地元に戻り親と同居。途中から契約社員にされ、そして工場縮小でリストラにあった。ずっと正社員できたので、ショックだった。失業保険を半年もらってハローワークを通じて製造業に正社員としてはいったが。5 年で辞めさせられた。その後細かい仕事（菓子問屋で配達など）をやった。土方のアルバイトを経て、日本郵便の契約社員として集荷係をしている。家に 3 万円入れている。親の家を出たいとは思うが、また仕事がうまくいかなくなるのではないかと、不安。結婚相手でもみつかればよいのだが。

他方女性についてみよう。**女性1**は、初職では正社員であったが地元にもどって非正規職に就き、その後「友だちと土・日に遊びたい」との理由で職業訓練校に通って事務職に転換する。非正規のままではあるが、自治体の外郭団体臨時職員として「今がベストな状態」だとしている。世代的に若いこともあって、雇用の安定性よりも「遊びたい」という気持が勝っているとみられる。また居住地域での正規職が限られており、高卒女子には門戸が開かれていないことが常態化していることが、非正規にとどまることに対する焦りのような気持に駆り立てない条件になっているとも考えられる。これに対してつぎの 2 ケースは、かなり厳しいキャリアをたどってきている。**女性5**は、大卒後証券会社の正社員職を得たが、ノルマがきつく帰宅時間が遅かったために体調を崩し退職。体調をとりもどそうとしていたところ、不運にも不況期にさしかかってしまう。パート、派遣社員、臨時職員といくつかの仕事を転々としながら、現在も非正規のままである。親と同居しているのでかろうじて暮らしていくことができ、自己の収入で奨学金返済等にあてており、「親に申し訳ない」という気持を強く抱いている。**女性6**の場合は、初職から書店の契約社員とはいえ、社会保険にも加入できボーナスもよかったという。だが立ち仕事で腰を痛めて退職を余儀なくされる。その後は派遣社員、派遣切り、アルバイト、臨時職員と転々とし、現在も臨時職員のままにとどまっている。正規雇用を希望しながらも、30 歳代後半であるため転職は難しいと判断し、現在の職でがんばるほかはないと考えている。

＜女性1・高卒・非正規・20歳代後半＞

高卒後、旅館に住み込み（正社員）2 年間。地元に戻って親と同居。給料がいいということでパチンコ屋の非正規社員に。音がうるさいので辞め、知人が開業した焼き肉屋にアルバイトではいって正社員に。3 年で辞めた。友だちと遊ぶのに土日が休みの職種がよいということで、職業訓練校に 2-3 ヶ月通った。税務署の確定申告の手伝いを経て、自治体の外郭団体臨時職員。もうちょっと遊びたいという気持が強い。収入も安定しているし、遊んでくれる友達もいるし、今がベストな状態にいる。（結婚は）どうにかなるでしょうという感じでいる。

＜女性5･大卒･非正規･30歳代前半＞

大卒後、証券会社正社員に。ノルマがきつくて帰宅時間も遅く、1 年で体調を崩して退職。体調を戻しながら、ちょっと働きつつやっていたら、ちょっとだんだん不況の時期にかかって、求人がなくなってしまって、それで今みたいに臨時でずっと働いていた。証券会社を退職後、事務職パートで 5 年働いたが、待遇面が厳しいので（社会保険に加入してもらえず、年金も自分で払っていたので）辞めた。派遣社員に登録して、農協に派遣されたが派遣切りにあった。その仕事ぶりを見ていた人が農協臨時職員の誘いを受けた。100 万円から 150 万円の収入は、とりあえず、借りている奨学金返済と車のローン、携帯代になっている。家には入れられなくて。（同居する親に）申し訳ないなと。今の仕事に誘ってくれた方がまもなく定年なので、また転職するかもしれない。結婚、どんどん歳も重ねていくと、選んでもらえない（笑）、何歳までならいいでしょうか。

＜女性6・大学中退・非正規・30歳代後半＞

大学中退後親元にもどって、書店で契約社員。社会保険に加入したしボーナスも出たが、腰を痛めて立ち仕事ができなくなった。社長個人でやっている民間訪問販売会社の事務･経理（正社員）。業績の悪化で居づらくなった。給料は書店の方がよかった。工場の派遣社員として設計事務をしたが、派遣切りにあう。1 年間くらい仕事が見つからず、ハローワークに通いながら税務署で確定申告のアルバイト。団体の臨時職員半年を経て、税務署のアルバイト。そのあと以前の団体職員（臨時）にまた是非きてくれと言われた。今の仕事は、続けてさせてもらえるまでは続けていきたいし、やりがいがある。年齢的に転職は難しい。できれば正規のところでという希望はあるけれど、今の収入では家を出たいと思っても生活ができる金額ではないので（今のところで頑張るしかない）。やはり子どもがほしいので、年齢的にはちょっとそろそろタイムリミットかな。職場の世話焼きおばさんのような人に頼んでみようかな、と。

以上の事例のキャリア展開にみるように、男性の安定職従事者とはきわだって異なっている男性非正規もいることに留意する必要がある。また大卒女性でも正規職から非正規へ

の展開を経なければならなかった事例や、高卒で初職から非正規でありつづけた事例もあり、厳しい職業移動のプロセスを経た人々が含まれていることを念頭において、今後の結婚支援事業を構想していかなければならないであろう。

ただしすでに詳しく述べたように、対象者の選定と調査票の配布方法に規定されて、県内の同一世代の中でも正規雇用者数がより多くなり、自営業者および非正規雇用者はかなり低めの数字になっていることに留意する必要がある。調査サンプルは県全体の同一世代を代表するデータ構成にはなってはおらず、正規雇用、しかも官庁や団体職員という比較的恵まれた立場にいる回答者数が多い。今回の調査には、こうしたサンプル上の偏りがあり、岩手県全体の 20 歳代から 40 歳代のシングルの人々全体に対して代表性があるとは必ずしもいえない。

少なくとも今回の調査結果は、相対的に高学歴でかつ安定的な職業に従事している人々が結婚をどのように意識し、これに接近していこうとしているのか、あるいは距離をとっているのかを見極めていく上では、かなりの分析が可能なデータ構成になっている。その反面、こうした人々との対比において非正規および自営業者層についてアンケート結果から言及することが難しい点に留意しなければならない。今回の調査における主要な調査項目である結婚観にしろ、婚活経験にしろ、男女の違いを無視したデータ分析をするわけにはいかず、また年代別に考察を加えてこそ意味があるところが少なくない。こうした点に照らした場合、実数において男性正規雇用者が 144 名、女性のそれは 145 名（合計で 289 名）に対して、非正規雇用の男性が 42 名、女性が 49 名（合計で 91 名）でしかないことを考慮すると、アンケート結果を数量的に分析してもほとんど意味をなさない。非正規と正規の違いについてアンケート調査データから言及するのは、無理があると判断せざるをえないのである。したがって以下の分析では、非正規の人々や自営業者の人々に関してかなり手薄であることを意識し、違いがみられる項目に限定するにとどめざるをえない。またインタビュー調査に応じてくれた方々の事例を通じて語ることができる範囲では、多少なりとも触れるようにしたいと考える。

２　結婚に関する意識

（１） 結婚に関する意識にみる特徴

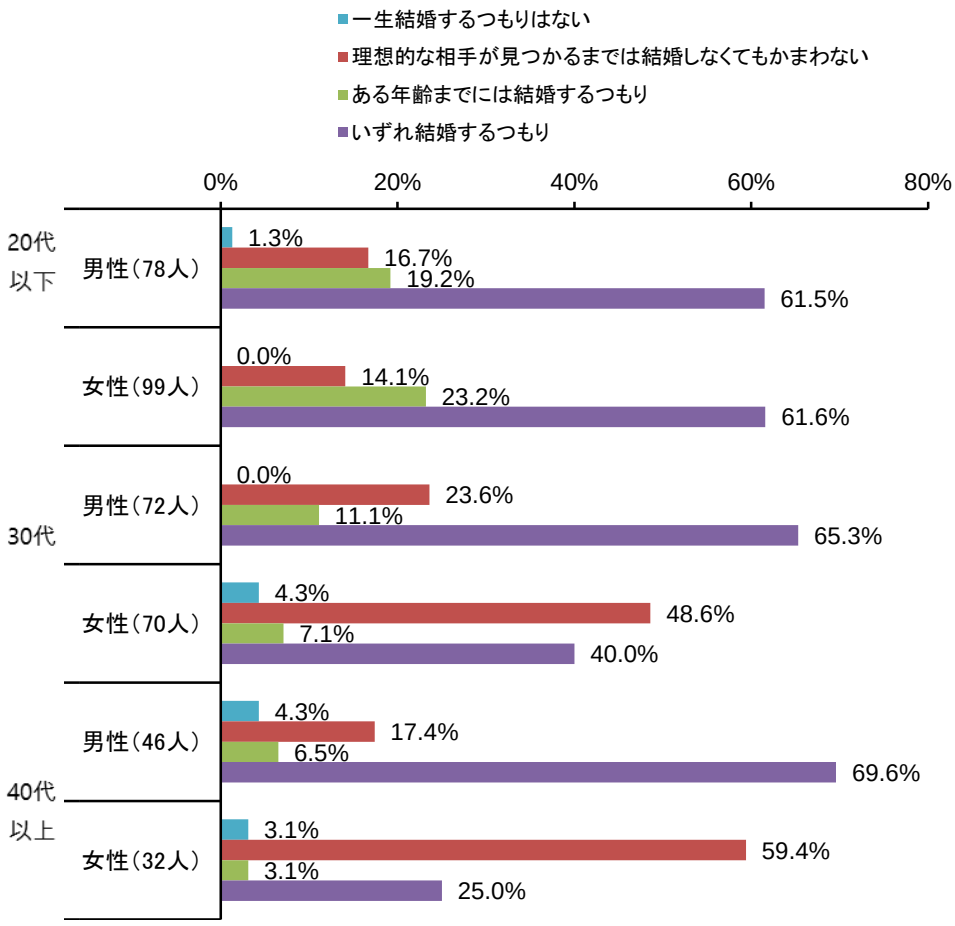
ここでは調査回答者の結婚に関する意識をとらえよう。アンケート調査結果とともに、インタビュー調査を織りまぜながら、記述していくことにしたい。

(1-1) 結婚意思、結婚失敗のリスクについての考え

「自分の一生を通じて考えた場合、あなたの結婚に対するお考えは、次のどれですか」という質問に対して､「一生結婚するつもりはない」を選んだ回答者は 403 名中 7 名であり、全体の 1.7%に過ぎない。ほとんどの回答者に将来結婚する意思がある。男女別にみると、男性の 1.5%（3 名）女性 2.0%（4 名）が将来にわたり結婚する意思がないと回答している。

また「いずれ結婚するつもり」と回答したのは男性の 64.8%、女性の 48.3%である。「ある年齢までには結婚する」は男性 13.3%、女性 14.1%で､「理想的な相手が見つかるまで結婚しなくてもよい」は男性 19.4%、女性 33.7%である。この結果を男女別年齢別に示したのが**図 2-1** である。

図2-1　男女別年齢別結婚意思



これをみると、男性の場合、20 代～40 代まですべての年代を通して「いずれ結婚するつもり」の割合が 6 割を超えている。女性の回答をみると、20 代においては「いずれ結婚するつもり」の割合が最も高く 61.6%であるが、年齢が上がるにつれ選択率は低下する。そのかわりに、30 代、40 代と年齢が高くなるにつれて、「理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない」の選択率が高くなり、40 代においては 59.4%を占める。ある程度の人生経験を積んだ 40 代においては、自分の希望にぴったりと合う相手でなければ結婚したくない、という気持ちを強く持っている人が多いことがわかる。**男性4**の場合は、地域貢献のため県内に戻った。いつか結婚したい気持ちはあるが、収入が減っている。「急ぐ必要はないと考えている。仕事が落ち着かないと、（生活の）バランスが崩れるし、結婚に慎重になる面もある」と、結婚の先送りを表明している。

＜男性4・大卒・団体職員・30 歳代前半＞

県外の大学に進学し、民間企業に勤務した後、県内の NPO 職員になる。

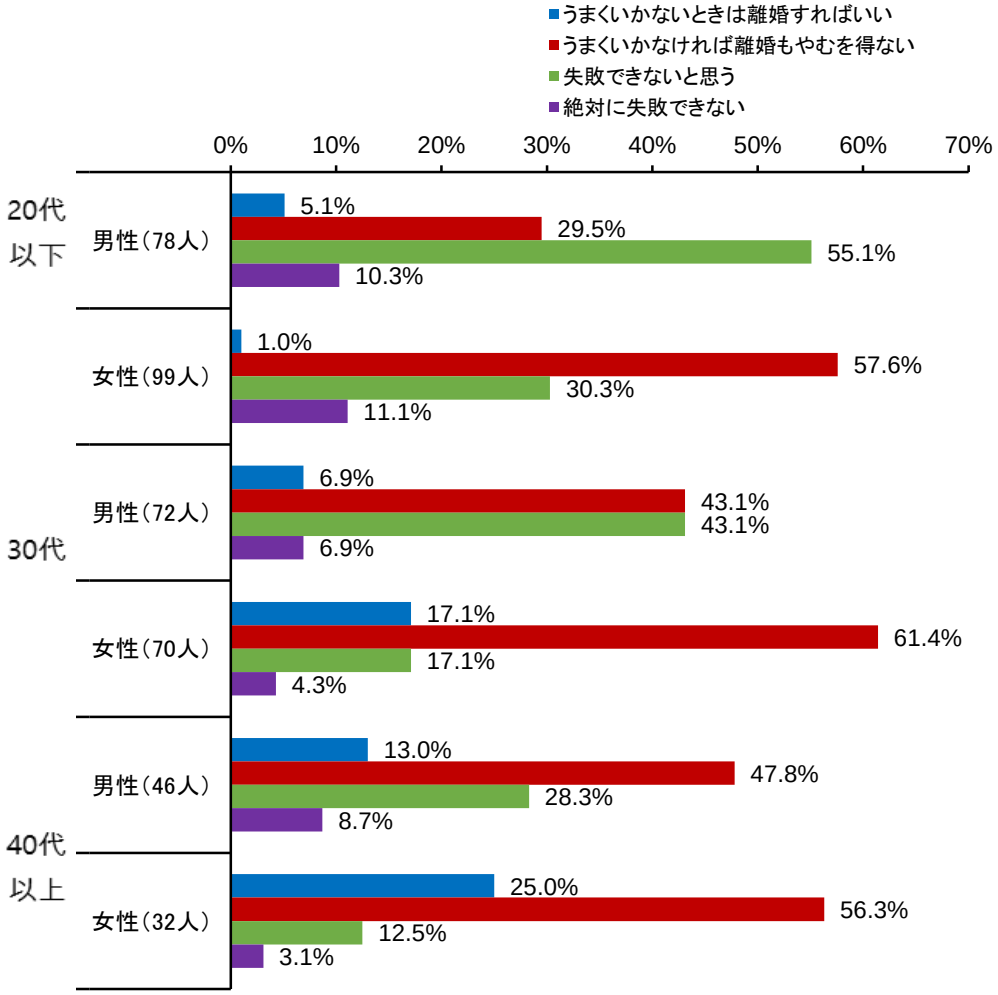
自分の母親も働いていたので、共働きに抵抗はない。共働きで生活していきたいけれど、自分の仕事が不安定（3 年ごとの更新契約）なので、急ぐ必要もないと考えている。仕事が落ち着かないと（生活の）バランスが崩れるし、結婚に慎重になる面もある。

また、「結婚について、あなたはどのようにお考えですか」と質問し、結婚失敗のリスクについてどのように考えるかを回答者が選択肢から 1 つ選んだ結果は、**図2-2**のようであった。男性で最も多く選択されたのは「失敗できないと思う」であり、全体の 44.7%であった。女性で最も多く選択されたのは「うまく行かなければ離婚もやむを得ない」であり、全体の 56.3%であった。

年代別に見ると、男性では、30 代～40 代と年齢が上がるにつれて、「失敗できないと思う」の割合が低下し、40 代では 28.3%である。増加するのは「うまくいかなければ離婚もやむを得ない」で 40 代では 47.8%である。

女性でも年齢との関係に同様の傾向が見られ、「失敗できないと思う」の率が、20 代では 30.3%であったのが、40 代では 12.5%に減少する。女性の場合、年齢が上がるにつれて顕著に増加するのが、「うまくいかないときは離婚すればいい」で、20 代では 1.0%に過ぎないが、30 代では 17.1%、40 代では 25.0%であった。男性でも年齢が上がるにつれ「うまくいかないときは離婚すればいい」の割合が高くなるが、40 代でも 13.0%にとどまっている。女性の回答者は、年齢が高くなるほど「理想の相手が見つかるまで結婚しなくて構わない」と思い、仮に結婚しても「うまくいかなければ離婚もやむを得ない」あるいは「離婚すればいい」と考える傾向が強いことが明らかである。**男性2**のように、女性のキャリアを結婚という形態よりも重視している事例もある。

図 2-2　男女別年齢別結婚失敗のリスクについて



男性2（大学中退・民間企業正社員・20 歳代後半）は結婚失敗のリスクについて、「『失敗はできない』を選んでいるが、『失敗』の意味は離婚ではなく、結婚のために（彼女が）仕事を辞めるとしたら、そちらの方が失敗だと思う」と明言した。彼女は飲食店の副店長であり、職場で今の地位に昇進するまでの苦労を見ているから、結婚が彼女の足かせや障害になって欲しくないと考える。「もし、結婚で辞めなければならないのであるなら、付き合い続けるけれど結婚しない方がいい」と考えているのである。

＜男性2・大学中退・民間企業正社員・20 歳代後半＞

今付き合っている彼女は、（自分の）両親とも仲が良く、結婚したら一緒に住んで面倒を見てくれると言っている。彼女は、飲食店の副店長。結婚のことはまだ考えておらず、結婚のために仕事を辞めるなら結婚しない方がいいと考えている。彼女が今の地位に昇

りつめるまでの経緯を間近で見てきているので。結婚が足かせや障害になるくらいなら、付き合いを続けるけれど結婚しない方がいいと自分は考えている。結婚しても一緒に住まなくてもいいと思っている。アンケートでは、結婚について「失敗はできない」を選んでいるが、「失敗」の意味は離婚ではなく、結婚のために（彼女が）仕事を辞めるとしたら、そちらの方が失敗だと思う。

(1-2) 相手の選択に際し気になること

「あなたが結婚相手を決めるときに、以下のことについてどのくらい気になりますか」と質問し、「１．相手が家の跡継ぎの立場にある」「２．相手の家の経済状態」「３．相手の親との同居」「４．相手の家のしきたりや決めごとがきびしい」「５．自分が苗字を変えること気になること」の 5 項目について、「かなり気になる」から「気にならない」までを 4 件法で尋ねた結果を男女別年齢別に示したのが**図 2-3** である。ここでは、「かなり気になる」と「やや気になる」回答率と、「あまり気にならない」と「気にならない」の回答率をそれぞれ足して、回答者の意識を探るための分析をした。図では、「気になる」割合のみを示している。

まず、「１．相手が家の跡継ぎの立場にある」ことは「気になる」とする割合は、男女ともに、40 代で高くなっている（男性 81.4%、女性 82.1%）。20 代の男性においては、「気になる」という回答者は 46.1%で半数を下回るが 30 代 59.7%、40 代では 81.4%と年齢が上がるにつれて高い割合になる。女性では年齢と無関係に、「気になる」割合が高く、女性全体の 74.6%が「気になる」としており、女性の場合は、相手が跡継ぎの立場であるかどうかは、非常に気になる点であることが明らかである。

「２．相手の家の経済状態について」は、男性は気にしない傾向が高く、女性は気にする傾向が強いことがわかる。男性全体では 36.1%が、女性全体では 74.1%が「気になる」と回答している。

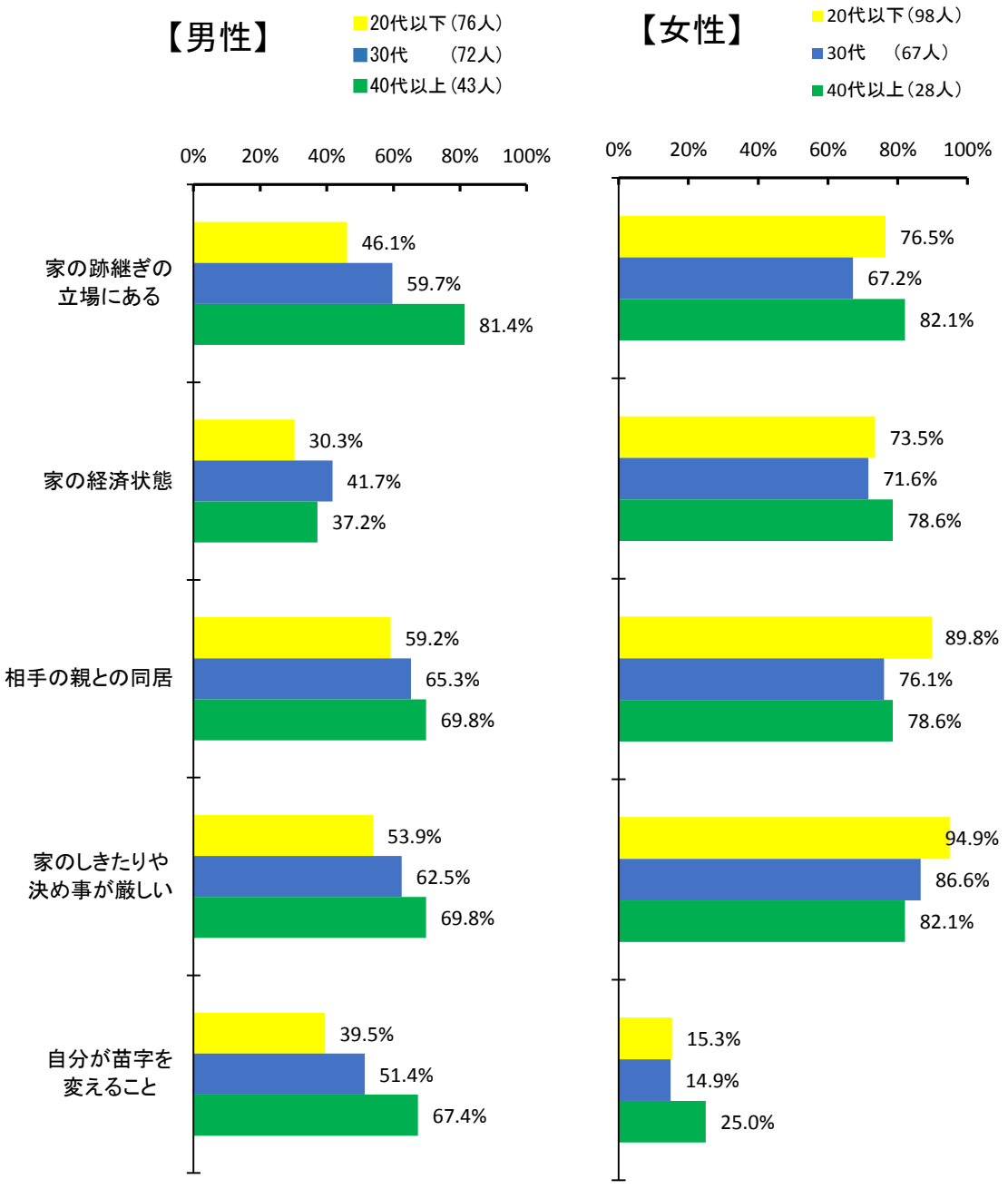
「３．相手の親との同居」については、全体としては女性の方が「気になる」割合が高くなっている。男性では、「気になる」割合が 20 代 59.2%、30 代 65.3%、40 代 69.8%と年齢が上がるにつれて高くなる。自分が相手の親と同居することはできないと考える割合が高年齢になるほど高くなっているのである。一方、女性は 20 代で「気になる」割合が最も高い（89.8%）。20 代では、自分の結婚について、それほど現実的に深く考えていない回答者も多いことが想像できるが、それでも「相手の親との同居」については 90%が「気になる」としているのである。女性全体では 83.7%が、「気になる」としている。

「４．家のしきたりや決め事がきびしい」ことについては、「３．相手の親との同居」と同様に女性の方が「気になる」割合が高くなっており、女性全体の 90.4%が「気になる」としている。特に 20 代女性では 94.9%が「気になる」としており、若い女性ほど家のしきたりや決め事が多い男性との結婚は回避したいと考えていることがわかる。男性では、全

体としては 60.2%が「気になる」としており女性よりは低い傾向にあるが、年齢が上がるにつれて「気になる」割合が高くなり、40 代では 69.8%が「気になる」としている。

最後に、「５．自分が苗字を変えること」についての回答傾向は、5 項目の中で最も男女に差がみられる。男性では、全体として「気になる」の割合が高い（50.3%）。また、男性では年齢との間に顕著な関連があり、20 代では 39.5%、30 代では 51.4%、40 代では 67.4%と年齢が上がるにつれて「気になる」割合が高くなる。若年層においては、自分が苗字を変えることになってもかまわないという男性が増えている可能性もあるが、まだ結婚について深く考えていないゆえの回答である可能性もある。女性の場合は、全体の 16.7%が、「自分が苗字を変えること」が「気になる」としている。これを裏返せば、相手の苗字を名乗ることに抵抗感がない女性が 8 割以上であることがわかる。しかし 40 代の女性では「気になる」割合が 25.0%であり、4 人に 1 人は簡単に相手の苗字を名乗るわけにはいかない事情があることが推測される。

図 2-3 男女別年齢別結婚相手を決めるときに気になること



つぎに「結婚相手を決めるときに気になること」を就業上の地位別および本人の昨年の手取り年収別に分析した結果を示す。就業上の地位は、問 27 で雇用形態を尋ねた設問の回答の選択肢をである「１　正社員・正職員（常時雇用されている一般従事者)」を「正規職員」に、「２　契約社員・嘱託社員」、「３　派遣社（職）員」、「４　パート・アルバイト」、

「５　臨時・日雇い」を「非正規職員」に、「６　自営業主」を「自営業主」に、「７　自営業の家族従業員」、「８　内職」、「９　その他」を「その他」に再分類したものである。このうち「自営業主」と「その他」はあてはまる人数がそれぞれ、6 人、18 人と少なかったため、分析では「正規職員」と「非正規職員」のみを対象に行った。ただ、「正規職員」が 279 人であったのに対し、「非正規職員」は 77 人であることから、数が少なく十分な分析には至らないことを断っておきたい。

本人の年収は、問 38 で年収を尋ねた設問の回答の選択肢である「なし」・「50 万円未満」・「50 ～100 万円未満」・「100 ～150 万円未満」を「150 万円未満」に、「150 ～200 万円未満」・「200 ～250 万円未満」を「150～250 万円」に、「250 ～300 万円未満」・「300 ～400 万円未満」・「400～600 万円未満」・「600 ～800 万円未満」・「800 万円以上」を「250 万円以上」に区分した。なお「150 万円未満」は 59 人、「150～250 万円」は 160 人、「250 万円以上」は 144 人であった。こちらも数が少なく十分な分析には至らないことに留意されたい。

そのうえで、「正規職員」と「非正規職員」の間で差がみられる項目を紹介することとした（**図 2-4**）。まず「相手が家の後継ぎの立場にある」については、「かなり気になる」が正規職員では 27.2%、非正規職では 20.3%と、正規職員がおよそ 7 ポイント低かった。

図 2-4-(1) 相手が家の後継ぎの立場にある

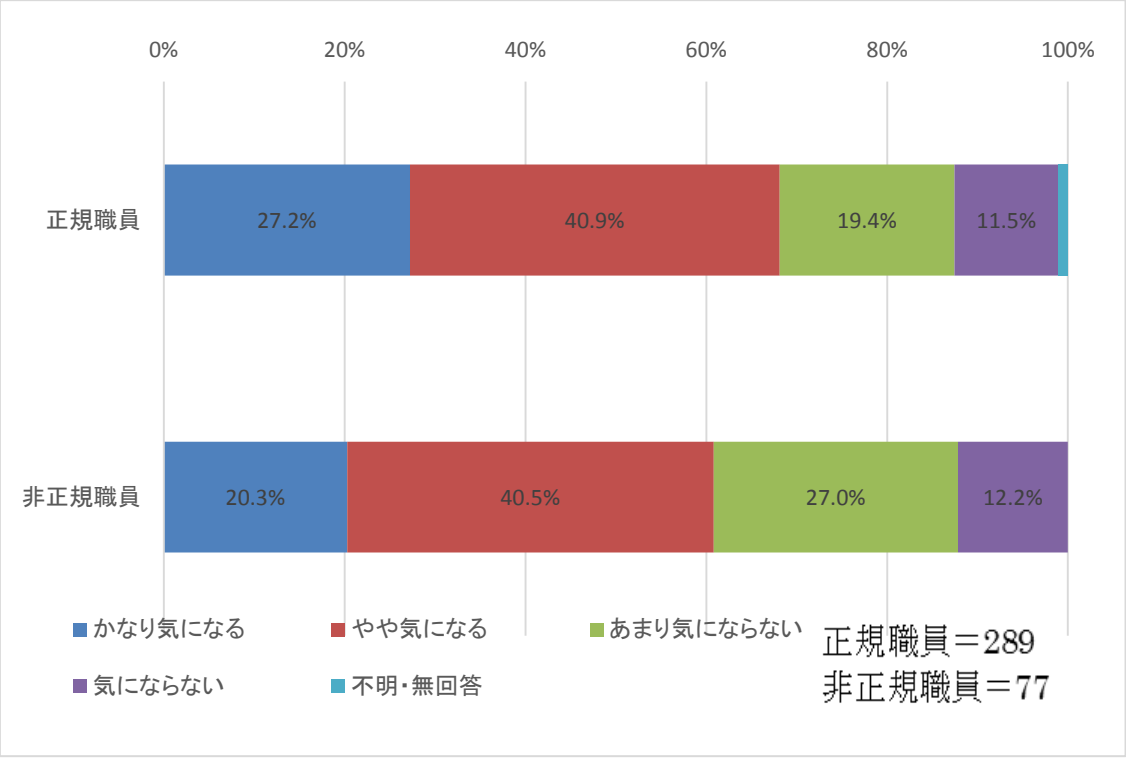
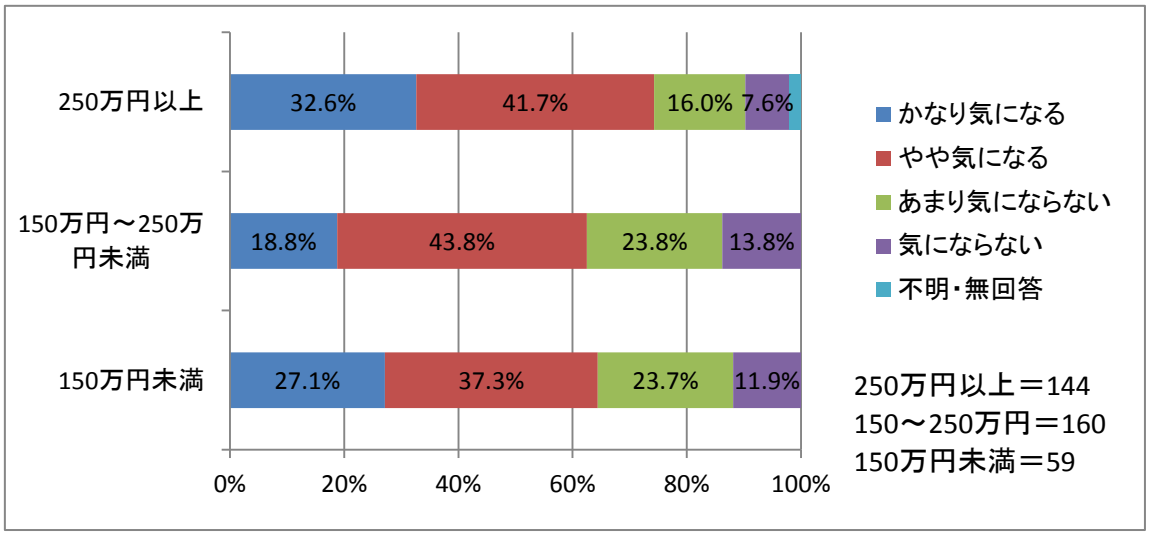


図 2-4-(2) 相手が家の後継ぎの立場にある



また、「相手の家のしきたりや決めごとがきびしい」については、「かなり気になる」が正規職員では 36.2%、非正規職では 45.9%と、正規職員がおよそ 10 ポイント低かった（**図 2-5**）。

図 2-5-(1) 相手の家のしきたりや決めごとがきびしい

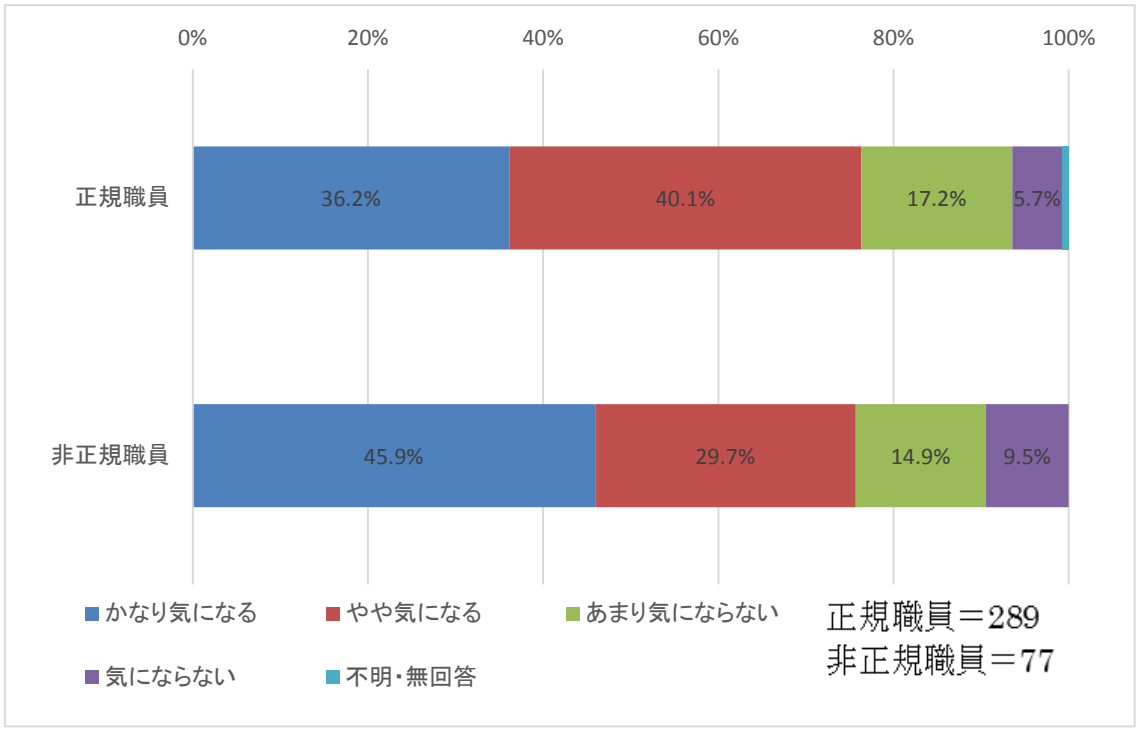
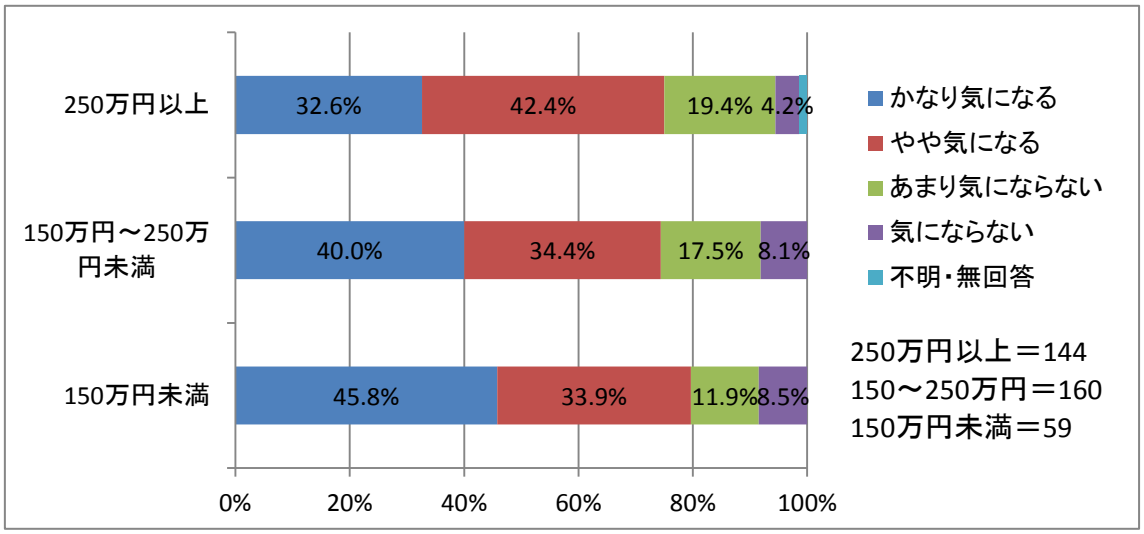


図 2-5-(2) 相手の家のしきたりや決めごとがきびしい



「自分が苗字を変えること」については、「かなり気になる」が正規職員では 18.3%、非正規職では 2.7%と、正規職員ではおよそ 16 ポイント高かった（**図 2-6**）。 「自分が苗字を変えること」については、正規職員に男性が多く、非正規職員に女性が多いことに因るものと推測されるが、「相手が家の後継ぎの立場にある」については正規職員がより気にしている一方で、「相手の家のしきたりや決めごとがきびしい」については非正規職員がより気にしており、立場の違いが結婚の相手を決める際にも影響を与えているようである。

図 2-6-(1) 自分が苗字を変えること

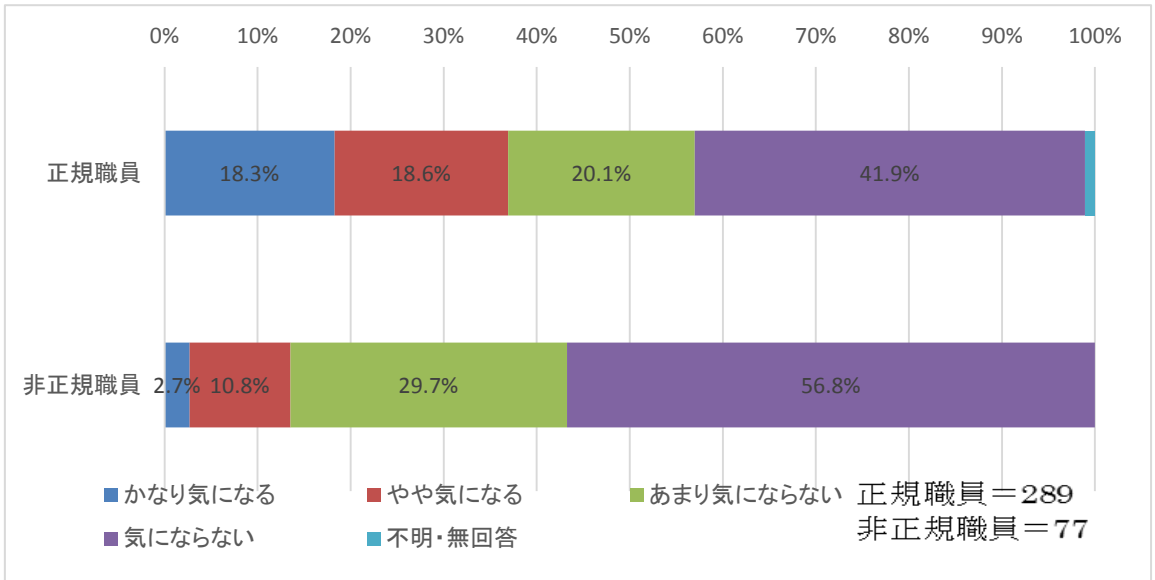
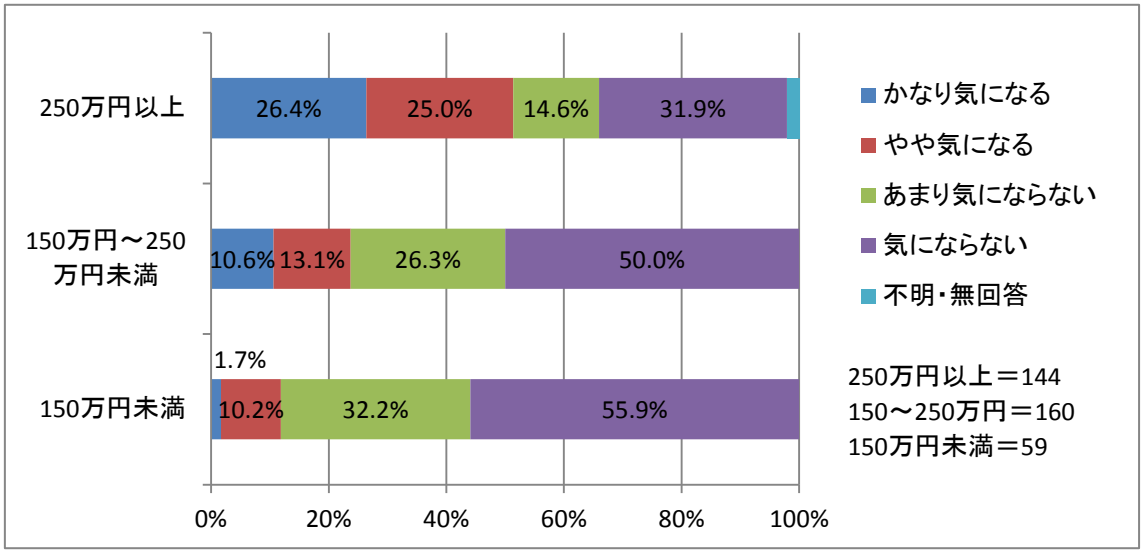


図 2-6-(2) 自分が苗字を変えること



20 代前半女性の、典型的な事例は以下のとおりである。**女性1**は、周囲の友人たちが結婚していくのを見て、自分も早く結婚したい気持ちがある。婚活をしているが、以前付き合っていた遠距離恋愛の恋人と比べてしまう。「だんだん理想が高くなっているような」という。母親の苦労をみているので、「長男の嫁」はとても大変なものだと思い、長男とは結婚したくない。「『長男の妻』をサポートするような役でいいや、みたいな」と考える。共働きより専業主婦になりたいと今は思っている。ただし、周りの友だちでそういう人はいない。

＜女性1・高卒・非正規・20 歳代前半＞

2 年前まで、3～4 年位、遠距離恋愛で付き合っていた人がいて、別れるとなって、ぱぱっと割り切れなくて、前の人と比べてしまったり、この人だ！と思える人がいないのは現実。友だちから紹介されたり、保険屋さんが企画した合コン的なものにも行ったりするけれども、やはり疲れて。理想がだんだん高くなっているような。

相手の親との同居や家のしきたりが気になるのは、祖母と母がなかなかうまくいっていないのを見ていたから。ご飯をつくらされ、料理や掃除にけちをつけられ、子どものことまでも絶対に合わないことが出てきたり。相手の親に干渉されずに、自分の母に相談しながらやれるとよいのだが。

長男に嫁ぐのはやはり・・・。長男の妻がすべてサポートというような形を周りでよく見ているので、ちょっと、と思う。長男の妻をサポートするような役でいいや、みたいな。共働きより、専業主婦になりたいと今は思っている。子育てに専念して息抜きで友だちに会う、というような。高校卒業するあたりからそう思っていた。ただし周りの

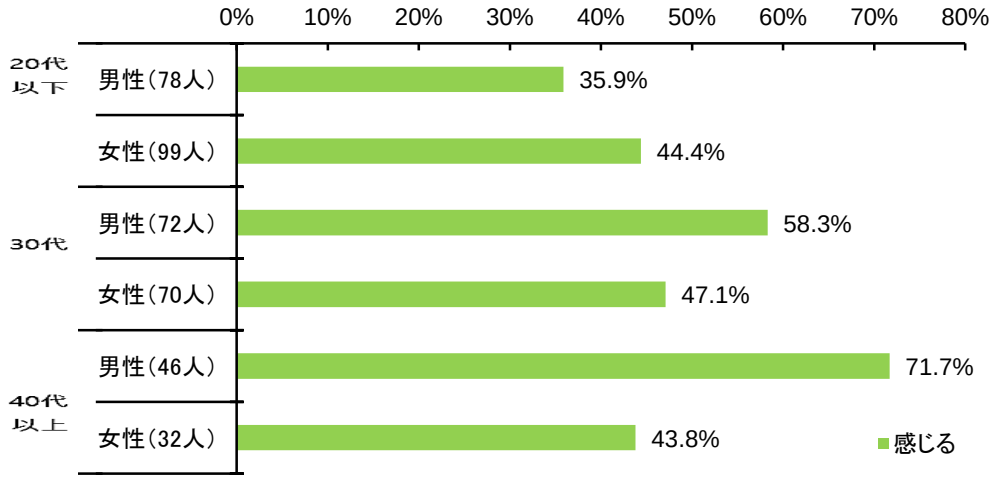
友だちでそういう人はいない。子どもを保育園に預けて働いている。自分は、結婚、出産、パートで働くということを一挙にはできないので、慣れたら働きに出てもいいかとは思っている。

(1-3) シングルであることについて

「自分の結婚について親からのプレッシャーを感じますか」という質問に対し、「１．強く感じる」「２．まあ感じる」「３．あまり感じない」「４．ほとんど感じない」の選択肢の中から１つ選ぶようにした。ここでは「１．強く感じる」と「２．まあ感じる」の割合を足して「感じる」と回答した割合をみていくことにする。

結婚に対する親からのプレッシャーについて男女別年齢別のクロス集計結果を示したのが**図 2-7** である。全体では、男性の 52.6%が、女性の 44.4%が親からのプレッシャーを「感じる」としている。男性では、年齢が高くなるにつれて「感じる」割合が高く、40 代では 71.7%に上っている。女性では、プレッシャーを感じる高さのピークは 30 代であり（47.1%）、40 代ではやや低くなる（43.8%）。インタビュー調査の事例を男女別、年代別に挙げておきたい。それぞれにリアルな個別事情を、読み取ることができる。

図 2-7　男女別年齢別親からのプレッシャー



男性1は、親から「自由に」結婚してもよいと言われても、自身が「跡継ぎとしての立場」を考えて将来の結婚相手の条件を決めている。**男性9**は、親と同居する家を新築してローンがあるため、嫁にきてくれ、親の面倒を見てくれる女性との結婚を望んでいる。**女性7** の場合、自分が結婚していないことへのプレッシャーについては、小さい頃から親戚中が集まるたびに、「長女なので、法事のたびに、あなたは婿取りね、みたいな感じで言われるの

ですが」、30 過ぎたら言われなくなったという。親はまったくプレッシャーをかけないが、「ともかく結婚してほしい」という気持ちがあることは感じるという。**女性2**の場合も、やはり親よりも地域で「未婚でいると、常に結婚をしてほしいという周囲の目を感じ、ストレートに、まず結婚しなさい、と言われる」という。彼女の場合は、3 人姉妹の長女でやはり周囲から「婿取り」と言われるが、本人は結婚・家族のことについて、柔軟に対応していきたいと考えている。「親の老後は、面倒みるものだと思っている。そのスタイル（親の面倒のみかた）は、これからの変化で変わる。嫁に行っても、別姓になって相手の家に入ったとしても、いろんなかかわり方はできると思っているの」という。東京でばりばり働いた経験をもち、自分のこれまでのキャリアに自信をもっていて、自分の生き方へのビジョンをはっきり口にだす**女性2**のようなタイプもいるが、大卒後のキャリア形成がうまくいかず、不安定雇用で低収入で暮らしてきた**女性5** は、同居の父親の言動に閉口しつつ反論できない。「父親から、もっと早く嫁に行っているはずだったとかはあります。」「結婚相手を探せ」と言われたので休日に頻繁に出かけると「何で毎週のように家にいないのかとか、帰りが遅いとか」文句を言われる。「何かやる気が失せるばかりで」とこぼす。

＜男性1・高卒・団体正規職員・20 歳代後半＞

高卒後、民間企業に勤務した後、家が近いからという理由で地元の漁協の正規職員に。祖父母と両親ときょうだいと暮らす三世代家族の長男。

（自分の結婚について）親は俺が婿に行ってもいいという。自由だって。でも、それはよく考えてみろと言っている意味合いがある。家を継ぐ意識はある。苗字、墓を継ぐ意思はある。結婚しても、ここは出ていくつもりはない。相手に来てもらう。

＜女性7 大卒・事務パート・40代前半＞

最初は言っていたのですよ。長女なので。婿取りとか、親戚中から集まるたびに、法事とかあるたびに、あなたは婿取りねみたいな感じで言われ続けてきたのですけれども。あるときから、ぱったりと、そういうことは言っていると何もなくなるみたいな雰囲気になって、今はもう。やはり 30 歳からですかね。そういえば言われなくなったと思って。

＜女性 2・大卒・町役場嘱託・20 歳代後半＞

東京の大学へ進学。都内の企業で正社員として働いていた。インターネットを使用する仕事であれば自宅勤務でも収入が得られるのではと考えていた。震災が引き金となり、これまでのキャリアを活かし地元に関わって収入を得る道を探した。長女で妹が 2 人いる。

親の老後は、（自分が）面倒みるものだと思っている。そのスタイルはこれからの変化

で変わる。嫁に行っても、別姓になって相手の家に入ったとしても、いろんなかかわり方はできると思っているの。

結婚について、女 3 人を持つ親として冗談交じりで、言われる。婿さんをとか、名前を継いでとはいわれない。でも、何かあったときいつでも家に戻れる体制に理解のある男性でないと自分としては難しい。

未婚でいると、常に結婚をしてほしいという周囲の目を感じ、ストレートに、まず結婚しなさい、と言われる。

＜女性5 大卒･団体臨時職員･30代前半＞

親から言葉に出して結婚をせかされることはありますね。父親から、もっと早く嫁に行っているはずだったとかはありますし、あと、何でそんな結婚相手をつくるように出かけたりしないんだというのは常に言われているので。ただ、自分でも頑張ってみようとやっていた時期はあったのですけれども、出かけていたときは出かけていたときで、何で毎週のように家にいないのかとか、帰りが遅いとかいうのはずっと言われてしまっていて、何かちょっと面倒くさいなというのもあったりして（笑)。何かやる気が失せるばかりで。言い返すと、また言われて。結構、父親は機嫌を損ねると面倒だから黙っていてとお母さんに目配せされるので。母親も結婚してほしいんだと、そういうときもあるのですけれども、言い方がまだやさしいほうなので。

結婚を急かすのは、一番上のお姉さんがターゲットに、先に矢面にたちそうだがどうなのか？

一番上の姉がそれこそ自分で暮らしていけるだけの給料をもらっているし、資格職なのでまずこれから先、食いっぱぐれることはないだろうということで、姉自身もあまり興味がないとしゃべっていたので、姉は言われないですね。ちょっと収入面で不安な娘が一人いるから、早く片付いてほしいと言われて（笑)。

「結婚していないことについて、あなたはどのように感じていますか」という質問をし、**図 2-8** にあるとおり、7 項目について、「そう思う」と「ややそう思う」と回答した割合と、「あまり思わない」と「思わない」の割合をそれぞれ足して、回答者の意識を探ることにした。図には、「そう思う」と「ややそう思う」を足した割合を男女別年齢別に示している。

このクロス集計結果をみると、結婚していないことは「特に問題ではない」とする割合は、男性全体の 62.8%、女性全体の 67.3%で、女性の方が問題ではないと考えている割合がやや高い。男性では、年齢による差が大きく、20 代では 79.5%が「そう思う」とし、40 代では 43.5%が「そう思う」を選んでおり、結婚していないことが自分にとっての問題であると考えている割合が高くなる。女性においても、同様に、年齢が上がるにつれて、「問題ではない」と考える割合が低くなる傾向がみられるが、40 代においても 62.5%が「そう

思う」と回答し、結婚していないことを自分にとっての問題であると考えていない女性が6割以上であることがわかる。

また、「急ぐ必要はない」についても、前の項目と同様に、全体として女性の方が「そう思う」割合が高くなっている（男性62.3%、女性74.6%）。男性では、年齢との関連が顕著であり、20代では「急ぐ必要がない」と考える回答者が80.8%にのぼるが、30代では55.6%、40代では41.3%と減少する。40代の男性では、6割近くが結婚を「急ぐ必要がある」と考えているのであろう。女性の場合は、40代においても「急ぐ必要はない」とする回答者が65.6%にのぼる。前掲の**図2-1**でも示されたとおり、女性の場合は、30代、40代においても「理想的な相手がみつかるまで結婚しなくてもかまわない」という割合が高く、たとえ理想的な相手ではなくとも急いで結婚するという考えがない回答者が多いのであろう。

「シングルのほうが自由でいい」についても、全体として女性の方が肯定的である。「そう思う」割合が、男性では64.3%、女性では74.1%である。この項目も、前2項目と同様に、男性では年齢が上がるほど「そう思う」の率が低くなるが、前2項目ほど、顕著に低下はせず、40代男性においても「シングルのほうが自由でいい」という割合が56.5%である。女性では、男性とは逆に、年齢があがるほど「シングルのほうが自由でいい」という率がむしろ高くなり30代で80.0%、40代で81.3%である。女性では、年齢が高い回答者の方が、結婚していないことについて後ろ向きの評価をしない傾向がみられる。

「親に対して悪いなと感じることがある」については、これまでの項目とは逆に、女性の方に「そう思う」割合が高くなる。全体で男性の61.5%、女性の66.9%に上る。男性では、年齢が高くなるにつれて、「そう思う」割合が高くなり、20代では43.6%と半数を下回るが、30代では70.8%、40代では78.3%に上る。女性は、20代においても「親に対して悪い」が59.6%に上り、30代では74.3%、40代では71.9%になる。この結果は、女性の方が男性よりも、親からの自分の結婚に対する期待を強く感じる傾向があるために、親に対して「悪いな」と感じる割合が高くなっているのだと考えられる。

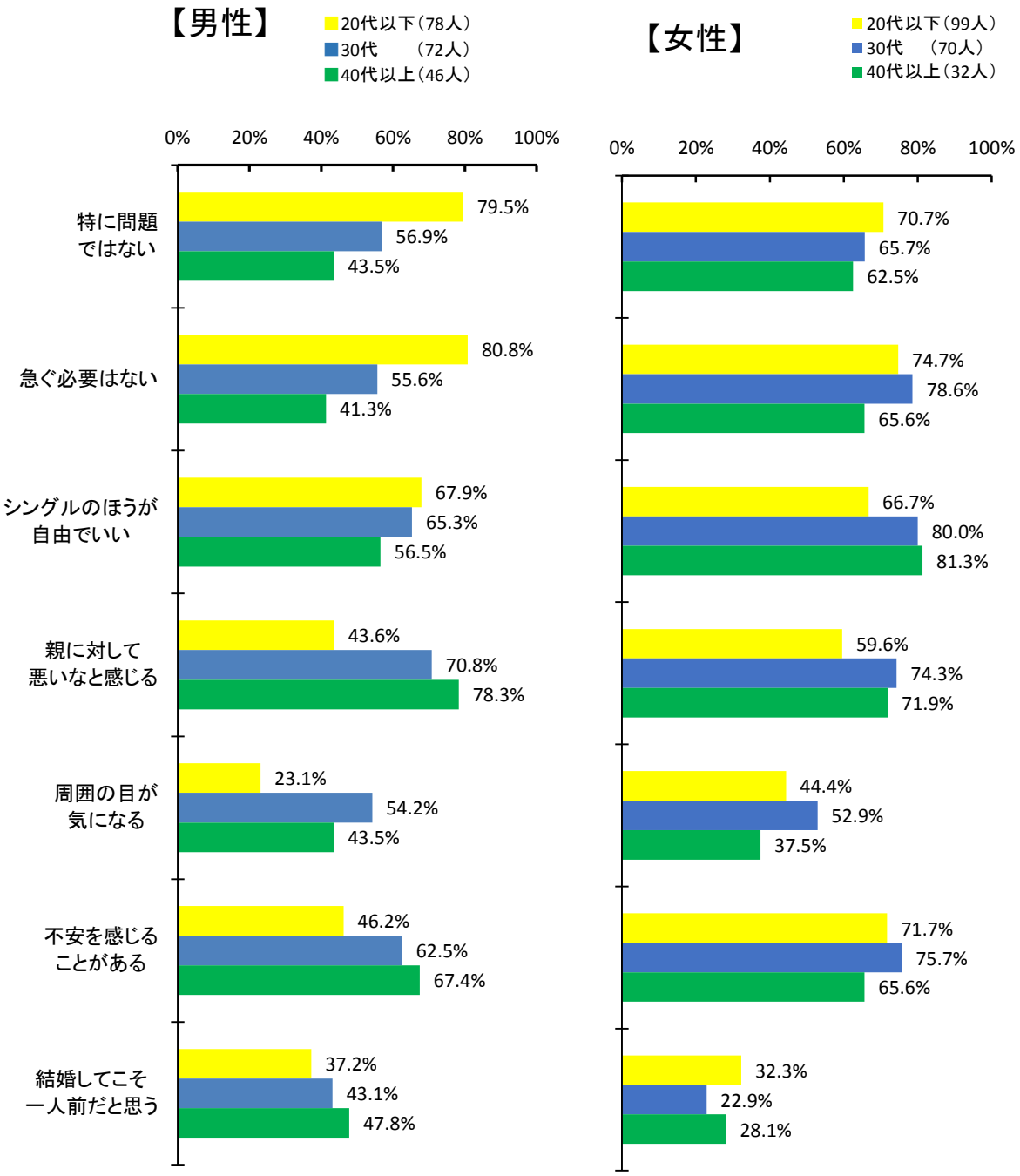
しかし、前掲の**図2-7**で示したとおり、親からの結婚へのプレッシャーを感じる割合は男性の方が高くなっている。一見すると矛盾する結果であるが、娘がプレッシャーをかけられていると受け取るような言動をしないように配慮する親の気持ちを察するがゆえに、内心「悪いな」と感じる割合が、女性の回答者には高いことが推測される。

「周囲の目が気になる」は、他の項目に比べて「そう思う」割合が男女ともに低い。全体では男性の39.2%、女性の46.9%が「気になる」と感じている。男性では、30代が最も気になる割合が高く54.2%である。女性も男性と同様に30代が最も高く52.9%である。かつての日本社会では、独身のまま年を重ねることを「世間体が悪い」と気にする傾向が強かったが、周囲の目を気にして結婚を急ぐ傾向は弱まっているといえるだろう。

結婚していないことについて「不安に感じることがある」については、女性の方が「そう思う」割合が高くなっている。男性では全体の57.1%、女性では全体の71.7%が該当す

る。男性では、年齢が高くなるにつれて、「不安を感じることがある」割合が高くなり、40代の男性では 67.4%に上る。女性は、全体として高い傾向があるが、20 代で 71.7%、30代が 75.7%である。40 代では、やや低くなり 65.6%である。この不安は、「一生結婚できないかもしれないという不安」や「結婚しないことによる将来の生活への不安」など、不安の内容は回答者によって様々であると推測される。

図 2-8　男女別年齢別結婚していないことについて
（「そう思う」と「ややそう思う」を足した割合）



最後は、「結婚してこそ一人前だと思う」に「そう思う」割合であるが、女性では全項目中、最も「そう思う」率が低く（27.8%）、男性では「周囲の目が気になる」に次いで2番目に「そう思う」率が低い（41.9%）。これはすなわち、「結婚してこそ一人前だと思う」と「思わない」回答者の方が明らかに多数派だということである。男性では、年齢が高くなるにつれて「そう思う」割合が高くなり、40 代の男性では約半数（47.8%）が「結婚してこそ一人前だと思う」と考えている。女性では、年齢と回答傾向に関連はなく、20 代で「そう思う」割合が最も高く 32.3%となっている。「結婚してこそ一人前」という従来は強かった規範に、女性の方が賛同しない傾向が強くなっていることが明らかである。

「結婚してこそ一人前だと思う」という規範をめぐって、就業上の立場および収入階層でもクロス集計を行った（**図 2-9-(1)(2)**）。「そう思う」が正規職員では 10.0%、非正規職では 7.8%、「思わない」が正規職員では 31.1%、非正規職では 39.0%、となっている。大きな差とは言えないが、就業上の立場が、結婚観に影響を与えている一例といえよう。

図 2-9-(1) 結婚してこそ一人前だと思う

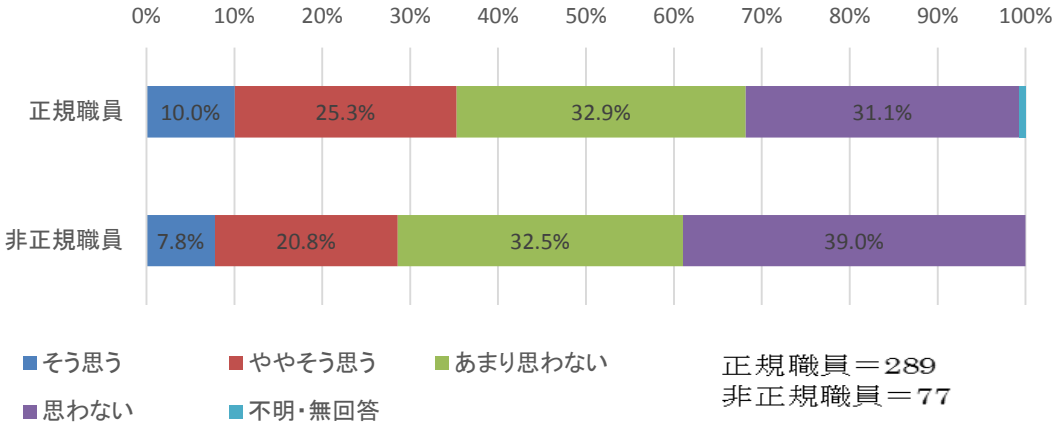
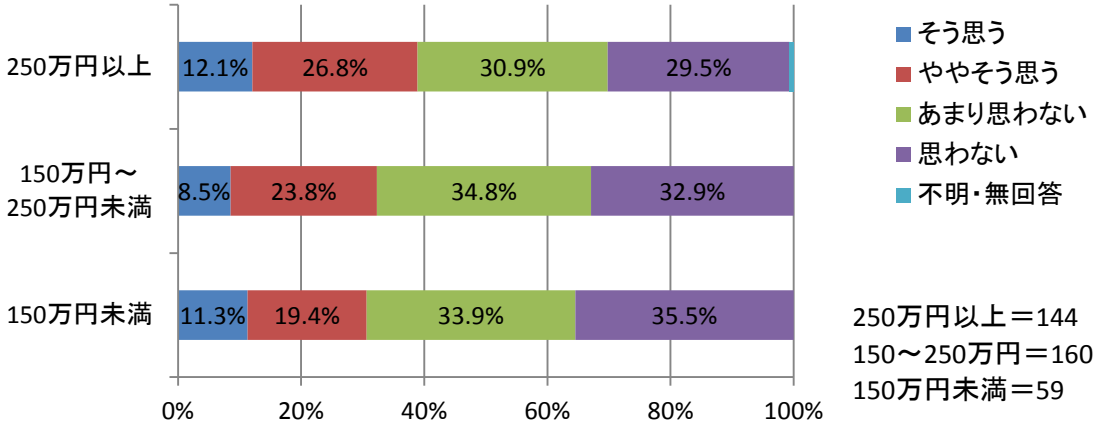


図 2-9-(2) 結婚してこそ一人前だと思う



ここで非正規（40 歳代前半）の**男性 8** のケースを挙げておこう。彼は、結婚していないことが寂しく、心細いと感じている。民間企業の正社員だった時代にいた恋人のように「大丈夫だよ」と言ってくれる人がみつからないという。早く結婚したいのだが、自分の実家の事情があり、誰とでも結婚できるわけではない。「向こうの親との同居は問題ないが、婿入りとなると抵抗がある。兄も結婚していないので、墓守がいないし。先方の経済状態が気になるのは、生活援助がこちらとしてできないから」という。「やはり、仲間。もっといろいろ話ができる人がほしいですね。1 人が寂しいからいろんな方面に顔を出しているのだけども。」不安と孤独感から逃れ、心の支えとなる人を探している。

〈男性 8・高卒・非正規・40 歳代前半〉

相手に求めるのは精神的支え。向こうの親との同居は問題ないが、婿入りとなると抵抗がある。兄も結婚していないので、墓守がいないし。先方の経済状態が気になるのは、生活援助がこちらとしてできないから。結婚していないことで肩身が狭いという意識はないが、早く結婚はしたい。一人が自由だとは思わない。自分の場合は、心の支えが欲しい。結婚していないことで、親に悪いなと思うし、近所の人の目が気になる。

10 年位前、(民間企業正社員時代に) 付き合っていた人がいた。気持ちがひきずるというか、あの頃はよかったな、と。

やはり、仲間、もっといろいろ話ができる人がほしいですね。1 人が寂しいからいろんな方面に顔を出しているのだけども、なかなか昔付き合っていた人みたいに大丈夫だよ、と言ってくれる人が見つからないですね。

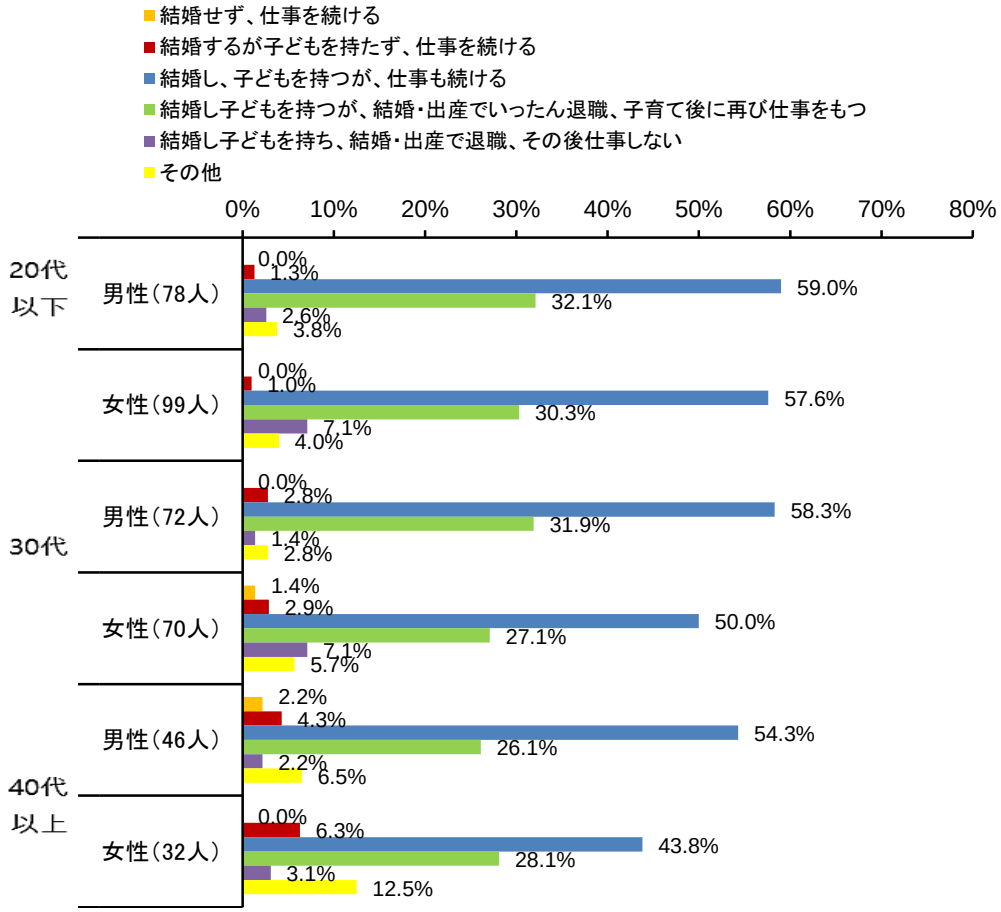
（2）望ましい結婚後の女性の生き方

結婚の選択が自身の生き方へさまざまな面で影響を与えることは、男女のどちらにおいても起こりうる。しかし、結婚・出産というライフイベントを経験するに際し、女性に対

しては「家事役割・育児役割を遂行する責任が大きく、それを仕事役割より優先すべき」という考え方が、従来の社会に広く行きわたってきた。以前は、結婚を機に「家庭に入る」ことが女性に期待される風潮もあったが、今日では、いわゆる「寿退社」は減少した。ただ、妊娠・出産を機に女性が自ら進んで働き方を変更したり、家庭や職場の事情で働き方を変更せざるを得ない、という状況がひき続いている。したがって、相変わらず、男性よりも女性の生き方にとって、結婚の選択は重要な意味をもっているのである。

そこで、「あなたが望ましいと思う女性の生き方はどのタイプですか。男性の方は、自分のパートナー（あるいは妻）となる女性に望む生き方を選んでください」と回答者全員に対して尋ねた。選択肢は、「１．結婚せず、仕事を続ける」「２．結婚をするが子どもを持たず、仕事を続ける」「３．結婚し、子どもを持つが、仕事も続ける」「４．結婚し子どもを持つが、結婚あるいは出産の機会にいったん退職し、子育て後に再び仕事をもつ」「５．結婚し子どもを持ち、結婚あるいは出産を機会に退職し、その後は仕事を持たない」「６．その他」から、どれか １ つを選んでもらった。男女別年齢別に回答結果を示したのが、**図 2-10** である。

図 2-10　男女別年齢別望ましい女性の生き方



男女ともに、最も支持された女性の生き方は、「結婚し子どもを持つが、仕事を続ける」であり、男性では 57.7%が、女性では 52.7%が選択した。2 番目に選択率が高いのは、「結婚し子どもを持つが、結婚・出産でいったん退職、子育て後に再び仕事を持つ」であり、男性の 30.6%、女性の 29.3%である。「結婚して子どもを持ち、結婚・出産で退職、その後仕事を持たない」を選択したのは、男性 2.0%、女性 6.3%に過ぎない。

この回答傾向は、国立社会保障・人口問題研究所が実施してきた「出生動向基本調査」の結果の動向と一致する。すなわち、女性の生き方として女性自身が「専業主婦コース」を望んだり男性が相手に期待する割合は急速に低下し、「再就職コース」や「両立コース」を望む割合が高くなっているということである。「出生動向基本調査」の一般に公表されているデータは 2010 年実施であり、分析対象が全国からサンプリングした 18 歳～34 歳の男女であって、本調査の回答者よりも若年層であるため、単純な比較はできない。しかし、本調査の回答者の特徴として、妻が一貫して就業継続する「両立コース」を希望する割合が圧倒的に高いことがある。

なお、出生動向基本調査（2010 年）では、「再就職コース」が一番支持されている。結婚後の暮らしを考えたとき、「妻も働き続けてほしい」と考える男性や、「子どもを産んだ後も、仕事を続けたい」と望む女性が多いことが明らかである。

こうした望ましいと思う女性の生き方のタイプについて、就業上の地位別および収入別でみるとどんな結果になるだろうか。**図 2-11-(1)(2)**によれば、「結婚し、子どもを持つが、仕事も続ける」が正規職員では 60.2%と過半数を占めているが、非正規職員では 36.4%にすぎなかかった。一方、「結婚し、子どもを持つが、結婚・出産でいったん退職、子育て後に再び仕事を持つ」が正規職員では 27.0%と 3 割に届いていないが、非正規職員では 41.6%と 4 割を超えていた。正規職員の方が結婚・出産後も仕事を続けることを期待する傾向が強く表れていることを示す結果となった。

図 2-11-(1) 望ましいと思う女性の生き方のタイプ

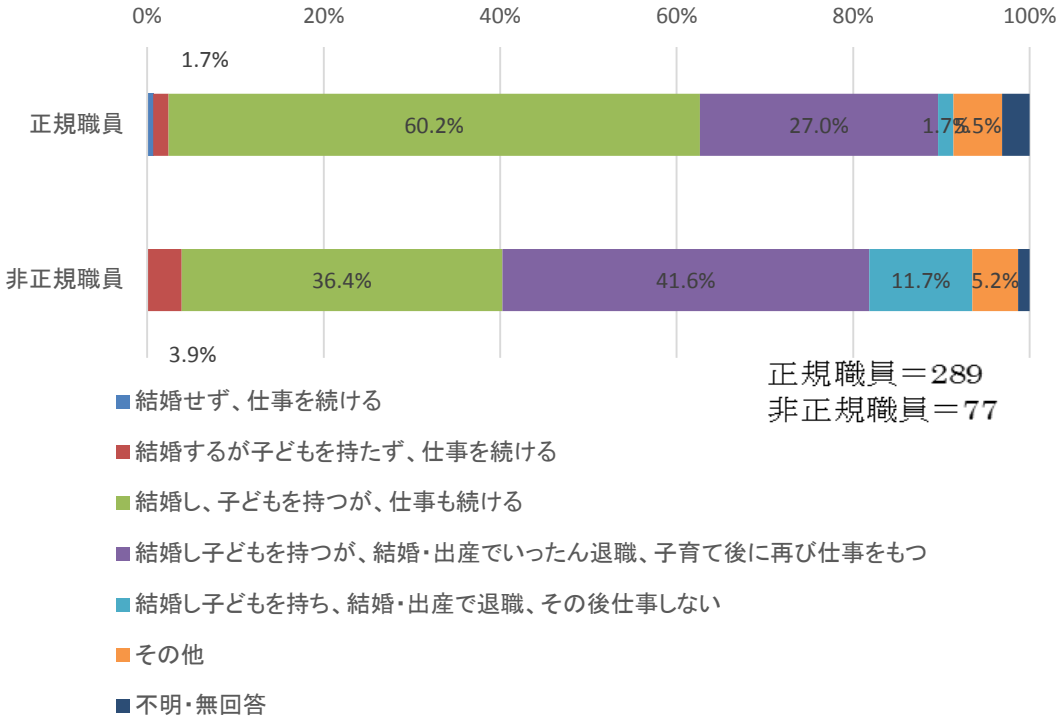
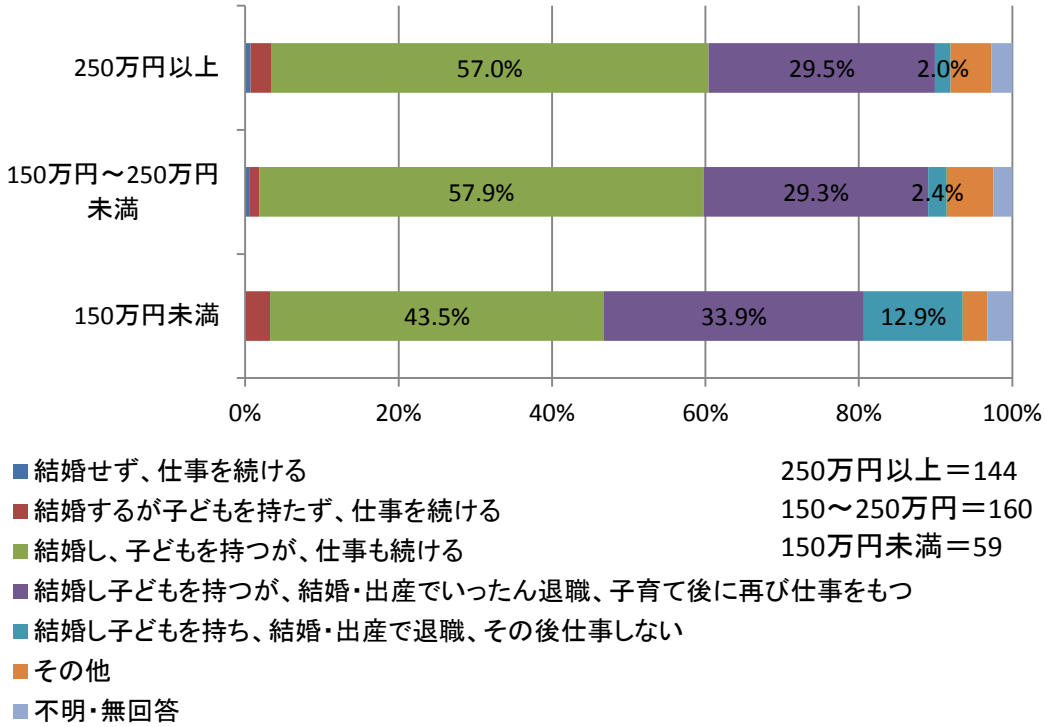


図 2-11-(2) 望ましいと思う女性の生き方のタイプ



女性の望ましい生き方について、**男性3**（高卒・町役場嘱託職員・20 歳代後半）は、「結婚後の仕事と育児家事は自分が決めることではないので、何とも言えない。相手のしたいことを尊重したい。理想はお互いに助け合っていくこと。子育てだって女性だけがやるというのはおかしい」と述べている。彼は、将来、「長男であるため」親と一緒に親の出身地に墓守のため帰ることになるかも知れず、「本当はもっともっと稼げる仕事に就きたいのですけれども、なかなか放してくれない」という従来型の「跡取り規範」を守らなければならない一方で、今日的な男女対等の結婚観をもっていて、複雑な気持ちで揺れ動いている。

男性6のように、祖父の代から経営する会社や複数の家をもち、「家を守ってくれる女性」と結婚したいと考えているが、付き合っている女性がいない年月が長いにも関わらず「（結婚相手を探すことに）それほどハングリーでもない」という男性もいる。**男性9**の場合は、「（結婚相手には）親の面倒をみてもらわなければならないと思っているけれども、それが当たり前だと思ってたので（笑）。まあ、もちろんその相手の、つまり奥さんに全部負担を押し付けるのではなく、2 人で面倒をみていければと、それが普通と思っていた」という。しかし、女性の就業について、「本音で言えば高収入を稼ぐ女性を望んでいる。でもそれで態度がでかいというか思いやりがない女性は困る。」という。ただし「自分より稼ぎが多いと自分が惨めな感じになる。仕事は続けてもらいたい」と、理想と現実のはざまで複雑な心境を明かしている。**男性7**は、自分自身仕事に夢中になって過ごしてきたが、「仕事をすること」が男女ともに大切だと考えている。「相手には外に出て働いてほしい。コミュニケーションする場をつくってほしい。仕事をすれば生活にメリハリができる。相手は安定した人がいい。自分が金融機関勤務なので、相手の家族を含んで安定した人がいい」とし、相手とうまくやっていく生活条件を整えるためにも、よい仕事をしている女性との結婚を望んでいる。

〈男性３・高卒・町役場嘱託職員・20 歳代後半〉

関東地方で仕事をしていたが、震災をきっかけに、岩手県内に戻り、役場の嘱託職員となる。妹が親と同居し、長男である自分はひとり暮らし。

地震ですよね。親と２～３週間ぐらい連絡が取れなかった。そういうのもあり帰らなければならないなというか、やはり近くにいたほうが安心だよなというのが正直なところ。もし、妹が結婚して（親の家を）離れれば、私がたぶん行かなければならないかなと思う。私ら、分家なので、婿に行ってもいいと言われるし、家を継ぐというのも、親は特に何も言わないです。ただ、（自分は）名前は継がなければと。家という建物を継ぐ意識はない。今、借家だし。

親が出身地に戻る可能性もある。私は、長男なので、親と一緒に帰ったほうがいいのかなと思うときはある。経済的にも、本当はもっともっと稼げる仕事に就きたいのです

けれどもね。なかなか放してくれない。親の出身地に縛られる理由は、墓守だと思います。

（関東地方にいたとき）20 代前半のとき、恋愛した人がいた。しかし結婚したいなという気持ちにならなかった。相手は一緒にこちらについてくると言ってくれたけど、結婚できる保証がない。少ない給料、仕事も、安定した部分がない。だから申し訳ないけれどもという話をして、自然と別れた。今思えば、連れてきたほうがよかったのかなと思うときもある。その人を超える人がいないというのもあるのだと思う。

結婚後の仕事と育児家事は自分が決めることではないので、何とも言えない。相手のしたいことを尊重したい。理想はお互いに助け合っていくこと。子育てだって女性だけがやるというのはおかしい。みんなでやる時代に入ってきているから、それを一番にやらなければいけない。そんな地域であってほしい。

＜男性6・専門学校卒・会社役員・30 歳代後半＞

高卒後、東京の専門学校で学び、県内に戻って親の経営する会社に入る前の下積みとして民間企業に勤務。その後、父の経営する会社に就職。弟がいて自分は跡取り。アンケートでは、「理想的な相手が見つかるまで結婚しなくてもよい」と回答している。

自分が結婚する場合は、近辺に元の家（祖父の家）があるので、両親がそちらに移動する見込み。父の会社は祖父の代から経営している。家庭のことは母親が担当している。

彼女いない歴が長い。彼女がいればいいけれどもそれほどハングリーでもない。結婚してこそ一人前という感じはない。仮に結婚したら相手には家を守ってほしい。

＜男性9・専門学校卒・団体職員・40 歳代前半＞

両親と 3 人暮らし。妹は、結婚して別の市で暮らしている。

（結婚相手には）親の面倒をみてもらわなければならないと思っているけれども、それが当たり前だと思ってたので（笑）。まあ、もちろんその相手の、つまり奥さんに全部負担を押し付けるのではなく、2 人で面倒をみていければと、それが普通と思っていた。

いろんな人に頼んで、5～6 人紹介された。だが、すべて「お婿さんに来てほしい」というパターンで、結婚前提のお付き合いまで行かなかった。中には一人娘もいた。姉妹ばかりの人もいた。兄がいても結婚して出てしまい、家を守らなければならないというケースも。お見合いをして 1 回食事に行った人が 3 人いたが、「実は婿がほしい」と言われて。自分も、（親と暮らす家の）ローンが残っているので、家を守らないといけないという意識が強い。自分に声がかかるのは、農家ではない、ということか。

高収入の妻は態度で大きいのを見てきているが、本音で言えば高収入を稼ぐ女性を望んでいる。でもそれで態度がでかいというか思いやりがない女性は困る。双方の親と同

居せずにアパートを借りるとなると、それだけの負担が大変になる。相手の稼ぎがあれば別。ただし自分より稼ぎが多いと自分が惨めな感じになる。仕事は続けてもらいたい。子どもがほしいので、年齢制限は 40 歳以下。

＜男性7・大卒・民間正規・30 歳代後半＞

（これまで）ともかく仕事が面白かった。結婚は漫然と 30 歳までかなぁ、40 歳までにはなぁと考える程度。（過去に）付き合っていた人はいた。

相手には外に出て働いてほしい。コミュニケーションする場をつくってほしい。仕事をすれば生活にメリハリができる。相手は安定した人がいい。本人が金融機関勤務なので、相手の家族を含んで安定した人がいい。

（3）経済・仕事・恋愛・結婚に関する悩みの相談相手

未婚化・晩婚化の進行とともに、いつかは結婚したいと考えているが「どうしたら相手がみつけられるのかわからない」、また結婚相手となりそうな人がいても「どうアプローチしたら良いのかわからない」など、恋愛や結婚に関する悩みがありながら、「誰にどのように相談すればよいのか」あるいは「人に相談することなのか」さえわからない、という状況にあるシングルが全国的に増えていると考えらえる。

そして、そもそも未婚化・晩婚化の背景には、経済的に生活が安定しないがゆえに結婚できない若年層の増加があると推測されている。経済的に不安定な生活を送りながら、誰にも将来について相談することができないことから、社会的にも深い孤立に陥る独身者の増加が懸念される。

そこで、回答者の「経済的に困ったときや仕事上の悩みの相談相手」と「恋愛や結婚についての悩みの相談相手」に分けて、相談相手の有無と、相談相手の対象者との関係について尋ねた。

(3-1) 経済的に困った時や仕事上の悩みの相談相手

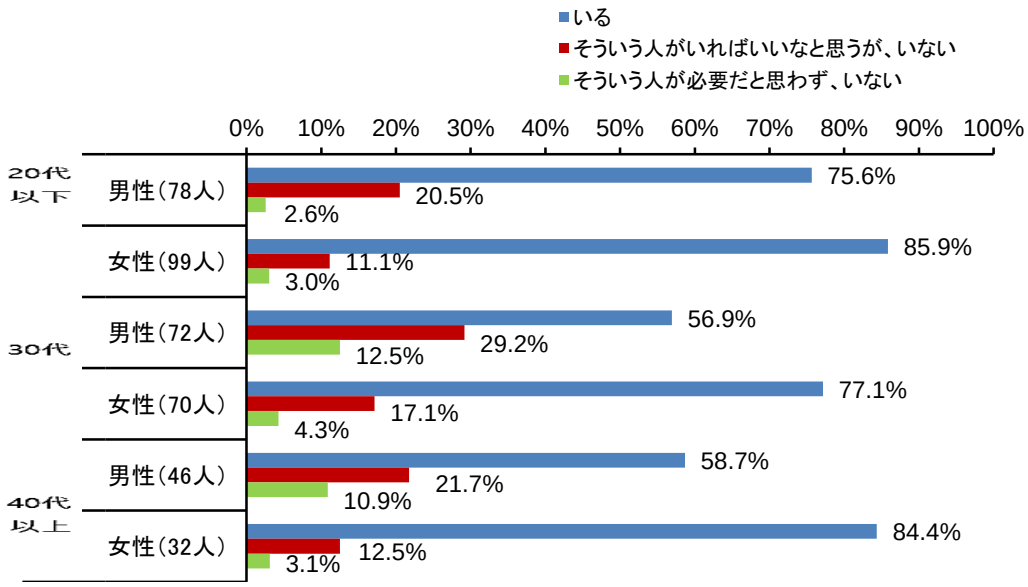
回答者全員に対して「経済的に困った時や仕事上の悩みの相談相手はいますか」と尋ねた結果が**図 2-12** である。男性全体の 64.8%、女性全体の 82.4%が、「いる」と回答している。

男性では、年齢が上がるにつれて「いる」の割合が低下し、40 代では 58.7%である。年齢が上がると回答者の収入も増え、仕事についての悩みも自分自身で解決できることも考えられる。「そういう人が必要だと思わず、いない」を選択している率は、20 代では 2.6%に過ぎないが、30 代では 12.5%、40 代では 10.9%であり、1 割強の人が相談相手を必要としていない。しかし、「そういう人がいればいいなと思うがいない」の回答率は、20 代で 20.5%、30 代で 29.2%、40 代では 21.7%であり、30 代では 3 割強の男性が、相談相手が

必要だと感じながらもいない状況にある。

女性の場合は、どの年代においても一貫して「いる」割合が約 8 割である。「そういう人がいればいいなと思うが、いない」という回答者は、20 代で 11.1%、30 代で 17.1%、40 代で 12.5%であり、男性に比べて低いものの、経済・仕事面の相談相手の必要性を感じながらもいないという回答者が決して少なくないことがわかる。

図 2-12　男女別年齢別経済的に困った時や仕事上の悩みの相談相手の有無



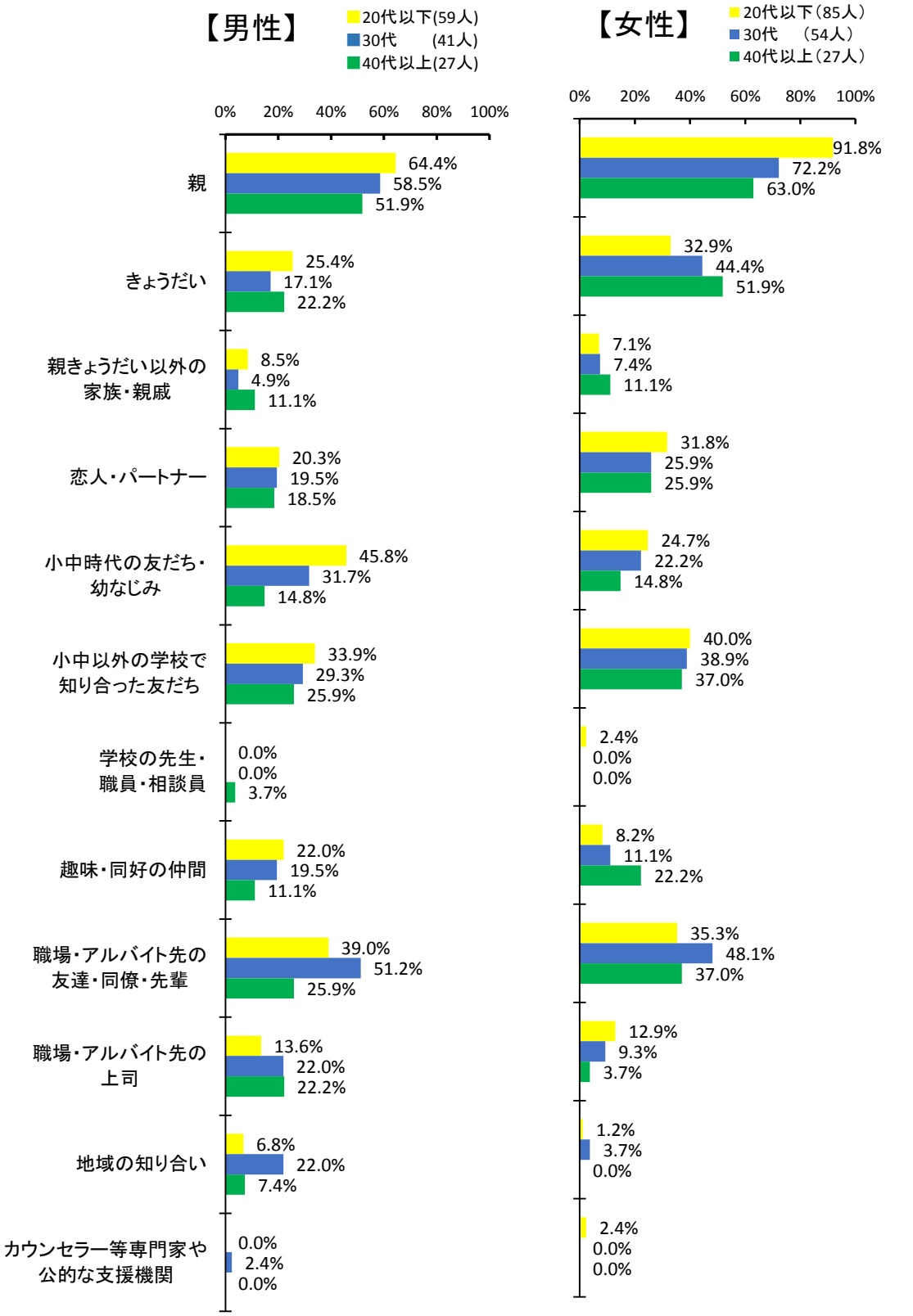
次に、相談相手が「いる」と回答した男性 127 名、女性 169 名に対し、相談相手と自分との関係を聞いた結果を男女別年齢別に示したのが**図 2-13** である。これは、自分からみて「相談相手」に該当する人にすべて○を付けて選んでもらった結果（複数回答結果）である。

男性全体では、1 位が「親」、2 位が「職場・アルバイト先の友だち・同僚・先輩」、3 位が「小中学校時代の友だち・幼なじみ」、4 位が「小中以外の学校で知り合った友だち」、5 位が「きょうだい」である。

女性全体では、1 位が「親」、2 位が「きょうだい」と「職場・アルバイト先の友だち・同僚・先輩」、4 位が「小中学校以外で知り合った友だち」、5 位が「恋人・パートナー」である。

このうち「最も重要な相談相手は誰か」と尋ね、二重丸をつけてもらった結果（単数回答結果）が**図 2-13** である。この結果を示すにあたり、○は付けたが、◎を付けておらず、この項目については、不明・無回答扱いになった回答者が男性の 39.4%、女性の 33.1%と多いことを断っておきたい。この結果の理由は、回答方法が煩雑過ぎた可能性もあるが、回答者が相談相手として 1 人だけを選べなかった可能性もある。

図2-13　男女別年齢別経済的に困った時や仕事上の悩みの相手（複数回答結果）



不明・無回答者を除き、誰が一番重要な相談相手であるかを見ると、男性全体では、1 位が「親」、2 位が「職場・アルバイト先の友だち・同僚・先輩」、3 位が「小中時代の友だち・幼なじみ」となる。女性では、1 位が「親」、2 位が「小中以外の学校で知り合った友だち」、3 位が「職場・アルバイト先の友だち・同僚・先輩」である。

男女ともに、親が経済的な面や仕事上の悩みの相談相手とされている率が最も高いという結果は同じである。しかし、複数回答結果も併せて考えてみると、女性の方が、親、きょうだいを頼りにしている率が高い。また、男性の場合は、悩みを身内よりも、職場の仲間や幼なじみに悩みを打ち明ける傾向があるとも考えられる。

(3-2) 恋愛や結婚についての悩みの相談相手

回答者全員に対して「恋愛や結婚についての悩みの相談相手はいますか」と尋ねた結果が**図 2-14** である。男性では全体の 56.6%が、女性では全体の 77.6%が「いる」と答えている。男女ともに、経済的な面や仕事上の悩みに比べて相談相手が「いる」割合が低く、特に男性では「いる」回答者が 6 割を下回っている。「そういう人がいればいいなと思うが、いない」は男性の 25.0%、女性の 12.7%であり、「必要だと思わず、いない」は男性の 13.8%、女性の 8.3%である。男性の 4 人に 1 人は、相談相手の必要性を感じているにもかかわらずいない状況にある。

次に、相談相手が「いる」と回答した男性 111 名、女性 159 名に対し、相談相手と自分の関係を聞いた結果を男女別年齢別に示したのが**図 2-15** である。これは、自分からみて「相談相手」に該当する人にすべて○を付けて選んでもらった結果（複数回答結果）である。

男性全体では、1 位が「小中時代の友だち・幼なじみ」「小中以外の学校で知り合った友だち」が同率であり、3 位が「職場・アルバイト先の友だち・同僚・先輩」、4 位が「趣味・同好の仲間」、5 位が「親」である。

女性全体では、1 位が「小中以外で知り合った友だち」、2 位が「小中時代の友だち・幼なじみ」、3 位が「職場・アルバイト先の友だち・同僚・先輩」、4 位が「きょうだい」、5 位が「親」となっている。

ほとんどの回答者に結婚願望があるにもかかわらず、男性の約 4 割、女性の約 2 割で、恋愛や結婚に対する悩みを相談できる相手がいないという状況は、何らかの方策を講じて改善していくべきであろう。

図 2-14　男女別年齢別恋愛や結婚についての悩みの相談相手の有無

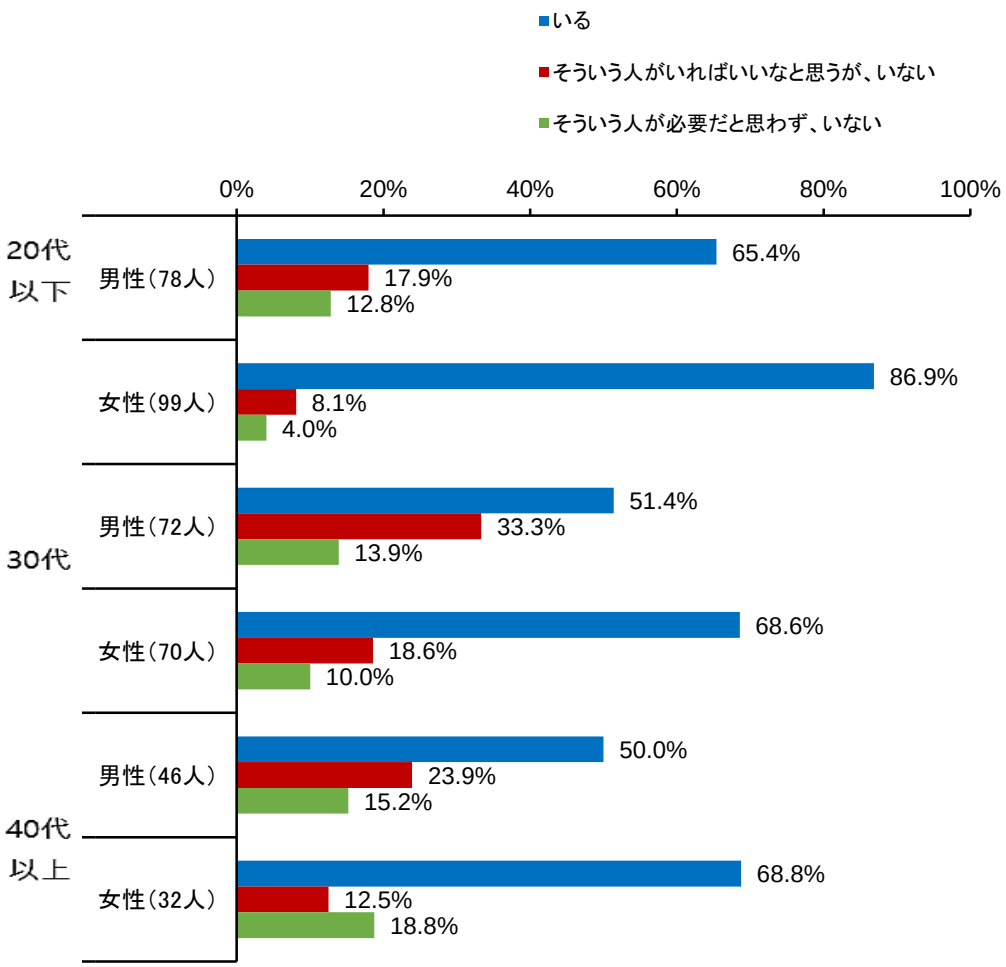
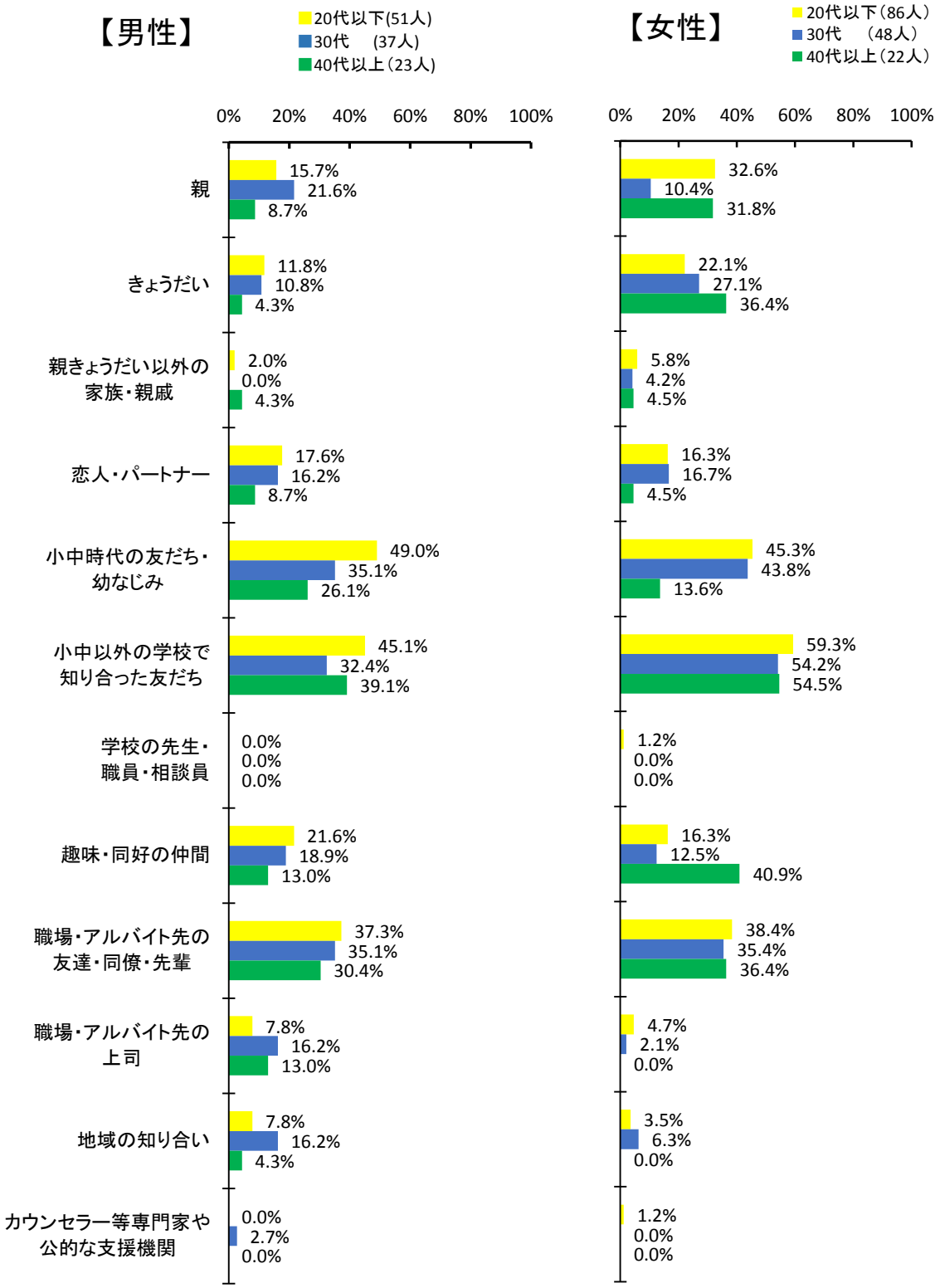


図 2-15　男女別年齢別恋愛や結婚についての悩みの相談相手（複数回答結果）



子どもが欲しいため、結婚決定はそろそろタイムリミットが来ていると感じる**女性6**は、焦りを感じながらも、何を頼るか、誰に相談するかで迷っている。「職場に、いわゆる昔のおせっかいおばさんみたいな方がいて、ちょっといい人がいるので会ってみないというのは結構いわれるので、今度、身上書と写真を持ってきなさいよというような方がいるので、お任せしてみようかなという気持ちもありつつ・・・」、まだ、渡していないという。これまで、不安定な雇用で転職を繰り返してきたので、「やはり仕事・職場上の仕事の友だちにしても、プライベートのコアのところとかはあまり話をしないので、ただ、自分の中でも結構、もやもやするところはある。同じ職場の人には、どこまで言ってしまっていいのかとためらいがある。」子どもの頃から同じ地域に暮らしているが、「高校時代の友だちとの交流はあまりないですね。地元というか、中学、それこそ、同級生とかももうみんな、ほとんど出てしまっているので」という。

（女性6　大学中退･団体非常勤･30代後半）

職場の方に結構、いわゆる昔のおせっかいおばさんみたいな方がいて、ちょっといい人がいるので会ってみないというのは結構いわれるので、あとやはり子どもがほしいので、年齢的にはちょっとそろそろタイムリミットかなという。今度、身上書と写真を持ってきなさいよというような方がいるので、お任せしてみようかなという気持ちもありつつ・・・。

（男性は）子どもがほしいので、20 代前半ぐらいまでの方という方が結構いるみたいなので。そうすると、じゃあ 30 後半だから駄目ですねとなってしまう。

やはり仕事・職場上の仕事の友だちにしても、職場の愚痴は課長さんに言いますけれども、プライベートのコアのところとかはあまり話をしないので、ただ、自分の中でも結構、もやもやするところはあるので、もしかしたら、そのおせっかいおばさんに話せばなんとかしてくれるのかもしれないですけれども（笑)。同じ職場の人には、どこまで言ってしまっていいのかとためらいがある。

高校時代の友だちとの交流はあまりないですね。地元というか、中学、それこそ、同級生とかももうみんな、ほとんど出てしまっているので。

以上、回答者の結婚をめぐる意識状況をとらえてきたが、概してシングルであることに対する焦りや、「結婚してこそ一人前」といった縛りには必ずしも囚われていないことが明らかである。「(シングルのままでいることは）親には悪いな」、あるいは「将来が不安」という意識はあっても、「世間体」を気にするという傾向は強くはない。また非正規雇用者については、「結婚してこそ一人前」という考えを支持する傾向がやや強く、自らの雇用状況と結婚との兼ね合いを考えている姿がうかがわれた。また 20 代女性において「跡取り」と

の結婚や家の決めごとが厳しい場合は回避したいという意識が強く出されている点に留意する必要がある。さらに、女性の望ましい生き方として、結婚・家族と仕事の両立を支持する率が男女ともに高いという点にも注目する必要がある。

総じて「結婚してこそ一人前」といった古い規範から回答者たちは距離をとっており、また特に若い世代の女性が、跡取りとの結婚といったかたちでの「嫁」役割、またそれにまつわる古めかしいしきたりから自由でありたいという意志を強く打ち出していることは、今後の課題を考える上で重要であると思われる。

3　婚活の経験と結婚支援の要望

ここでも、アンケート調査結果とともにインタビュー調査を織りまぜながら、婚活経験と結婚支援に対するニーズを捉えていこう。

（1）　婚活経験について

(1-1) 婚活経験の有無

全国で展開されている「結婚支援事業」は、「婚活」というキャッチフレーズが一般に定着したことから活動の広がりをみせている。岩手県内においても長年にわたり、出会い事業を自治体や各種団体が開催してきた実績がある。

そこで、いわゆる「婚活」にかかわるさまざま例を挙げ、回答者が過去 2 年間にそれらの活動を実施あるいは参加したことがあるかどうかを尋ねた。男性では全体の 43.4%が、女性では全体の 31.7%が「ある」を選び、女性よりも男性の方が婚活を行っている。

図 3-1 は、過去 2 年間に婚活経験が「ある」人の割合を男女別年齢別に示したグラフである。これをみると、30 代後半の男性が 57.1%と最も高い。次いで 30 代前半の男性、3 番目が 40 代前半の男性となる。女性では、20 代後半が 42.0%と最も高い。

図 3-1　男女別婚活経験

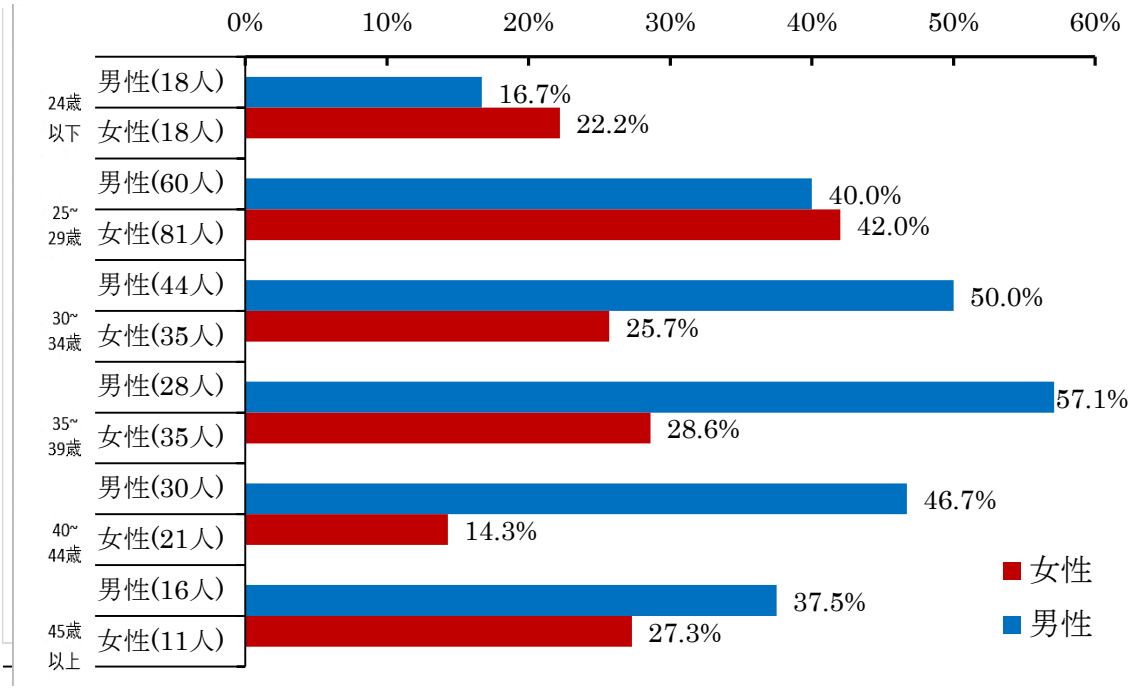
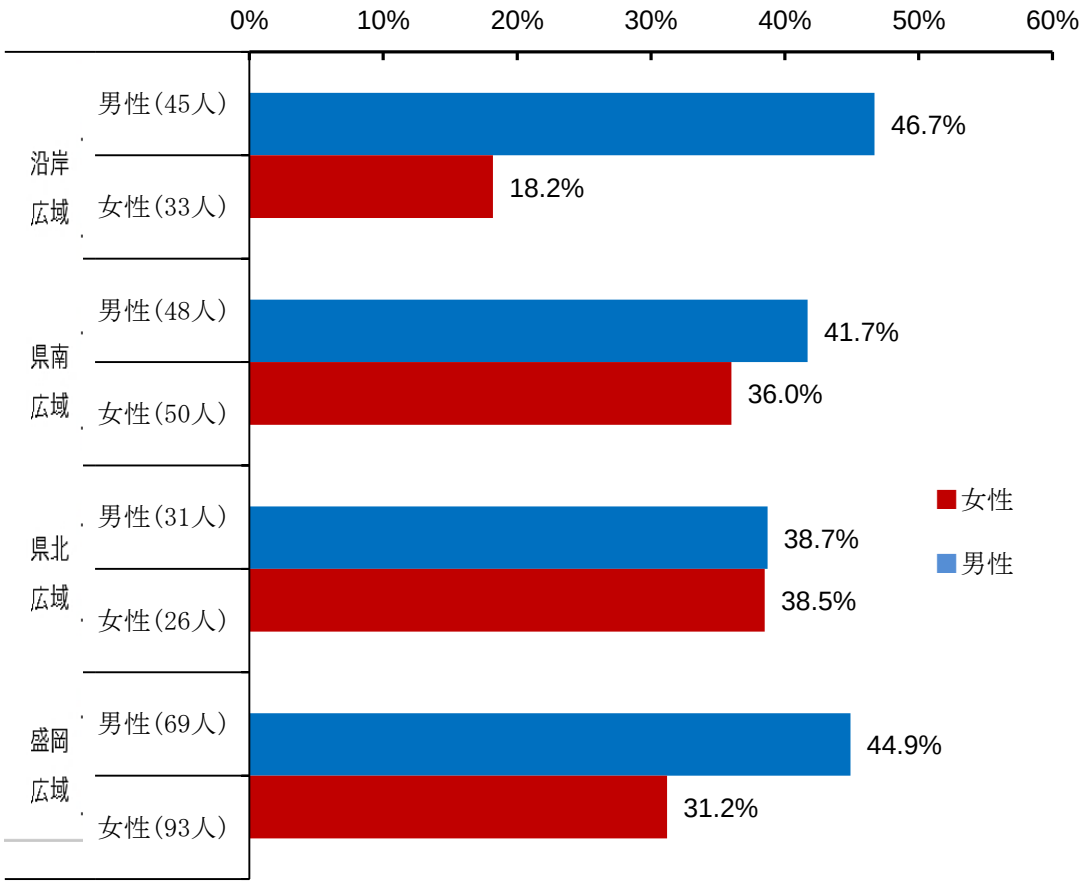


図 3-2 は、居住地域別に婚活経験が「ある」率を示したものである。男性では、「沿岸広域」が最も高率で 46.7%である。しかし、4 地域の全てで 4 割前後であり、大きな地域差は見られない。女性は、「県南広域」36.0%、「県北広域」38.5%、「盛岡広域」31.2%であり、3 地域で 3～4 割弱の経験率である。しかし、「沿岸広域」のみが 18.2%となり、他地域に比べて女性の婚活経験率が低い。それは、沿岸地域における雇用事情を知る女性は、ここに安定した経済力を持つ男性が多くないことを認識しているからではないだろうか。

また人口の少ない地域では婚活への参加人数が少なく、事業開催回数も少ないことも考えられる。そうした理由から女性が、特に顔見知りもしくは知り合いの参加が多いことが見込まれるイベントへの参加を拒否する傾向が各地でみられるが、ここでもそうした事情が働いていると考えられる。さらに公共交通手段も限られ、自家用車での参加となれば、飲食を伴なう出会い事業への参加に際しては「足」の問題を考えて躊躇せざるをえない。こうしたことが、この地域での女性の参加経験率を低くしていると考えることができるのではないだろうか。

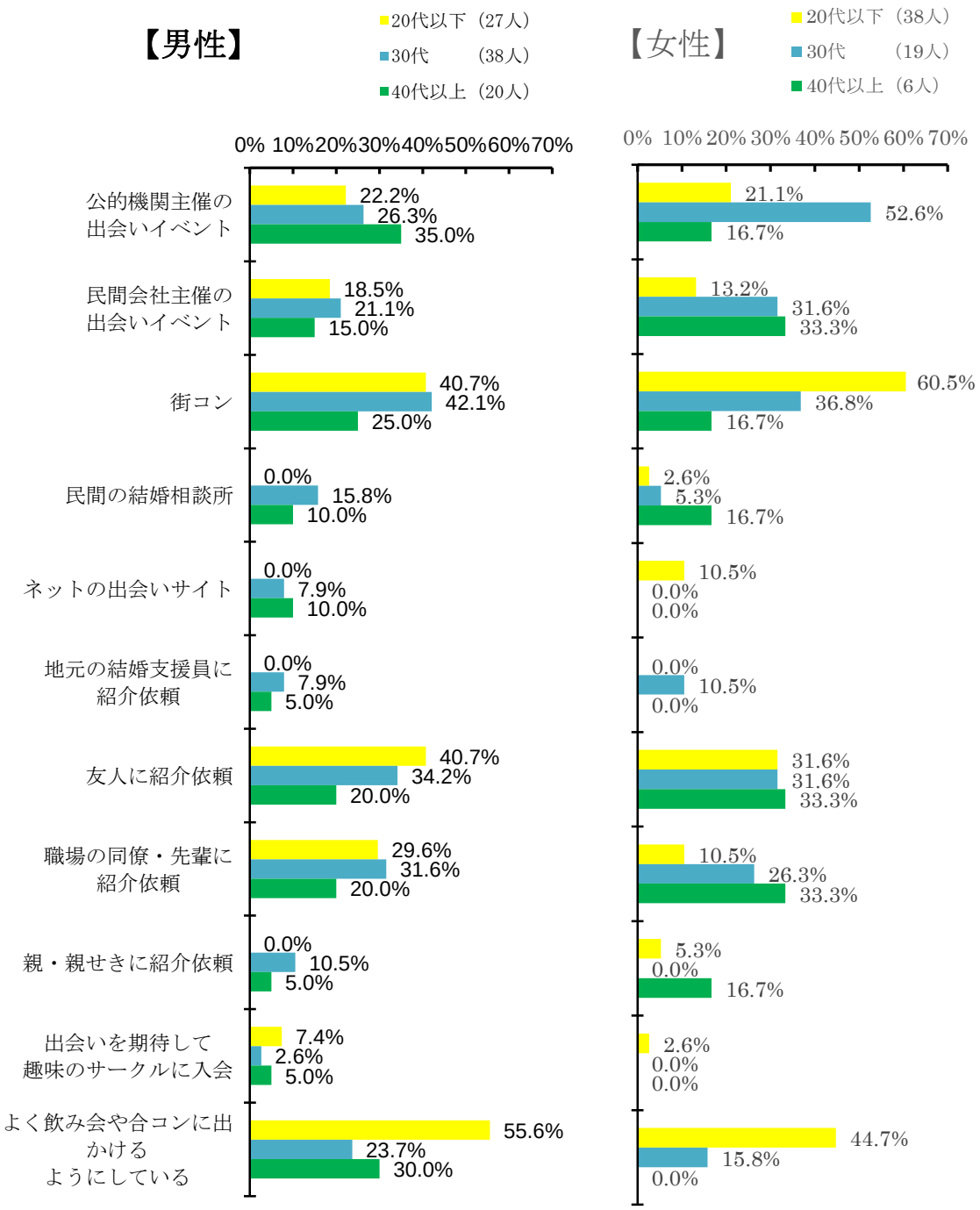
図 3-2 居住地別の婚活経験



(1-2) 経験したことのある婚活

過去 2 年間に婚活を経験した男性 85 名、女性 65 名に対し、経験したことのある婚活について例をあげ、経験したことのあるものを選んでもらった。その経験回数を尋ねた結果を男女別年齢別に示したのが、**図 3-3** である。

図 3-3 婚活の経験内容



男性全体で経験率が最も高いのは、1位「街コン」37.6%、2位「よく飲み会や合コンに出かけるようにしている」35.3%、3位「友人に紹介を頼んだ」32.9%、4位「職場の同僚・先輩に紹介を頼んだ」28.2%、5位「市町村など自治体、公的機関主催の出会いイベントに参加」27.1%である。女性全体で経験率が最も高いのは、1位「街コン」49.2%、2位が同率で「友人に紹介を頼んだ」と「よく飲み会や合コンに出かけるようにしている」32.3%、4位「市町村など自治体、公的機関主催の出会いイベントに参加」30.8%、5位「民間会社の主催する出会いイベントに参加」21.5%である。

これらの婚活を何度経験したのかを知るために、項目別に回数を尋ね、男女別に結果を示したのが**図 3-4、図 3-5、図 3-6** である。これをみると「市町村など自治体、公的機関主催の出会いイベント」「民間会社の主催する出会いイベント」「街コン」のどれにおいても、1回という回答が最多であり、何度も繰り返し参加する人は少ないことがわかる。

図 3-4 男女別自治体等主催の出会いイベントの参加回数

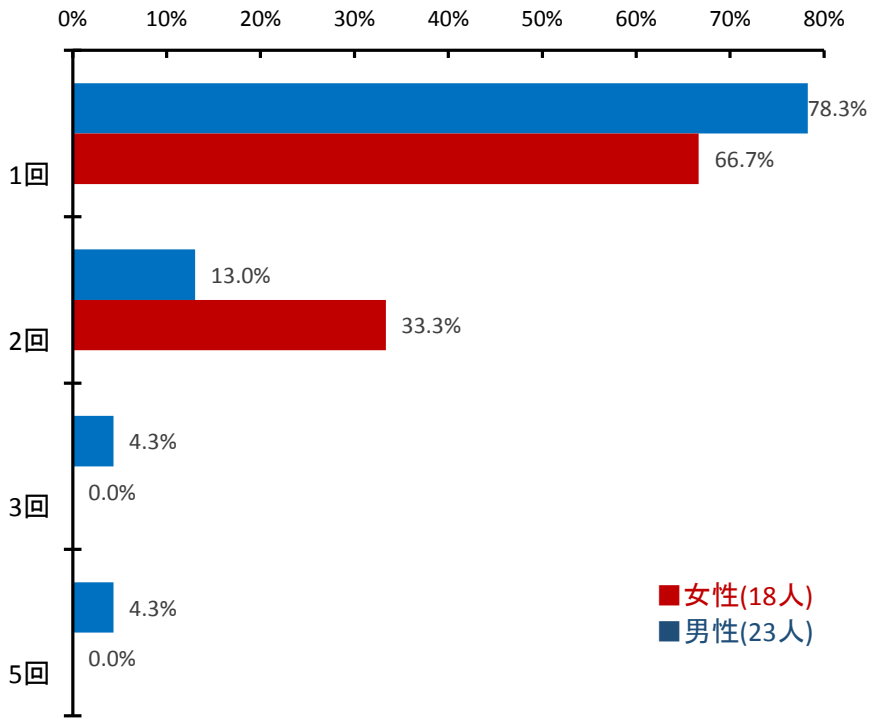


図 3-5 民間会社主催の出会いイベント参加回数

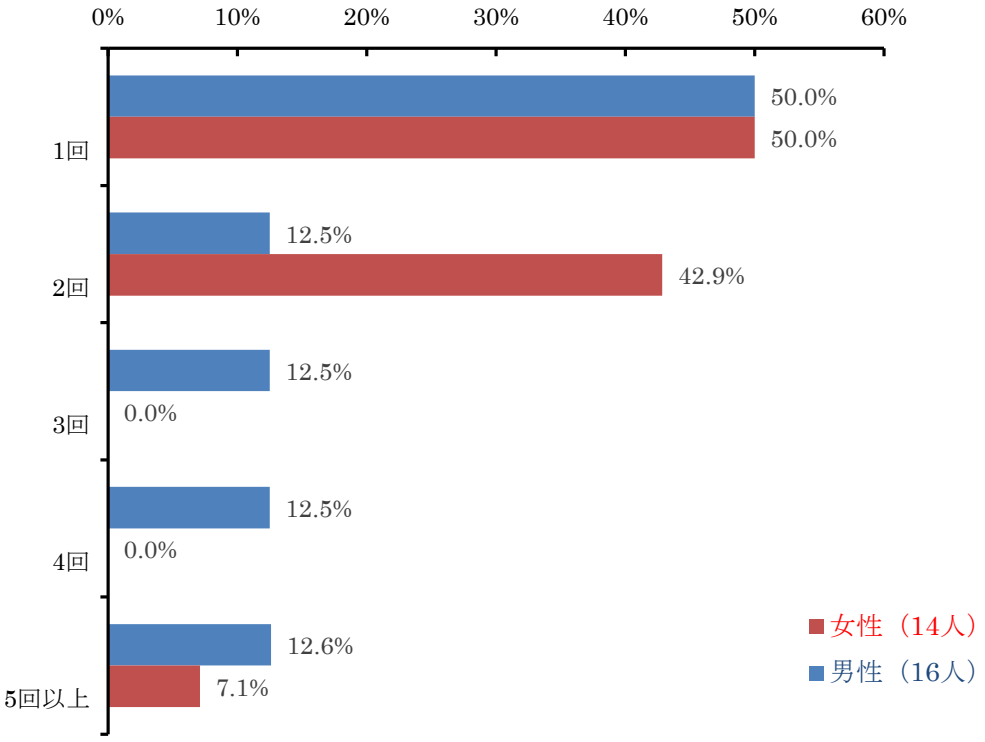
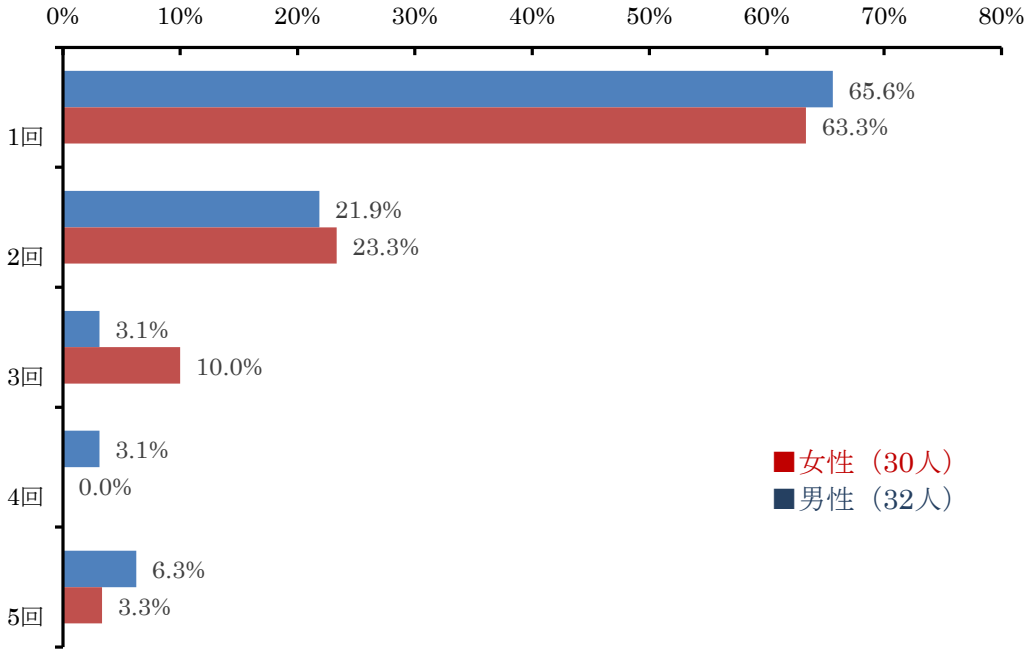


図 3-6 「街コン」への参加回数



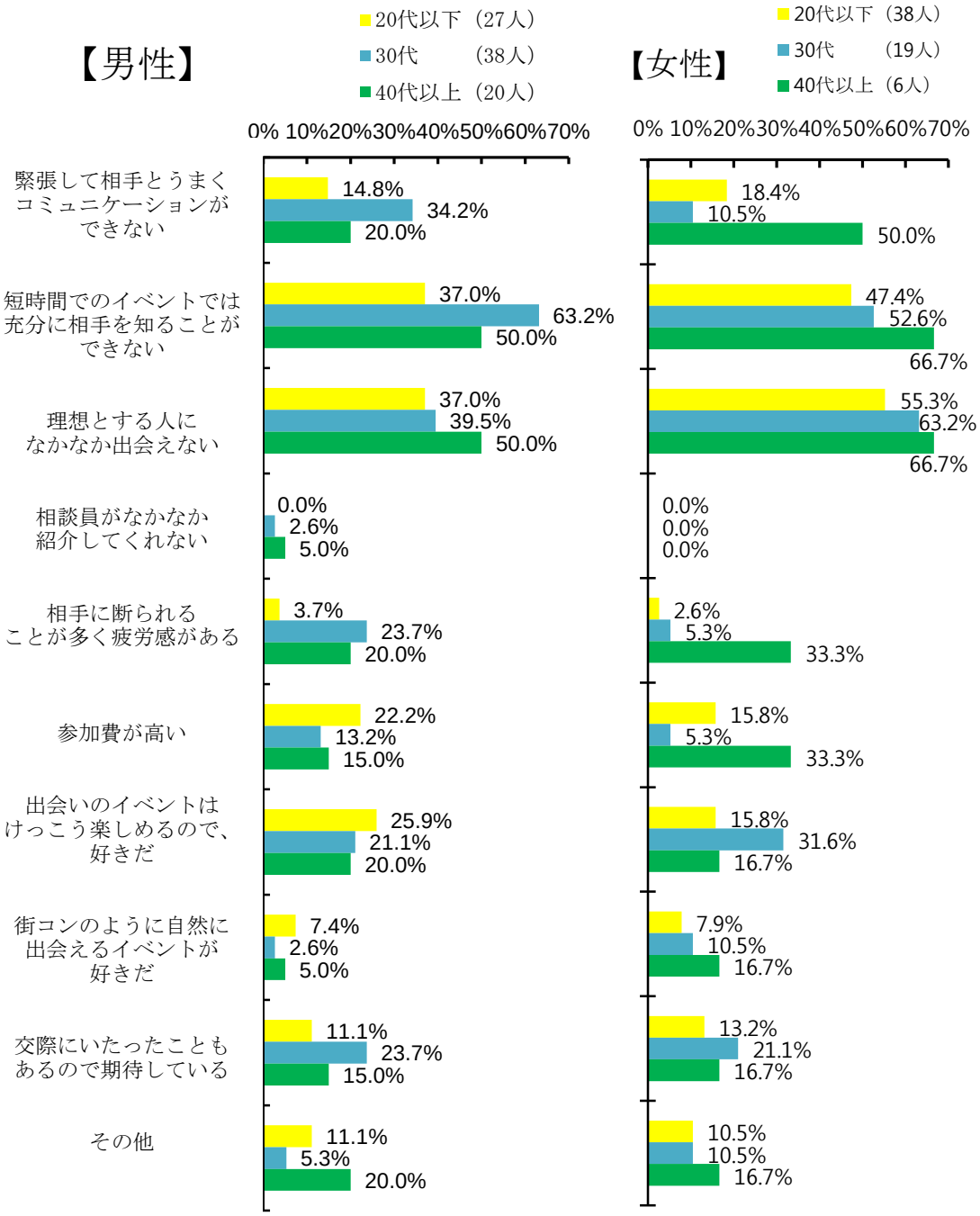
イベントのリピーターになる割合は低いものの、全体として男女ともに、「街コン」「飲み会・合コン」、「友人に紹介を頼む」という友だち付き合いの延長線上で、気軽にできることを実行している割合が高い。回答者たちが、自由で自然な出会いを望んでいる様子がうかがえよう。ちなみに「街コン」は、2008 年に宇都宮市内の「宮コン」から始まり、人気のイベントとして全国に流行した。現在は、岩手県内でも盛んに開催されている。

今回の調査の回答結果で特徴的なのは、「地元の結婚支援員（いわゆる仲人）に紹介を頼んだ」の経験率が非常に低いことである。男性全体では 4.7%（4 名）、女性全体では 3.1%（2 名）に過ぎない。地域の婚活の代表的事業としてボランティアによる結婚支援員（いわゆる仲人）の活動が全国各地で盛んに行われているが、今回の調査では、こうした地元の相談員に実際に紹介を依頼した人はきわめて少数であった。

(1-3) 婚活への感想

図 3-7 は、過去 2 年間に婚活を経験した回答者に、感想を尋ねた結果である。あてはまるもの全てに○をつけてもらった。

図 3-7 婚活に参加した感想



その結果、男性全体では、選択率が高い順に、1 位「短時間のイベントでは充分に相手を知ることができない」(51.8%)、2 位「自分が理想とする人になかなか出会えない」(41.2%)、3 位「イベントやお見合い等に行っても、緊張して相手とうまくコミュニケーションできな

い」(24.7%)、4位「出会いのイベントはけっこう楽しめるので好きだ」(22.4%)、5位「交際にいたったこともあるので期待している」(17.6%) であった。

女性全体では、1位「自分が理想とする人になかなか出会えない」(60.0%)、2位「短時間のイベントでは充分に相手を知ることができない」(50.8%)、同率 3 位が「イベントやお見合い等に行っても、緊張して相手とうまくコミュニケーションできない」と「出会いのイベントはけっこう楽しめるので好きだ」であった (20.0%)。そして5位は「参加費が高い」と「交際にいたったこともあるので期待している」(それぞれ 15.4%) である。

男女いずれも、参加した感想として上位に挙げられているのは、イベントへの不満である。期待して婚活イベントに参加しても「理想とする人」には出会えず、仮に心が動いても短時間ではなかなか相手のことを見きわめることができないという経験を、多くの回答者がしていることがわかる。

「短時間でコミュニケーションを取ろうとしても緊張してうまくいかない」の選択率は高い方ではあるが、男性の 4 人に 1 人、女性の 5 人に 1 人しか選んでいない。全国の結婚支援の取り組みの中で、未婚である理由として、出会いの機会の欠如、経済力、そして異性との「コミュニケーション不得手」が 3 大ネックとして挙げられることが多い。しかし、ここでは「コミュニケーション不得手」がとりたてての障害としては必ずしも認識されてはいない。選択肢のなかで最も多く選ばれた「短時間のイベントで相手を知ることができない」ということが、回答者にとっての壁であると推察することができる。つまり、時間的問題、ひいては多様なプログラムのなかで語り合う機会、一歩踏み込んだ関わりの機会と時間が少ないということを、回答者は問題にしているのではないだろうか。そうした不満はインタビューのなかでも語られている（**男性9・男性1・男性4**参照)。

イベントは、限られた予算や時間の中で運営されており、参加者の満足度を上げようとしても限界があるのが実情である。他県の例では、同じ参加者によって年間複数のイベントを開催し、参加者同士が複数回会うという企画をしているところもある。出会いイベントの開催をするにあたり、成立するカップル数や成婚数だけに視点を向けるのではなく、仲間づくり、女子会、トーク型ワークショップなど「気楽に知り合う」きっかけになりうるものを、しかも気長なスタンスで参加者に提供するような企画上の工夫も必要なのではないかと思われる。

＜男性9・短大卒・事務正規・40代前半＞

婚活パーティに出ても、女性と会話時間が 1 分限りというパターンが多く、じっくり話せない。男性は女性の３－４倍で、女性が少ないので抽選で落ちることもしばしばある。やっと出てみることができても、やはり女性が少ないなという感じ。30-35 歳の女性は一人で

参加するのがイヤなようだ。参加費を安くしても女性が集まらず、その分男性の参加費にしわ寄せがきて 4-5000 円になったりする。

＜男性4・ 大卒･管理正規･30歳代前半＞

街コンは、主催団体から声がかかり出てみたが、数合わせ的な参加だった。みんな知りあいのグループや仲間で盛りあがっていて、自分は単独参加なのでまざれなかった。

事前に主催者は、互いに求めている人同士が出会うようなコーディネートがほしい。友達づくりが苦手な人もいるので、企画する側の人が参加者にまざるようなかたちでコーディネターがいればいい。あるいは既婚者が未婚者を伴って参加するとか。

＜男性1 高卒･技術正規･ 20 歳代後半＞

街コンは目的が違うと思う。参加費数千円払った分、食べ放題、飲み放題で、それ目的の人集めのようだ。だから既婚者も来ていた。

（2） 婚活をしない理由

過去 2 年間に、婚活を経験していない男性 111 名、女性 140 名に対し、「婚活をしない理由」を尋ねた結果が、**図 3-8** である。選択肢の中から該当する項目を 1 つ選ぶ単数回答である。

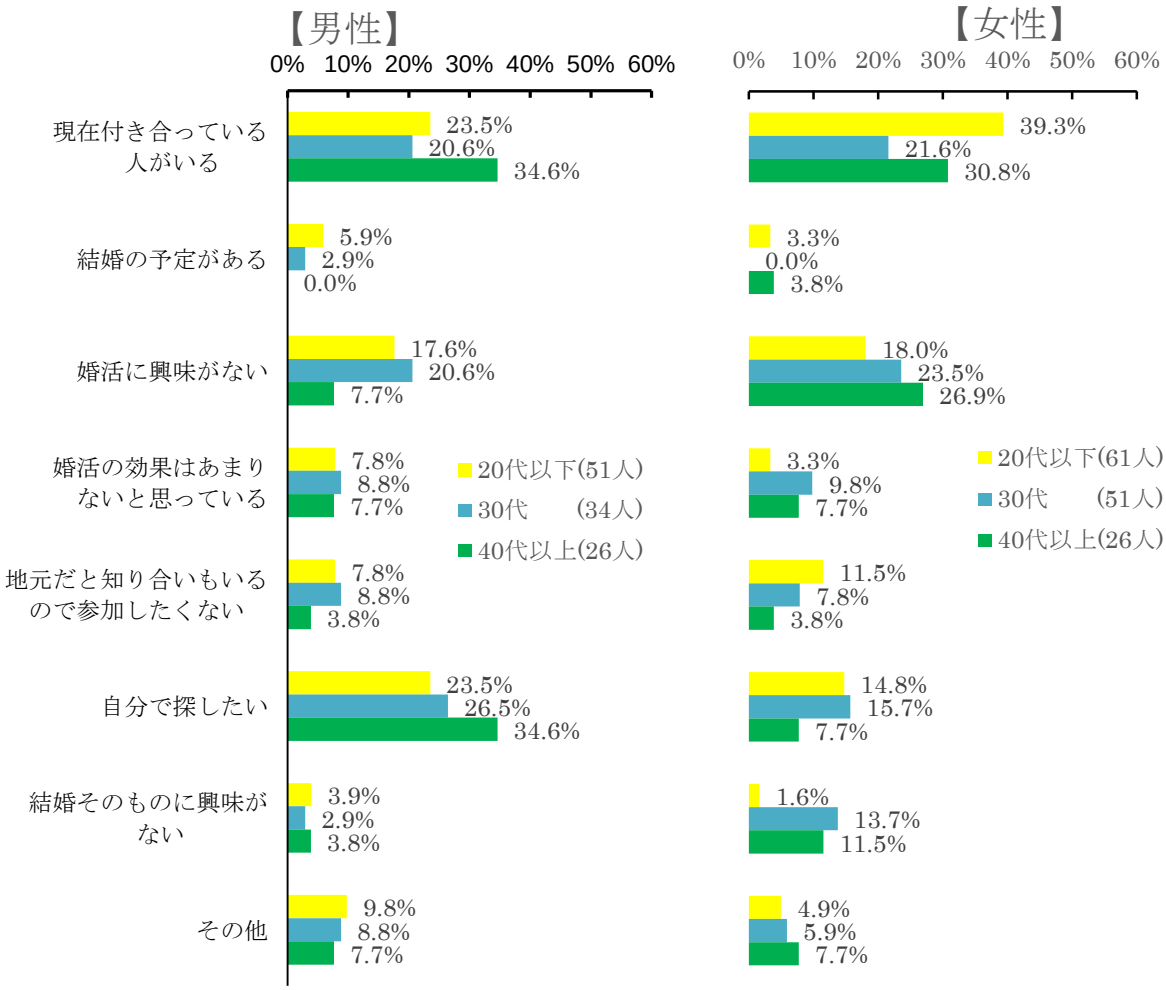
男性では、「自分で探したい」が最も多く 27.0%であり、次いで「現在付き合っている人がいる」が 25.2%、3 番目が「婚活に興味がない」で 16.2%であった。女性では、「現在付き合っている人がいる」が最も多く 31.4%であり、「婚活に興味がない」が 22.1%、3 番目が「自分で探したい」13.6%であった。

女性では、「現在付き合っている人がいる」割合が最も高いのは 20 代の 39.3%である。結婚を意識して付き合っているのかどうかは定かではないが、付き合っているから婚活をしないということは、特定の友人という意識で付き合っているものの、結婚を決定するまでには至らない交際関係なのであろう。男女ともに、40 代では 3 割がやはり交際相手がいるとしている。たとえ特定の相手と交際していても、それが結婚に結びつくとは限らないことも考えられる。特に年齢が高い場合、たとえば 40 代では、本人同士が本心では結婚を望んでいるにもかかわらず、周囲にそれを阻む事情があることも考えられる。たとえばインタビュー事例でも見られるように、再婚同士（**男性10**参照）であったり、すでに結婚観のところでみたように、跡継ぎ問題、相手の親との同居や経済的な課題（**女性4**参照）などが絡む場合もある。

男性と女性を比べると、男性の方が「自分で探したい」という回答が、年齢が高くなる

にしたがって増えている。女性に比べて、他人に頼らず自分で何とかしたい、という気持ちが強いのであろう。女性では、「婚活に興味がない」という割合が、年齢が高くなるにつれて増えている。その理由はさまざまであろうが、誰かにお膳立てされた上での出会いに拒否感があり、また企画にもよるであろうが、「婚活イベント」には限定された地域の中から相手を選ばなければならないという制約があることも少なくなく、それを嫌っている可能性もある。インタビュー調査からは、もっと広範囲から相手を探したいという考えもあるとの声が聞こえている（**女性3・女性1**参照）。

図 3-8 婚活をしない理由



＜男性 10 ・ 高卒･事務正規･ 40 歳代後半＞

今、知人に紹介してもらった人と交際中で１年になる。結婚のことはいろいろ考える。その交際中の相手も再婚で子ども２人いるし、自分も離婚していて未成年の子どもに養育費を払っている。そんなお互いの事情にふれないでつきあっている。しかも、職場には離婚した元妻もいる。結婚は簡単じゃない。頭が混乱する。

＜女性4 ･大卒･農林自営･30歳代前半＞

いま付き合っているひとは、仕事で知り合いになり、将来のことを考えています。でも、相手は長男で、経済的なことや、金銭的に複雑なことがあっては早目に結婚をとおもうけどなかなか難しいです。一応、父母には言ってあり、信頼してもらっているけど・・

＜女性3･ 短専卒･生産正規 20 歳代後半＞

今は何もしてない。婚活は1度誘われて参加した程度。地元だったら、知っている人に会うのがいやだから、地元で相手を探す努力はしていない。居酒屋主催の合コンも行きたくなかったけど知り合いに誘われて行った。でも電話番号交換に至る人はいなかった。会社に男性がいないわけではないけど、社内恋愛はしがらみがありそうでいや。好奇心で見られることも考えてしまうし。会社の雰囲気をこわしたくない思いもある。

＜女性1･ 高卒･団体正職員･20歳代後半＞

「i - サポ」の紹介は、今の段階では期待していない。知人の紹介の方が信頼度が高いと思う。地元で普通に暮らしていて出会えない人に出会いたい。

（３）自分にとって結婚が難しい理由

「自分にとって結婚が難しいと考える理由は何ですか」と尋ね、該当するもの３つまで選択してもらった結果が、**図 3-9** である。

選択率が高い順に男性の結果を見ると、1 位「自分の経済力が弱い」(50.0%)、2 位「岩手県は首都圏などと比べて出会いのチャンスが少ない」(33.7%)、3 位「異性との交際経験が乏しい」(26.0%)、4 位「家・家族の問題がある」(20.9%)、5 位「結婚後の仕事と家事育児の両立に不安がある」(16.3%) となる。

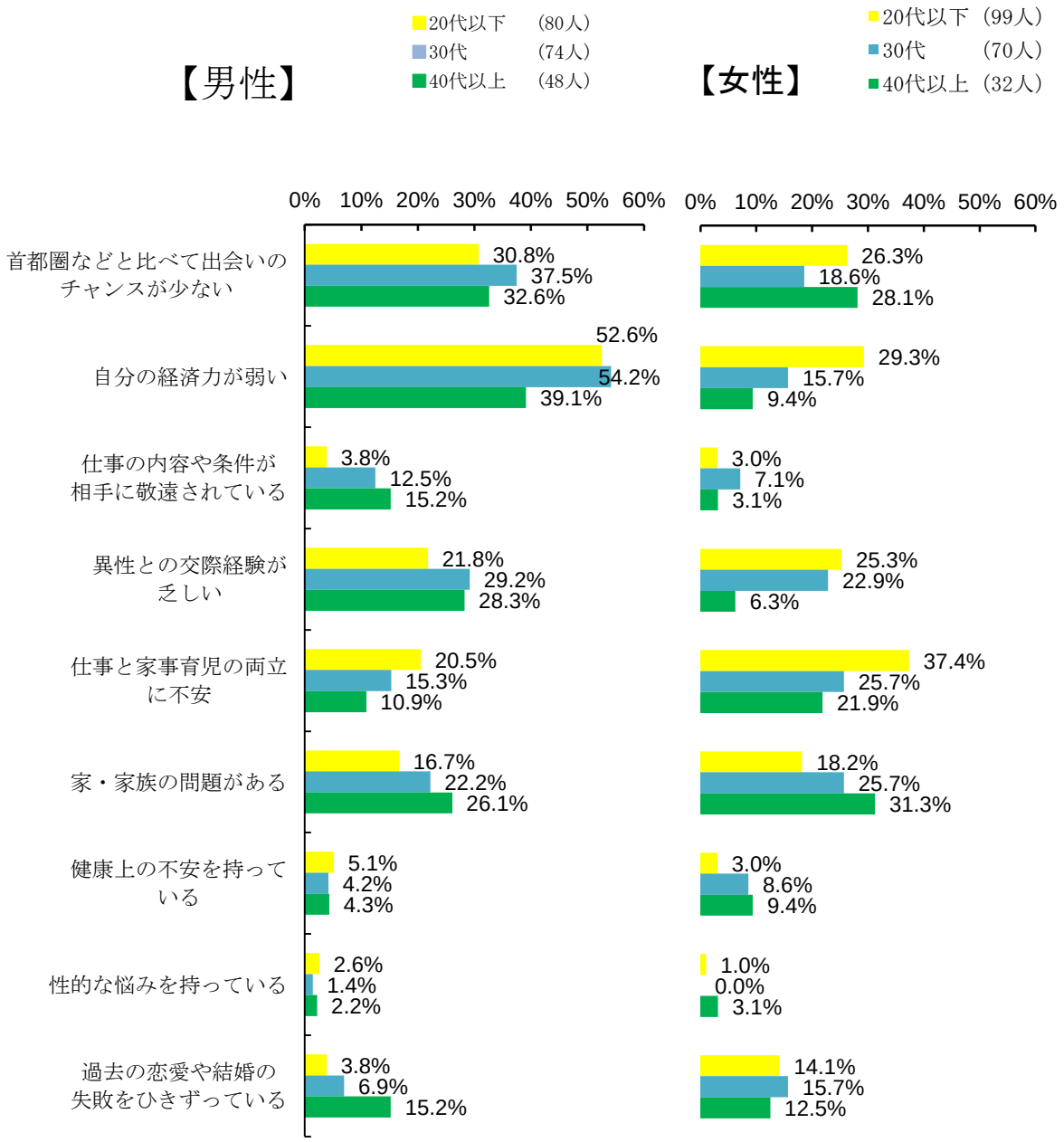
女性では、1 位「結婚後の仕事と家事育児の両立に不安がある」(30.7%)、2 位「岩手県は首都圏などに比べて出会いのチャンスが少ない」(23.9%)、3 位「家・家族の問題がある」(22.9%)、4 位「異性との交際経験が乏しい」(21.5%)、5 位「自分の経済力が弱い」(21.0%) となっている。

男性では、どの年代においても「経済力の弱さ」が結婚を難しくしているとする割合が高いことが明らかである。女性では、「仕事と家事育児の両立に不安がある」割合が、20 代の女性では 4 割近くにのぼる。また、男女ともに、「岩手県での出会いのチャンスの少なさ」を、結婚の難しさの理由だと指摘する割合も高い。若年層の経済力の向上、仕事と家事育児の両立支援、出会いの機会の提供が必要であることが、うかがわれることになろう。

また、「家・家族の問題がある」は、男女ともに年齢が高くなるにつれ選択率が上がる傾向がある。苗字を変えることができない、親との同居や親の介護問題等々、家族を守り、支えなければならない状況下にある回答者の姿が見えてくる。

インタビューからも、結婚を希望しながらも課題や複雑な心境が伝わってくる（**女性３・女性２・男性３・男性４**参照）。

図 3-9 結婚が難しいと考える理由



＜女性3・ 短専大卒・生産正規・ 20 歳代後半＞

出産のことを考えると急ぎたいとも思う。30 歳前には産みたい。でも、いいと思う人が現れても交際にならないのではという不安はある。交際経験が乏しいので。私に何かが足りないのか。相手の立場に立って空気読めないからかも。

＜女性2･大卒･事務契約嘱託･20歳代後半＞

出会いのチャンスがないし、異性との交際経験が乏しい。
少子化はわかるが、結婚、出産は女性には不利と感じる。仕事に左右されるのは女性だ。その対策を考えるのも女性自身。過疎地域でも、女性が、ここで子供を産みたいと思わせる地域づくりが必要。産婦人科もない。東京での恋愛経験もあったが、こちらへ戻りたかったので結婚にはならなかった。こちらでは 20 代の恋愛の相手がいない。さらに、自分と相手の収入が気になる。二人の合計額がどうなるのか。

＜男性3･ 高卒･事務嘱託･ 20歳代後半＞

今の俺にとって結婚の課題は「給料」。今の嘱託で保証のない仕事。自分でひとり暮らしで、貯金できるような仕事に就けてからでないと結婚はできないかなと思っています。
貯金ができるようになって、はじめて一人前だと思っている。金がないだけでなく、仕事で時間がないのが一番かな。

＜男性4 大卒･管理正規･30歳代後半＞

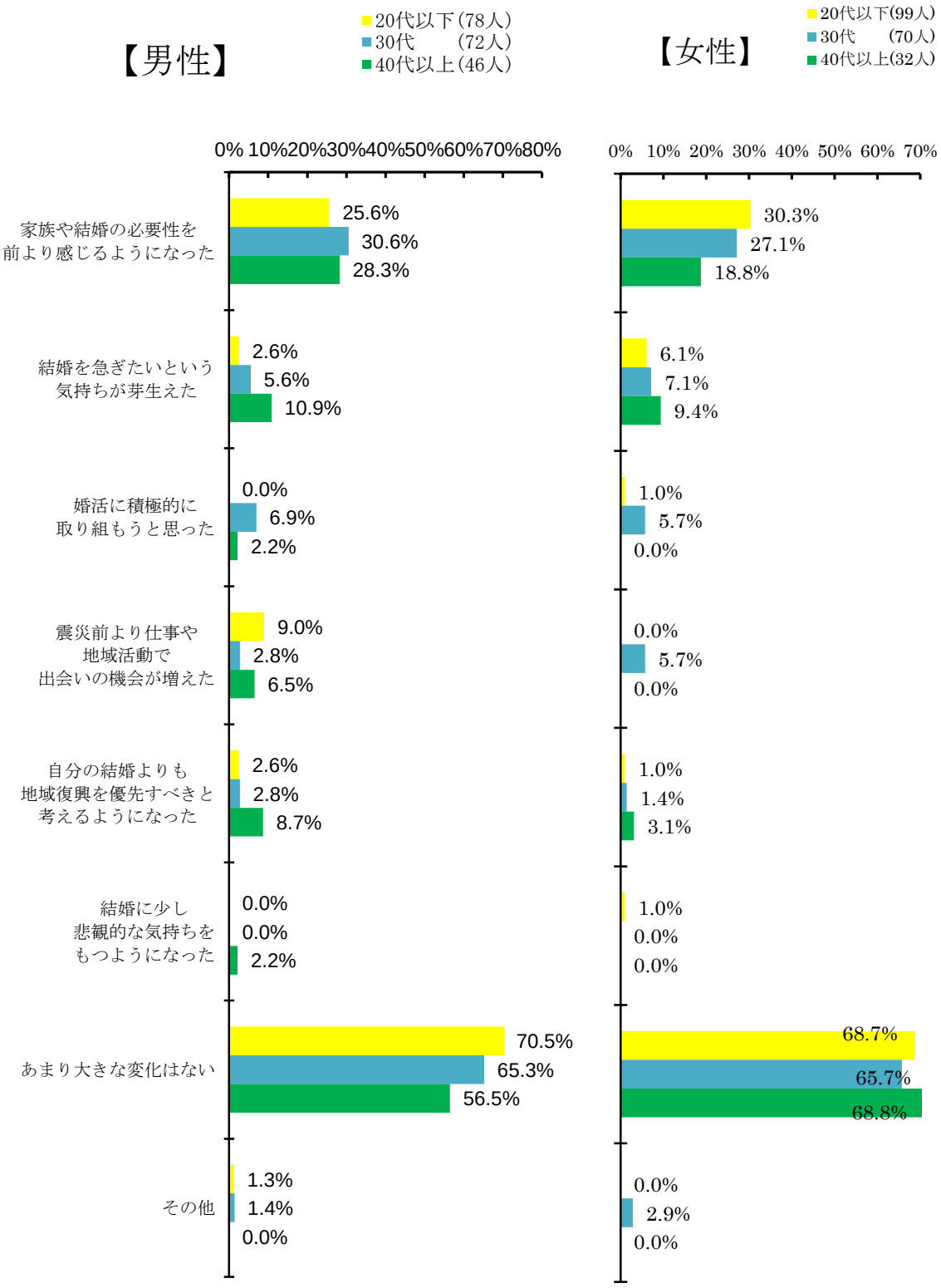
自分の仕事が 3 年ごとの更新契約で不安定。仕事が落ち着かないとバランスが崩れるし、結婚に慎重になる面もある。蓄えないといけないと思う。「雇用の安定が結婚の前提」だ。

（4）東日本大震災後の結婚に向けての意識や行動の変化

今回の調査の実施は、東日本大震災から 4 年半が経とうとするタイミングであった。大きな被害を受けた岩手県の住民である回答者たちにとって、震災の経験は、結婚に関する意識等に大きな影響を与えたのではないかと考えられる。そこで「東日本大震災後、あなたの結婚に向けての意識や行動は変化しましたか」と尋ねて、該当する項目を２つまで選んでもらった（**図 3-10**）。

結果をみると、男女ともに、「あまり大きな変化はない」とする回答者が最も多く、男性 65.8%、女性 68.8%となっている。変化があったこととして、最も選択された率が高かったのは、「家族や結婚の必要性を前より感じるようになった」である（男性 28.1 %、女性の 27.3%）。震災を経験したことによって、「結婚を急ぎたいという気持ちが芽生えた」という回答は、男性で 5.6%、女性で 7.3%に過ぎない。

図 3-10 東日本大震災の意識や行動の変化



しかし、「あまり変化がない」とは言いつつも、インタビューでじかに尋ねてみると、当時の状況をたぐりよせて語りだす人々が少なからずいた。家族や結婚のことを一層強く意識するようになったと力強く語る人々である。こうした声を聞くと、震災が本人の家族意識や結婚意識に実は大きな影響を与えたことを知ることができる。こうした衝撃的な出来事とそれに関連する率直なコメントについては、アンケートという手法だけではつかみきれないことを、銘記すべきであろう。以下の事例にみるように当時の様子を詳しく聞いてみると、誰かとともにあることの大切さを実感したということが伝わってくる。ここではいくつかの生の声を紹介しておきたい。

＜男性3・ 大学中退・サービス正規・20歳代後半＞

人のことを考えるようになった。自分は家族や親族を一人も喪わなかったけれど、周りには喪った人がいっぱいいた。その人たちを見ていくうちに自分には家族がいてよかったなと思った。震災後、交際をしていた彼女とすぐに結婚しようかと考えたこともあった。それまでは、一人でどうにかなるみたいな考えがあったけれど。家が残ろうが財産が残ろうが、家族を喪ったか喪っていないかでまったくその後の人生が違ってしまうことを実感した。当時もいまも家族を喪った人たちに、「頑張れよ」も「ご冥福を」も言えない自分がいる。

＜男性1・ 高卒・技術正規・25 歳代後半＞

特に変化ない。震災の時、両親は仕事で自分と祖父母は家にいた。祖母を先に逃がし、自分は高台に一端逃げたが、家に祖父がいるので、家にもどり、手をひっぱって外に出した。祖父は昭和の津波を経験しているので、波は堤防を越えないと信じていた。それが簡単に越えてきた。家業の「こんぶ」は全滅。祖父を助けたことで、その後いろいろ復興のなかで年寄りは何かとはずされることを知った。そんな年寄りを助けていきたいから俺はいずれ介護学校に行って、介護士になろうという思いが強くなった。

＜男性 10 ・高卒・事務正規・40歳代前半＞

津波も来た。我が家は大丈夫だったが、こういうことがあると、やっぱり拠り所がほしいとより強く思うようになった。それは家族とか、一緒にいる人とか。

＜女性3 ・短専卒・生産正規・20歳代後半＞

結婚願望はあったが、震災後一層強くなった。

＜女性7・ 大卒･事務正規･40歳代前半＞

親と離れてくらしていたこともあって、不安でした。だれも頼る人がいないんだと実感。会社の人もみんなそれぞれ家族のもとにいくので、ああ、こうやって人は一人になっていくんだみたいなことは思ったの。あのときの気持ちはやはりぽちぽち思い出しますね。両親もいつまでもいるわけではないので、このままいくと一人になるだろうというのは考えます。連れ合いがいたほうがということを、震災をきっかけに結構強く思うようになった。

（５）結婚支援のあり方についての要望

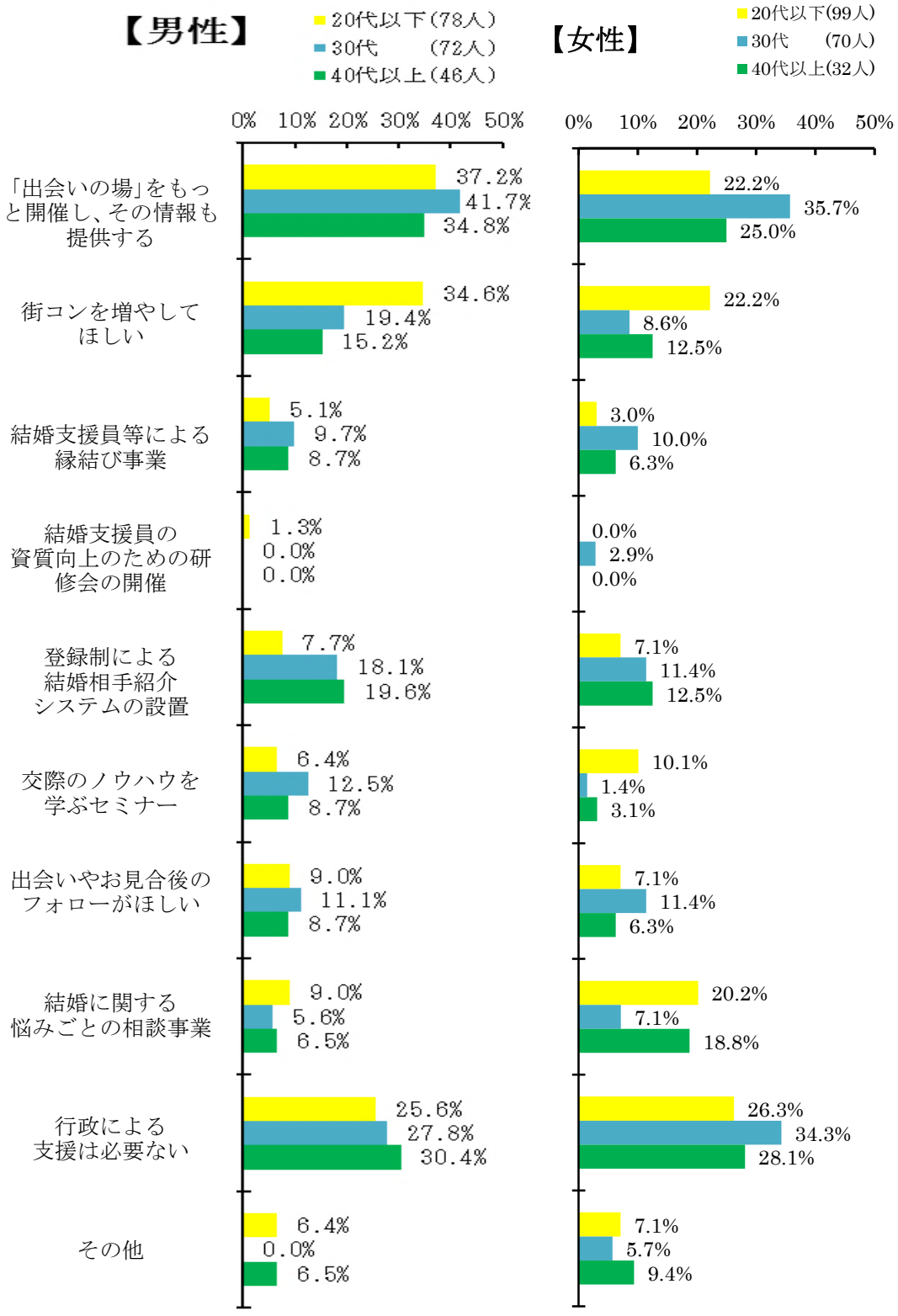
(5-1) 今後実施してほしい行政による婚活支援事業

「今後実施してほしい行政による婚活支援事業は何ですか」と尋ね、実施を希望する支援に２つまで○をつけてもらった結果が、**図 3-11** である。

最も希望が多いのは、男女ともに「『出会いの場』をもっと開催し、その情報提供もする」であり、男性が 38.3%、女性が 27.3%であった。次に多いのが、「街コンを増やしてほしい」であり、男性 24.5%、女性 16.1%であった。男性では、3 番目に「登録制による結婚相手紹介システムの設置」が挙げられている (14.3%)。それを挙げた女性は少ない (9.8%) 女性では「結婚に関する悩みごとの相談事業」が 15.1%で、男性の 7.1%より高い。「出会いの場」と「結婚相手紹介システム」が必要であると考えているのは男性の方が高い傾向がある。

支援を希望しないとするのは男性の 27.6%、女性の 29.8%であった。つまり約 3 割の回答者が、「行政による支援は必要ない」を選んだのである。税金を使って、婚活支援事業をすることに、懸念や疑問を感じている人がおよそ 3 割弱いるということである。少子化対策として、全国的に県行政が結婚支援に乗り出した 10 年以上前から、個人の選択であるはずの結婚に対しての行政による支援を疑問視する不要論は常にあり続けた。調査結果にみるように、まさに結婚支援事業の当事者であるこうした年齢層の人々に、行政的支援が必要ではないとする人々が、少なからずいることに留意する必要がある。行政の側は、支援策の実施に際し、個人情報の徹底した管理と、個人の決定権への配慮をもって婚活支援事業を推進する必要があるだろう。

図 3-11 実施してほしい行政による婚活支援事業



岩手県内市町村や各種団体での出会い事業は今、これまでも盛んに行われてきた。それらの主流は、農業後継者など自営業者を対象とする事業であった。岩手県では平成 27 年度より、県内全域の男女を対象とした登録制のマッチングシステムである「i-サポ」が開設された。アンケート調査実施時点では開設されておらず、インタビュー調査の実施時（11―12 月）にはこの事業はスタートしていたものの、十分な周知には至らない時期であった。インタビューに際して登録制による結婚支援システムづくりがあることを調査対象者となった方々に説明すると、強く関心や期待を示した人々もいた（**男性９・男性８**参照）。

先に述べたように、「登録制による結婚相手紹介システム」に対して期待を有しているのは、男性が 14.3%であるのに対し女性は 9.8%である。「出会いの場」づくりへの公的支援への期待があるなかで、民間とは違う行政の「登録制による結婚支援」事業に対してはいまだ十分なイメージが持てないことが、こうした期待度の低さにつながっているとも考えられよう。

＜男性9・ 短専卒･事務正規・ 40歳代前半）

県がやるなら、とにかくその内容やさまざまな情報を提供して欲しい。ここにこういう女性がいるという情報がほしい。

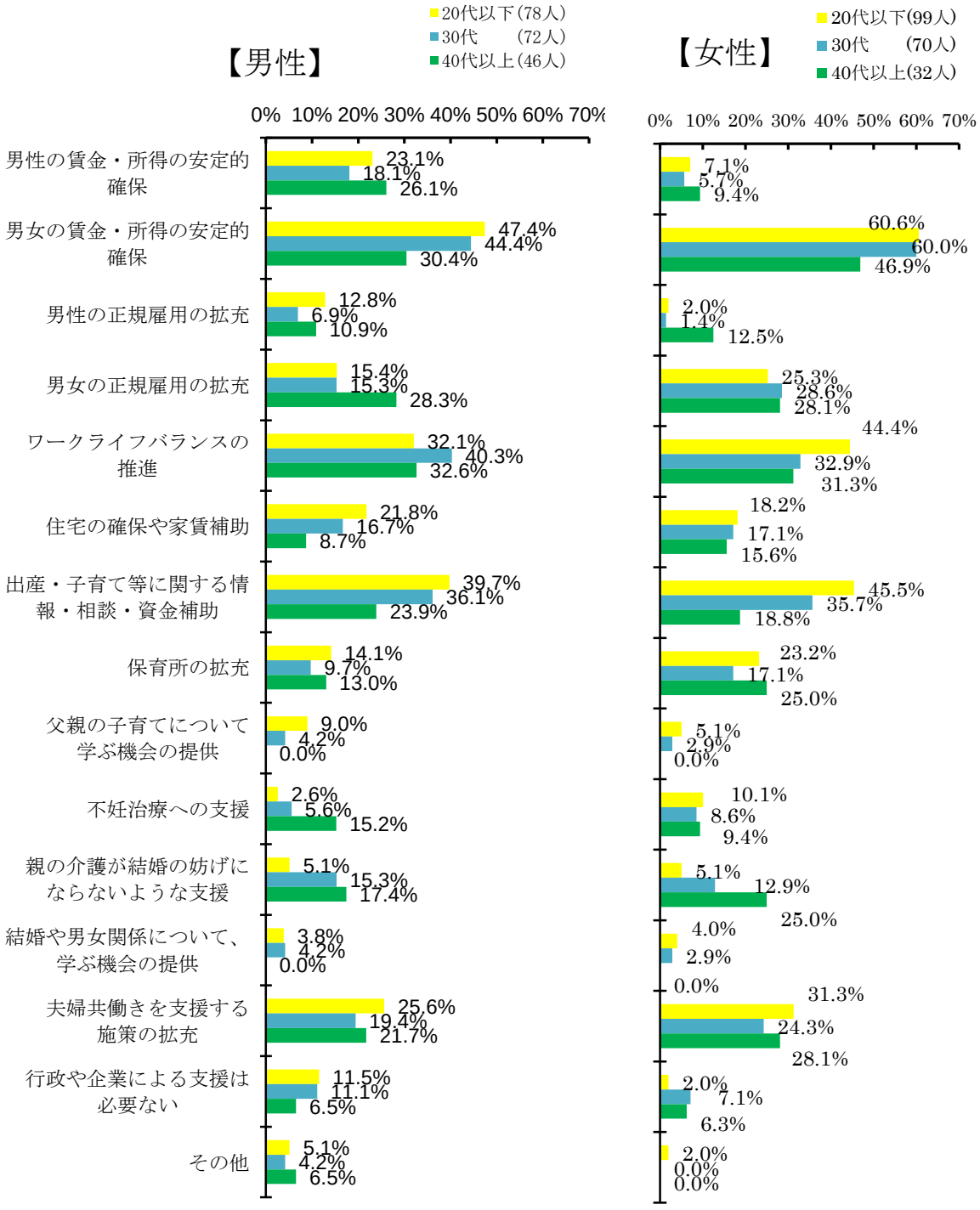
＜男性8 高卒･生産契約嘱託･40歳代前半＞

地元の相談員に紹介を頼んでいるがなかなか紹介してもらえない。紹介できる人がいないと言われた。それで出会いのイベントに参加したら女性に「相手がいる」「頼まれたから参加した」と言われた。本当に結婚したい人だけ集めて、どんな女性かという情報や、紹介がほしい。

(5-2) 行政や企業に期待する改善策や支援策

図 3-12 は、「結婚したい人が結婚できるようにするために行政や企業にどのような改善策や支援策を期待していますか」と尋ね、該当項目に３つまで○をつけてもらった結果である。

図 3-12 行政・企業に期待する改善策・支援策



これをみると、男女ともに、最も多いのが、「男女の賃金・所得の安定的確保」であり、男性の 42.3%、女性の 58.0%がこれを選択した。この設問では、選択肢としてあえて「男性の賃金・所得の安定的確保」と「男女の賃金・所得の安定的確保」とを並列させたが、前者を選んだのは男性 21.9%　女性 7.3%にとどまっている。男性の方が「男性の賃金・所得の安定的確保」を選ぶ人々が女性よりも多かったことはたしかであるが、しかし「男女の賃金・所得の安定的確保」を選んだ人々が男女ともに、これをはるかに上回る勢いで多かった点に注目する必要がある。また「男性の正規雇用の拡充」(男性 10.2%　女性 3.9%)と「男女の正規雇用の拡充」(男性 18.4%　女性 27.3%)についても、「男女」の正規雇用を増やすことが大切だと考える人々の割合が高い傾向がみられる。とりわけ女性で、「男女の正規雇用の拡充」を選んだ率が各段に高いことを看過してはならない。

この他、「ワークライフバランスの推進」(男性 35.2%　女性 38.5%)、「出産・子育て等に関する情報・相談・資金補助」(男性 34.7%　女性 37.1%)、「夫婦共働きを支援する施策の拡充」(男性 22.4%　女性 28.3%)を望む率も高い。このことはすでにみた女性に望ましい生き方についての調査結果で示したように、回答者の多くが専業主婦をもつライフスタイルではなく、「結婚し子どもを持つが、仕事を続ける」という生き方を支持していることから、当然のことでもあるいえよう。

夫婦がともに安定した職を得て共働きできれば、結婚し子どもを育てることができると考える回答者が多いこと、が明らかである。現在の結婚難の解決策として、従来型の「男は仕事/女は家庭」の枠組みに依拠して、男性の雇用安定のみを重視する傾向が依然としてあることは否めない。しかし、岩手県においては、男女がともに働きながら家庭をもつという枠組みを据えての結婚支援が必要なことが明らかである。インタビュー調査でも小企業で働く女性からは、現状の厳しさが語られている（**女性３**参照)。具体性をもった若い世代の定住支援策の提示を求める意見もある（**男性２**参照)。これは、地元で暮らしていきたいという若い世代のメッセージそのものである。結婚支援というと、若者たちの状況を未婚化、晩婚化、少子化という課題に対しての対策として考えがちである。だがこの地に根づいて生活を築いていこうとする人々のライフステージ全体を見据えて、さまざまな支援の道を幅広く探っていくことが必要ではないだろうか。

＜女性3・ 短専卒 生産正規・ 20 歳代後半＞

行政に言いたいのは、長時間労働の改善してほしい。出産後職場復帰しやすい環境、小さい企業だと産休は取れても育児休暇を取った実績がないという会社が多い。また、補助金とか、子育てするための費用を借りれるとか、市役所に行って聞かなければわからないことが多い。支援策があっても知らずに過ごす人もいると思う。結婚後の支援策のアピールをもっとしてほしい。

＜男性2 大学中退･正社員･20 代後半＞

「まちづくり支援」というワークショップに出ているが、行政は高い理想を言ってるだけだと感じる。地元での雇用促進、地元で結婚、若者の地元からの流出を抑えたいとか言っている。そんなうわべの話はもうわかった。もう何年も聞いているのに変わらないのはなぜか。もう次の施策が必要。自分たちがここで暮らしていける具体策を示して前進させて欲しい。

[Ⅲ]　まとめと提言

［Ⅲ］まとめと提言

最後に今回の調査から浮かび上がった要点を簡潔にまとめ、それらを踏まえた提言を提示したい。

（1）まとめにかえて

今回の調査からは、シングル（独身者）の人々にとって結婚への壁がどのようにあり、当事者自身がそれをいかに意識しているかについて把握することができた。「一生結婚するつもりはない」とするのはきわめて少数にとどまり、多くが「いずれ」「ある年齢までには」「理想の相手が見つかれば」結婚したいとしている。また現在シングルでいることについて、プレッシャーを強く感じたり、周囲の目を気にしたり、そのために結婚を急がなければならないと焦りを表明する人々は、決して多くはない。むしろ回答者は落ち着いて、自分の結婚について、仕事との兼ね合いについて、そして将来の生活について考えをめぐらせていることがうかがわれる。

結婚相手に関して気になることについての回答結果において、年代ごとに特徴があることはすでに触れているが、注目すべきは、20 歳代の女性の意識実態である。この年代層の女性がかなりの度合いで、「跡継ぎ」たる男性を避けようとし、また相手の家のしきたりや決めごとが厳しいのであればできるだけ避けたいという考えを表明している点である。20 歳代といえばかつては「適齢期」という言葉があり、結婚をめぐってヴィヴィッドに反応する世代であった。だが晩婚化が進行している今日的状況を考えればまだまだ若く、今後さまざまなチャンスがありうるという点から、今日の 20 代女性にとって結婚は必ずしもさし迫っているとは考えにくい。それにもかかわらず、こうした世代の女性たちが「跡継ぎ」と「家のしきたり・決めごと」に対して強い反応を示すのは、彼女たちの周囲の女性が嫁入り先で苦労している姿を見聞きし、また祖母や母の苦労話を耳にするからではないかと推測できる。現にインタビューに応じてくれた 20 代女性は、「母が苦労する姿をみてきたので」自分の結婚相手として長男は避けたい、と明言している。アンケート調査結果にみられる 20 歳代の女性のこうした反応は、特筆すべきことではないかと思われる。

さらにもうひとつの重要な点は、女性の望ましい生き方として「結婚し子どもを持つが、仕事を続ける」に対する支持が、男女ともにきわめて高いことである。全国的にも男性の単独稼得で妻子を養う基盤が弱体化してきていることもあって、女性に、結婚・家族と仕事との両立を望む人々が増えてきているが、岩手県の場合は、とりわけ夫婦共働きの伝統が強くあることが影響しているように思われる。母の生き方をみてきた若い世代が、そのライフスタイルを当たり前のこととして受け入れ、それを頼もしく受けとめて支持しているのではないだろうか。また経済不況が折り重なる中で、男性単独稼得の基盤が県内でも揺らいでいることの影響も、ここに強くあらわれていると考えることができる。「結婚が難

しい理由」として男性の半数が「自分の経済力が弱い」を挙げている点をみても、女性に結婚・家族と仕事との両立を求めたい気持ちに傾く理由を理解することができるだろう。またそうした男性側の要請を受けとめるがゆえに女性の側は、「結婚が難しい理由」として、「結婚後の仕事と家事育児の両立に不安がある」を第１位に挙げているとみることができる。結婚を阻む壁として、結婚後の生活設計への不安があることを、まずおさえる必要がある。結婚を支援する政策として「男女の賃金・所得の安定的確保」への支持が最多であったことは、こうしたことと深く関連していると考えるべきであろう。

最後に婚活や結婚支援に関する意識をみるならば、婚活イベントへの参加状況としては、リピーター的な参加は少なく、出会いのイベントに対する不満感が表明されている。むしろ日常的な友だち付き合いの延長線上で気軽にできることが好まれる傾向が顕著である。また地元の結婚支援員（いわゆる仲人）に依頼した経験がある人はきわめて少数である。誰かにお膳立てされた出会いには抵抗感があり、より広い範囲での、そしてより自然な出会いを求める傾向が読み取れるのである。これまで各地域でよくやられてきたような婚活推進事業のスタイルが必ずしも支持されていない点を、受けとめていかなければならないのではないかと考える。

（２）提言

以上のように調査結果からみると、結婚をめぐる生活設計にかかわる経済力の安定性を確保できるか否かをめぐる不安感が、結婚につき進む上で影を落としていることが明らかである。教育年限が長くかつ安定的な職業に従事している人々が回答者の多数を占める今回の調査結果にも、こうした点があらわれているのは、若い世代の経済的基盤が相対的な意味での安定層にあっても揺らいできていることとかかわっていると考えられるだろう。こうした結果を受けとめるならば、結婚支援政策にとって、若い世代の経済力の確保がそのベースにおかれなければならないことは確かなことであろう。しかも男性の経済的基盤の改善策だけでは十分ではなく、女性のそれをも同時に考えていくことが求められている。夫婦共働きのライフスタイルが主流化しようとしている今日、子育てと仕事との両立支援政策や、これの改善に資する企業努力を引き出していくような政策推進が、結婚支援政策に有効な基盤を与えることになることはあらためて強調するまでもないだろう。行政が実施・推進しうることと、企業や各種団体に働きかけて推進を促すことを腑分けし、行政外の力をも頼りとし引き出していくことも重要な課題であるだろう。

もちろん今回の調査結果が語るのは、若者の経済力や生活設計の問題だけではない。20代女性が跡取りや家のしきたりや決めごとが厳しいことを回避しようとする姿勢にはっきり表れているように、伝統的な「嫁入婚」のライフスタイルにはいり込んで「嫁」としての振る舞いが求められ、そこにさまざまな負荷や制約がかけられることをできるだけ避けたいという意識が強く働いている点を、軽視することはできない。全体として少子化が進む中で、一人っ子というケースが少なくないことを考えれば、家と家の結婚イベントとい

った考え方や「嫁」にまとわりつく重いイメージからの脱皮が必要である。インタビュー調査においても、長女が家の継承に頭を悩ませ、また長男が墓と家の継承を強く意識しているケースが少なからずみられた。跡取りや長男、長女に込められる期待を少しでも軽くし、若い世代が採っていきやすいライフスタイルをあと押しするような結婚支援のあり方も、現実的には求められているのではないだろうか。

そのためには、より多様な結婚生活のあり方の追求が、工夫をこらすことによって可能であることを積極的に提示することもまた重要ではないだろうか。具体的には、若夫婦とシニア夫婦との役割分担モデル、多様な同居・近居の形態の提示・紹介、また夫婦の家事・育児分担モデル、家事・育児する夫像等である。

岩手県で発足した「i-サポ」にも、結婚のマッチング活動の推進や出会いイベント情報の発信も重要ではあるが、それだけではなく、結婚したい人々が結婚に進むことができるような社会環境を視野に取りこんだうえでの活動が求められているのではないだろうか。たとえば上で述べたような若者の経済力のバックアップの必要性に対して、現実的に利用可能な諸施策の紹介、働き方の改善に取リ組むモデル企業の発信、不妊治療助成施策の紹介等も含め､社会環境がしだいに整えられつつあること、そうした若い世代を積極的に応援しようとしていることを知らしめる身近な場所としての役割をも、果たすことが求められている。

また全国的にみても、ボランテイアによる地域の「結婚支援員（いわゆる仲人)」がなかなか紹介する相手を探し切れず、希望通りの「お引き合わせ」にまでつながらないといった問題を抱え、苦慮しているという声は頻繁に聞こえてくる。今回の調査回答をみる限りでも、行政への支援要望事項として「行政や公的団体から委嘱された結婚支援者（いわゆる仲人）等による縁結び事業」に対して期待を表明したのは、きわめて少数（男性 7.7%、女性 5.9%）でしかない。結婚支援者による見合いの効用を実感する機会が少ないために、期待値が低くなっていると考えられよう。こうした結婚支援者の役割をむしろより広くとらえ、上でも触れたように若者の結婚支援の裾野が政策的にも幅広いものであることを提示し､多様なカップルのあり方や跡取り･嫁入り婚の新たな工夫や模索の紹介等を通じて、若者世代に働きかけていくような活動も求められるのではないだろうか。

出会いのイベントについても回答者から多数の意見が寄せられており、傾聴に値する指摘も少なくない。短時間の出会いイベントでは互いを十分に知り合う機会にはなりえないという不満が強いことに、留意する必要がある。1回限りではなく、何度かにわたって継続して相互に関わる機会を設けるなどの工夫が必要ではないだろうか。ある程度回を重ねるなかでお互いの人となりを知り合っていくような事業の企画も、考えられるだろう。そのためには、地域や結婚、生き方や仲間づくり等に関するテーマを設定し、ワークショップスタイルでの「学びの機会」を提供するなど､若い世代同士が一定の時間をかけて交流し、互いを知り合い、ともに学び活動するような流れを作りだすこともできるだろう。

この世代を雇用する地域の企業の力を借りて、連携をとりながら結婚支援のあり方を多

面的に模索することも可能であろう。たとえば異業種間交流のようなかたちを通じて若い世代が互いを知り合う機会も、企業の協力をとりつけることによって開拓することができるのではないだろうか。

（3）今後に向けて

今回の調査を通じて、岩手県下の広い地域の若い世代の声をひろうことができたのは、非常に重要な機会であったということができる。「当事者」こそが悩みつつもいろいろな現実を知っているし、また切実な要望を持っているからである。シングルといっても一筋縄ではいかず、職業や地域、男女、年齢層に応じて実に多種多様な考えや関心を有している。人口問題対策や地域問題対策という視点からの結婚支援事業には、おのずと限界があるのではないだろうか。また結婚や家族の形を従来型のイメージだけに閉じ込めて想定し、それを応援しようとしても、当事者のニーズとかけ離れている場合が少なくないことを、今回の調査は浮き彫りにしているように感じられる。これから結婚していきたいという世代を応援するということは、結婚後の子育てやキャリアプラン、そして老親との関係等、越えていくべきライフコースを視野におさめ、できる限り支援していくという中期的視点が求められている。この地域に根ざして生きていくことを希望する人々のトータルなライフコースを見据え、その一環として結婚支援事業・政策を位置づけていく視点が欠かせないのではないだろうか。

最後に、ひとりひとりの当事者の「声」を聞くという機会は、今後とも重要である。今回の調査では結果として教育年限が相対的に長く、正社員としてあるいは正職員として安定した雇用条件を得ている人々が回答者中のかなりの数にのぼり、またそれだけ賃金等の処遇条件がよい人々が多数派であった。今後は、無作為抽出によるサンプリング法をとるなどして、今回焦点化できにくかった人々、特に非正規雇用の人々や自営業の人々などの現実と意識をつかむ必要があるだろう。もちろん調査によるだけでなく、結婚支援にかかわる政策担当者やこれを推進し担う人々が、当事者たるこの世代自身の声に積極的に耳を傾けるような機会を創り出すことはきわめて重要であると考える。彼ら自身の目線からながめ、またそのアイディアに依拠してそれらを現実化させる力を引き出していくといった工夫が、各地域レベルで模索される必要があるのではないだろうか。

資　　料

・調査票

・男女別年齢別集計結果（自由記述含む）

・インタビュー対象者一覧

結 婚 に 関 す る 意 識 調 査

皆さまには、日頃より当財団の活動にご理解とご支援をいただき厚くお礼申し上げます。

この度、当財団では岩手県が進めている結婚支援への取組みと連携しながら、今後の岩手県の少子化対策、結婚支援策の充実をはかるための基礎資料とするため、シングル（独身）男女の結婚に関する現状や意識を把握する調査を実施することといたしました。

この調査の実施にあたり県内の各機関を通じて、県内在住のおおむね 25 歳～49 歳までの独身男女 1,000 人の方へ調査への回答をお願いさせていただきました。

つきましては、お忙しいところ大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただきご協力くださいますよう心よりお願い申し上げます。

なお、回答内容は統計的に処理し公表いたしますが、個人の回答内容やお名前などの個人情報が公表されることや、外部にもれることは決してございません。

最後になりますが、**８月２０日までにご回答いただきました方には、薄謝ではありますが 500 円のクオカードを届けさせていただくことを申し添えます。**

平成 27 年 7 月

岩手県保健福祉部子ども子育て支援課
総括課長　南　敏幸
公益財団法人いきいき岩手支援財団
理事長　長山　洋

【　ご 記 入 に あ たって 】

1．説明にしたがって、回答欄への記入や、選択肢の番号に○をしてください。
2．お答えが「その他」にあてはまる場合は、（　）内に具体的に記入してください。
3．答えづらい質問・答えたくない質問については、無理に記入していただかなくても結構です。
4．８月２０日までに、ご回答いただき、郵便ポストに投函してください。

【　調査票の封入と謝礼の受け取りについて　】

1．記入済みの調査票は、表に「調査票用」と書かれた封筒【封筒①】に入れ、シールをはがし、封をしてください。
2．調査に回答してくださった方には、謝礼として「クオカード５００円分」をお送りしますので、ご協力者返信用封筒【封筒②】の表に、送付先とお名前をお書きください。
3．「郵便ポスト投函用」と書かれた封筒【封筒③】に、【封筒①】と【封筒②】の両方を入れ、封をして郵便ポストに**８月２０日**までに投函してください。
4．クオカードの発送は９月下旬頃を予定しております。ただし、回答期限の８月２０日を過ぎてご回答いただいた場合や、送付先の記入に不備がある場合はお届けできませんのでご注意ください。

【本調査の実施についてのお問い合わせ】

公益財団法人いきいき岩手支援財団　〒020-0015　岩手県盛岡市本町通三丁目 19-1　岩手県福祉総合相談センター内
TEL：019-626-0196　FAX：019-625-7494　E-mail：yoshida@silverz.or.jp　担当：総務・健康支援グループ　吉田
なお、本調査は、特定非営利活動法人全国地域結婚支援センターに、調査票の企画、結果の集計・分析を委託しています。

【調査票の内容及び記入方法についてのお問い合わせ】

特定非営利活動法人 全国地域結婚支援センター　〒107-0062　東京都港区南青山 2-22-14　フォンテ青山 306
TEL：03-3475-2567　FAX：03-3475-2568　E-mail：y.itamoto@p-co.jp　担当：板本

1

最初に、あなたご自身のことについて簡単な確認をさせてください。

問１．あなたの年齢を教えてください。

＿＿＿＿ **歳**

問２．あなたの性別を教えてください。

1	男
2	女

問３．現在あなたがお住まいの①市町村名と、②住み続けている年数をご記入ください。

① ＿＿＿＿＿＿市・町・村　　② ＿＿＿＿＿＿年

問４．現在あなたはどなたと同居していますか。（あてはまるものすべてに○）

1	祖父	7	兄弟姉妹の配偶者
2	祖母	8	兄弟姉妹の子ども
3	父	9	恋人・パートナー
4	母	10	友人・ルームメイト
5	自分の子ども	11	その他（ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ）
6	兄弟姉妹	12	同居者はいない →問７へ

問５．現在の同居家族のなかで、主として家計を支えているのはどなたですか。

（１つだけに○）

1	あなた自身	7	兄弟姉妹
2	祖父	8	兄弟姉妹の配偶者
3	祖母	9	兄弟姉妹の子ども
4	父	10	恋人・パートナー
5	母	11	友人・ルームメイト
6	自分の子ども	12	その他（ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ）

問６．親と同居している方にうかがいます。親と同居している理由を選んでください。

（あてはまるものすべてに○）

1	炊事・洗濯・掃除などの家事負担が軽い
2	親の家以上に住み心地や利便性のよい住居が見つからない
3	親の家を出ても、住居費を自分で負担できない
4	住居費を自分で負担できるが、親の家に住むとその負担を軽減できる
5	親の意向に逆らえない
6	親の面倒（介護など）を見る必要がある
7	家族経営の自営業だから
8	勤め先に近いから
9	家族なので同居するのが当然である
10	その他（ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ）

問７．あなたの兄弟姉妹の数をお答えください。いない場合は ０ を記入してください。

兄　　人	姉　　人	弟　　人	妹　　人

つぎに結婚について、すべての方におうかがいします。

問８．あなたはこれまでに結婚（届け出をしたもの）をしたことがありますか。

（１つだけに○）

1　結婚経験はない
2　ある（離別した）
3　ある（死別した）

問９．自分の一生を通じて考えた場合、あなたの結婚に対するお考えは、次のうちどれですか。

（１つだけに○）

1　いずれ結婚するつもり
2　ある年齢までには結婚するつもり
3　理想的な相手がみつかるまでは結婚しなくてもかまわない
4　一生結婚するつもりはない　→問 11 へ

問 10．あなたが結婚相手を決めるときに、以下のことについてどのくらい気になりますか。

（それぞれの項目について、あてはまる欄に１つだけ○）

	かなり気になる	やや気になる	あまり気にならない	気にならない
1　相手が家の跡継ぎの立場にある →				
2　相手の家の経済状態 →				
3　相手の親との同居 →				
4　相手の家のしきたりや決めごとがきびしい →				
5　自分が苗字を変えること →				

問 11．自分の結婚について親からのプレッシャーを感じますか。（１つだけに○）

1　強く感じる
2　まあ感じる
3　あまり感じない
4　ほとんど感じない

問 12. 結婚について、あなたはどのようにお考えですか。（１つだけに○）

1　絶対に失敗できない
2　失敗できないと思う
3　うまくいかなければ、望ましくはないが離婚もやむを得ない
4　うまくいかない時は、離婚すればいい

問 13. 結婚していないことについて、あなたはどのように感じていますか。
（それぞれの項目について、あてはまる欄に１つだけ○）

	そう思う	やや そう思う	あまり 思わない	思わない
1　特に問題ではない →				
2　急ぐ必要はない →				
3　シングルのほうが自由でいい →				
4　親に対して悪いなと感じることがある →				
5　周囲の目が気になる →				
6　不安を感じることがある →				
7　結婚してこそ一人前だと思う →				

問 14. あなたが望ましいと思う女性の生き方はどのタイプですか。男性の方は、自分のパートナー（あるいは妻）となる女性に望む生き方を選んでください。（１つだけに○）

1　結婚せず、仕事をつづける
2　結婚をするが子どもを持たず、仕事を続ける
3　結婚し、子どもを持つが、仕事も続ける
4　結婚し子どもを持つが、結婚あるいは出産の機会にいったん退職し、子育て後に再び仕事をもつ
5　結婚し子どもを持ち、結婚あるいは出産を機会に退職し、その後は仕事を持たない
6　その他（ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ）

つぎに、結婚活動（婚活）についておたずねします。

問15. ここ２年間で次の【婚活例】に示すような婚活を行った経験はありますか。（１つだけに○）

１　ある　　２　なし　→　問17 へ

「ある」場合、次の【婚活例】で経験したことがあるものはどれですか（あてはまるものすべてに○）。
また、経験回数などについてカッコ内をご記入ください。→続いて問16 へ

【婚活例】

１　市町村など自治体、公的機関主催の出会いイベントに参加（＿＿回）
２　民間会社の主催する出会いイベントに参加（＿＿回）
３　街コンへの参加（＿＿回）
４　民間の結婚相談所に入会（①入会したのは＿＿年　ヶ月位前　②現在　１．会員　２．退会）
５　ネットの出会いサイトを利用
６　地元の結婚支援員（いわゆる仲人）に紹介を頼んだ
７　友人に紹介を頼んだ
８　職場の同僚や先輩に紹介を頼んだ
９　親や親せきに紹介を頼んだ
10　出会いを期待して趣味のサークルに入った
11　よく飲み会や合コンに出かけるようにしている

問16. 婚活のご感想をお聞かせください。（あてはまるものすべてに○）→続いて問18 へ

１　イベントやお見合い等に行っても、緊張して相手とうまくコミュニケーションできない
２　短時間のイベントでは充分に相手を知ることができない
３　自分が理想とする人になかなか出会えない
４　相談員がなかなか紹介をしてくれない
５　相手に断わられることが多く疲労感がある
６　参加費が高い
７　出会いのイベントはけっこう楽しめるので、好きだ
８　街コンのように自然に出会えるイベントが好きだ
９　交際にいたったこともあるので期待している
10　その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

問17. 婚活をしない理由についておたずねします。（１つだけに○）

１　現在、付き合っている人がいる
２　結婚の予定がある
３　婚活に興味がない
４　婚活の効果はあまりないと思っている
５　地元だと知り合いもいるので参加したくない
６　自分で探したい
７　結婚そのものに興味がない
８　その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

すべての方におうかがいします。

問 18. 今後実施してほしい行政による婚活支援事業は何ですか。（あてはまるもの２つまで○）

1「出会いの場」をもっと各地で開催し、その情報提供もする
2　街コン開催をもっと増やしてほしい
3　行政や公的団体から委嘱された結婚支援員（いわゆる仲人）等による縁結び事業
4　行政や公的団体から委嘱された結婚支援員（いわゆる仲人）の資質向上のための研修会の開催
5「登録制」による結婚相手紹介システムの設置
6　交際にあたってのノウハウを学ぶセミナーの開催
7「出会い」や「お見合い」後のフォローがほしい
8　結婚に関する悩みごとの相談事業
9　結婚という個人的なことに関しての行政による支援は必要ないと思う
10　その他（ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ）

問 19. 結婚したい人が結婚できるようにするために、行政や企業にどのような改善策や支援策を期待していますか。（あてはまるもの３つまで○）

1　男性の賃金・所得の安定的確保
2　男女の賃金・所得の安定的確保
3　男性の正規雇用の拡充
4　男女の正規雇用の拡充
5　長時間労働の是正など、ワークライフバランス（仕事と生活の調和）の推進
6　住宅の確保や家賃補助
7　出産・子育て等に関する情報・相談・資金補助
8　保育所の拡充
9　父親の子育てについて学ぶ機会の提供
10　不妊治療への支援
11　親の介護が結婚の妨げにならないような支援
12　結婚や男女関係について、学ぶ機会の提供
13　夫婦共働きを支援する施策の拡充
14　結婚という個人的なことについて行政や企業による支援は必要ない
15　その他（ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ）

問 20.　自分にとって結婚が難しいと考える理由は何ですか。（あてはまるもの３つまで○）

1　岩手県は首都圏などとくらべて出会いのチャンスが少ない
2　自分の経済力が弱い
3　仕事の内容や条件が相手に敬遠されていると思う
4　異性との交際経験が乏しい
5　結婚後の仕事と家事育児の両立に不安を感じる
6　家・家族の問題（親の介護・後継者という立場・親との同居等）がある
7　健康上の不安を持っている
8　性的な悩みを持っている
9　過去の恋愛や結婚の失敗をひきずっている
10　結婚でしあわせになれるイメージがない
11　その他（ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ）

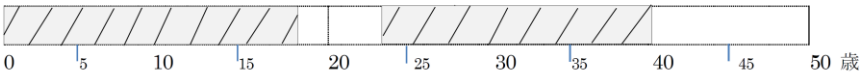
問 21. 東日本大震災後、あなたの結婚に向けての意識や行動は変化しましたか。（あてはまるもの２つまで○）

1　家族や結婚の必要性を前より感じるようになった
2　結婚を急ぎたいという気持ちが芽生えた
3　婚活に積極的に取り組もうと思った
4　震災前より仕事関係や地域の活動などで出会いの機会が増えた
5　自分の結婚より地域復興を優先すべきと考えるようになった
6　結婚に少し悲観的な気持ちをもつようになった
7　あまり大きな変化はない
8　その他（ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ）

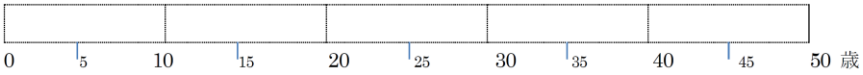
ここからはすべての方に、ご自身とご家族の教育と仕事についてお伺いします。

問 22.　あなたのこれまでの居住地についておうかがいします。これまでの居住地が岩手県内であった期間を下の目盛り（年齢）の上に斜線で記入してください。

（記入例）生まれてから 18 歳までと、23 歳から 40 歳（現在）まで岩手県内に居住している場合

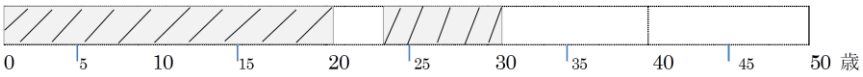


記入欄（上の例を参考にあなたの場合を記入してください。）

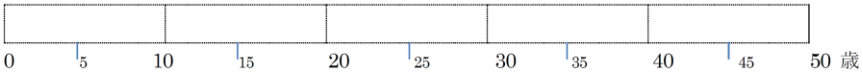


問 23.　あなたのこれまでの親と同居して生活している期間についてうかがいます。これまでの居住形態が親と同居していた期間を、下の目盛り（年齢）の上に斜線で記入してください。

（記入例）生まれてから 20 歳までと、23 歳から 30 歳まで同居し、40 歳（現在）は別居している場合



記入欄（上の例を参考にあなたの場合を記入してください。）



問 24. あなたの現在の主たる勤め先と、学校を出てから（中退を含む）初めての勤め先はどれですか。
次のページの【A表】からあてはまる番号１つだけ選んで、その番号を下の欄に記入してください。
その他の場合は、その内容をお書き下さい。

現在　　初めての勤務先

□ その他＿＿＿＿＿＿＿＿　　□ その他＿＿＿＿＿＿＿＿

問 25. 現在のあなたの勤め先の従業員規模はどれですか。
（１つだけに○）

1	１～9 人	3	30～99 人	5	300～999 人
2	10～29 人	4	100～299 人	6	1000 人以上

問 26. あなたの現在の主な仕事と、学校を出てから（中退を含む）初めて就いた仕事はどれですか。
次のページの【B表】からあてはまる番号１つだけ選んで、その番号を下の欄に記入してください。

現在　　初めての勤務先

□　　□

問 27. あなたは現在の雇用形態と、学校を出てから（中退を含む）初めて就いた仕事の雇用形態はどれですか。
次のページの【C表】からあてはまる番号１つだけ選んで、その番号を下の欄に記入してください。
その他の場合は、その内容をお書き下さい。

現在　　初めての勤務先

□ その他＿＿＿＿＿＿＿＿　　□ その他＿＿＿＿＿＿＿＿

問 28. あなたの中学校時代に、家計を支えていた方はどなたですか。
（あてはまるものすべてに○。そのうちもっとも収入が多かった方に◎）

1	父	3	祖父	5	兄	7	その他（　　）
2	母	4	祖母	6	姉		

問 29. 問 28 で◎をつけた方の当時の主たる勤め先はどれですか。次のページの【A表】からあてはまる番号１つだけ選んで、その番号を下の欄に記入してください。その他の場合は、その内容をお書き下さい。

□ その他＿＿＿＿＿＿＿＿

問 30. その方の当時の主な仕事はどれですか。次のページの【B表】からあてはまる番号１つだけ選んで、その番号を下の欄に記入してください。その他の場合は、その内容をお書き下さい。

□ その他＿＿＿＿＿＿＿＿

問 31. その方の当時の雇用形態はどれですか。次のページの【C表】からあてはまる番号１つだけ選んで、その番号を下の欄に記入してください。その他の場合は、その内容をお書き下さい。

□ その他＿＿＿＿＿＿＿＿

【A表】　勤め先

1	民間企業
2	官公庁（公務、公立病院等を含む）
3	団体職員（農協、公益法人、社会福祉協議会、医療法人、NPO など）
4	自営業の農林漁業
5	自営業の商工サービス
6	無職・家事（求職中）
7	無職・家事（非求職）
8	その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

【B表】　仕事

1	管理的職業……会社・官庁・団体の役員、管理職（課長相当職以上）など
2	専門的職業……弁護士、医師、芸術家、教師、公認会計士など
3	技術的職業……技術者・エンジニア、看護師、保育士など
4	事務的職業……会社・官庁・団体の事務職員など
5	販売的職業……店員、販売員、セールスパーソンなど
6	サービス的職業……ウェイター、ウェイトレス、コック、集金人、 理容師・ 美容師、雇用されている接客従事者など
7	技能的職業……熟練工、整備士、大工など
8	保安的職業……自衛官・警察官・消防士など
9	生産工程・運輸従事者…工場勤務者、建設作業者、運転手、 雇用されている農林漁業従事者など
10	自営の農林漁業（農林漁業の経営者、家族従業者）
11	自営の商工サービス業（商工サービス業の経営者、家族従業者）
12	その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

【C表】　雇用形態

1	正社員・正職員（常用雇用されている一般従業者）
2	契約社員・嘱託社員
3	派遣社（職）員
4	パート・アルバイト
5	臨時・日雇い
6	自営業主
7	自営業の家族従業員
8	内職
9	その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

問 32. あなたの最終学歴は次のどれにあてはまりますか。（１つだけに○）

1 中学校卒業	5 短大・高専・専門学校卒業	9 大学院修了
2 高等学校中退	6 大学中退	10 その他
3 高等学校卒業	7 大学卒業	（ ＿＿＿＿＿＿＿＿ ）
4 短大・高専・専門学校中退	8 大学院中退	

問 33. 最終学歴にあたる学校の所在地を教えてください。

［　　］ 都・道・府・県（［　　］の中に都道府県名お書き下さい）

問 34. 学校を出てから（中退を含む）初めての勤務地について教えてください。

［　　］ 都・道・府・県（［　　］の中に都道府県名お書き下さい）

問 35. 現在のあなたの主な仕事の継続期間はどれですか。現在無職の場合はその継続期間をお答え下さい。（１つだけに○）

1 半年未満	4 2～3 年未満	7 5～9 年未満
2 半年～1 年未満	5 3～4 年未満	8 10 年～15 年未満
3 1～2 年未満	6 4～5 年未満	9 15 年以上

問 36. あなたは学校を出てから（中退を含む）現在まで、何回勤め先を変えましたか。（１つだけに○）

1 勤め先を変えたたことはない	4 3～4 回	7 仕事についた経験がない
2 １回	5 5～9 回	
3 ２回	6 10 回以上	

問 37. あなたは学校を出てから（中退を含む）現在まで、何回転居しましたか。（１つだけに○）

1 転居したことはない	3 2 回	5 5～9 回
2 １回	4 3～4 回	6 10 回以上

問 38. あなた自身が働いて得た手取り収入（総収入から租税・社会保険料等を引いた収入）は、昨年の 1 年間でおよそいくらでしたか。（１つだけに○）

1 なし	5 150～200 万円未満	9 400～600 万円未満
2 50 万円未満	6 200～250 万円未満	10 600～800 万円未満
3 50～100 万円未満	7 250～300 万円未満	11 800 万円以上
4 100～150 万円未満	8 300～400 万円未満	

問 39. 昨年 1 年間のあなたを含めた世帯の総収入は、手取り（総収入から租税・社会保険料等を引いた収入）でおよそいくらでしたか。（１つだけに○）

1 なし	5 300～400 万円未満	9 1000～1200 万円未満
2 100 万円未満	6 400～600 万円未満	10 1200～1500 万円未満
3 100～200 万円未満	7 600～800 万円未満	11 1500～2000 万円
4 200～300 万円未満	8 800～1000 万円未満	12 2000 万円以上

問 40. 経済的に困った時や仕事上の悩みの相談相手はいますか。（１つだけに○）

1 いる　　→問 41 へ
2 そういう人がいればいいなと思うが、いない　→問 42 へ
3 そういう人が必要だと思わず、いない　→問 42 へ

問 41. 問 40 の相談相手について、あてはまる人の番号に○をつけてください。
（あてはまるものすべてに○。そのうちもっともあてはまる番号１つに◎）

1 親
2 きょうだい
3 １．２以外の家族・親戚
4 恋人・パートナー
5 小中学校時代の友だち・幼なじみ
6 ５以外の学校で知り合った友達
7 学校の先生・職員・相談員
8 趣味・同好の仲間
9 職場・アルバイト先の友だち・同僚・先輩
10 職場・アルバイト先の上司
11 地域の知り合い
12 カウンセラー等の専門家や公的な支援機関
13 その他（ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ）

問 42. 恋愛や結婚についての悩みの相談相手はいますか。（１つだけに○）

1 いる　　→問 43 へ
2 そういう人がいればいいなと思うが、いない　→問 44 へ
3 そういう人が必要だと思わず、いない　　→問 44 へ

問 43. 問 42 の相談相手について、あてはまる人の番号に○をつけてください。
（あてはまるものすべてに○。そのうちもっともあてはまる番号１つに◎）

1 親
2 きょうだい
3 １．２以外の家族・親戚
4 恋人・パートナー
5 小中学校時代の友だち・幼なじみ
6 ５以外の学校で知り合った友だち
7 学校の先生・職員・相談員
8 趣味・同好の仲間
9 職場・アルバイト先の友だち・同僚・先輩
10 職場・アルバイト先の上司
11 地域の知り合い
12 カウンセラー等の専門家や公的な支援機関
13 その他（ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ）

問 44. 結婚支援について、国・県・市町村等に望む取組みやご意見などがあれば、ご自由にお書きください。

以上で調査は終わりです。ご協力いただき、誠にありがとうございました。

面 接 調 査 の お 願 い

ご了解いただける方には、直接お会いしてさらにアンケートだけでは表しきれなかった点などについてうかがいたいと希望しています。調査は今年の秋以降を予定しています。面接調査を受けてもよい方は、「１．受けてもよい」に〇をつけ連絡先電話番号等をご記入ください。こちらよりご連絡を差し上げます。

面接調査について（どちらか１つに〇）

１．受けてもよい ２．受けられない

１．の方のみ、連絡先電話番号またはメールアドレスを下欄にお書きください

男女別年齢別集計結果（その他記述も含む）

問1・問2　男女別年齢

	20代以下	30代	40代以上	N.A.	合計
男性	78 39.8%	72 36.7%	46 23.5%	0 0.0%	196 100.0%
女性	99 48.3%	70 34.1%	32 15.6%	4 2.0%	205 100.0%
全体	178 44.2%	143 35.5%	78 19.4%	4 1.0%	403 100.0%

（注）全体には性別不明2名を含む

問3①　居住地域

		盛岡広域	県北広域	県南広域	沿岸広域	N.A.	合計
20代以下	男性	31 39.7%	14 17.9%	10 12.8%	21 26.9%	2 2.6%	78 100.0%
	女性	41 41.4%	12 12.1%	31 31.3%	13 13.1%	2 2.0%	99 100.0%
30代	男性	24 33.3%	9 12.5%	21 29.2%	18 25.0%	0 0.0%	72 100.0%
	女性	32 45.7%	10 14.3%	14 20.0%	14 20.0%	0 0.0%	70 100.0%
40代以上	男性	14 30.4%	8 17.4%	17 37.0%	6 13.0%	1 2.2%	46 100.0%
	女性	19 59.4%	3 9.4%	5 15.6%	4 12.5%	1 3.1%	32 100.0%
全体	男性	69 35.2%	31 15.8%	48 24.5%	45 23.0%	3 1.5%	196 100.0%
	女性	93 45.4%	26 12.7%	50 24.4%	33 16.1%	3 1.5%	205 100.0%

（注）全体は回答者403名より性別不明2名を除く

問3②　現在の居住地に住み続けている年数

		3年未満	3～9年	10～19年	20～29年	30～39年	40年以上	N.A.	合計
20代以下	男性	27 34.6%	31 39.7%	2 2.6%	18 23.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	78 100.0%
	女性	24 24.2%	37 37.4%	9 9.1%	26 26.3%	0 0.0%	0 0.0%	3 3.0%	99 100.0%
30代	男性	11 15.3%	26 36.1%	13 18.1%	2 2.8%	19 26.4%	0 0.0%	1 1.4%	72 100.0%
	女性	12 17.1%	21 30.0%	19 27.1%	5 7.1%	13 18.6%	0 0.0%	0 0.0%	70 100.0%
40代以上	男性	8 17.4%	8 17.4%	7 15.2%	10 21.7%	1 2.2%	10 21.7%	2 4.3%	46 100.0%
	女性	3 9.4%	5 15.6%	7 21.9%	7 21.9%	1 3.1%	8 25.0%	1 3.1%	32 100.0%
全体	男性	46 23.5%	65 33.2%	22 11.2%	30 15.3%	20 10.2%	10 5.1%	3 1.5%	196 100.0%
	女性	40 19.5%	63 30.7%	35 17.1%	40 19.5%	14 6.8%	8 3.9%	5 2.4%	205 100.0%

（注）全体は回答者403名より性別不明2名を除く

問4　現在の同居者

【複数回答　合計欄の（ ）は母数】

		1 祖父	2 祖母	3 父	4 母	5 自分の子ども	6 兄弟姉妹	7 兄弟姉妹の配偶者	8 兄弟姉妹の子ども	9 恋人・パートナー	10 友人・ルームメイト	11 その他	12 同居者はいない	合計
20代以下	男性	9	23	40	45	0	21	1	2	2	0	5	24	(78)
		11.5%	29.5%	51.3%	57.7%	0.0%	26.9%	1.3%	2.6%	2.6%	0.0%	6.4%	30.8%	100.0%
	女性	13	18	56	68	5	34	1	1	3	1	1	25	(99)
		13.1%	18.2%	56.6%	68.7%	5.1%	34.3%	1.0%	1.0%	3.0%	1.0%	1.0%	25.3%	100.0%
30代	男性	5	11	35	47	1	11	0	1	1	0	0	21	(72)
		6.9%	15.3%	48.6%	65.3%	1.4%	15.3%	0.0%	1.4%	1.4%	0.0%	0.0%	29.2%	100.0%
	女性	7	8	36	40	7	15	2	1	2	0	1	18	(70)
		10.0%	11.4%	51.4%	57.1%	10.0%	21.4%	2.9%	1.4%	2.9%	0.0%	1.4%	25.7%	100.0%
40代以上	男性	0	1	19	26	1	6	0	0	1	1	0	18	(46)
		0.0%	2.2%	41.3%	56.5%	2.2%	13.0%	0.0%	0.0%	2.2%	2.2%	0.0%	39.1%	100.0%
	女性	0	3	18	22	1	8	2	3	0	0	0	6	(32)
		0.0%	9.4%	56.3%	68.8%	3.1%	25.0%	6.3%	9.4%	0.0%	0.0%	0.0%	18.8%	100.0%
全体	男性	14	35	94	118	2	38	1	3	4	1	5	63	(196)
		7.1%	17.9%	48.0%	60.2%	1.0%	19.4%	0.5%	1.5%	2.0%	0.5%	2.6%	32.1%	100.0%
	女性	20	29	112	131	13	58	5	5	5	1	2	50	(205)
		9.8%	14.1%	54.6%	63.9%	6.3%	28.3%	2.4%	2.4%	2.4%	0.5%	1.0%	24.4%	100.0%

（注）全体は回答者403名より性別不明2名を除く

【問4　その他の記述】

・いとこ
・叔母
・会社の従業員
・叔母
・おじ

問5　同居家計支持者

		1 あなた自身	2 祖父	3 祖母	4 父	5 母	7 兄弟姉妹	10 恋人・パートナー	12 その他	N.A.	合計
20代以下	男性	7 13.0%	0 0.0%	0 0.0%	35 64.8%	7 13.0%	1 1.9%	0 0.0%	0 0.0%	4 7.4%	54 100.0%
	女性	6 8.1%	0 0.0%	1 1.4%	46 62.2%	10 13.5%	1 1.4%	1 1.4%	3 4.1%	6 8.1%	74 100.0%
30代	男性	16 31.4%	1 2.0%	0 0.0%	23 45.1%	5 9.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 11.8%	51 100.0%
	女性	12 23.1%	0 0.0%	0 0.0%	29 55.8%	7 13.5%	0 0.0%	1 1.9%	1 1.9%	2 3.8%	52 100.0%
40代以上	男性	14 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	11 39.3%	1 3.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 7.1%	28 100.0%
	女性	5 20.0%	0 0.0%	1 4.0%	12 48.0%	0 0.0%	2 8.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 20.0%	25 100.0%
全体	男性	37 27.8%	1 0.8%	0 0.0%	69 51.9%	13 9.8%	1 0.8%	0 0.0%	0 0.0%	12 9.0%	133 100.0%
	女性	24 15.6%	0 0.0%	2 1.3%	88 57.1%	17 11.0%	3 1.9%	2 1.3%	4 2.6%	14 9.1%	154 100.0%

（注）全体は回答者403名より性別不明及び独居116名を除く

【問5　その他の記述】

・叔母

問6　親と同居している理由

【複数回答　合計欄の（ ）は母数】

		1 家事負担が軽い	2 よい住居が見つからない	3 住居費を負担できない	4 住居費の負担軽減	5 親の意向に逆らえない	6 親の面倒を見る必要	7 家族経営の自営業	8 勤め先に近い	9 家族なので同居が当然	10 その他	合計
20代以下	男性	17 36.2%	12 25.5%	7 14.9%	18 38.3%	1 2.1%	1 2.1%	5 10.6%	21 44.7%	4 8.5%	3 6.4%	(47) 100.0%
	女性	24 35.3%	12 17.6%	25 36.8%	21 30.9%	1 1.5%	6 8.8%	1 1.5%	23 33.8%	7 10.3%	9 13.2%	(68) 100.0%
30代	男性	22 45.8%	8 16.7%	7 14.6%	16 33.3%	0 0.0%	10 20.8%	5 10.4%	16 33.3%	8 16.7%	3 6.3%	(48) 100.0%
	女性	16 35.6%	8 17.8%	17 37.8%	10 22.2%	1 2.2%	4 8.9%	3 6.7%	9 20.0%	10 22.2%	3 6.7%	(45) 100.0%
40代以上	男性	7 26.9%	3 11.5%	2 7.7%	9 34.6%	0 0.0%	9 34.6%	3 11.5%	6 23.1%	11 42.3%	2 7.7%	(26) 100.0%
	女性	9 37.5%	3 12.5%	6 25.0%	7 29.2%	0 0.0%	5 20.8%	0 0.0%	7 29.2%	2 8.3%	1 4.2%	(24) 100.0%
全体	男性	46 38.0%	23 19.0%	16 13.2%	43 35.5%	1 0.8%	20 16.5%	13 10.7%	43 35.5%	23 19.0%	8 6.6%	(121) 100.0%
	女性	49 35.3%	23 16.5%	48 34.5%	38 27.3%	2 1.4%	16 11.5%	4 2.9%	40 28.8%	19 13.7%	13 9.4%	(139) 100.0%

（注）全体は回答者403名より性別不明及び親との非同居143名を除く

【問6　その他の記述】

・長男なので。但し、風呂と寝るのだけは、別宅でしている。
・アパートが見つからない
・特に別居する理由がない
・いずれ、家を建てるため。
・自分の家なので。
・別居する理由がとくにないため。
・父とともに農業経営をしている
・1人暮らし資金を貯めるため。
・兄弟で家計を支えているため、親に現状収入源がない。
・職場に認められないため。
・祖父の面倒を見る必要がある。
・自宅なので。
・両親が、仕事が忙しく帰りも遅いため、家事全般をやらなければならない
・なんとなく
・その他にすむ住宅がない
・一人暮らしをしたくないから
・Uターンしたばかりなのでとりあえず。
・他に住む場所（アパート等）に空きがない
・地方を盛り上げたいと思い帰ってきたため、実家にいる方が、仕事面でも好都合でもあるため。
・会社の指示

問7　兄弟姉妹数

		0人	1人	2人	3人	4人	8人	N.A.	合計
20代以下	男性	7 9.0%	32 41.0%	33 42.3%	3 3.8%	2 2.6%	0 0.0%	1 1.3%	78 100.0%
	女性	7 7.1%	47 47.5%	31 31.3%	9 9.1%	2 2.0%	0 0.0%	3 3.0%	99 100.0%
30代	男性	12 16.7%	31 43.1%	26 36.1%	1 1.4%	1 1.4%	1 1.4%	0 0.0%	72 100.0%
	女性	6 8.6%	32 45.7%	25 35.7%	3 4.3%	2 2.9%	0 0.0%	2 2.9%	70 100.0%
40代以上	男性	5 10.9%	17 37.0%	17 37.0%	6 13.0%	1 2.2%	0 0.0%	0 0.0%	46 100.0%
	女性	1 3.1%	20 62.5%	7 21.9%	3 9.4%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.1%	32 100.0%
全体	男性	24 12.2%	80 40.8%	76 38.8%	10 5.1%	4 2.0%	1 0.5%	1 0.5%	196 100.0%
	女性	15 7.3%	101 49.3%	64 31.2%	15 7.3%	4 2.0%	0 0.0%	6 2.9%	205 100.0%

（注）全体は回答者403名より性別不明2名を除く

問7　男女別出生順位からみた本人の立場

		「跡継ぎ」息子	「跡継ぎ」でない息子	「跡継ぎ」娘	「跡継ぎ」でない娘	N.A.	合計
20代以下	男性	54 69.2%	23 29.5%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.3%	78 100.0%
	女性	0 0.0%	0 0.0%	23 23.2%	73 73.7%	3 3.0%	99 100.0%
30代	男性	57 79.2%	15 20.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	72 100.0%
	女性	0 0.0%	0 0.0%	14 20.0%	54 77.1%	2 2.9%	70 100.0%
40代以上	男性	34 73.9%	12 26.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	46 100.0%
	女性	0 0.0%	0 0.0%	8 25.0%	23 71.9%	1 3.1%	32 100.0%
全体	男性	145 74.0%	50 25.5%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.5%	196 100.0%
	女性	0 0.0%	0 0.0%	46 22.4%	153 74.6%	6 2.9%	205 100.0%

（注）全体は回答者403名より性別不明2名を除く
回答者が長男である場合は「跡継ぎ」息子と捉え、長女であり兄弟がいない場合は「跡継ぎ」娘と捉えた。
回答者自身が「跡継ぎ」であると回答しているわけではない。

問8　結婚経験

		1 なし	2 ある（離別）	3 ある（死別）	N.A.	合計
20代以下	男性	78 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	78 100.0%
	女性	94 94.9%	4 4.0%	0 0.0%	1 1.0%	99 100.0%
30代	男性	66 91.7%	5 6.9%	1 1.4%	0 0.0%	72 100.0%
	女性	61 87.1%	9 12.9%	0 0.0%	0 0.0%	70 100.0%
40代以上	男性	38 82.6%	8 17.4%	0 0.0%	0 0.0%	46 100.0%
	女性	27 84.4%	5 15.6%	0 0.0%	0 0.0%	32 100.0%
全体	男性	182 92.9%	13 6.6%	1 0.5%	0 0.0%	196 100.0%
	女性	186 90.7%	18 8.8%	0 0.0%	1 0.5%	205 100.0%

（注）全体は回答者403名より性別不明2名を除く

問9　結婚意思

		1 いずれ結婚するつもり	2 ある年齢までには結婚するつもり	3 理想的な相手が見つかるまで結婚しなくてもよい	4 一生結婚するつもりはない	N.A.	合計
20代以下	男性	48 61.5%	15 19.2%	13 16.7%	1 1.3%	1 1.3%	78 100.0%
	女性	61 61.6%	23 23.2%	14 14.1%	0 0.0%	1 1.0%	99 100.0%
30代	男性	47 65.3%	8 11.1%	17 23.6%	0 0.0%	0 0.0%	72 100.0%
	女性	28 40.0%	5 7.1%	34 48.6%	3 4.3%	0 0.0%	70 100.0%
40代以上	男性	32 69.6%	3 6.5%	8 17.4%	2 4.3%	1 2.2%	46 100.0%
	女性	8 25.0%	1 3.1%	19 59.4%	1 3.1%	3 9.4%	32 100.0%
全体	男性	127 64.8%	26 13.3%	38 19.4%	3 1.5%	2 1.0%	196 100.0%
	女性	99 48.3%	29 14.1%	69 33.7%	4 2.0%	4 2.0%	205 100.0%

（注）全体は回答者403名より性別不明2名を除く

問10　結婚相手を決めるときに気になること

1. 相手が家の跡継ぎの立場にある

		かなり気になる	やや気になる	あまり気にならない	気にならない	N.A.	合計
20代以下	男性	10 13.2%	25 32.9%	20 26.3%	21 27.6%	0 0.0%	76 100.0%
	女性	21 21.4%	54 55.1%	19 19.4%	4 4.1%	0 0.0%	98 100.0%
30代	男性	20 27.8%	23 31.9%	15 20.8%	11 15.3%	3 4.2%	72 100.0%
	女性	17 25.4%	28 41.8%	15 22.4%	7 10.4%	0 0.0%	67 100.0%
40代以上	男性	23 53.5%	12 27.9%	4 9.3%	2 4.7%	2 4.7%	43 100.0%
	女性	4 14.3%	19 67.9%	5 17.9%	0 0.0%	0 0.0%	28 100.0%
全体	男性	53 27.7%	60 31.4%	39 20.4%	34 17.8%	5 2.6%	191 100.0%
	女性	45 22.8%	102 51.8%	39 19.8%	11 5.6%	0 0.0%	197 100.0%

（注）全体は回答者403名より性別不明及び「一生結婚するつもりはない」15名を除く

2. 相手の家の経済状態

		かなり気になる	やや気になる	あまり気にならない	気にならない	N.A.	合計
20代以下	男性	2 2.6%	21 27.6%	30 39.5%	23 30.3%	0 0.0%	76 100.0%
	女性	21 21.4%	51 52.0%	24 24.5%	2 2.0%	0 0.0%	98 100.0%
30代	男性	7 9.7%	23 31.9%	29 40.3%	11 15.3%	2 2.8%	72 100.0%
	女性	12 17.9%	36 53.7%	16 23.9%	2 3.0%	1 1.5%	67 100.0%
40代以上	男性	1 2.3%	15 34.9%	18 41.9%	7 16.3%	2 4.7%	43 100.0%
	女性	5 17.9%	17 60.7%	4 14.3%	2 7.1%	0 0.0%	28 100.0%
全体	男性	10 5.2%	59 30.9%	77 40.3%	41 21.5%	4 2.1%	191 100.0%
	女性	41 20.8%	105 53.3%	44 22.3%	6 3.0%	1 0.5%	197 100.0%

（注）全体は回答者403名より性別不明及び「一生結婚するつもりはない」15名を除く

3. 相手の親との同居

		かなり気になる	やや気になる	あまり気にならない	気にならない	N.A.	合計
20代以下	男性	13 17.1%	32 42.1%	16 21.1%	15 19.7%	0 0.0%	76 100.0%
	女性	48 49.0%	40 40.8%	8 8.2%	2 2.0%	0 0.0%	98 100.0%
30代	男性	18 25.0%	29 40.3%	12 16.7%	10 13.9%	3 4.2%	72 100.0%
	女性	26 38.8%	25 37.3%	14 20.9%	2 3.0%	0 0.0%	67 100.0%
40代以上	男性	12 27.9%	18 41.9%	11 25.6%	0 0.0%	2 4.7%	43 100.0%
	女性	8 28.6%	14 50.0%	5 17.9%	0 0.0%	1 3.6%	28 100.0%
全体	男性	43 22.5%	79 41.4%	39 20.4%	25 13.1%	5 2.6%	191 100.0%
	女性	84 42.6%	81 41.1%	27 13.7%	4 2.0%	1 0.5%	197 100.0%

（注）全体は回答者403名より性別不明及び「一生結婚するつもりはない」15名を除く

4. 相手の家のしきたりや決めごとがきびしい

		かなり気になる	やや気になる	あまり気にならない	気にならない	N.A.	合計
20代以下	男性	12 15.8%	29 38.2%	23 30.3%	12 15.8%	0 0.0%	76 100.0%
	女性	51 52.0%	42 42.9%	5 5.1%	0 0.0%	0 0.0%	98 100.0%
30代	男性	22 30.6%	23 31.9%	16 22.2%	9 12.5%	2 2.8%	72 100.0%
	女性	34 50.7%	24 35.8%	8 11.9%	1 1.5%	0 0.0%	67 100.0%
40代以上	男性	10 23.3%	20 46.5%	10 23.3%	1 2.3%	2 4.7%	43 100.0%
	女性	12 42.9%	11 39.3%	3 10.7%	2 7.1%	0 0.0%	28 100.0%
全体	男性	44 23.0%	72 37.7%	49 25.7%	22 11.5%	4 2.1%	191 100.0%
	女性	100 50.8%	78 39.6%	16 8.1%	3 1.5%	0 0.0%	197 100.0%

（注）全体は回答者403名より性別不明及び「一生結婚するつもりはない」15名を除く

5. 自分が苗字を変えること

		かなり気になる	やや気になる	あまり気にならない	気にならない	N.A.	合計
20代以下	男性	18 23.7%	12 15.8%	16 21.1%	30 39.5%	0 0.0%	76 100.0%
	女性	1 1.0%	14 14.3%	19 19.4%	64 65.3%	0 0.0%	98 100.0%
30代	男性	17 23.6%	20 27.8%	17 23.6%	16 22.2%	2 2.8%	72 100.0%
	女性	3 4.5%	7 10.4%	18 26.9%	39 58.2%	0 0.0%	67 100.0%
40代以上	男性	19 44.2%	10 23.3%	9 20.9%	3 7.0%	2 4.7%	43 100.0%
	女性	2 7.1%	5 17.9%	7 25.0%	14 50.0%	0 0.0%	28 100.0%
全体	男性	54 28.3%	42 22.0%	42 22.0%	49 25.7%	4 2.1%	191 100.0%
	女性	6 3.0%	27 13.7%	46 23.4%	118 59.9%	0 0.0%	197 100.0%

（注）全体は回答者403名より性別不明及び「一生結婚するつもりはない」15名を除く

問11　結婚について親からのプレッシャー

		1 強く感じる	2 まあ感じる	3 あまり感じない	4 ほとんど感じない	N.A.	合計
20代以下	男性	2 2.6%	26 33.3%	27 34.6%	23 29.5%	0 0.0%	78 100.0%
	女性	6 6.1%	38 38.4%	29 29.3%	25 25.3%	1 1.0%	99 100.0%
30代	男性	11 15.3%	31 43.1%	19 26.4%	10 13.9%	1 1.4%	72 100.0%
	女性	13 18.6%	20 28.6%	16 22.9%	20 28.6%	1 1.4%	70 100.0%
40代以上	男性	12 26.1%	21 45.7%	10 21.7%	3 6.5%	0 0.0%	46 100.0%
	女性	3 9.4%	11 34.4%	8 25.0%	9 28.1%	1 3.1%	32 100.0%
全体	男性	25 12.8%	78 39.8%	56 28.6%	36 18.4%	1 0.5%	196 100.0%
	女性	22 10.7%	69 33.7%	55 26.8%	56 27.3%	3 1.5%	205 100.0%

（注）全体は回答者403名より性別不明2名を除く

問12　結婚のハードル

		1 絶対に失敗できない	2 失敗できないと思う	3 うまくいかなければ離婚もやむを得ない	4 うまくいかない時は離婚すればいい	N.A.	合計
20代以下	男性	8 10.3%	43 55.1%	23 29.5%	4 5.1%	0 0.0%	78 100.0%
	女性	11 11.1%	30 30.3%	57 57.6%	1 1.0%	0 0.0%	99 100.0%
30代	男性	5 6.9%	31 43.1%	31 43.1%	5 6.9%	0 0.0%	72 100.0%
	女性	3 4.3%	12 17.1%	43 61.4%	12 17.1%	0 0.0%	70 100.0%
40代以上	男性	4 8.7%	13 28.3%	22 47.8%	6 13.0%	1 2.2%	46 100.0%
	女性	1 3.1%	4 12.5%	18 56.3%	8 25.0%	1 3.1%	32 100.0%
全体	男性	17 8.7%	87 44.4%	76 38.8%	15 7.7%	1 0.5%	196 100.0%
	女性	15 7.3%	48 23.4%	120 58.5%	21 10.2%	1 0.5%	205 100.0%

（注）全体は回答者403名より性別不明2名を除く

問13　結婚していないことについて

1. 特に問題ではない

		そう思う	ややそう思う	あまり思わない	思わない	N.A.	合計
20代以下	男性	35 44.9%	27 34.6%	13 16.7%	3 3.8%	0 0.0%	78 100.0%
	女性	32 32.3%	38 38.4%	21 21.2%	8 8.1%	0 0.0%	99 100.0%
30代	男性	20 27.8%	21 29.2%	26 36.1%	5 6.9%	0 0.0%	72 100.0%
	女性	23 32.9%	23 32.9%	17 24.3%	7 10.0%	0 0.0%	70 100.0%
40代以上	男性	9 19.6%	11 23.9%	9 19.6%	15 32.6%	2 4.3%	46 100.0%
	女性	12 37.5%	8 25.0%	8 25.0%	4 12.5%	0 0.0%	32 100.0%
全体	男性	64 32.7%	59 30.1%	48 24.5%	23 11.7%	2 1.0%	196 100.0%
	女性	68 33.2%	70 34.1%	48 23.4%	19 9.3%	0 0.0%	205 100.0%

（注）全体は回答者403名より性別不明2名を除く

2. 急ぐ必要はない

		そう思う	ややそう思う	あまり思わない	思わない	N.A.	合計
20代以下	男性	36 46.2%	27 34.6%	14 17.9%	1 1.3%	0 0.0%	78 100.0%
	女性	33 33.3%	41 41.4%	19 19.2%	6 6.1%	0 0.0%	99 100.0%
30代	男性	19 26.4%	21 29.2%	26 36.1%	5 6.9%	1 1.4%	72 100.0%
	女性	28 40.0%	27 38.6%	10 14.3%	5 7.1%	0 0.0%	70 100.0%
40代以上	男性	9 19.6%	10 21.7%	9 19.6%	16 34.8%	2 4.3%	46 100.0%
	女性	12 37.5%	9 28.1%	6 18.8%	5 15.6%	0 0.0%	32 100.0%
全体	男性	64 32.7%	58 29.6%	49 25.0%	22 11.2%	3 1.5%	196 100.0%
	女性	74 36.1%	79 38.5%	36 17.6%	16 7.8%	0 0.0%	205 100.0%

（注）全体は回答者403名より性別不明2名を除く

3. シングルのほうが自由でいい

		そう思う	ややそう思う	あまり思わない	思わない	N.A.	合計
20代以下	男性	22 28.2%	31 39.7%	18 23.1%	7 9.0%	0 0.0%	78 100.0%
	女性	14 14.1%	52 52.5%	27 27.3%	6 6.1%	0 0.0%	99 100.0%
30代	男性	19 26.4%	28 38.9%	18 25.0%	6 8.3%	1 1.4%	72 100.0%
	女性	23 32.9%	33 47.1%	10 14.3%	4 5.7%	0 0.0%	70 100.0%
40代以上	男性	11 23.9%	15 32.6%	10 21.7%	8 17.4%	2 4.3%	46 100.0%
	女性	17 53.1%	9 28.1%	4 12.5%	2 6.3%	0 0.0%	32 100.0%
全体	男性	52 26.5%	74 37.8%	46 23.5%	21 10.7%	3 1.5%	196 100.0%
	女性	56 27.3%	96 46.8%	41 20.0%	12 5.9%	0 0.0%	205 100.0%

（注）全体は回答者403名より性別不明2名を除く

4. 親に対して悪いなと感じることがある

		そう思う	ややそう思う	あまり思わない	思わない	N.A.	合計
20代以下	男性	6 7.7%	28 35.9%	23 29.5%	21 26.9%	0 0.0%	78 100.0%
	女性	13 13.1%	46 46.5%	22 22.2%	18 18.2%	0 0.0%	99 100.0%
30代	男性	17 23.6%	34 47.2%	14 19.4%	6 8.3%	1 1.4%	72 100.0%
	女性	31 44.3%	21 30.0%	12 17.1%	6 8.6%	0 0.0%	70 100.0%
40代以上	男性	19 41.3%	17 37.0%	5 10.9%	3 6.5%	2 4.3%	46 100.0%
	女性	15 46.9%	8 25.0%	6 18.8%	3 9.4%	0 0.0%	32 100.0%
全体	男性	42 21.4%	79 40.3%	42 21.4%	30 15.3%	3 1.5%	196 100.0%
	女性	60 29.3%	77 37.6%	41 20.0%	27 13.2%	0 0.0%	205 100.0%

（注）全体は回答者403名より性別不明2名を除く

5. 周囲の目が気になる

		そう思う	ややそう思う	あまり思わない	思わない	N.A.	合計
20代以下	男性	4 5.1%	14 17.9%	29 37.2%	31 39.7%	0 0.0%	78 100.0%
	女性	12 12.1%	32 32.3%	33 33.3%	22 22.2%	0 0.0%	99 100.0%
30代	男性	6 8.3%	33 45.8%	17 23.6%	15 20.8%	1 1.4%	72 100.0%
	女性	13 18.6%	24 34.3%	21 30.0%	12 17.1%	0 0.0%	70 100.0%
40代以上	男性	4 8.7%	16 34.8%	16 34.8%	8 17.4%	2 4.3%	46 100.0%
	女性	3 9.4%	9 28.1%	10 31.3%	10 31.3%	0 0.0%	32 100.0%
全体	男性	14 7.1%	63 32.1%	62 31.6%	54 27.6%	3 1.5%	196 100.0%
	女性	28 13.7%	68 33.2%	64 31.2%	45 22.0%	0 0.0%	205 100.0%

（注）全体は回答者403名より性別不明2名を除く

6. 不安を感じることがある

		そう思う	ややそう思う	あまり思わない	思わない	N.A.	合計
20代以下	男性	9 11.5%	27 34.6%	21 26.9%	21 26.9%	0 0.0%	78 100.0%
	女性	21 21.2%	50 50.5%	16 16.2%	12 12.1%	0 0.0%	99 100.0%
30代	男性	12 16.7%	33 45.8%	17 23.6%	9 12.5%	1 1.4%	72 100.0%
	女性	24 34.3%	29 41.4%	14 20.0%	3 4.3%	0 0.0%	70 100.0%
40代以上	男性	12 26.1%	19 41.3%	11 23.9%	2 4.3%	2 4.3%	46 100.0%
	女性	6 18.8%	15 46.9%	7 21.9%	4 12.5%	0 0.0%	32 100.0%
全体	男性	33 16.8%	79 40.3%	49 25.0%	32 16.3%	3 1.5%	196 100.0%
	女性	52 25.4%	95 46.3%	38 18.5%	20 9.8%	0 0.0%	205 100.0%

（注）全体は回答者403名より性別不明2名を除く

7. 結婚してこそ一人前だと思う

		そう思う	ややそう思う	あまり思わない	思わない	N.A.	合計
20代以下	男性	9 11.5%	20 25.6%	27 34.6%	22 28.2%	0 0.0%	78 100.0%
	女性	10 10.1%	22 22.2%	29 29.3%	38 38.4%	0 0.0%	99 100.0%
30代	男性	9 12.5%	22 30.6%	24 33.3%	16 22.2%	1 1.4%	72 100.0%
	女性	2 2.9%	14 20.0%	23 32.9%	31 44.3%	0 0.0%	70 100.0%
40代以上	男性	9 19.6%	13 28.3%	17 37.0%	5 10.9%	2 4.3%	46 100.0%
	女性	3 9.4%	6 18.8%	8 25.0%	15 46.9%	0 0.0%	32 100.0%
全体	男性	27 13.8%	55 28.1%	68 34.7%	43 21.9%	3 1.5%	196 100.0%
	女性	15 7.3%	42 20.5%	61 29.8%	87 42.4%	0 0.0%	205 100.0%

（注）全体は回答者403名より性別不明2名を除く

問14　望ましい女性の生き方

		1 結婚せず、仕事を続ける	2 結婚するが子どもを持たず、仕事を	3 結婚し子どもを持つが、仕事も続ける	4 結婚し子どもを持つが、結婚・出産で退職、子育て後に再び仕事を持つ	5 結婚し子どもを持ち、結婚・出産で退職、その後仕事を持たない	6 その他	N.A.	合計
20代以下	男性	0 0.0%	1 1.3%	46 59.0%	25 32.1%	2 2.6%	3 3.8%	1 1.3%	78 100.0%
	女性	0 0.0%	1 1.0%	57 57.6%	30 30.3%	7 7.1%	4 4.0%	0 0.0%	99 100.0%
30代	男性	0 0.0%	2 2.8%	42 58.3%	23 31.9%	1 1.4%	2 2.8%	2 2.8%	72 100.0%
	女性	1 1.4%	2 2.9%	35 50.0%	19 27.1%	5 7.1%	4 5.7%	4 5.7%	70 100.0%
40代以上	男性	1 2.2%	2 4.3%	25 54.3%	12 26.1%	1 2.2%	3 6.5%	2 4.3%	46 100.0%
	女性	0 0.0%	2 6.3%	14 43.8%	9 28.1%	1 3.1%	4 12.5%	2 6.3%	32 100.0%
全体	男性	1 0.5%	5 2.6%	113 57.7%	60 30.6%	4 2.0%	8 4.1%	5 2.6%	196 100.0%
	女性	1 0.5%	5 2.4%	108 52.7%	60 29.3%	13 6.3%	12 5.9%	6 2.9%	205 100.0%

（注）全体は回答者403名より性別不明2名を除く

【問14　その他の記述】

・結婚し子どもを持ち、出産を機会に産休あるいは退職するが、子育て以上にやりたいことがあるなら仕事に復帰する。
・わからない
・1～5のように縛られた考えではなく本人と相手が幸せだと感じるように生活できれば良いと思う。結婚したから出産できるとも限らないし。
・結婚し、子どもを持つが、その後仕事をするか子育てをするかは、夫となる人と相談して決めたい。
・該当なし。どのタイプでも良いと思う。
・結婚、子どもの有無に関わらず仕事を続ける
・子どもの有無に関係なく、結婚して仕事を持つ
・個人の自由である
・どれもよいと思うので1つ選べません。
・結婚し、子供を持たなくても退職し、パートナーを支える。
・相手の自由に生きればよい。
・本人や家族が望み、受け入れられるのなら1～5どれでもよいと考える。
・出産、就労に自分なりの考えをしっかり持っている。
・結婚しても、子どもを持っても、人間として自立できている。
・特にない。本人の意思しだい。
・その時の状況に応じ、柔軟に対応する。こだわりはない。
・環境で変わる。周囲に頼れる人がいるのかいないのかで仕事の継続はかわると思う。

問15　婚活経験の有無

		1 ある	2 ない	合計
20代以下	男性	27 34.6%	51 65.4%	78 100.0%
	女性	38 38.4%	61 61.6%	99 100.0%
30代	男性	38 52.8%	34 47.2%	72 100.0%
	女性	19 27.1%	51 72.9%	70 100.0%
40代以上	男性	20 43.5%	26 56.5%	46 100.0%
	女性	6 18.8%	26 81.3%	32 100.0%
全体	男性	85 43.4%	111 56.6%	196 100.0%
	女性	65 31.7%	140 68.3%	205 100.0%

（注）全体は回答者403名より性別不明2名を除く

問15-SQ　経験した婚活

【複数回答　合計欄の（ ）は母数】

		1 公的機関主催の出会いイベント	2 民間会社主催の出会いイベント	3 街コン	4 民間の結婚相談所	5 ネットの出会いサイト	6 地元の結婚支援員に紹介依頼	7 友人に紹介依頼	8 職場の同僚・先輩に紹介依頼	9 親・親せきに紹介依頼	10 出会いを期待して趣味のサークルに入会	11 よく飲み会や合コンに出かけるようにしている	合計
20代以下	男性	6 22.2%	5 18.5%	11 40.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	11 40.7%	8 29.6%	0 0.0%	2 7.4%	15 55.6%	(27) 100.0%
	女性	8 21.1%	5 13.2%	23 60.5%	1 2.6%	4 10.5%	0 0.0%	12 31.6%	4 10.5%	2 5.3%	1 2.6%	17 44.7%	(38) 100.0%
30代	男性	10 26.3%	8 21.1%	16 42.1%	6 15.8%	3 7.9%	3 7.9%	13 34.2%	12 31.6%	4 10.5%	1 2.6%	9 23.7%	(38) 100.0%
	女性	10 52.6%	6 31.6%	7 36.8%	1 5.3%	0 0.0%	2 10.5%	6 31.6%	5 26.3%	0 0.0%	0 0.0%	3 15.8%	(19) 100.0%
40代以上	男性	7 35.0%	3 15.0%	5 25.0%	2 10.0%	2 10.0%	1 5.0%	4 20.0%	4 20.0%	1 5.0%	1 5.0%	6 30.0%	(20) 100.0%
	女性	1 16.7%	2 33.3%	1 16.7%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	2 33.3%	2 33.3%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	(6) 100.0%
全体	男性	23 27.1%	16 18.8%	32 37.6%	8 9.4%	5 5.9%	4 4.7%	28 32.9%	24 28.2%	5 5.9%	4 4.7%	30 35.3%	(85) 100.0%
	女性	20 30.8%	14 21.5%	32 49.2%	3 4.6%	4 6.2%	2 3.1%	21 32.3%	11 16.9%	3 4.6%	1 1.5%	21 32.3%	(65) 100.0%

（注）全体は回答者403名より「婚活経験なし」253名を除く

問15-SQ　1.市町村など自治体、公的機関主催の出会いイベントに参加した回数

		1回	2回	3回	5回	合計
20代以下	男性	6 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 100.0%
	女性	4 57.1%	3 42.9%	0 0.0%	0 0.0%	7 100.0%
30代	男性	9 90.0%	1 10.0%	0 0.0%	0 0.0%	10 100.0%
	女性	6 66.7%	3 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	9 100.0%
40代以上	男性	3 42.9%	2 28.6%	1 14.3%	1 14.3%	7 100.0%
	女性	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%
全体	男性	18 78.3%	3 13.0%	1 4.3%	1 4.3%	23 100.0%
	女性	12 66.7%	6 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	18 100.0%

（注）全体は「参加経験あり」43名より性別不明2名を除く

問15-SQ　2.民間会社の主催する出会いイベントに参加した回数

		1回	2回	3回	4回	5回	8回	10回	合計
20代以下	男性	5 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 100.0%
	女性	2 40.0%	3 60.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 100.0%
30代	男性	3 37.5%	1 12.5%	1 12.5%	2 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 12.5%	8 100.0%
	女性	5 83.3%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 100.0%
40代以上	男性	0 0.0%	1 33.3%	1 33.3%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	3 100.0%
	女性	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	2 100.0%
全体	男性	8 50.0%	2 12.5%	2 12.5%	2 12.5%	1 6.3%	0 0.0%	1 6.3%	16 100.0%
	女性	7 50.0%	6 42.9%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 7.1%	0 0.0%	14 100.0%

（注）全体は「参加経験あり」30名

問15-SQ　3.街コンへ参加した回数

		1回	2回	3回	4回	5回	合計
20代以下	男性	10 90.9%	1 9.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	11 100.0%
	女性	14 63.6%	5 22.7%	3 13.6%	0 0.0%	0 0.0%	22 100.0%
30代	男性	8 50.0%	4 25.0%	1 6.3%	1 6.3%	2 12.5%	16 100.0%
	女性	3 50.0%	2 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%	6 100.0%
40代以上	男性	3 60.0%	2 40.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 100.0%
	女性	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%
全体	男性	21 65.6%	7 21.9%	1 3.1%	1 3.1%	2 6.3%	32 100.0%
	女性	19 63.3%	7 23.3%	3 10.0%	0 0.0%	1 3.3%	30 100.0%

（注）全体は「参加経験あり」64名より性別不明2名を除く

問15-SQ　4.民間の結婚相談所に入会
①入会期間（月数）

		1ヶ月	3ヶ月	4ヶ月	6ヶ月	8ヶ月	12ヶ月	18ヶ月	24ヶ月	合計
20代以下	女性	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%
30代	男性	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%	1 16.7%	1 16.7%	2 33.3%	1 16.7%	0 0.0%	6 100.0%
	女性	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%
40代以上	男性	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	2 100.0%
	女性	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%
全体	男性	0 0.0%	0 0.0%	1 12.5%	2 25.0%	1 12.5%	2 25.0%	1 12.5%	1 12.5%	8 100.0%
	女性	1 33.3%	1 33.3%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 100.0%

（注）全体は「入会経験者」11名

問15-SQ　4.民間の結婚相談所に入会
②現会員か退会者か

		1会員	2退会	合計
20代以下	女性	1 100.0%	0 0.0%	1 100.0%
30代	男性	5 83.3%	1 16.7%	6 100.0%
	女性	1 100.0%	0 0.0%	1 100.0%
40代以上	男性	2 100.0%	0 0.0%	2 100.0%
	女性	1 100.0%	0 0.0%	1 100.0%
全体	男性	7 87.5%	1 12.5%	8 100.0%
	女性	3 100.0%	0 0.0%	3 100.0%

（注）全体は「入会経験者」11名

問16　婚活の感想

【複数回答　合計欄の（ ）は母数】

		1 緊張して相手とうまくコミュニケーションできない	2 短時間のイベントでは充分に相手を知ることができない	3 理想とする人になかなか出会えない	4 相談員がなかなか紹介してくれない	5 相手に断られることが多く疲労感がある	6 参加費が高い	7 出会いのイベントはけっこう楽しめるので、好きだ	8 街コンのように自然に出会えるイベントが好きだ	9 交際にいたったこともあるので期待している	10 その他	合計
20代以下	男性	4 14.8%	10 37.0%	10 37.0%	0 0.0%	1 3.7%	6 22.2%	7 25.9%	2 7.4%	3 11.1%	3 11.1%	(27) 100.0%
	女性	7 18.4%	18 47.4%	21 55.3%	0 0.0%	1 2.6%	6 15.8%	6 15.8%	3 7.9%	5 13.2%	4 10.5%	(38) 100.0%
30代	男性	13 34.2%	24 63.2%	15 39.5%	1 2.6%	9 23.7%	5 13.2%	8 21.1%	1 2.6%	9 23.7%	2 5.3%	(38) 100.0%
	女性	2 10.5%	10 52.6%	12 63.2%	0 0.0%	1 5.3%	1 5.3%	6 31.6%	2 10.5%	4 21.1%	2 10.5%	(19) 100.0%
40代以上	男性	4 20.0%	10 50.0%	10 50.0%	1 5.0%	4 20.0%	3 15.0%	4 20.0%	1 5.0%	3 15.0%	4 20.0%	(20) 100.0%
	女性	3 50.0%	4 66.7%	4 66.7%	0 0.0%	2 33.3%	2 33.3%	1 16.7%	1 16.7%	1 16.7%	1 16.7%	(6) 100.0%
全体	男性	21 24.7%	44 51.8%	35 41.2%	2 2.4%	14 16.5%	14 16.5%	19 22.4%	4 4.7%	15 17.6%	9 10.6%	(85) 100.0%
	女性	13 20.0%	33 50.8%	39 60.0%	0 0.0%	4 6.2%	10 15.4%	13 20.0%	6 9.2%	10 15.4%	7 10.8%	(65) 100.0%

（注）全体は「婚活経験あり」150名

【問16　その他の記述】

・連絡先を交換したくない場合でも交換せざるを得なかったためあとで面倒だった
・自分が断る側の場合めんどう、申し訳ない。
・人数集めでの参加で、気持ちがのらなかった。
・普段の生活の中に様々な出会いがある。
・疲れるし、自分には合わない
・楽しいが、疲れる。出会いが多くて。
・楽しければそれで良い。
・表面上のやり取りが多く、その後が面倒。
・たくさんの方と知り合えるのでよい
・イベントの形式が好みではなかった
・男女ともに結婚に至らぬ人とはどういう人か、類型化できた
・え、これ何のイベント？と思うくらいぐだぐだでした。
・イベントはサクラがいるので嫌いです。
・イベント主催側になることが多く、参加者として、出たことがない。
・外面そのもので、決まってしまうところがあるので、成功するのは難しいと感じました。
・都合があわない
・まだ、これからです

問17　婚活をしない理由

		1 現在付き合っている人がいる	2 結婚の予定がある	3 婚活に興味がない	4 婚活の効果はあまりないと思っている	5 地元だと知り合いもいるので参加したくない	6 自分で探したい	7 結婚そのものに興味がない	8 その他	N.A.	合計
20代以下	男性	12 23.5%	3 5.9%	9 17.6%	4 7.8%	4 7.8%	12 23.5%	2 3.9%	5 9.8%	0 0.0%	51 100.0%
	女性	24 39.3%	2 3.3%	11 18.0%	2 3.3%	7 11.5%	9 14.8%	1 1.6%	3 4.9%	2 3.3%	61 100.0%
30代	男性	7 20.6%	1 2.9%	7 20.6%	3 8.8%	3 8.8%	9 26.5%	1 2.9%	3 8.8%	0 0.0%	34 100.0%
	女性	11 21.6%	0 0.0%	12 23.5%	5 9.8%	4 7.8%	8 15.7%	7 13.7%	3 5.9%	1 2.0%	51 100.0%
40代以上	男性	9 34.6%	0 0.0%	2 7.7%	2 7.7%	1 3.8%	9 34.6%	1 3.8%	2 7.7%	0 0.0%	26 100.0%
	女性	8 30.8%	1 3.8%	7 26.9%	2 7.7%	1 3.8%	2 7.7%	3 11.5%	2 7.7%	0 0.0%	26 100.0%
全体	男性	28 25.2%	4 3.6%	18 16.2%	9 8.1%	8 7.2%	30 27.0%	4 3.6%	10 9.0%	0 0.0%	111 100.0%
	女性	44 31.4%	3 2.1%	31 22.1%	9 6.4%	12 8.6%	19 13.6%	11 7.9%	8 5.7%	3 2.1%	140 100.0%

（注）全体は「婚活経験なし」253名より性別不明2名を除く

【問17　その他の記述】

・積極的に動けない。
・好きな人がいる　片想いしている
・婚活・イベントに参加したいが機会がみつからない。
・20代前半に婚活をしていました。20代後半に就農して一生懸命仕事に励みたく休んでいました。
・知らない人と話すのが面倒
・仕事に疲れて余裕がない
・効果のありそうな婚活を知らない
・数年前に婚活をしたが、うまくいかなかった
・現在、必要性を感じないため
・若い
・数年前に経験がありますが、あまり良い思いをしなかった。
・何度も参加した。ここ2年は行っていない。カップルにはなるが、それ以上には進まない。
・仕事が忙しい
・友人との付き合い等で時間がない
・自分の年齢が気になり、積極的になれない
・仕事が多忙で時間が取れない
・年齢的に参加しづらいから。
・仕事が忙しい。
・若い世代が少ないこの市に帰ることを決めた時点で再婚は諦めた。再婚を第一優先にするなら、別な町（県外）に住んでいた。経済的に苦しいわけではないので、心に響かない人と結婚したくない。

問18　実施してほしい行政による婚活支援事業（２つまで○）

【複数回答　合計欄の（ ）は母数】

		1 「出会いの場」をもっと開催し、その情報提供もする	2 街コンを増やしてほしい	3 結婚支援員等による縁結び事業	4 結婚支援員の資質向上のための研修会の開催	5 登録制による結婚相手紹介システムの設置	6 交際のノウハウを学ぶセミナーの開催	7 出会いやお見合い後のフォローがほしい	8 結婚に関する悩みごとの相談事業	9 行政による支援は必要ない	10 その他	合計
20代以下	男性	29 37.2%	27 34.6%	4 5.1%	1 1.3%	6 7.7%	5 6.4%	7 9.0%	7 9.0%	20 25.6%	5 6.4%	(78) 100.0%
	女性	22 22.2%	22 22.2%	3 3.0%	0 0.0%	7 7.1%	10 10.1%	7 7.1%	20 20.2%	26 26.3%	7 7.1%	(99) 100.0%
30代	男性	30 41.7%	14 19.4%	7 9.7%	0 0.0%	13 18.1%	9 12.5%	8 11.1%	4 5.6%	20 27.8%	0 0.0%	(72) 100.0%
	女性	25 35.7%	6 8.6%	7 10.0%	2 2.9%	8 11.4%	1 1.4%	8 11.4%	5 7.1%	24 34.3%	4 5.7%	(70) 100.0%
40代以上	男性	16 34.8%	7 15.2%	4 8.7%	0 0.0%	9 19.6%	4 8.7%	4 8.7%	3 6.5%	14 30.4%	3 6.5%	(46) 100.0%
	女性	8 25.0%	4 12.5%	2 6.3%	0 0.0%	4 12.5%	1 3.1%	2 6.3%	6 18.8%	9 28.1%	3 9.4%	(32) 100.0%
全体	男性	75 38.3%	48 24.5%	15 7.7%	1 0.5%	28 14.3%	18 9.2%	19 9.7%	14 7.1%	54 27.6%	8 4.1%	(196) 100.0%
	女性	56 27.3%	33 16.1%	12 5.9%	2 1.0%	20 9.8%	12 5.9%	17 8.3%	31 15.1%	61 29.8%	14 6.8%	(205) 100.0%

（注）全体は回答者403名より性別不明2名を除く

【問18　その他の記述】

・「婚活」メインではないイベントの開催
・気軽に参加できるまちコンなら行きたい。
・40代以降の「出会いの場」を開催・気軽に参加出来るイベント
・婚活の意志がない独身者への課税は、するべきだと思う。
・独身者にやさしい税制
・コストパフォーマンスに優れていること。ランチ会等、手軽さ。
・期待していないので、今のままで良いと思う。
・婚活という名目ではなく、地域活性化により若者が集まるようにしてほしい。
・行政はプロの業者に委託するべき。
・キャンプ、山登り、シャワークライミング、カヌー、海、スキー、料理、ゲーム、スポーツ、音楽など季節や趣味に応じた婚活支援事業がいい。
・出会いの場より、一緒に遊べる、楽しめるイベントを企画してほしい。「出会い」は行きづらい。イベントは同じ趣味の人が集まるので行きやすい。
・ただ結婚や出会いを支援するよりも、生き方や価値観の持ち方（ワークライフバランス等）の研修会を開催してほしい。
・結婚することによって、何らかの金銭的支援や、優遇されることが増える等の支援。
・結婚後、出産時、子育て時のメリットある制度説明
・事業（街コン）等の「質」を向上させてほしい
・条例や制度等、子育てのしやすい環境づくり（そもそも出会いの問題ではない）
・地元で結婚をする若者のメリットを考えてほしい。
・結婚支援よりも結婚後のサポート（助成・相談窓口等）を充実してほしい
・堅苦しくない、普段若者が集まっている飲食店等で気軽に参加できる会を開いてはどうか。
・雇用制度や賃金・所得の確保
・どうせやるなら高い料金払うんだから「超」全力で支援してほしい

問19　結婚できるようにするための行政・企業の改善策や支援策（３つまで○）

【複数回答　合計欄の（ ）は母数】

		1 男性の賃金・所得の安定的確保	2 男女の賃金・所得の安定的確保	3 男性の正規雇用の拡充	4 男女の正規雇用の拡充	5 ワークライフバランスの推進	6 住宅の確保や家賃補助	7 出産・子育て等に関する情報・相談・資金補助	8 保育所の拡充	9 父親の子育てについて学ぶ機会の提供	10 不妊治療への支援	11 親の介護が結婚の妨げにならないような支援	12 結婚や男女関係について、学ぶ機会の提供	13 夫婦共働きを支援する施策の拡充	14 行政や企業による支援は必要ない	15 その他	合計
20代以下	男性	18 23.1%	37 47.4%	10 12.8%	12 15.4%	25 32.1%	17 21.8%	31 39.7%	11 14.1%	7 9.0%	2 2.6%	4 5.1%	3 3.8%	20 25.6%	9 11.5%	4 5.1%	(78) 100.0%
	女性	7 7.1%	60 60.6%	2 2.0%	25 25.3%	44 44.4%	18 18.2%	45 45.5%	23 23.2%	5 5.1%	10 10.1%	5 5.1%	4 4.0%	31 31.3%	2 2.0%	2 2.0%	(99) 100.0%
30代	男性	13 18.1%	32 44.4%	5 6.9%	11 15.3%	29 40.3%	12 16.7%	26 36.1%	7 9.7%	3 4.2%	4 5.6%	11 15.3%	3 4.2%	14 19.4%	8 11.1%	3 4.2%	(72) 100.0%
	女性	4 5.7%	42 60.0%	1 1.4%	20 28.6%	23 32.9%	12 17.1%	25 35.7%	12 17.1%	2 2.9%	6 8.6%	9 12.9%	2 2.9%	17 24.3%	5 7.1%	0 0.0%	(70) 100.0%
40代以上	男性	12 26.1%	14 30.4%	5 10.9%	13 28.3%	15 32.6%	4 8.7%	11 23.9%	6 13.0%	0 0.0%	7 15.2%	8 17.4%	0 0.0%	10 21.7%	3 6.5%	3 6.5%	(46) 100.0%
	女性	3 9.4%	15 46.9%	4 12.5%	9 28.1%	10 31.3%	5 15.6%	6 18.8%	8 25.0%	0 0.0%	3 9.4%	8 25.0%	0 0.0%	9 28.1%	2 6.3%	0 0.0%	(32) 100.0%
全体	男性	43 21.9%	83 42.3%	20 10.2%	36 18.4%	69 35.2%	33 16.8%	68 34.7%	24 12.2%	10 5.1%	13 6.6%	23 11.7%	6 3.1%	44 22.4%	20 10.2%	10 5.1%	(196) 100.0%
	女性	15 7.3%	119 58.0%	8 3.9%	56 27.3%	79 38.5%	35 17.1%	76 37.1%	43 21.0%	7 3.4%	19 9.3%	24 11.7%	6 2.9%	58 28.3%	9 4.4%	2 1.0%	(205) 100.0%

（注）全体は回答者403名より性別不明2名を除く

【問19　その他の記述】

・専業主婦の地位向上（税控除など。外で働くのと同等かそれ以上にする。）
・会社からのリストラ行為の撲滅
・男性の育休取得への理解向上
・人間的魅力の醸成。
・デートスポットづくり。
・男性に対する女性からの偏見を無くす策を出してほしい（最近の女尊男卑化がひどすぎる）
・男女平等（仕事上での）
・男性の育児休暇取得の推進
・共働きの両親の仕事のシフト（休日等）がなるべく合わせられるような仕組みづくり
・後のことじゃなくて、まず出会うことからではないですか？
・条件面の明確にし、支援があれば良いと思う。大卒、収入など

問20　自分にとって結婚が難しいと考える理由（３つまで○）

【複数回答　合計欄の（ ）は母数】

		1 首都圏などと比べて出会いのチャンスが少ない	2 自分の経済力が弱い	3 仕事の内容や条件が相手に敬遠されている	4 異性との交際経験が乏しい	5 仕事と家事育児の両立に不安	6 家・家族の問題がある	7 健康上の不安を持っている	8 性的な悩みを持っている	9 過去の恋愛や結婚の失敗をひきずっている	10 結婚でしあわせになれるイメージがない	11 その他	合計
20代以下	男性	24 30.8%	41 52.6%	3 3.8%	17 21.8%	16 20.5%	13 16.7%	4 5.1%	2 2.6%	3 3.8%	9 11.5%	7 9.0%	(78) 100.0%
	女性	26 26.3%	29 29.3%	3 3.0%	25 25.3%	37 37.4%	18 18.2%	3 3.0%	1 1.0%	14 14.1%	12 12.1%	13 13.1%	(99) 100.0%
30代	男性	27 37.5%	39 54.2%	9 12.5%	21 29.2%	11 15.3%	16 22.2%	3 4.2%	1 1.4%	5 6.9%	11 15.3%	8 11.1%	(72) 100.0%
	女性	13 18.6%	11 15.7%	5 7.1%	16 22.9%	18 25.7%	18 25.7%	6 8.6%	0 0.0%	11 15.7%	19 27.1%	10 14.3%	(70) 100.0%
40代以上	男性	15 32.6%	18 39.1%	7 15.2%	13 28.3%	5 10.9%	12 26.1%	2 4.3%	1 2.2%	7 15.2%	10 21.7%	7 15.2%	(46) 100.0%
	女性	9 28.1%	3 9.4%	1 3.1%	2 6.3%	7 21.9%	10 31.3%	3 9.4%	1 3.1%	4 12.5%	9 28.1%	4 12.5%	(32) 100.0%
全体	男性	66 33.7%	98 50.0%	19 9.7%	51 26.0%	32 16.3%	41 20.9%	9 4.6%	4 2.0%	15 7.7%	30 15.3%	22 11.2%	(196) 100.0%
	女性	49 23.9%	43 21.0%	9 4.4%	44 21.5%	63 30.7%	47 22.9%	12 5.9%	2 1.0%	31 15.1%	41 20.0%	28 13.7%	(205) 100.0%

（注）全体は回答者403名より性別不明2名を除く

【問20　その他の記述】

・記述なし

問21　東日本大震災後、結婚に向けての意識・行動の変化（２つまで○）

【複数回答　合計欄の（ ）は母数】

		1 家族や結婚の必要性を前より感じるようになった	2 結婚を急ぎたいという気持ちが芽生えた	3 婚活に積極的に取り組もうと思った	4 震災前より仕事や地域活動で出会いの機会が増えた	5 自分の結婚よりも地域復興を優先すべきと考えるようになった	6 結婚に少し悲観的な気持ちをもつようになった	7 あまり大きな変化はない	8 その他	合計
20代以下	男性	20 25.6%	2 2.6%	0 0.0%	7 9.0%	2 2.6%	0 0.0%	55 70.5%	1 1.3%	(78) 100.0%
	女性	30 30.3%	6 6.1%	1 1.0%	0 0.0%	1 1.0%	1 1.0%	68 68.7%	0 0.0%	(99) 100.0%
30代	男性	22 30.6%	4 5.6%	5 6.9%	2 2.8%	2 2.8%	0 0.0%	47 65.3%	1 1.4%	(72) 100.0%
	女性	19 27.1%	5 7.1%	4 5.7%	4 5.7%	1 1.4%	0 0.0%	46 65.7%	2 2.9%	(70) 100.0%
40代以上	男性	13 28.3%	5 10.9%	1 2.2%	3 6.5%	4 8.7%	1 2.2%	26 56.5%	0 0.0%	(46) 100.0%
	女性	6 18.8%	3 9.4%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.1%	0 0.0%	25 78.1%	0 0.0%	(32) 100.0%
全体	男性	55 28.1%	11 5.6%	6 3.1%	12 6.1%	8 4.1%	1 0.5%	128 65.3%	2 1.0%	(196) 100.0%
	女性	56 27.3%	15 7.3%	6 2.9%	4 2.0%	3 1.5%	2 1.0%	141 68.8%	2 1.0%	(205) 100.0%

（注）全体は回答者403名より性別不明2名を除く

【問21　その他の記述】

・日本にいなかった
・後悔のないように行動したいと思った
・頼りになる家族が必要だと感じた。

問24　現在の勤務先

		1 民間企業	2 官公庁	3 団体職員	4 自営業の農林漁業	5 自営業の商工サービス	6 無職・家事（求職中）	8 その他	N.A.	合計
20代以下	男性	17 21.8%	34 43.6%	23 29.5%	1 1.3%	2 2.6%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.3%	78 100.0%
	女性	27 27.3%	29 29.3%	38 38.4%	1 1.0%	2 2.0%	0 0.0%	1 1.0%	1 1.0%	99 100.0%
30代	男性	14 19.4%	26 36.1%	22 30.6%	3 4.2%	5 6.9%	0 0.0%	1 1.4%	1 1.4%	72 100.0%
	女性	14 20.0%	22 31.4%	27 38.6%	2 2.9%	1 1.4%	2 2.9%	1 1.4%	1 1.4%	70 100.0%
40代以上	男性	11 23.9%	10 21.7%	18 39.1%	2 4.3%	3 6.5%	0 0.0%	2 4.3%	0 0.0%	46 100.0%
	女性	10 31.3%	7 21.9%	14 43.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.1%	32 100.0%
全体	男性	42 21.4%	70 35.7%	63 32.1%	6 3.1%	10 5.1%	0 0.0%	3 1.5%	2 1.0%	196 100.0%
	女性	51 24.9%	60 29.3%	81 39.5%	3 1.5%	3 1.5%	2 1.0%	2 1.0%	3 1.5%	205 100.0%

（注）全体は回答者403名より性別不明2名を除く

【問24（現在） その他の記述】

・サービス業
・労働組合
・地域おこし協力隊

問24　初職の勤務先

		1 民間企業	2 官公庁	3 団体職員	4 自営業の農林漁業	5 自営業の商工サービス	6 無職・家事（求職中）	7 無職・家事（非求職）	8 その他	N.A.	合計
20代以下	男性	27 34.6%	30 38.5%	18 23.1%	1 1.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.3%	1 1.3%	78 100.0%
	女性	38 38.4%	25 25.3%	32 32.3%	2 2.0%	1 1.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.0%	99 100.0%
30代	男性	41 56.9%	17 23.6%	8 11.1%	1 1.4%	2 2.8%	0 0.0%	1 1.4%	1 1.4%	1 1.4%	72 100.0%
	女性	36 51.4%	15 21.4%	12 17.1%	1 1.4%	2 2.9%	1 1.4%	0 0.0%	2 2.9%	1 1.4%	70 100.0%
40代以上	男性	23 50.0%	7 15.2%	10 21.7%	0 0.0%	2 4.3%	1 2.2%	0 0.0%	2 4.3%	1 2.2%	46 100.0%
	女性	19 59.4%	3 9.4%	7 21.9%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.1%	2 6.3%	32 100.0%
全体	男性	91 46.4%	54 27.6%	36 18.4%	2 1.0%	4 2.0%	1 0.5%	1 0.5%	4 2.0%	3 1.5%	196 100.0%
	女性	93 45.4%	44 21.5%	54 26.3%	3 1.5%	3 1.5%	1 0.5%	0 0.0%	3 1.5%	4 2.0%	205 100.0%

（注）全体は回答者403名より性別不明2名を除く

【問24（初職） その他の記述】

・サービス業
・臨時職員

問25　現在の勤務先の従業員規模

		1～9人	10～29人	30～99人	100～299人	300～999人	1000人以上	N.A.	合計
20代以下	男性	12 15.4%	4 5.1%	14 17.9%	22 28.2%	10 12.8%	14 17.9%	2 2.6%	78 100.0%
	女性	11 11.1%	21 21.2%	13 13.1%	21 21.2%	16 16.2%	14 14.1%	3 3.0%	99 100.0%
30代	男性	14 19.4%	12 16.7%	11 15.3%	15 20.8%	12 16.7%	8 11.1%	0 0.0%	72 100.0%
	女性	6 8.6%	10 14.3%	8 11.4%	24 34.3%	6 8.6%	12 17.1%	4 5.7%	70 100.0%
40代以上	男性	11 23.9%	6 13.0%	8 17.4%	7 15.2%	4 8.7%	7 15.2%	3 6.5%	46 100.0%
	女性	7 21.9%	2 6.3%	7 21.9%	2 6.3%	6 18.8%	5 15.6%	3 9.4%	32 100.0%
全体	男性	37 18.9%	22 11.2%	33 16.8%	44 22.4%	26 13.3%	29 14.8%	5 2.6%	196 100.0%
	女性	25 12.2%	33 16.1%	29 14.1%	48 23.4%	29 14.1%	31 15.1%	10 4.9%	205 100.0%

（注）全体は回答者403名より性別不明2名を除く

問26　現在の仕事内容

		1 管理的職業	2 専門的職業	3 技術的職業	4 事務的職業	5 販売的職業	6 サービス的職業	7 技能的職業	9 生産工程・運輸従事者	10 自営の農林漁業	11 自営の商工サービス業	12 その他	N.A.	合計
20代以下	男性	4 5.1%	4 5.1%	9 11.5%	43 55.1%	3 3.8%	3 3.8%	0 0.0%	4 5.1%	1 1.3%	2 2.6%	1 1.3%	4 5.1%	78 100.0%
	女性	3 3.0%	8 8.1%	16 16.2%	57 57.6%	6 6.1%	4 4.0%	0 0.0%	2 2.0%	0 0.0%	1 1.0%	0 0.0%	2 2.0%	99 100.0%
30代	男性	10 13.9%	3 4.2%	8 11.1%	37 51.4%	2 2.8%	3 4.2%	1 1.4%	2 2.8%	3 4.2%	3 4.2%	0 0.0%	0 0.0%	72 100.0%
	女性	3 4.3%	4 5.7%	7 10.0%	42 60.0%	3 4.3%	4 5.7%	0 0.0%	0 0.0%	2 2.9%	1 1.4%	0 0.0%	4 5.7%	70 100.0%
40代以上	男性	6 13.0%	0 0.0%	1 2.2%	25 54.3%	3 6.5%	0 0.0%	0 0.0%	3 6.5%	1 2.2%	2 4.3%	2 4.3%	3 6.5%	46 100.0%
	女性	2 6.3%	4 12.5%	4 12.5%	16 50.0%	2 6.3%	0 0.0%	1 3.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 9.4%	32 100.0%
全体	男性	20 10.2%	7 3.6%	18 9.2%	105 53.6%	8 4.1%	6 3.1%	1 0.5%	9 4.6%	5 2.6%	7 3.6%	3 1.5%	7 3.6%	196 100.0%
	女性	8 3.9%	17 8.3%	28 13.7%	117 57.1%	11 5.4%	8 3.9%	1 0.5%	2 1.0%	2 1.0%	2 1.0%	0 0.0%	9 4.4%	205 100.0%

（注）全体は回答者403名より性別不明2名を除く

【問26（現在） その他の記述】

・金融関係

問26　初職の仕事内容

		1 管理的職業	2 専門的職業	3 技術的職業	4 事務的職業	5 販売的職業	6 サービス的職業	7 技能的職業	8 保安的職業	9 生産工程・運輸従事者	10 自営の農林漁業	11 自営の商工サービス業	12 その他	N.A.	合計
20代以下	男性	4 5.1%	7 9.0%	11 14.1%	32 41.0%	6 7.7%	6 7.7%	3 3.8%	0 0.0%	3 3.8%	1 1.3%	0 0.0%	1 1.3%	4 5.1%	78 100.0%
	女性	2 2.0%	8 8.1%	17 17.2%	53 53.5%	8 8.1%	9 9.1%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.0%	0 0.0%	99 100.0%
30代	男性	3 4.2%	3 4.2%	10 13.9%	19 26.4%	14 19.4%	3 4.2%	3 4.2%	1 1.4%	11 15.3%	1 1.4%	1 1.4%	1 1.4%	2 2.8%	72 100.0%
	女性	1 1.4%	3 4.3%	7 10.0%	31 44.3%	13 18.6%	11 15.7%	1 1.4%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.4%	0 0.0%	0 0.0%	2 2.9%	70 100.0%
40代以上	男性	2 4.3%	2 4.3%	2 4.3%	18 39.1%	8 17.4%	1 2.2%	1 2.2%	0 0.0%	8 17.4%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.2%	3 6.5%	46 100.0%
	女性	0 0.0%	2 6.3%	6 18.8%	13 40.6%	2 6.3%	1 3.1%	0 0.0%	0 0.0%	3 9.4%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.1%	4 12.5%	32 100.0%
全体	男性	9 4.6%	12 6.1%	23 11.7%	69 35.2%	28 14.3%	10 5.1%	7 3.6%	1 0.5%	22 11.2%	2 1.0%	1 0.5%	3 1.5%	9 4.6%	196 100.0%
	女性	3 1.5%	15 7.3%	31 15.1%	98 47.8%	23 11.2%	21 10.2%	1 0.5%	0 0.0%	4 2.0%	1 0.5%	0 0.0%	2 1.0%	6 2.9%	205 100.0%

（注）全体は回答者403名より性別不明2名を除く

【問26（初職） その他の記述】

・金融関係

問27　現在の雇用形態

		1 正社員・正職員	2 契約社員	3 派遣社員	4 パート・アルバイト	5 臨時・日雇い	6 自営業主	7 自営業の家族従業員	9 その他	N.A.	合計
20代以下	男性	61 78.2%	8 10.3%	0 0.0%	1 1.3%	2 2.6%	0 0.0%	3 3.8%	1 1.3%	2 2.6%	78 100.0%
	女性	73 73.7%	8 8.1%	2 2.0%	6 6.1%	5 5.1%	0 0.0%	1 1.0%	0 0.0%	4 4.0%	99 100.0%
30代	男性	55 76.4%	4 5.6%	1 1.4%	1 1.4%	2 2.8%	3 4.2%	5 6.9%	0 0.0%	1 1.4%	72 100.0%
	女性	41 58.6%	10 14.3%	1 1.4%	4 5.7%	7 10.0%	1 1.4%	2 2.9%	0 0.0%	4 5.7%	70 100.0%
40代以上	男性	33 71.7%	2 4.3%	1 2.2%	1 2.2%	0 0.0%	2 4.3%	2 4.3%	4 8.7%	1 2.2%	46 100.0%
	女性	22 68.8%	2 6.3%	0 0.0%	3 9.4%	4 12.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.1%	32 100.0%
全体	男性	149 76.0%	14 7.1%	2 1.0%	3 1.5%	4 2.0%	5 2.6%	10 5.1%	5 2.6%	4 2.0%	196 100.0%
	女性	139 67.8%	20 9.8%	3 1.5%	14 6.8%	16 7.8%	1 0.5%	3 1.5%	0 0.0%	9 4.4%	205 100.0%

（注）全体は回答者403名より性別不明2名を除く

【問27（現在） その他の記述】

・いろいろ
・非常勤専門職員
・任期付職員

問27　初職の雇用形態

		1 正社員・正職員	2 契約社員	3 派遣社員	4 パート・アルバイト	5 臨時・日雇い	6 自営業主	7 自営業の家族従業員	9 その他	N.A.	合計
20代以下	男性	58 74.4%	6 7.7%	1 1.3%	5 6.4%	5 6.4%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.3%	2 2.6%	78 100.0%
	女性	76 76.8%	7 7.1%	2 2.0%	7 7.1%	4 4.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 3.0%	99 100.0%
30代	男性	48 66.7%	7 9.7%	1 1.4%	7 9.7%	6 8.3%	1 1.4%	0 0.0%	1 1.4%	1 1.4%	72 100.0%
	女性	42 60.0%	7 10.0%	1 1.4%	7 10.0%	8 11.4%	0 0.0%	1 1.4%	1 1.4%	3 4.3%	70 100.0%
40代以上	男性	38 82.6%	1 2.2%	0 0.0%	2 4.3%	1 2.2%	1 2.2%	0 0.0%	0 0.0%	3 6.5%	46 100.0%
	女性	23 71.9%	1 3.1%	1 3.1%	2 6.3%	2 6.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.1%	2 6.3%	32 100.0%
全体	男性	144 73.5%	14 7.1%	2 1.0%	14 7.1%	12 6.1%	2 1.0%	0 0.0%	2 1.0%	6 3.1%	196 100.0%
	女性	145 70.7%	15 7.3%	4 2.0%	16 7.8%	14 6.8%	0 0.0%	1 0.5%	2 1.0%	8 3.9%	205 100.0%

（注）全体は回答者403名より性別不明2名を除く

【問27（初職） その他の記述】

・いろいろ

問28　中学時代に家計を支えていた人

【複数回答　合計欄の（ ）は母数】

		1 父	2 母	3 祖父	4 祖母	6 姉	7 その他	合計
20代以下	男性	75 96.2%	43 55.1%	11 14.1%	5 6.4%	1 1.3%	0 0.0%	(78) 100.0%
	女性	90 90.9%	67 67.7%	8 8.1%	4 4.0%	1 1.0%	0 0.0%	(99) 100.0%
30代	男性	68 94.4%	42 58.3%	8 11.1%	4 5.6%	0 0.0%	1 1.4%	(72) 100.0%
	女性	64 91.4%	43 61.4%	5 7.1%	3 4.3%	0 0.0%	1 1.4%	(70) 100.0%
40代以上	男性	44 95.7%	20 43.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	(46) 100.0%
	女性	31 96.9%	15 46.9%	1 3.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	(32) 100.0%
全体	男性	187 95.4%	105 53.6%	19 9.7%	9 4.6%	1 0.5%	1 0.5%	(196) 100.0%
	女性	188 91.7%	128 62.4%	14 6.8%	7 3.4%	1 0.5%	1 0.5%	(205) 100.0%

（注）全体は回答者403名より性別不明2名を除く

【問28　その他の記述】

・叔母
・生活保護

問28　中学時代の主たる家計支持者

		1 父	2 母	3 祖父	4 祖母	7 その他	N.A.	合計
20代以下	男性	69 88.5%	6 7.7%	1 1.3%	0 0.0%	0 0.0%	2 2.6%	78 100.0%
	女性	87 87.9%	11 11.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.0%	99 100.0%
30代	男性	64 88.9%	6 8.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.4%	1 1.4%	72 100.0%
	女性	56 80.0%	7 10.0%	2 2.9%	1 1.4%	0 0.0%	4 5.7%	70 100.0%
40代以上	男性	42 91.3%	3 6.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.2%	46 100.0%
	女性	29 90.6%	1 3.1%	1 3.1%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.1%	32 100.0%
全体	男性	175 89.3%	15 7.7%	1 0.5%	0 0.0%	1 0.5%	4 2.0%	196 100.0%
	女性	175 85.4%	20 9.8%	3 1.5%	1 0.5%	0 0.0%	6 2.9%	205 100.0%

（注）全体は回答者403名より性別不明2名を除く

問29　中学時代の主たる家計支持者の勤務先

		1 民間企業	2 官公庁	3 団体職員	4 自営業の農林漁業	5 自営業の商工サービス	7 無職・家事（非求職）	8 その他	N.A.	合計
20代以下	男性	38 49.4%	17 22.1%	7 9.1%	5 6.5%	7 9.1%	0 0.0%	1 1.3%	2 2.6%	77 100.0%
	女性	58 59.2%	19 19.4%	6 6.1%	8 8.2%	3 3.1%	0 0.0%	1 1.0%	3 3.1%	98 100.0%
30代	男性	25 35.2%	15 21.1%	5 7.0%	10 14.1%	11 15.5%	1 1.4%	2 2.8%	2 2.8%	71 100.0%
	女性	28 40.6%	13 18.8%	4 5.8%	7 10.1%	14 20.3%	1 1.4%	1 1.4%	1 1.4%	69 100.0%
40代以上	男性	22 47.8%	7 15.2%	1 2.2%	5 10.9%	10 21.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.2%	46 100.0%
	女性	15 46.9%	8 25.0%	0 0.0%	1 3.1%	4 12.5%	0 0.0%	1 3.1%	3 9.4%	32 100.0%
全体	男性	85 43.8%	39 20.1%	13 6.7%	20 10.3%	28 14.4%	1 0.5%	3 1.5%	5 2.6%	194 100.0%
	女性	102 50.2%	40 19.7%	11 5.4%	17 8.4%	21 10.3%	1 0.5%	3 1.5%	8 3.9%	203 100.0%

（注）全体は回答者403名より性別不明及び中学時代の家計支持者不明6名を除く

【問29　その他の記述】

・無職（年金）
・地方公務員　年金生活者
・自営の医療

問30　中学時代の主たる家計支持者の仕事内容

		1 管理的職業	2 専門的職業	3 技術的職業	4 事務的職業	5 販売的職業	6 サービス的職業	7 技能的職業	8 保安的職業	9 生産工程・従事者・運輸	10 自営の農林漁業	11 自営の商工サービス業	12 その他	N.A.	合計
20代以下	男性	9 11.7%	5 6.5%	16 20.8%	11 14.3%	4 5.2%	6 7.8%	5 6.5%	2 2.6%	9 11.7%	5 6.5%	4 5.2%	1 1.3%	0 0.0%	77 100.0%
	女性	20 20.4%	6 6.1%	9 9.2%	18 18.4%	6 6.1%	7 7.1%	12 12.2%	2 2.0%	9 9.2%	7 7.1%	1 1.0%	0 0.0%	1 1.0%	98 100.0%
30代	男性	11 15.5%	5 7.0%	6 8.5%	11 15.5%	6 8.5%	4 5.6%	4 5.6%	0 0.0%	7 9.9%	10 14.1%	5 7.0%	0 0.0%	2 2.8%	71 100.0%
	女性	5 7.2%	7 10.1%	6 8.7%	10 14.5%	6 8.7%	5 7.2%	7 10.1%	1 1.4%	11 15.9%	4 5.8%	4 5.8%	1 1.4%	2 2.9%	69 100.0%
40代以上	男性	10 21.7%	0 0.0%	3 6.5%	6 13.0%	5 10.9%	1 2.2%	4 8.7%	0 0.0%	4 8.7%	4 8.7%	8 17.4%	0 0.0%	1 2.2%	46 100.0%
	女性	3 9.4%	2 6.3%	1 3.1%	6 18.8%	2 6.3%	1 3.1%	6 18.8%	1 3.1%	3 9.4%	1 3.1%	3 9.4%	0 0.0%	3 9.4%	32 100.0%
全体	男性	30 15.5%	10 5.2%	25 12.9%	28 14.4%	15 7.7%	11 5.7%	13 6.7%	2 1.0%	20 10.3%	19 9.8%	17 8.8%	1 0.5%	3 1.5%	194 100.0%
	女性	30 14.8%	16 7.9%	16 7.9%	34 16.7%	14 6.9%	13 6.4%	25 12.3%	4 2.0%	23 11.3%	13 6.4%	8 3.9%	1 0.5%	6 3.0%	203 100.0%

（注）全体は回答者403名より性別不明及び中学時代の家計支持者不明6名を除く

【問30　その他の記述】

・無職
・地方公務員　年金生活者

問31　中学時代の主たる家計支持者の雇用形態

		1 正社員・正職員	2 契約社員	4 パート・アルバイト	5 臨時・日雇い	6 自営業主	7 自営業の家族従業員	8 内職	9 その他	N.A.	合計
20代以下	男性	60 77.9%	1 1.3%	1 1.3%	0 0.0%	12 15.6%	1 1.3%	0 0.0%	2 2.6%	0 0.0%	77 100.0%
	女性	77 78.6%	3 3.1%	3 3.1%	1 1.0%	12 12.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 2.0%	98 100.0%
30代	男性	46 64.8%	1 1.4%	0 0.0%	1 1.4%	21 29.6%	0 0.0%	1 1.4%	0 0.0%	1 1.4%	71 100.0%
	女性	45 65.2%	0 0.0%	1 1.4%	1 1.4%	16 23.2%	2 2.9%	0 0.0%	1 1.4%	3 4.3%	69 100.0%
40代以上	男性	27 58.7%	0 0.0%	0 0.0%	4 8.7%	14 30.4%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.2%	0 0.0%	46 100.0%
	女性	22 68.8%	1 3.1%	0 0.0%	1 3.1%	6 18.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 6.3%	32 100.0%
全体	男性	133 68.6%	2 1.0%	1 0.5%	5 2.6%	47 24.2%	1 0.5%	1 0.5%	3 1.5%	1 0.5%	194 100.0%
	女性	147 72.4%	4 2.0%	4 2.0%	3 1.5%	35 17.2%	2 1.0%	0 0.0%	1 0.5%	7 3.4%	203 100.0%

（注）全体は回答者403名より性別不明及び中学時代の家計支持者不明6名を除く

【問31　その他の記述】

・無職
・地方公務員　年金生活者

問32　最終学歴

		2 高等学校中退	3 高等学校卒業	4 短大・高専・専門学校中退	5 短大・高専・専門学校卒業	6 大学中退	7 大学卒業	8 大学院中退	9 大学院修了	N.A.	合計
20代以下	男性	0 0.0%	10 12.8%	0 0.0%	14 17.9%	5 6.4%	44 56.4%	2 2.6%	1 1.3%	2 2.6%	78 100.0%
	女性	0 0.0%	17 17.2%	2 2.0%	35 35.4%	0 0.0%	41 41.4%	0 0.0%	4 4.0%	0 0.0%	99 100.0%
30代	男性	2 2.8%	17 23.6%	0 0.0%	14 19.4%	2 2.8%	28 38.9%	1 1.4%	7 9.7%	1 1.4%	72 100.0%
	女性	0 0.0%	13 18.6%	3 4.3%	20 28.6%	2 2.9%	32 45.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	70 100.0%
40代以上	男性	0 0.0%	16 34.8%	2 4.3%	7 15.2%	1 2.2%	18 39.1%	0 0.0%	1 2.2%	1 2.2%	46 100.0%
	女性	0 0.0%	11 34.4%	1 3.1%	8 25.0%	0 0.0%	11 34.4%	0 0.0%	1 3.1%	0 0.0%	32 100.0%
全体	男性	2 1.0%	43 21.9%	2 1.0%	35 17.9%	8 4.1%	90 45.9%	3 1.5%	9 4.6%	4 2.0%	196 100.0%
	女性	0 0.0%	41 20.0%	6 2.9%	66 32.2%	2 1.0%	84 41.0%	0 0.0%	6 2.9%	0 0.0%	205 100.0%

（注）全体は回答者403名より性別不明2名を除く

問33　最終学歴の所在地

		岩手県	北海道・東北（岩手県を除く）	関東	北陸	東海・中部	近畿	中国・四国	N.A.	合計
20代以下	男性	32 41.0%	22 28.2%	20 25.6%	0 0.0%	1 1.3%	2 2.6%	0 0.0%	1 1.3%	78 100.0%
	女性	60 60.6%	30 30.3%	9 9.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	99 100.0%
30代	男性	32 44.4%	21 29.2%	11 15.3%	0 0.0%	1 1.4%	4 5.6%	2 2.8%	1 1.4%	72 100.0%
	女性	35 50.0%	14 20.0%	19 27.1%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.4%	0 0.0%	1 1.4%	70 100.0%
40代以上	男性	25 54.3%	8 17.4%	10 21.7%	1 2.2%	1 2.2%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.2%	46 100.0%
	女性	17 53.1%	6 18.8%	7 21.9%	0 0.0%	1 3.1%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.1%	32 100.0%
全体	男性	89 45.4%	51 26.0%	41 20.9%	1 0.5%	3 1.5%	6 3.1%	2 1.0%	3 1.5%	196 100.0%
	女性	113 55.1%	51 24.9%	37 18.0%	0 0.0%	1 0.5%	1 0.5%	0 0.0%	2 1.0%	205 100.0%

（注）全体は回答者403名より性別不明2名を除く

問34　初職の所在地

		岩手県	北海道・東北（岩手県を除く）	関東	北陸	東海・中部	近畿	中国・四国	九州・沖縄	N.A.	合計
20代以下	男性	63 80.8%	6 7.7%	6 7.7%	0 0.0%	1 1.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.3%	1 1.3%	78 100.0%
	女性	86 86.9%	6 6.1%	6 6.1%	0 0.0%	1 1.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	99 100.0%
30代	男性	44 61.1%	11 15.3%	12 16.7%	0 0.0%	1 1.4%	2 2.8%	0 0.0%	0 0.0%	2 2.8%	72 100.0%
	女性	52 74.3%	3 4.3%	12 17.1%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.4%	1 1.4%	0 0.0%	1 1.4%	70 100.0%
40代以上	男性	32 69.6%	0 0.0%	12 26.1%	1 2.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.2%	46 100.0%
	女性	20 62.5%	2 6.3%	9 28.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.1%	32 100.0%
全体	男性	139 70.9%	17 8.7%	30 15.3%	1 0.5%	2 1.0%	2 1.0%	0 0.0%	1 0.5%	4 2.0%	196 100.0%
	女性	159 77.6%	12 5.9%	29 14.1%	0 0.0%	1 0.5%	1 0.5%	1 0.5%	0 0.0%	2 1.0%	205 100.0%

（注）全体は回答者403名より性別不明2名を除く

問35　現在の仕事の継続期間

		1年未満	1年以上3年未満	3年以上5年未満	5年以上10年未満	10年以上15年未満	15年以上	N.A.	合計
20代以下	男性	15 19.2%	22 28.2%	23 29.5%	16 20.5%	1 1.3%	0 0.0%	1 1.3%	78 100.0%
	女性	19 19.2%	20 20.2%	22 22.2%	31 31.3%	6 6.1%	0 0.0%	1 1.0%	99 100.0%
30代	男性	7 9.7%	10 13.9%	10 13.9%	18 25.0%	20 27.8%	6 8.3%	1 1.4%	72 100.0%
	女性	7 10.0%	10 14.3%	5 7.1%	16 22.9%	22 31.4%	6 8.6%	4 5.7%	70 100.0%
40代以上	男性	0 0.0%	5 10.9%	1 2.2%	2 4.3%	1 2.2%	35 76.1%	2 4.3%	46 100.0%
	女性	2 6.3%	3 9.4%	2 6.3%	4 12.5%	9 28.1%	12 37.5%	0 0.0%	32 100.0%
全体	男性	22 11.2%	37 18.9%	34 17.3%	36 18.4%	22 11.2%	41 20.9%	4 2.0%	196 100.0%
	女性	28 13.7%	35 17.1%	29 14.1%	52 25.4%	37 18.0%	19 9.3%	5 2.4%	205 100.0%

（注）全体は回答者403名より性別不明2名を除く

問36　学卒後（中退を含む）の転職回数

		勤め先を変えたことはない	1回	2回	3～4回	5～9回	N.A.	合計
20代以下	男性	49 62.8%	16 20.5%	6 7.7%	5 6.4%	1 1.3%	1 1.3%	78 100.0%
	女性	64 64.6%	16 16.2%	7 7.1%	10 10.1%	2 2.0%	0 0.0%	99 100.0%
30代	男性	29 40.3%	12 16.7%	14 19.4%	11 15.3%	5 6.9%	1 1.4%	72 100.0%
	女性	18 25.7%	10 14.3%	14 20.0%	19 27.1%	8 11.4%	1 1.4%	70 100.0%
40代以上	男性	17 37.0%	13 28.3%	3 6.5%	7 15.2%	5 10.9%	1 2.2%	46 100.0%
	女性	9 28.1%	6 18.8%	3 9.4%	8 25.0%	5 15.6%	1 3.1%	32 100.0%
全体	男性	95 48.5%	41 20.9%	23 11.7%	23 11.7%	11 5.6%	3 1.5%	196 100.0%
	女性	91 44.4%	32 15.6%	27 13.2%	38 18.5%	15 7.3%	2 1.0%	205 100.0%

（注）全体は回答者403名より性別不明2名を除く

問37　学卒後（中退を含む）の転居回数

		転居したことはない	1回	2回	3～4回	5～9回	10回以上	N.A.	合計
20代以下	男性	36 46.2%	17 21.8%	15 19.2%	7 9.0%	1 1.3%	0 0.0%	2 2.6%	78 100.0%
	女性	38 38.4%	32 32.3%	22 22.2%	5 5.1%	2 2.0%	0 0.0%	0 0.0%	99 100.0%
30代	男性	20 27.8%	9 12.5%	16 22.2%	20 27.8%	5 6.9%	1 1.4%	1 1.4%	72 100.0%
	女性	15 21.4%	22 31.4%	11 15.7%	14 20.0%	6 8.6%	0 0.0%	2 2.9%	70 100.0%
40代以上	男性	9 19.6%	9 19.6%	9 19.6%	6 13.0%	12 26.1%	0 0.0%	1 2.2%	46 100.0%
	女性	5 15.6%	5 15.6%	6 18.8%	6 18.8%	9 28.1%	0 0.0%	1 3.1%	32 100.0%
全体	男性	65 33.2%	35 17.9%	40 20.4%	33 16.8%	18 9.2%	1 0.5%	4 2.0%	196 100.0%
	女性	59 28.8%	59 28.8%	40 19.5%	27 13.2%	17 8.3%	0 0.0%	3 1.5%	205 100.0%

（注）全体は回答者403名より性別不明2名を除く

問38　あなたの昨年１年間の手取り収入

		なし	50万円未満	50～100万円未満	100～150万円未満	150～200万円未満	200～250万円未満	250～300万円未満	300～400万円未満	400～600万円未満	600～800万円未満	800万円以上	新卒者	N.A.	合計
20代以下	男性	2 2.6%	1 1.3%	2 2.6%	5 6.4%	17 21.8%	21 26.9%	13 16.7%	5 6.4%	3 3.8%	0 0.0%	0 0.0%	5 6.4%	4 5.1%	78 100.0%
	女性	0 0.0%	0 0.0%	5 5.1%	16 16.2%	31 31.3%	22 22.2%	15 15.2%	2 2.0%	1 1.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.0%	6 6.1%	99 100.0%
30代	男性	1 1.4%	1 1.4%	3 4.2%	3 4.2%	10 13.9%	15 20.8%	12 16.7%	18 25.0%	4 5.6%	0 0.0%	2 2.8%	0 0.0%	3 4.2%	72 100.0%
	女性	1 1.4%	2 2.9%	3 4.3%	12 17.1%	12 17.1%	15 21.4%	6 8.6%	11 15.7%	4 5.7%	1 1.4%	0 0.0%	0 0.0%	3 4.3%	70 100.0%
40代以上	男性	0 0.0%	1 2.2%	0 0.0%	0 0.0%	6 13.0%	3 6.5%	4 8.7%	14 30.4%	11 23.9%	3 6.5%	0 0.0%	0 0.0%	4 8.7%	46 100.0%
	女性	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 9.4%	5 15.6%	5 15.6%	2 6.3%	9 28.1%	6 18.8%	0 0.0%	1 3.1%	0 0.0%	1 3.1%	32 100.0%
全体	男性	3 1.5%	3 1.5%	5 2.6%	8 4.1%	33 16.8%	39 19.9%	29 14.8%	37 18.9%	18 9.2%	3 1.5%	2 1.0%	5 2.6%	11 5.6%	196 100.0%
	女性	1 0.5%	2 1.0%	9 4.4%	31 15.1%	48 23.4%	43 21.0%	24 11.7%	23 11.2%	11 5.4%	1 0.5%	1 0.5%	1 0.5%	10 4.9%	205 100.0%

（注）全体は回答者403名より性別不明2名を除く
　　新卒者は、問1.年齢、問32.最終学歴、問35.仕事の継続期間、問36.転職回数を参照し、アフターコードでカテゴリー化した。

問39　あなたを含む世帯の昨年１年間の手取り収入

		なし	100万円未満	100～200万円未満	200～300万円未満	300～400万円未満	400～600万円未満	600～800万円未満	800～1000万円未満	1000～1200万円未満	1200～1500万円未満	1500～2000万円未満	2000万円以上	新卒者	N.A.	合計
20代以下	男性	2 2.6%	1 1.3%	6 7.7%	20 25.6%	5 6.4%	9 11.5%	9 11.5%	9 11.5%	3 3.8%	3 3.8%	0 0.0%	1 1.3%	1 1.3%	9 11.5%	78 100.0%
	女性	0 0.0%	1 1.0%	14 14.1%	21 21.2%	12 12.1%	10 10.1%	9 9.1%	7 7.1%	4 4.0%	0 0.0%	1 1.0%	0 0.0%	0 0.0%	20 20.2%	99 100.0%
30代	男性	1 1.4%	1 1.4%	5 6.9%	12 16.7%	17 23.6%	14 19.4%	6 8.3%	2 2.8%	4 5.6%	0 0.0%	0 0.0%	2 2.8%	0 0.0%	8 11.1%	72 100.0%
	女性	0 0.0%	1 1.4%	10 14.3%	9 12.9%	13 18.6%	13 18.6%	7 10.0%	3 4.3%	3 4.3%	1 1.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	10 14.3%	70 100.0%
40代以上	男性	0 0.0%	1 2.2%	2 4.3%	5 10.9%	8 17.4%	16 34.8%	6 13.0%	1 2.2%	2 4.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 10.9%	46 100.0%
	女性	0 0.0%	0 0.0%	1 3.1%	2 6.3%	10 31.3%	9 28.1%	2 6.3%	3 9.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 15.6%	32 100.0%
全体	男性	3 1.5%	3 1.5%	13 6.6%	37 18.9%	30 15.3%	39 19.9%	21 10.7%	12 6.1%	9 4.6%	3 1.5%	0 0.0%	3 1.5%	1 0.5%	22 11.2%	196 100.0%
	女性	0 0.0%	3 1.5%	25 12.2%	33 16.1%	36 17.6%	33 16.1%	18 8.8%	13 6.3%	7 3.4%	1 0.5%	1 0.5%	0 0.0%	0 0.0%	35 17.1%	205 100.0%

（注）全体は回答者403名より性別不明2名を除く
　　新卒者は、問1.年齢、問32.最終学歴、問35.仕事の継続期間、問36.転職回数を参照し、アフターコードでカテゴリー化した。

問40　経済的に困った時や仕事上の悩みの相談相手の有無

		1いる	2そういう人がいればいいなと思うが、いない	3そういう人が必要だと思わず、いない	N.A.	合計
20代以下	男性	59 75.6%	16 20.5%	2 2.6%	1 1.3%	78 100.0%
	女性	85 85.9%	11 11.1%	3 3.0%	0 0.0%	99 100.0%
30代	男性	41 56.9%	21 29.2%	9 12.5%	1 1.4%	72 100.0%
	女性	54 77.1%	12 17.1%	3 4.3%	1 1.4%	70 100.0%
40代以上	男性	27 58.7%	10 21.7%	5 10.9%	4 8.7%	46 100.0%
	女性	27 84.4%	4 12.5%	1 3.1%	0 0.0%	32 100.0%
全体	男性	127 64.8%	47 24.0%	16 8.2%	6 3.1%	196 100.0%
	女性	169 82.4%	28 13.7%	7 3.4%	1 0.5%	205 100.0%

（注）全体は回答者403名より性別不明2名を除く

問41　経済的に困った時や仕事上の悩みの相談相手

【複数回答　合計欄の（ ）は母数】

		1 親	2 きょうだい	3 親きょうだい以外の家族・親戚	4 恋人・パートナー	5 小中時代の友だち・幼なじみ	6 小中以外の学校で知り合った友だち	7 学校の先生・職員・相談員	8 趣味・同好の仲間	9 職場・アルバイト先の友達・同僚・先輩	10 職場・アルバイト先の上司	11 地域の知り合い	12 カウンセラー等の専門家や公的な支援機関	13 その他	合計
20代以下	男性	38 64.4%	15 25.4%	5 8.5%	12 20.3%	27 45.8%	20 33.9%	0 0.0%	13 22.0%	23 39.0%	8 13.6%	4 6.8%	0 0.0%	2 3.4%	(59) 100.0%
	女性	78 91.8%	28 32.9%	6 7.1%	27 31.8%	21 24.7%	34 40.0%	2 2.4%	7 8.2%	30 35.3%	11 12.9%	1 1.2%	2 2.4%	0 0.0%	(85) 100.0%
30代	男性	24 58.5%	7 17.1%	2 4.9%	8 19.5%	13 31.7%	12 29.3%	0 0.0%	8 19.5%	21 51.2%	9 22.0%	9 22.0%	1 2.4%	0 0.0%	(41) 100.0%
	女性	39 72.2%	24 44.4%	4 7.4%	14 25.9%	12 22.2%	21 38.9%	0 0.0%	6 11.1%	26 48.1%	5 9.3%	2 3.7%	0 0.0%	1 1.9%	(54) 100.0%
40代以上	男性	14 51.9%	6 22.2%	3 11.1%	5 18.5%	4 14.8%	7 25.9%	1 3.7%	3 11.1%	7 25.9%	6 22.2%	2 7.4%	0 0.0%	1 3.7%	(27) 100.0%
	女性	17 63.0%	14 51.9%	3 11.1%	7 25.9%	4 14.8%	10 37.0%	0 0.0%	6 22.2%	10 37.0%	1 3.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	(27) 100.0%
全体	男性	76 59.8%	28 22.0%	10 7.9%	25 19.7%	44 34.6%	39 30.7%	1 0.8%	24 18.9%	51 40.2%	23 18.1%	15 11.8%	1 0.8%	3 2.4%	(127) 100.0%
	女性	136 80.5%	67 39.6%	13 7.7%	49 29.0%	38 22.5%	66 39.1%	2 1.2%	19 11.2%	67 39.6%	17 10.1%	3 1.8%	2 1.2%	1 0.6%	(169) 100.0%

（注）全体は「相談相手あり」298名より性別不明2名を除く

【問41　その他の記述】
・かつての職場での同僚
・いるが、ほとんど相談はしない。
・親友
・同じくする青年団体の仲間

問41　経済的に困った時や仕事上の悩みの最も重要な相談相手

		1 親	2 きょうだい	3 親きょうだい以外の家族・親戚	4 恋人・パートナー	5 小中時代の友だち・幼なじみ	6 小中以外の学校で知り合った友だち	8 趣味・同好の仲間	9 職場・アルバイト先の友達・同僚・先輩	10 職場・アルバイト先の上司	11 地域の知り合い	12 カウンセラー等の専門家や公的な支援機関	13 その他	N.A.	合計
20代以下	男性	11 18.6%	1 1.7%	1 1.7%	4 6.8%	6 10.2%	1 1.7%	2 3.4%	7 11.9%	0 0.0%	1 1.7%	0 0.0%	2 3.4%	23 39.0%	59 100.0%
	女性	37 43.5%	0 0.0%	0 0.0%	6 7.1%	0 0.0%	7 8.2%	2 2.4%	3 3.5%	1 1.2%	0 0.0%	1 1.2%	0 0.0%	28 32.9%	85 100.0%
30代	男性	9 22.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.4%	3 7.3%	2 4.9%	2 4.9%	4 9.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	20 48.8%	41 100.0%
	女性	16 29.6%	2 3.7%	1 1.9%	1 1.9%	4 7.4%	5 9.3%	0 0.0%	7 13.0%	1 1.9%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	17 31.5%	54 100.0%
40代以上	男性	6 22.2%	1 3.7%	2 7.4%	3 11.1%	0 0.0%	1 3.7%	1 3.7%	2 7.4%	3 11.1%	1 3.7%	0 0.0%	0 0.0%	7 25.9%	27 100.0%
	女性	5 18.5%	3 11.1%	1 3.7%	2 7.4%	0 0.0%	2 7.4%	2 7.4%	1 3.7%	1 3.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	10 37.0%	27 100.0%
全体	男性	26 20.5%	2 1.6%	3 2.4%	8 6.3%	9 7.1%	4 3.1%	5 3.9%	13 10.2%	3 2.4%	2 1.6%	0 0.0%	2 1.6%	50 39.4%	127 100.0%
	女性	59 34.9%	5 3.0%	2 1.2%	9 5.3%	4 2.4%	14 8.3%	4 2.4%	12 7.1%	3 1.8%	0 0.0%	1 0.6%	0 0.0%	56 33.1%	169 100.0%

（注）全体は「相談相手あり」298名より性別不明2名を除く

問42　恋愛や結婚についての悩みの相談相手の有無

		1 いる	2 そういう人がいればいいなと思うが、いない	3 そういう人が必要だと思わず、いない	N.A.	合計
20代以下	男性	51 65.4%	14 17.9%	10 12.8%	3 3.8%	78 100.0%
	女性	86 86.9%	8 8.1%	4 4.0%	1 1.0%	99 100.0%
30代	男性	37 51.4%	24 33.3%	10 13.9%	1 1.4%	72 100.0%
	女性	48 68.6%	13 18.6%	7 10.0%	2 2.9%	70 100.0%
40代以上	男性	23 50.0%	11 23.9%	7 15.2%	5 10.9%	46 100.0%
	女性	22 68.8%	4 12.5%	6 18.8%	0 0.0%	32 100.0%
全体	男性	111 56.6%	49 25.0%	27 13.8%	9 4.6%	196 100.0%
	女性	159 77.6%	26 12.7%	17 8.3%	3 1.5%	205 100.0%

（注）全体は回答者403名より性別不明2名を除く

問43　恋愛や結婚についての悩みの相談相手

【複数回答　合計欄の（ ）は母数】

		1 親	2 きょうだい	3 親きょうだい以外の家族・親戚	4 恋人・パートナー	5 小中時代の友だち・幼なじみ	6 小中以外の学校で知り合った友だち	7 学校の先生・職員・相談員	8 趣味・同好の仲間	9 職場・アルバイト先の友達・同僚・先輩	10 職場・アルバイト先の上司	11 地域の知り合い	12 カウンセラー等の専門家や公的な支援機関	13 その他	合計
20代以下	男性	8 15.7%	6 11.8%	1 2.0%	9 17.6%	25 49.0%	23 45.1%	0 0.0%	11 21.6%	19 37.3%	4 7.8%	4 7.8%	0 0.0%	1 2.0%	(51) 100.0%
	女性	28 32.6%	19 22.1%	5 5.8%	14 16.3%	39 45.3%	51 59.3%	1 1.2%	14 16.3%	33 38.4%	4 4.7%	3 3.5%	1 1.2%	2 2.3%	(86) 100.0%
30代	男性	8 21.6%	4 10.8%	0 0.0%	6 16.2%	13 35.1%	12 32.4%	0 0.0%	7 18.9%	13 35.1%	6 16.2%	6 16.2%	1 2.7%	0 0.0%	(37) 100.0%
	女性	5 10.4%	13 27.1%	2 4.2%	8 16.7%	21 43.8%	26 54.2%	0 0.0%	6 12.5%	17 35.4%	1 2.1%	3 6.3%	0 0.0%	1 2.1%	(48) 100.0%
40代以上	男性	2 8.7%	1 4.3%	1 4.3%	2 8.7%	6 26.1%	9 39.1%	0 0.0%	3 13.0%	7 30.4%	3 13.0%	1 4.3%	0 0.0%	2 8.7%	(23) 100.0%
	女性	7 31.8%	8 36.4%	1 4.5%	1 4.5%	3 13.6%	12 54.5%	0 0.0%	9 40.9%	8 36.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	(22) 100.0%
全体	男性	18 16.2%	11 9.9%	2 1.8%	17 15.3%	44 39.6%	44 39.6%	0 0.0%	21 18.9%	39 35.1%	13 11.7%	11 9.9%	1 0.9%	3 2.7%	(111) 100.0%
	女性	41 25.8%	42 26.4%	8 5.0%	24 15.1%	64 40.3%	91 57.2%	1 0.6%	29 18.2%	58 36.5%	5 3.1%	7 4.4%	1 0.6%	3 1.9%	(159) 100.0%

（注）全体は「相談相手あり」272名より性別不明2名を除く

【問43　その他の記述】
・いるが、ほとんど相談はしない。
・元恋人
・青年団体の仲間
・結婚相談所の仲人

問43　恋愛や結婚についての悩みの最も重要な相談相手

		1 親	2 きょうだい	3 親きょうだい以外の家族・親戚	4 恋人・パートナー	5 小中時代の友だち・幼なじみ	6 小中以外の学校で知り合った友だち	8 趣味・同好の仲間	9 職場・アルバイト先の友達・同僚・先輩	10 職場・アルバイト先の上司	11 地域の知り合い	12 カウンセラー等の専門家や公的な支援機関	13 その他	N.A.	合計
20代以下	男性	3 5.9%	2 3.9%	0 0.0%	3 5.9%	10 19.6%	8 15.7%	3 5.9%	8 15.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	14 27.5%	51 100.0%
	女性	5 5.8%	3 3.5%	0 0.0%	1 1.2%	8 9.3%	27 31.4%	5 5.8%	5 5.8%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.2%	1 1.2%	30 34.9%	86 100.0%
30代	男性	2 5.4%	1 2.7%	0 0.0%	2 5.4%	4 10.8%	5 13.5%	2 5.4%	3 8.1%	2 5.4%	2 5.4%	1 2.7%	0 0.0%	13 35.1%	37 100.0%
	女性	2 4.2%	5 10.4%	0 0.0%	2 4.2%	9 18.8%	10 20.8%	3 6.3%	6 12.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	11 22.9%	48 100.0%
40代以上	男性	2 8.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 4.3%	3 13.0%	6 26.1%	1 4.3%	3 13.0%	1 4.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 4.3%	5 21.7%	23 100.0%
	女性	1 4.5%	1 4.5%	1 4.5%	0 0.0%	1 4.5%	6 27.3%	3 13.6%	1 4.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	8 36.4%	22 100.0%
全体	男性	7 6.3%	3 2.7%	0 0.0%	6 5.4%	17 15.3%	19 17.1%	6 5.4%	14 12.6%	3 2.7%	2 1.8%	1 0.9%	1 0.9%	32 28.8%	111 100.0%
	女性	8 5.0%	9 5.7%	1 .6%	3 1.9%	18 11.3%	44 27.7%	11 6.9%	12 7.5%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.6%	1 0.6%	51 32.1%	159 100.0%

（注）全体は「相談相手あり」272名より性別不明2名を除く

問 44　自由回答欄の記述

Q. 結婚支援について、国・県・市町村等に望む取組みやご意見などがあれば、ご自由にお書きください。

記述があったのは回答者 403 名中 87 名。
ここでは、性別年代別に並べかえて番号を付け、書かれている内容をそのまま記した。

1．男性　20 代前半　盛岡広域
結婚までや、結婚後のことについて学ぶ機会を作っていただきたい。

2．男性　20 代前半　盛岡広域
出会いの場を多く提供して欲しい。

3．男性　20 代前半　県北広域
結婚したいが、転勤があり、なかなか決断できない。

4．男性　20 代前半　盛岡広域
少子高齢化、地方の過疎化が進んでいるので、出産やリターン就職の手当を厚くするべき。

5．男性　20 代前半　盛岡広域
街婚などのイベントを毎年やってほしい。

6．男性　20 代前半　盛岡広域
男性が子育てへ参加する機会を積極的に獲得できる環境の構築。

7．男性　20 代後半　沿岸広域
個人的な事柄ですので、行政に対して望むことはありません。

8．男性　20 代後半　沿岸広域
「恋愛」「出会い」といった、結婚するまでのことより、結婚後の生活に対する悩み、不安が大きいです。具体的には、結婚後に住むところを見つけられないこと、子供ができた場合、こども園に入園させることができるのか（人数制限の問題から）といったことです。空き家対策や、子育て支援のさらなる拡充をのぞみます。

9．男性　20 代後半　沿岸広域
結婚をすることの支援は一切いらないがした後の支援を充実させてほしい。

10．男性　20 代後半　沿岸広域
特に行う必要性を感じない。

11. 男性　20 代後半　県南広域
取組結果が即座に出るというような事業ではないと思われますが、継続していくことに意義があると思いますのでこれからもがんばってください。

12. 男性　20 代後半　沿岸広域
最近の結婚や恋愛などの報道などを見ると、女性目線での報道が非常に多く、内容も「女性が結婚しない・できないのは男性が悪いからだ」「恋愛しないのは自分の基準を満たせるような男性がいないからだ」などとまるで女性優位で男性が卑下されるだけの内容しかない。なので、公正にあるべき行政には、男性が卑下される事のないような形での政策を打ち出してくれることを期待する。
一番の問題は、女性が優位になりすぎていることだ。ここの改善も同時に期待する。ここが変わらなければ取組など意味がない。

13. 男性　20 代後半　沿岸広域
結婚支援はもちろんのこと子育ての支援や教育問題など多岐にわたり総合的に若者や独身者が安心できる取り組みをしていただきたいと思います。

14. 男性　20 代後半　沿岸広域
既婚者への支援をお願いします。

15. 男性　20 代後半　沿岸広域
どうせやるなら徹底的にお願いします。中途半端にやられると参加した人が尋常じゃなく傷ついていました。それは参加した人が悪いのだと思いますが、、、
ごめんなさい。

16. 男性　20 代後半　沿岸広域
2015/4/18 の第 5 回みやこ街コン非常に有意義であった。規模は大きいが、それより小規模の催しを数多く行って欲しいと思った。そういったイベントは引きこもりを外に連れ出す口実にもなります。

17. 男性　30 代前半　沿岸広域
ナイナイのお見合い番組がすばらしいと思うが、テレビでさらし者にされると思うと出られない。そういう企画をテレビなしでやってほしい。

18. 男性　30 代前半　盛岡広域
既婚の中には、貧困（生活困難）の人もいるとマスメディアでききます。国内のほとんどが、パートやアルバイトで年収の低いのが結婚を妨げていると思います。だからといって、企業が悪いのかとは思いません。給与の他に経費の支払いがあるからです。売上が伸びず給与を払うのがやっとではないでしょうか。私も時給 700 円で残業手当なしの会社に勤めていました！国に望むことは、すべての人が幸せに人生を終われるように「この世の中からお金を無くする」ことを望みます。

19. 男性　30 代前半　県北広域
男女協働。人としての生き方。ワークライフバランスの充実。企業主の考え方。社風が古い!!
日本の国として、子育て世代にもっともっと支援をお願いします。

20. 男性　30 代前半　県南広域
出会いの場をもっと増やしてほしい。子育てのしやすい環境を整えてほしい。

21. 男性　30 代前半　盛岡広域
収入の安定をお願いしたい。

22. 男性　30 代前半　盛岡広域
岩手に限らず、東北は基本的な給料が低いので、首都圏の女性を連れてくるとデメリットのほうが多く結婚しにくい環境を作っているといえる。若者を増やし結婚しやすい環境を作るにはそこで住むであろう人にとってメリットとなる条件を作ってあげなければならないであろう。また、ごみの分別が首都圏より盛岡は厳しいように感じ住みにくいので少しだけでも緩和してほしい。

23. 男性　30 代前半　盛岡広域
雇用や所得の安定と子供を産み育てる環境がしっかりすれば結婚の支援は少なくても良いと思う。

24. 男性　30 代前半　県北広域
ニーズや好みに応じた出会いの場を設けて欲しい。
参加者数、年代、結婚を急ぐか否か、など。

25. 男性　30 代前半　沿岸広域
大きな経済の流れを見て対策を講じると、大企業、時流に乗っている業種。上層の人間にのみ（から）恩恵が被ることが多いように思う。
中層、下層、中小企業にもしっかりと恩恵が受けられる施策を丁寧且つ現実をしっかり見て講じて欲しい。
形あるものを提供しない業種が大きな利益を享受し、形あるものを造り出す業種が困窮するのは本来的でないと思う。結婚問題やそれに伴う人口現象の問題の一番のと言っていいぐらいの大きなこと経済的に問題と感じる。
前述のようなことも経済格差の一端であると考える。
一部の人間が属している経済を回している企業を支えて経済が上むいているとばかり主張せず、多くの人が経済的に不安を抱えている現実に真面目に向き合い、結婚問題解決の大きな一助として欲しい。

26. 男性　30 代前半　県北広域
各地で婚活イベントをされているが、あまり効果的でなく、行政の自己満足に終わっているように思います。そもそも婚活イベントで結婚できる人は出会いさえあれば、婚活イベントがなくても結婚していると思います。私が中学生の頃は学校で男女交際が禁止されていました。恋愛や結婚についてもある程度のスキルが必要と思いますが、学校教育の 1 つに恋愛スキルの授業を取り入れることも必要ではないでしょうか。

27. 男性　30 代後半　県北広域
ワークライフバランス。出産、育児などの支援。大学費用の負担軽減。教育費が高すぎて、産みたくても産めないという不安感を持たせないようなご支援よろしくお願いします。

28. 男性　30 代後半　沿岸広域
国、県、市が会社や企業個々単位で婚活を支援すればいいと思う。市で行われている婚活ももはや飲み会メインとなり、既婚者まで来たり、遊び目的で来ている人もいると多々話を聞きます。

29. 男性　30 代後半　沿岸広域
震災の影響で県内の被災地は特に嫁不足が深刻であり、被災地の独身女性は内陸部の男性との結婚を望む人が大半であり、このままでは自治体の存続も危ぶまれる。行政が強い危機感を持って取り組んでもらいたい。

30. 男性　30 代後半　盛岡広域
気軽に参加できる出会いイベントを開催してほしい。

31. 男性　30 代後半　県北広域
公共団体が支援してもあまり意味はないと思います。自由、楽な方に価値がシフトしているから、出来ちゃった婚も含めて結婚について考えないといけない。（自主的に結婚に踏み切るカップルが少ないのでは？）

32. 男性　30 代後半　沿岸広域
過去にテレビでやっていた「ねるとん」を市で再現してほしい。

33. 男性　40 代前半　県南広域
女性の社会進出だけを声高に叫ぶのではなく、専業主婦の地位向上にシフトをチェンジしていくべき。そうすれば、男性の雇用の確保も出来、女性は子育てに専念もできる。男性の休みにあわせて外出もできるので、家族一緒の時間も持てる。子育てに専念したり、家庭を守ったりすることでなく、自分がやりたい仕事を選択するという道を選ぶのであれば、それなりに加税すべきだし、逆に専業主婦は、社会に出ていく女性よりも様々な分野で優遇されるべき。将来の日本の構成員である子どもをあえてつくらない道を選んだ独身者は加税すべき。老後に働けなくなった場合は、税金で面倒をみてもらわないとならない自覚を持つべきだし、教えなくてはならない。逆に、不妊治療への支援は拡充すべき。

34. 男性　40代前半　沿岸広域
市町村の枠を越えて交流できる活動を企画してほしい。
例）漁業体験、農業体験、それぞれの地元の食材を使った料理教室など･･･

35. 男性　40代前半　県北広域
夫婦共働きへの支援。

36. 男性　40代前半　県南広域
1、パーティーを開催する際に、年齢、居住地域を限定したものが多く、閉鎖的になりやすいので、なるべく門戸を広げたほうがよいと考えます。
2、他県で同様の事業を展開しているところ（例えば秋田県など）と連携したほうが良い。
3、派遣社員などの非正規労働に就労している人に対して結婚すべきだと言われても当人及び相手が結婚などにこの足を踏んでしまうので長期間安定して労働できる環境づくりをすべきと考えます。派遣労働の枠を増やすのはやめるべき。これが継続する限り婚活事業は大きくならないと考えます。

37. 男性　40代後半　県北広域
この頃は、婚活自体面倒に思うことと自信が全くありません。でも結婚しないと親には申し訳ない気持ちでいっぱいです。

38. 男性　40代前半　県南広域
昔の仲人おばちゃんみたいな人が少ないです。いても、その仲人と仲人が連携していないため、県がはいって調整してください。

39. 男性　40代後半　盛岡広域
結婚制度にとらわれず、男女がパートナーとして生活し、子供を産み育てやすい社会環境を作らないと少子化は止まらないと思います。

40. 男性　40代後半　盛岡広域
オープンマインドでオープンな交流や性格形成、地域のありさまを形成することに資する取り組みを願います。

41. 男性　40代後半　県北広域
結婚支援の前に雇用の安定的確保が必要だと思います。手取り収入２００万円以下では、結婚は、難しく、また、子供を持つことは現実的ではありません。
格差社会の現在、ワーキングプアは、結婚することが難しい。

42. 女性　20代前半　県北広域
男女共に、産休育休制度の充実。法律があっても、実際には取りにくい会社の雰囲気を変えてほしい。ジェンダー、人間性（男らしさ、女らしさ）、命の大切さを学ぶ。日本国全体で、家族のあり方を真剣に見つめ直す。

43. 女性　20 代前半　県南広域
人口減少に歯止めをかける方法や結婚を積極的に考えるためのイベントがあればうれしい。

44. 女性　20 代後半　盛岡広域
給料上げてほしい。

45. 女性　20 代後半　盛岡広域
街コンを増やして欲しいです。

46. 女性　20 代後半　県南広域
結婚しても生活に困ることない様な補助や制度をもって増やし、給料を上げてもらいたい。

47. 女性　20 代後半　県南広域
金銭的余裕がないのはもちろんですが、週 6 日、お盆も働いてるくらいなので気持ちに余裕がないのかな…？と自分なりに思いました。
何かおもしろい取り組みあったら参加したい気持ちもあります。

48. 女性　20 代後半　盛岡広域
結婚をして退職してしまうと、新たな職場（正社員）をさがすことが難しい。

49. 女性　20 代後半　県北広域
少子化対策としてなら、すでに結婚している子育て世帯への支援が大事だと思います。子育て費用と自分たちの老後のことを考えたら、第 2 子や第 3 子を考えるのにためらいがあると思います。

50. 女性　20 代後半　県北広域
所得がある程度なければ、結婚に踏み切れない。

51. 女性　20 代後半　県北広域
地域が活性化して、若者が外に出ることで自然と出会いが増えると思う。「婚活」という名目では、恥ずかしさ等で参加できない人もいると思うので。

52. 女性　20 代後半　盛岡広域
若者の正規雇用をもっと増やしてほしい。

53. 女性　20 代後半　県南広域
シングルマザー、シングルファザー向けのイベントがあってもいいのではないかと思います。街婚などでも「シンママ、シンパパ OK」の表記があると助かります。

54. 女性　20 代後半　県南広域
結婚するのに経済状態が気になる人が多いと思います。（私の周り私も含み）雇用形態の拡大を第一に考えるのと同時に婚活企業を進めていかないことには結婚に気持ちを向けれるほうが増えないのでは？と思います。難しい課題の一つになっているとは思いますが 20 代後半～30 代前半の人たちが結婚に踏み切れない大きな問題だと私は考えます。

55. 女性　20 代後半　沿岸広域
結婚後の新居、時にアパート代高い。

56. 女性　20 代後半　盛岡広域
結婚相手はいるが、お互い非正規社員であり、経済的に困難。臨時社員でも育児休暇取れる体制があるといいなと思う。

57. 女性　20 代後半　県南広域
街コンを充実させて欲しいです。ですが、内気な性格の人は、なかなか参加に踏み切れないでいると思うのでそういう人が気軽に参加できるような企画が増えるといいと思います。
結婚、出産すると、補助金を支給する制度があると、安心して結婚、出産出来る人が増えると思います。もしも、あるのでしたら、たくさんの人に周知してもらえるよう、通知して欲しいです。

58. 女性　30 代前半　盛岡広域
意味があるのか、と思う。

59. 女性　30 代前半　盛岡広域
第三者が結婚支援をするというのは、なかなか結果につながりにくいイメージがあります。取り組む側としては難しいことも多々あると思いますが、それを必要としている人も多くいると思いますので頑張ってください。

60. 女性　30 代前半　盛岡広域
住所、氏名の記入は控えさせて頂きます。クオカード希望しません。

61. 女性　30 代前半　県南広域
社会的問題ではありながらも、結局個人の意識改革なくては結婚できないと思う。
行政としては情報提供を積極的にして、制度的なことよりは個人と向き合う仕組みを作ったほうがいいと思う。

62. 女性　30 代前半　県南広域
地域柄仕方ないのかもしれませんが、周囲の人たちからの結婚に対しての行き過ぎたお節介に困っています。「女性が働くからいけない」「３０をすぎると年だから早く子供を生め」など、モラハラに近い言葉を受け、結婚以前に地域への苦手意識を持ってしまっています。時代に合った考え方、モラハラ、セクハラについての理解を地域の方に持っていただけるようになるともう少し岩手で若者も暮らしやすくなると思います。

63. 女性　30 代前半　県南広域
行政の労働基準法に対する意識が低い。（労働時間、休日など）
パートナーの勤務状況をみて、家事、育児に協力する、余裕があるのが大変不安に感じている。
専門機関で各市町村の職員の労働状況を調査し、指導して欲しい。上層部の意識を変えてもらわないと組織は変わらないと思う。
県北の某市。月の休み半分は出勤しているのに振休一度も取れない。平日も２１時２２時頃まで働く日が多い。その頃まで、庁舎に残っている職員は多いそうです。仮に振休をとれたとしても仕事が進まないため持ち帰ることになるかもしれないとのこと。個人の負担、担当業務の見直して欲しい。

64. 女性　30 代前半　県南広域
婚活が全面に出ていないようなイベント企画を望みます。

65. 女性　30 代前半　盛岡広域
周りに活動している人がいないので、気軽に参加できるような場を田舎にも設けてほしい。

66. 女性　30 代後半　沿岸広域
未婚者だけでなく、30 代・40 代で結婚した方が、どのような出会い方をして、結婚まで至ったのかを調査した方がいいと思う。私も婚活イベントに参加した事があるが、周りにもいい結果が得られている人がほとんど居ないように見受けられたため、どのようなイベントをすれば成功率が上がるのか調査した方がいいと思うから。今のパートナーは、ある程度の収入があるが、前の職場では給料が安く、私の周りの男性も同じような給料で結婚する覚悟ができないと話している人が多かった。実際、その人達は、結婚と同時に転職したり、転職しない人は夫婦共働きで忙しくしており、そのせいかなかなか子宝にも恵まれない人が多いように思う。よって賃金を上げること、ワークライフバランスを整えることが結婚率、出生率改善につながると思う。

67. 女性　30 代後半　県北広域
結婚は、出産・育児の前提条件ではないと思う。過去とは違い、様々な家族形態があり、ひとくくりではとらえられない現状を把握するには、「結婚」や「仕事」の定義を考え直した方が良いと思う。

68. 女性　30 代後半　盛岡広域
保育園の待機児童が多く、仕事復帰したくても、出来ない方が多数います。現に、職場にも空きを待っている方が居ます。有給の期間も切れ、無給の休職です。3/31 が満期なので空きが無ければ退職になります。県で女性が結婚、子育てし易い環境を作らなければ、今後、結婚する女性は減少していくでしょう。

69. 女性　30 代後半　県南広域
雇用の安定。収入 UP。気軽に参加できるイベント等があるといいなと思います。（キャンプ、バス旅行、ボーリング大会など）

70. 女性　30 代後半　盛岡広域
今、何があるかも知らない。出会いのイベントよりも、条件の合う人と段階を経て会いたい。

71. 女性　30 代後半　県南広域
現在高齢化により人口減になってきている町で、町内男性向けの婚活パーティはあるが、人口増には全然つながっていない。
町内女性向けの婚活パーティ系はなく、町外でさがすか町外のパーティに参加しなければならず、町内に残りたくても町外に出ざるを得ない状況。
婚活での施策より、町内在住の若年者が町内に残りたいと思う施策が重要だと思う。

72. 女性　30 代後半　県南広域
何をするにもお金が必要。雇用形態を充実する取り組みをしてほしい。

73. 女性　30 代後半　県北広域
親が退職にあたり年金だけでの生活になります。
早く結婚して安心させたいと思う反面少しでも親に金銭面でも協力できたらいいなあと考えています。老後安心できる生活を送ることができたらもっと結婚願望が増すと思います。まずは、国で年金生活者に対し支援してほしいです。

74. 女性　30 代後半　沿岸広域
宮古市の所得の状況を見れば、結婚してマイホームを建て子供を育てるという夢でさえ叶えるのが難しいと思う。
若者がほとんど残っていない中で理想の相手を見つけるのは難しい。若い人が残る、戻ってこられる地域にすることが重要だと思う。結婚だけが幸せの形ではなくなり結婚に対しての価値観が変わった現在においても理想の相手に巡り会った時のときめきは本能的に残っているのではないか。

75. 女性　30 代後半　盛岡広域
現在の公共機関の結婚支援は、「そもそもそういった支援がなくともコミュニケーションをとれる人達」の集まりの支援のように見えて、コミュニケーション（特に男女間）が苦手な人達にいとって入りづらい印象がある。民間（会社や NPO など）でフォローしきれないところを拾っていくのが、公共機関の結婚支援なのではないか。

76. 女性　40 代前半　盛岡広域
問 12 について、「失敗＝離婚」という表現になっており、たいへん残念に思うしショックである。若い人たちが、家族をつくりたい、結婚したい、と思えるような環境や世の中になればよいと思う。

77. 女性　40 代前半　沿岸広域
男性が安心して結婚できる仕事（収入や長期雇用）が少なくなってきているように思います。経営側からすれば安い賃金で効率よく働いてもらえるとありがたいと思いますが、そのような流れが続くと結婚したいが生活を優先させるため、結婚は二の次になると思います。また、男女共働きで家計を支えるという考えもあるでしょうが、そうなると女性への負担がかなりあります。子育てしながら働くとなると、責任ある立場（管理職など）には立てないと思い、自ら遠慮してしまいます。よその国はどうしているのでしょうか？（米国や北欧など）岩手も子育て県として一番になれば、首都圏にない魅力が生まれるかも知れませんね。高齢化や労働力減少、商店街の空き店舗などの様々な課題を考えると、そこには「人がいない」という要因があるように思います。若い女性が安心して子育てできる情報（ホームページでもいいと思います。若い人はスマホ得意です。）が目につきやすいところにあればいいですね。

78. 女性　40 代前半　盛岡広域
結婚しなくても、している人と同じ社会的保障をしてほしい。結婚にメリットを感じていないので。

79. 女性　40 代前半　沿岸広域
わたしはそこそこ収入もあり、相手もいますが、家の者の暮らしが立ち行かなくなるため、結婚や一人暮らしができません。結婚ということが最終地点ではありませんが、私自身普通の家に生まれれば、もっと自由に気持ちにもゆとりを持てる人生が送れたのではと思います。自分で結婚や生活ができる状態でありながら、できない人も結構いるのではと思います。家族の中に収入があるものがいれば、そのものが経済的に面倒見なければならないと世間では当たり前に思っていると思うので職業柄もありつらいところです。

80. 女性　40 代前半　盛岡広域
簡単な問題ではないと思います。口に入る「食」の問題、環境の問題。人間そのものが変わってきていると感じます。原点に立ち返りたい。しかしそうはならないでしょう。地球は一度滅亡するよりほかに道はないのでしょうか。文明が発達しすぎて便利なものや安いものばかりに手が出て安全性や環境が損なわれ生命の危機も感じます。生まれてくる子も発達障害などの率が高いように感じます。

81. 女性　40 代前半　盛岡広域
基本的に「イエ」同士のつながりなので、行政の取り組みなどは不要と考えています。支援が必要とすれば、雇用が賃金の都市並みの拡充でしょうか。期待しています。

82. 女性　40 代前半　盛岡広域
高校や大学進学の時「女性としての生き方」みたいなものも進路相談で取り入れた方が良かった。たくさん勉強して大学に入って社会に出ると、結婚・出産が間に合わなくなる。中学生くらいから考えはじめないと間に合わないと思う。そういう時間を女の子だけで持ったほうがいい。

83. 女性　40 代後半　県南広域
中・高年の「出会いの場」。気軽に参加できるイベントが、継続的にあったら良いかもしれません。

84. 女性　40 代後半　県南広域
女性は子供が産めないとなると、例えが悪いのですが、「商品価値がない」とされます。将来への不安などから伴侶が必要だと考える者としてなのですが、婚活等イベントは、前述の女性は関わらなくする年代で設定されております。是非、その辺もご配慮いただいたイベント等の開催を切に希望いたします。

85. 女性　40 代後半　居住地不明
このようなアンケート、個人情報が本当に外部にもれないか？他に利用されないか？心配。

86. 女性　年齢不明　沿岸広域
結婚する・しないは個人的な問題なので介入する必要は無いと思います。

87. 性別不明　20 代後半　沿岸広域
住居や行政サービスにかかる負担が軽減するような制度などがあれば望ましいが行政があまり積極的に取り組む分野ではないと考えています。環境の整備は必要だと思うが、出会いにまで介入するのは不自然だと思います。

以上

インタビュー対象者一覧

対象者	年齢	居住地	居住年	結婚経験	結婚予定	学歴	仕事	雇用形態	転職回数	本人手取年収	世帯総手取年収
男性 1	20代後半	沿岸広域	25	なし	いずれ	高卒	技術	正規	2回	200～250万円未満	600～800万未満
男性 2	20代後半	県南広域	5	なし	ある年齢	高卒	事務	契・嘱	3～4回	150～200万円未満	100～200万円未満
男性 3	20代後半	沿岸広域	5	なし	いずれ	大中退	サービス	正規	3～4回	200～250万円未満	200～300万円未満
男性 4	30代前半	盛岡広域	2	なし	ある年齢	大卒	管理	正規	3～4回	150～200万円未満	100～200万円未満
男性 5	30代後半	県北広域	5	なし	いずれ	大卒	事務	正規	2回	300～400万円未満	1000～1200万円未満
男性 6	30代後半	盛岡広域	17	なし	理想相手	短専卒	管理	自営家族	2回	300～400万円未満	1000～1200万円未満
男性 7	30代後半	沿岸広域	半年	なし	いずれ	大卒	事務	正規	なし	400～600万円未満	400～600万円未満
男性 8	40代前半	県南広域	18	なし	いずれ	高卒	生産・運輸	契・嘱	3～4回	150～200万円未満	200～300万円未満
男性 9	40代前半	県南広域	43	なし	いずれ	短専卒	事務	正規	2回	250～300万円未満	300～400万円未満
男性10	40代前半	県北広域	2	離別	いずれ	高卒	事務	正規	3～4回	300～400万円未満	400～600万円未満
女性 1	20代後半	県北広域	20	なし	いずれ	高卒	事務	臨・日	3～4回	100～150万円未満	300～400万円未満
女性 2	20代後半	県南広域	4ヶ月	なし	ある年齢	大卒	事務	契・嘱	2回	400～600万円未満	不明
女性 3	20代後半	県南広域	3	なし	いずれ	短専卒	生産・運輸	正規	3～4回	150～200万円未満	400～600万円未満
女性 4	30代前半	県南広域	5	なし	理想相手	大卒	農林漁業	自営家族	1回	50万円未満	1000～1200万円未満
女性 5	30代前半	盛岡広域	31	なし	いずれ	大卒	事務	契・嘱	5～9回	100～150万円未満	600～800万未満
女性 6	30代後半	盛岡広域	14	なし	いずれ	大中退	事務	契・嘱	5～9回	100～150万円未満	400～600万円未満
女性 7	40代前半	盛岡広域	2	なし	ある年齢	大卒	事務	正規	5～9回	150～200万円未満	300～400万円未満

研究調査員

研究主査：木本喜美子　（一橋大学　名誉教授）
研 究 員：小澤千穂子　（大妻女子大学家政学部　教授）
研 究 員：吉野英岐　（岩手県立大学　総合政策学部　教授）
研 究 員：板本洋子　（特定非営利活動法人全国地域結婚支援ｾﾝﾀｰ　代表理事）

結婚に係る調査研究事業　報告書

発　行　日：平成２８年３月３１日
発　　行：公益財団法人 いきいき岩手支援財団
〒020-0015　岩手県盛岡市本町通三丁目 19-1
調査委託先：特定非営利活動法人 全国地域結婚支援センター
〒107-0062　東京都港区南青山 2-22-14 ﾌｫﾝﾃ青山 306